

ひょうご  
「命の大切さ」  
を実感させる教育

「命の大切さを実感させる教育プログラム」  
実践事例集

平成 19 年 3 月

兵庫県立教育研修所

心の教育総合センター

「命の大切さ」を実感させる教育プログラム開発研究委員会

## はじめに

「命」「生命」「いのち」。日常のなかで、この言葉を意識することなく生活できることは、なによりの幸せであろう。しかし、TVや新聞から流れる情報は、命が奪われる事件や事故で満ち満ちている。昨年は、いじめを苦にして自ら命を絶つという痛ましい事件も相次いだ。また、虐待の認知件数は、この10年で10倍以上になった。

公教育で、子どもたちが「命の大切さ」を実感できるための施策を展開する必要がある。これは時代の要請であろう。そして、昨年度、兵庫県は、命の大切さを実感させる教育への提言をとりまとめた。わが国で「いのち」にかかわる第一線の有識者から、意見聴取を行い、その意見を踏まえ、プログラム構想委員会において、慎重に検討を重ねた成果である。その成果は冊子とホームページにより全国に発信されている。教育プログラムモデルとして、5本の柱を立てた。「誕生の喜びと感動、成長の支援への感謝、限りある命の尊さ、理解し合う心に支えられた命、尊い命を守るために」である。おそらく、現在行われている命の教育の教育実践は、この5つの柱のどこかに位置づけられるであろう。

本年度は、命の大切さを実感させる教育をさらに展開するために、授業実践・教育実践事例集を刊行することとした。「命の大切さ」を実感させる教育プログラム開発研究委員会でとりまとめられた教育実践と、「小・中・高等学校『命の大切さ』を実感させる教育実践研究講座」での実践の一部を収録している。「(親が) そんなにやさしかったとは思わなかった」、「ケンカが絶えなかった子が落ち着いた」、「ぼくはぜったいに、この命をむだにはしません」、教育実践をとおして聞こえてくる子どもたちの声と姿である。本実践事例集は、子どもたちが「命の大切さを実感する」ために、教師がどのようなことに留意したらいいのか、どのような準備が必要なのか、具体的にどのように展開すればいいのか、といったさまざまな疑問に答えてくれるだろう。そして、さらに、「子ども一人ひとりが命の大切さを実感できる教育」の輪が広がっていくことを祈念して、はじめのことばとしたい。

平成19年3月

『命の大切さ』を実感させる教育プログラム開発研究委員会

委員長 富永 良喜

兵庫県立教育研修所 心の教育総合センター所長

# 目 次

## 第1章 実践事例集の活用について

1 「命の大切さを実感させる教育プログラム」実践事例内容一覧・・・・・・・・・・	1
2 使い方のポイント・・・・・・・・・・	2

## 第2章 実践事例—小学校編—

事例1 誕生・成長の喜び—たまごの世話をする体験を中心に— (三田市立武庫小学校第3学年)・・・・・・・・	6
事例2 限りある命だからこそ (高砂市立伊保南小学校第5学年)・・・・・・・・	27
事例3 『“いのち”生き生き』—家族や地域の人と共に学ぶ「いのちの学習」— (たつの市立香島小学校第5学年)・・・・・・・・	44
事例4 環境学習をとおして学ぶ命の大切さ—コウノトリの成長をとおして— (豊岡市立五荘小学校第3学年)・・・・・・・・	56
事例5 成長の実感 (香美町立小代小学校第4学年)・・・・・・・・	75
事例6 かけがえのない命・つながる命 (淡路市立野島小学校高学年)・・・・・・・・	91

## 第3章 実践事例—中学校編—

事例1 心を伝え合う豊かなコミュニケーション (三田市立ゆりのき台中学校第2学年)・・・・	106
事例2 防災教育をとおして実感させる命の大切さ (加古川市立山手中学校第2学年)・・・・・・・・	123
事例3 つながり支えあう命の重み—生・老・病・死をとおして— (三木市立三木東中学校第1・3学年)・・・・	138

## 第4章 実践事例—高等学校編—

事例1 「命」それぞれの輝き (県立農業高等学校<定時制>第3学年)・・・・	155
事例2 命を見つめ、自己の生き方を探る (県立姫路別所高等学校第3学年)・・・・・・・・	167

事例3 「つながり」の中で生かされている命－屋久島・種子島への修学旅行をとおして学ぶ－  
(県立姫路飾西高等学校第2学年)・・・・・・・・ 193

**第5章 「命の大切さ実感尺度」の開発について**

「命の大切さ実感尺度」の開発について・・・・・・・・・・・・・・・・ 212

- ◇「命の大切さ」を実感させる教育プログラム開発研究委員会設置要項
- ◇「命の大切さ」を実感させる教育プログラム開発研究委員会委員名簿
- ◇実践事例集にご協力いただいた「小・中・高等学校『命の大切さ』を実感させる教育実践研究講座」の受講者名簿（一部）

## 第 1 章 実践事例集の活用について

1 「命の大切さを実感させる教育プログラム」実践事例内容一覧

章	番号	学年	テーマ	主な学習・体験	実践の参考となる教育プログラムモデル
第1章 小学校編	1	3年	誕生・成長の喜び	手形づくり、紙粘土製の卵を育てる体験	①・②
	2	5年	限りある命だからこそ	ブックトーク、ストレスマネジメント	③・⑤
	3	3年	『“いのち”生き生き』－家族や地域の人と共に学ぶ「いのちの学習」	自分史づくり、卵殻を育てる体験、幼児とのふれあい体験	①・②
	4	3年	環境学習をとおして学ぶ命の大切さ－コウノトリの成長をとおして－	コウノトリの郷公園での生き物調査、『コウノトリ育む農法』、高齢者とのふれあい体験	①・②
	5	4年	成長の実感	妊婦との交流、新生児沐浴体験、2分の1成人式	①・②
	6	高学年	かけがえのない命・つながる命	ゲストティーチャー、祖父母の伝記づくり	③
第2章 中学校編	1	2年	心を伝え合う豊かなコミュニケーション	絵本の活用・劇（ロールプレイング）	④
	2	2年	防災教育をとおして実感させる命の大切さ	阪神淡路大震災の被災者からの聞き取り体験・発表、追悼のための集会の企画・運営	③・⑤
	3	1・3学年	つながり支え合う命の重み－生老病死をとおして－	エゴグラム、アサーショントレーニング、救命救急法、	③・④・⑤
第3章 高等学校編	1	3年	「命」それぞれの輝き	「表現する力」「共感する力」を育む校内生活発表会	④
	2	3年	命を見つめ、自己の生き方を探る	体験活動（乳幼児・高齢者等とのふれあい体験）	①・②・③
	3	2年	「つながり」の中で生かされている命－屋久島・種子島への修学旅行をとおして学ぶ－	修学旅行（屋久島・種子島方面）のための事前学習（ビデオ学習、読書会、講演会）、課題「屋久島で学んだこと」等	①・③

## 2 使い方のポイント

小学校事例6

『命の大切さ』を実感させる教育への提言  
第Ⅱ部 実践編 教育プログラムモデルの  
項目に沿って実践をまとめています。

### 1 テーマ

かけがえのない命・つながる命

### 2 実践のねらい

身近な人との関わりをとおして、老いや病にふれる体験や、死の悲しみにふれる体験などから、命の有限性や死の普遍性・絶対性に気づき、自他の命のかけがえのなさに思いをはせる。さらに、死の悲しみや苦しみに向き合う人々の思いに接し、人とのつながりを感じ、強く生きようとする心について考える。

### 3 テーマ設定の理由

(1) 本校の概要と児童生徒の状況  
本校区は、淡路島の北部の自然豊かな地域で、交通の利便性は便利になったが、過疎化には歯止めが効かず、人口は減少している。児童生徒の数は5名までに減少している。子どもたちの暮らしぶりも変わり、豊かな自然環境が減少となり、都会の子どもたちとそれほど大きな差はない。子どもの遊びの形態も変化し、テレビ、ゲーム、パソコン等が中心となり、「命」を軽視した様々な情報刺激もあふれている。また、農村地帯であるため3世代同居家庭が多く、祖父母を含めた地域の老人と接する機会は比較的多くあるが、高齢者はかつてのように人生の終末を自宅では迎えることは少なく

各学校の実践に至った経緯や背景・児童生徒の実態について記載しています。

### (2) 指導のポイント

#### 【感動の体験】

・死というものを見つめ、死の恐怖や悲しみを体験し、自分の命は両親の願いの結晶として生かされていることを実感させる。

#### 【感性を育む】

・遺された者の悲しみを通して、自分自身の命の大切さを実感させる。

#### 【想像力の育成】

・すべての生き物には寿命があり、自分自身の命の大切さを実感させる。

実践のねらいを達成するために、どのような感動の体験をするか、子どもたちの感性や想像力にどのように働きかけるかなどの「指導のポイント」を記載しています。

### 4 事前

#### (1) 先生の準備

・授業の中だけでなく、授業外でも実践を行う。  
・教員自身の死に対する思いや、死の恐怖や悲しみを体験し、自分の命の大切さを実感させる。  
・家庭や地域に学習についての理解を求め、事前事後の個別指導を充実させる。

・テーマに関連した資料や情報の収集  
・子どもたちの状況の把握  
実践に先立って必要な教師の準備について記載しています。

#### (2) 教育課程上の位置づけ

・国語  
・理科（植物・生き物等の分野）  
・体育（保健分野）  
・家庭  
・道徳  
・総合的な学習の時間

道徳・特別活動・教科・総合的な学習の時間といった教育課程上の位置づけや単元構想について記載しています。

#### (3) 子どもたちの準備

・自尊感情を高める体験をする。  
・デジタルカメラの使用技術を習得

実践を行う前に、学習や体験の内容について、子どもたちに興味や関心を抱かせ、主体的に取り組めるようするためにはどのような準備が必要かについて記載しています。

#### (4) 家庭・地域との連携

・地域の人々に対し、アンケート調査や聞き取り学習を実施することについての理解を求める。  
・特別養護老人ホームで継続的に体験学習ができたことについて、地域に依頼する。  
・祖父母、その知人、家族に対し学習のねらいや内容を伝える。

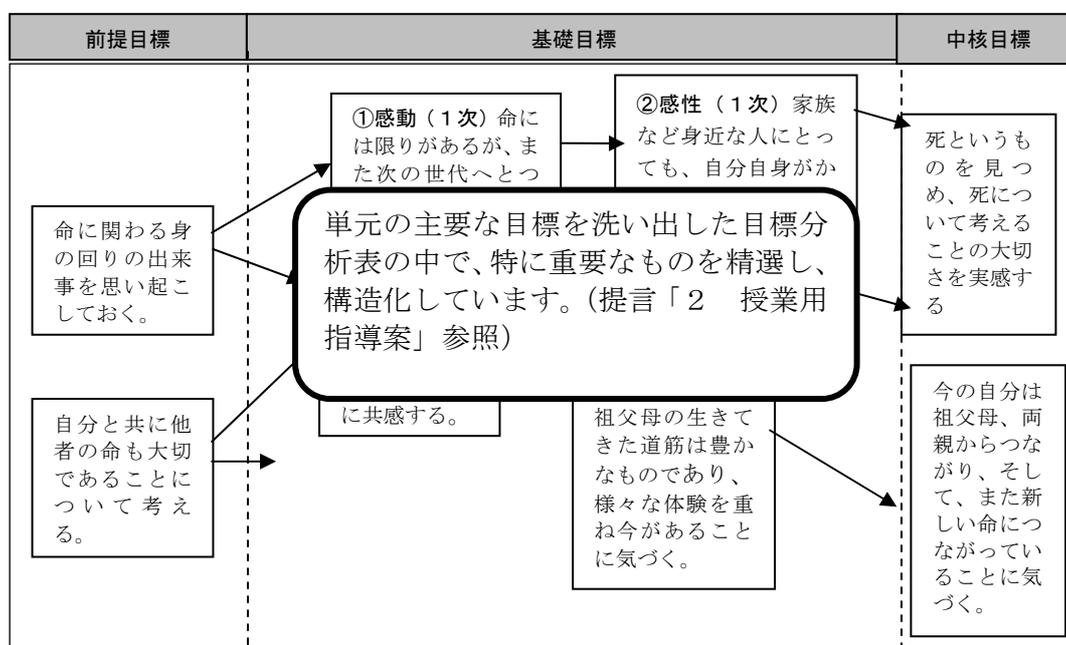
事前に家庭や地域へ依頼する事項や配慮すべき事項について記載しています。

## 6 目標分析表

	学習活動	感動の体験	感性を育む	想像力の育成	先生の振り返り
事前	○自尊感情を高める体験をする。	○自他の命の存在に気づく。	○命に関わる身の回りの出来	○自分と共に他者の命も大切	
1次 (5時間)	○「命」をテーマに写真を撮り、話し合う。 ○家族や大切な人、またはペットを亡くした体験を出し合う。		つながりを感じる。	を実感する。	○一つの命には限りがあるが、その命はつながっていることを理解させることができただか。

縦軸に学習の内容を、横軸に3つの指導のポイント「感動の体験」「感性を育む」「想像力の育成」を観点として配し、子どもたちにどのような力を身につけさせたいのかという目標を明確にしています。(提言「2 授業用指導案」参照)

## 7 目標構造図



## 8 事前の教員研修と指導の概要

### (1) 事前の教員研修

研修内容	
a	○自尊感情を高める体験をする。<提言 ・『わたしはわたしが好きです。なぜなら ・『ここがあなたのいいところ』
b	○自己再発見の体験をする。<提言 P68 「私の人生の振り返り」
c	○医療施設や老人福祉施設等で行われて ・老・病・死と向き合う人々の様々な考

子どもたちに指導する前に、教員自身が実践するテーマに関して、どのような手法や内容で研修を行ったかについて記載しています。  
(2) 指導の概要の中で研修の実施時期について明示しています。

(2) 指導の概要

研修内容	
事前	○ 自尊感情を高める体験をする。 (1時間)
1次 (5時間)	○ 「死」を見つめる 1 季節の変化による生き物の様 2 校庭に出て子どもたちにデジ る。(昆虫等死がい等を意識さ 3 家族や大切な人、ペット等を 4 「北朝鮮拉致被害者の会 有 家族の痛みと悲しみに共感する。 学校の状況、子どもたちの実態や 発達段階に応じて、計画・実施さ れた内容を、指導の概要として示 してあります。
	○ 自分と祖父母の伝記を作る 1 家族から聞き取ったりして自分の伝記をつくり、今までの自分の人生を振り返る。 (2時間) 2 自分の祖父母の今までの人生の道筋を聞き取り、まとめる。 (2時間) 3 ゲストティーチャーで来てくれた祖父の今まで生きてきた道筋を聞く。 (1時間) 4 聞き取った自分の祖父母の伝記を作る。 (3時間) 5 できあがった伝記を発表し合い、人生の豊かさと多様さを感じ、誰の人生もかけがえのない大切なものであることを実感する。 (2時間)

教員研修 a

教員研修 b

9 指導実践

【展開】

	学習活動	指導上の留意点
導入	<p>1 今の自分にとって大切な人やペット等を想い浮かべ、みんなに紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「わたしはお母さんが大好きで、一番大切な人です。」</li> </ul> <p>子どもたちの反応(発言・感想など)についても記載しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>先生にもそんな悲しいことがあったんだ。</li> <li>もし、今、先生のお父さんが生きていたら先生は何をしてあげますか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の説明例</li> <li>板書例</li> </ul> <p>など実施した授業の内容や指導上留意すべき点について記載しています。</p> <p>「先生は交通事故により、突然にお父さんを亡くしました。お父さんは、大学卒業直前の弟に最後の仕送りをした後に事故にあいました。その後、しばらく電話のベルが怖かったです・・・。」</p>
展開	<p>親が、我が子を亡くした悲しみとはどんなものかを感じとってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>親が子どもを亡くすと、こんなに悲しいんだ。ぼくのお母さんやお父さんも同じなんだろうと思う。</li> <li>このお父さんは、奥さんを亡くして、また子どもを亡くしたんだ。心はぐちゃぐちゃになってしまうだろう。</li> </ul> <p>子どもたちの気づきを促したり思考を深めたりするための教師の主要な発問を記載しています。</p>	

【子どもたちの振り返り】

振り返りカード	
年 組 名 前 ( )	
学習・体験の目標 (めあて)	自分の振り返り
感動の体験	<p>○自分を大切にすること、相手を大切にすることについて考えよう。</p>
感性を育む	<p>○あなたの大切な人が、 とをしてくれたか考えよう。</p>

子どもたちが学習・体験の後に、自分の活動内容や心の動きを振り返るための振り返りカードを記載しています。

## 第2章 実践事例—小学校編—

事例 1 誕生・成長の喜び  
—たまごの世話をする体験を中心に—  
(三田市立武庫小学校第3学年)

## 小学校事例 1

## 誕生・成長の喜び—たまごの世話をする体験を中心に—

三田市立武庫小学校第3学年

## 1 テーマ

誕生・成長の喜び—たまごの世話をする体験を中心に—

## 2 実践のねらい

家族への聞き取りや手形の年表づくりをとおして自分の誕生や成長を振り返り、自分を支えてくれている周囲の人たちの思いや願いを理解する。さらに、たまごの世話をするという体験をすることで、自分の命が大切に育まれたものであることを実感し、自分を大切に生きていこうとする意欲を持つ。また、命は失われると二度と取り戻せないものであることがわかり、他者の命も自分の命と同様にかげがえのないものであることに気づく。

## 3 テーマ設定の理由

## (1) 本校の概要と児童生徒の実態

本校は学級数 21（障害児学級 3 クラス含む）、児童数 635 人。北摂三田ニュータウンで最初の小学校として創立 25 周年を迎えた。3 年生は 3 クラス 110 人で、児童数が多い学年である。

3 年生になった当初は自己中心的な行動が目立つ子どもたちが多かった。遊びの場でも自分の思いが優先し、まわりの気持ちを考えないことによるもめ事が多発していた。2 学期になって子どもたちはクラスの友だちを知っていくことで次第に集団遊びが出来るようになり、様々な行事や活動をとおして、仲間意識が芽生えてきた。

自分のことで精一杯だった低学年の延長からぬけ出し、友だちとの関わりの中での自分や、クラスの集団の中での自分を意識し始めるこの時期の子どもたちには、「自分はどれくらい周囲に受け入れられているのだろうか」「自分にはどんな価値があるのだろうか」といった漠然とした不安感がある。

このような子どもたちの状況を踏まえ、今必要なことは、一人ひとりが大切な命であることを実感させ、自尊感情を高めていくことだと考えた。そこで、この実践に先だって命（死）に対する意識と自尊感情についてのアンケートを行った。長崎県教育委員会の意識調査（小 4・小 6・中 2 対象 2005 年）では「死んだ人が生き返る」と思っている子どもが 15.4%いた。本校での同じ質問でも、「生き返る」と答えた子どもは 10.6%いた。「わからない」と答えた子どもは 21.8%で、約 3 分の 1 の子どもは命の有限性や死の絶対性についての認識がややふやであると思われる。そこで自分の誕生や成長を振り返ることをとおして、命の大切さを感じ取らせる学びの場が必要であると考え、今回のテーマを設定した。

## (2) 指導のポイント

## 【感動の体験】

- ・いろいろな年令の人の手形を見比べて、命の誕生や成長について考えさせる。
- ・手形の年表づくりをとおして、自分の成長について実感し、自分を支えてくれている周囲の人たちの思いや願いに気づかせる。

## 【感性を育む】

- ・助産師から生命誕生やお腹の中での赤ちゃんの様子についての話を聞き、生命誕生の神秘性を感じ取らせたり、母親や周囲の人たちの心配や苦勞に気づかせたりする。
- ・自分自身に見立てたまごを作り、大切に世話をする体験をとおして、自分を慈しんでくれる家族の思いや願いを実感させる。

## 【想像力の育成】

- ・たまごの世話をする体験をしながら、大切に育まれている自分の命のかげがえのなさを実感する。
- ・たまごを入れるタイムカプセルを作ることで、自分の未来やこれからの生き方について思いをはせさせる。

- ・友だちの手形の年表を読ませ、自分も友だちも同じように大切に育てられている命であることに気づかせる。

#### 4 事前

##### (1) 先生の準備

- ・授業の中だけでなくすべての教育活動の中で、命を大切にしていこうとする視点や姿勢を持つ。
- ・死に対する意識と自尊感情についてのアンケートを実施・考察し、子どもの実態を把握する。
- ・子どもの家庭環境をよく把握し、個別指導や家庭との連携など、十分な配慮をしておく。
- ・子どもの生活に関わりのある人の手形を集めておく。
- ・ゲストティーチャーとして招く助産師と学習の目的など内容の打ち合わせをする。
- ・実際にたまごを製作し、世話をする体験をとおして、方法、期間など子どもの実態に応じた体験の内容を検討する。

##### (2) 教育課程上の位置づけ

- ・算数
- ・体育
- ・道徳
- ・総合的な学習の時間

##### (3) 子どもたちの準備

- ・自尊感情を高める体験をする。
- ・生活科での成長アルバム作りなどの活動を思い起こしておく。
- ・植物の栽培活動をする。（種まき、世話、収穫、種取り等）
- ・小動物の飼育体験をする。（チョウやトンボなど昆虫の羽化、メダカの孵化など）
- ・小動物とのふれあい体験をする。（うさぎの抱っこ等）

##### (4) 家庭・地域との連携

実践の中心的な学習活動は、子ども自身が自分の誕生や成長について親や家族に聞き取りをしていくことである。誕生や成長だけでなく、場合によっては「死」と向き合う体験をし、そうした体験を学習の過程で思い出したり話したりすることが、学習の深まりを生む。ただし、事前には家庭環境等を含んだ子どもの状況を十分把握しておき、個別の配慮に細心の注意を払うことと、保護者への理解と協力を得ることに特に留意する。

今回の実践では「いのち通信」と名付けて学習の内容や目的、経過を保護者にもわかりやすく伝えるようにし、家庭での理解と学習への協力を求めた。また通信には保護者の意見や希望を書く欄を設け、広く保護者の声を聞くように心がける。

#### 5 本校の実践の特色

本単元では手形に注目させ、その手でできるようになったこと、それぞれの年令でのエピソードなどを調べて手形の年表を作る。手形という具体的で視覚的にもその成長を感じることができるものとおして、自分の成長を実感させる。

年表づくりのために、育ててきた親や家族の喜びとともに、子育ての苦労や心配についても注目させる聞き取り活動を設定する。家族からの聞き取り学習をとおして、家族の願いである子どもの健やかな成長の対極に「死」があることを気づかせ、命は失われると二度と取り戻せないかけがえのないものであることを理解させる。

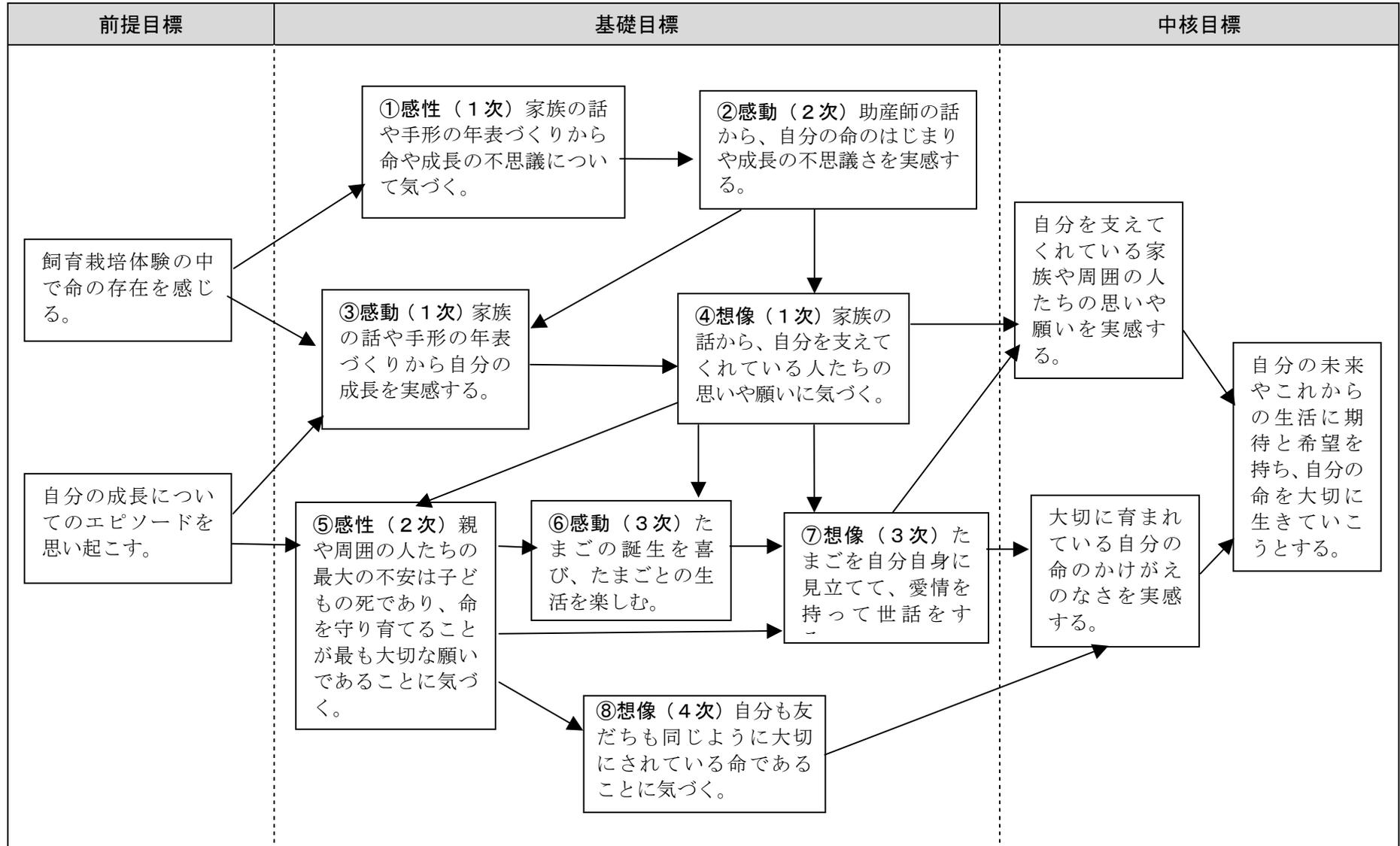
さらに助産師の話から生命誕生や胎児の様子を知り、自分自身に見立てたたまごを大切に世話をする体験をして、自分の命の誕生や成長についてより深く考えさせる。

たまごの世話をする体験では、自分自身の命の象徴としてのたまごを慈しむ体験となるようにする。

6 目標分析表

	学習活動	感動の体験	感性を育む	想像力の育成	先生の振り返り
事前	○自尊感情を高める体験をする。 ○死に対する意識と自尊感情についてのアンケートに記入する。	○今までの成長アルバムづくり等の活動を思い出す。	○命に関わる今までの出来事を思い起こす。 ○自分の成長についてのエピソードを思い起こす。	○飼育栽培体験の中で命の存在を感じる。	
1次 (7時間)	○手形の年表を作る。 ○家族から自分がお腹の中にいた時のことや生まれた時のこと、成長のエピソードなどを聞き取る。	○家族の話や手形の年表づくりから自分の成長を実感する。	○家族の話や手形の年表づくりをおして、自分自身のかけがえのなさを実感する。	○手形の年表づくりから自分の今までの成長やこれからの成長に思いをはせる。 ○家族の話から、自分を支えてくれている人たちの思いや願いに気づく。	○聞き取りをとおして、自分を支えてくれている家族や周囲の人たちの思いや願いに気づかせることができたか。 ○手形の年表づくりをおして、自分の成長を実感させることができたか。
2次 (3時間+課外)	○助産師に生命誕生やお腹の中での赤ちゃんの様子、誕生についての話を聞く。 ○家族への聞き取りを続け、誕生までの親や周囲の人たちの心配や苦勞に気づく。	○助産師の話から、生命誕生の喜びや成長を実感する。	○助産師の話から、生命誕生の神秘性と偶然性を感じ取る。 ○親や周囲の人たちの最大の不安は子どもの死であり、命を守り育てることが最も大切な願いであることに気づく。	○自分がお腹の中にいた時の親や周囲の人たちの思いや願いに気づく。	○助産師の話から命のはじまりやお腹の中での赤ちゃんの成長、誕生について理解させることができたか。 ○生命誕生の神秘性と偶然性を実感させることができたか。 ○聞き取りをとおして、母親や周囲の人たちの思いや願いに気づかせることができたか。
3次 (10時間+課外)	○自分自身の命に見立てたたまごを、大切に世話をする。 ○たまごの世話の様子、楽しさや苦勞などの感想について発表し合う。	○たまごの誕生を喜び、たまごとの生活を楽しむ。 ○たまごの世話をする体験をおして、自分を支えてくれている家族や周囲の人たちの思いや願いを実感する。	○たまごに愛情を持って世話をし、たまごとの生活を楽しむ。	○たまごの世話をする体験をおして大切に育てられている自分の命のかけがえのなさを実感する。	○たまごを自分自身に見立て愛情を持たせることができたか。 ○たまごを大切に世話させることができたか。 ○子どもを育てる親や家族の気持ちを実感させることができたか。 ○家族の理解や協力を得ることができたか。
4次 (5時間)	○たまごを入れるタイムカプセルを作る ○未来の自分に宛てた手紙を書く。 ○手形の年表をお互いに見せ合い、感想を話し合う。	○たまごと別れ、たまごとの生活を振り返る。 ○自分の命を大切に生きていこうとする。	○再びたまごと会う自分の未来やこれからの生活に期待や希望を持つ。 ○感想を話し合うことをとおして、お互いの命の大切さに気づく。	○自分に宛てた手紙を書き、自分の未来やこれからの生活に思いをはせる。 ○自分も友だちも大切にされている命であることに気づく。	○タイムカプセルを作ることで自分の未来に思いをはせさせることができたか。 ○自分の未来やこれからの生活について期待や希望を抱かせることができたか。 ○お互いの命の大切さに気づかせることができたか。
事後	○自分の心の動きを、振り返りカードに記入する。 ○死に対する意識と自尊感情についてのアンケートに記入する。				

7 目標構造図



（凡例）①感性（1次）：「①」は指導の順路、「感性」は指導の観点が「感性を育む」、「（1次）」は学習活動が「1次」であることを示す。

## 8 事前の教員研修と指導の概要

### (1) 事前の教員研修

研修内容	
a	○自尊感情を高める体験をする。 <提言 P64：教員研修テーマ①> ・『わたしはわたしが好きです。なぜなら・・・』 ・『ここがあなたのいいところ』
b	○自己再発見の体験をする。 <提言 P68：教員研修テーマ②> ・『私の人生の振り返り』
c	○自分自身に見立てたたまごを作り、世話をする体験をする。 ・実際に体験することとおして、方法、期間等子どもの実態に応じた内容を検討する。
d	○保護者への協力依頼について話し合う。 ・子どもの聞き取りの内容について ・子どもの家庭環境について ・個別の対応や配慮、支援が必要な子どもについて

### (2) 指導の概要（全 26 時間）

内容	
事前	○自尊感情を高める体験をする。 ○命（死）に対する意識と自尊感情についてのアンケートをする <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">教員研修 a、b、d</span>
1次 （7時間＋課外）	○手形の年表を作る。 1 様々な年令の人の手形を見比べて、命の誕生や成長について考える。 (1時間) 2 家族から自分がお腹の中にいた時のことや生まれた時のこと、成長のエピソードなどを聞き取る。 (課外) 3 成長のエピソードを発表し合い、病気やけが、事故など命を脅かすものに対して家族がどんなに心配したかに気づく。 (1時間) 4 聞き取ったエピソードをもとに、手形の年表を作る。 (5時間)
2次 （4時間＋課外）	○助産師に命のはじまりやお腹の中での赤ちゃんの様子、誕生についての話を聞く。 1 卵子と精子の受精の瞬間から命のはじまることや、胎児の成長の様子について知る。 (2時間) 2 家族への聞き取りを続け、誕生までの母親や周囲の人たちの心配、苦労を知ること、最大の不安は子どもの死であり、命を守り育むことが最も大切な願いであることに気づく。 (課外＋1時間) 3 聞き取ったエピソードをまとめる。 (1時間)
3次 （10時間＋課外）	○自分自身の命に見立てたたまごを作り、大切に世話をする体験をする。 1 家族への聞き取りを振り返って、子どもを育てる親や家族の気持ちを想像し、話し合う。 (1時間) 2 紙粘土に自分だけの模様をつけ、中に自分の秘密と心臓に見立てたハート形を入れてたまごを作る。 (4時間) 3 たまごの部屋や育児日記を作る。 (4時間) 4 自分が親や家族にしてもらっていた声かけや愛撫等の世話をし、育児日記をつける。 (課外) 5 たまごの世話の様子、楽しさや苦労などの感想を発表し合う。 (1時間)

事例1 誕生・成長の喜び—たまごの世話をする体験を中心に—（三田市立武庫小学校第3学年）

4次 (5時間)	<p>○たまごを入れるタイムカプセルを作る。</p> <p>1 タイムカプセルを開ける時期を設定し、自分の未来に思いをはせる。（1時間）</p> <p>2 未来の自分におくりたいものを考えると同時にタイムカプセルの用意をする。（1時間）</p> <p>3 未来の自分に宛てた手紙を書き、家族からのメッセージと一緒にタイムカプセルに入れて完成させる。（2時間）</p> <p>○手形の年表をお互いに見せ合い、感想を話し合う。</p> <p>1 友だちの年表を見ることで、自分と同様に友だちも大切に育てられていることに気づき、感じたことを友だちにメッセージにして送る。（1時間）</p>
事後	<p>○自分の心の動きを振り返り、振り返りカードに記入する。</p> <p>○死に対する意識と自尊感情についてのアンケートに回答する。</p>



## 9 指導実践

### (1) 1次第2時

#### ア 本時のねらい

- (ア) 家族から聞き取った成長のエピソードを発表し合い、自分の成長を実感する。
- (イ) 家族が心配した出来事について話し合い、家族の思いや願いに気づく。

#### イ 指導のポイント

- (ア) 感動の体験  
家族の話から自分の成長を実感させる。
- (イ) 感性を育む  
家族の話から自分の誕生や成長の喜びについて気づかせる。
- (ウ) 想像力の育成  
家族の話から自分を支えてくれている人たちの思いや願いに気づく。

#### ウ 準備物

- ・子どもが家族等から聞き取りを記録したインタビューカード
- ・掲示用カード（ピンクとブルーを一人につき1枚ずつ用意する。裏にマグネットをはっておく）
- ・新しいインタビューカード

#### エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

- (ア) 子どもの家庭環境をよく把握し、個別指導や家庭との連携など、十分な配慮をしておく。  
特に家庭環境や親子関係の変化による子どもの変化に留意する。
- (イ) 子どもの聞き取り活動の進行状況を把握し、インタビューカードを点検しておく。
- (ウ) 聞き取り活動が進んでいない子どもには、個別に保護者等に連絡し、協力を依頼する。
- (エ) 通信等により学習の様子を保護者に伝え、理解と協力を得る。

#### オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	<b>1 家族から聞き取ったエピソードをカードに書く。</b> ・初めて歩いたときみんなが大喜びした。 ・高い熱が何日も続いてとても心配だった。 ・入院して難しい手術をしたので、家族はすごく大変だった。	・2色のカードを配り、『嬉しかったこと・楽しかったこと』（ピンク）と『大変だったこと・心配だったこと』（ブルー）に分けて書かせる。
展 開	<b>2 カードの内容を発表しながら黒板にはる。</b> ・発表はちょっとはずかしいな。 ・〇〇さんもぼくと同じようなことがあったんだな。 ・わたしのお母さんも同じことを言っていたよ。	・黒板を上下2つに分け、ピンクとブルーを分けてはらせる。 ・『嬉しかったこと・楽しかったこと』だけでなく、『大変だったこと・心配だったこと』もたくさんあったことに気づかせる。 ・友だちのエピソードを聞くことで親近感を持たせたり、共通する親の願いに気づかせたりする。

展 開	<p><b>3 インタビューをした感想を述べ合う。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな話を聞いてとても楽しかったです。大事に育ててもらっていることがよくわかりました。</li> <li>・自分の覚えていないことを聞いておどろきました。</li> <li>・お母さんがそんなにわたしのことを思っていてくれてうれしかった。</li> <li>・いろいろな事ができるようになっていてすごかった。</li> <li>・お母さんがそんなにやさしかったとは思わなくて、びっくりした。</li> <li>・小さい時ご飯を食べなかったんだ。記憶になかったよ。心配させたんだな。</li> <li>・わたしが生まれてくるときはお母さんはしんどいと思いました。でもわたしを生みたかったのです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもを育てる親の気持ちに気づかせる。</li> <li>・親の苦労や願いなど、今まで気づけなかったことにも目を向けさせる。</li> </ul>
ま と め	<p><b>4 手形の年表づくりのために、さらにどんなことを誰に聞きたいかを考える。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もっとインタビューしたいな。</li> <li>・お腹の中にいたときのことをもっと聞きたいな。</li> <li>・今度はお父さんにも聞いてみよう。</li> <li>・おばあちゃんにも電話で聞いてみよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちの発表を聞かせることで、さらにインタビューへの意欲を持たせる。</li> <li>・胎児期のことも積極的に聞いてくるように勧めておく。</li> </ul>

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) インタビューカードは『嬉しかったこと・楽しかったこと』と『大変だったこと・心配だったこと』に分けて書く欄を作っていたので、両方のエピソードが聞き取れてよかった。
- (イ) 『大変だったこと・心配だったこと』のエピソードは初めて聞く内容が多かったようで、子どもは自分の命が大切に守られてきたことに気づいたようだった。
- (ウ) 聞き取り活動をする事自体が親子のふれあいの時間になり、大きな喜びを感じた子どもが多くいた。
- (エ) 命のはじまりの学習に向けて、今後は胎児期のエピソードを積極的に聞き取るようにさせた。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感 動 の 体 験	○おうちの人たちにインタビューして、自分の成長についてどんなことを感じましたか。	
感 性 を 育 む	○おうちの人たちにインタビューして、うれしかったことや楽しかったことはありますか。 ○おうちの人たちにインタビューして、ふしぎだなと思ったことはありますか。	

事例 1 誕生・成長の喜び—たまごの世話をする体験を中心に—（三田市立武庫小学校第3学年）

想像力の育成	○自分を今まで育ててくれたおうちの人たちの気持ちを想像してみましょう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		



(2) 3次第1時

ア 本時のねらい

家族への聞き取りを振り返って、子どもを育てる親や家族の気持ちを想像させ、たまごの世話をする体験活動への興味と意欲を持つ。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

たまごの誕生や世話をする体験活動を楽しみに待つ。

(イ) 感性を育む

家族への聞き取りを振り返り、親や家族の思いや願いを感じ取る。

(ウ) 想像力の育成

子どもを育てる親や家族の思いを想像する。

ウ 準備物 なし

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) 自分自身に見立てたたまごを作り世話をする体験をして、方法、期間等子どもの実態に応じた内容を検討しておく。

(イ) たまご作りの材料を準備しておく。

(ウ) 子どもの家庭環境をよく把握し、個別指導や家庭との連携など、十分な配慮をしておく。

特に家庭環境や親子関係の変化による子どもの変化に留意する。

(エ) 通信等により学習の様子を保護者に伝え、理解と協力を得る。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	<p>1 子どもを育てる親や家族の気持ちを想像して話し合う。</p> <p>お父さんやお母さん、家族のみんなが子どもを育てる時の気持ちはどんな感じだと思いますか？想像してみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かわいくてしかたがないよ。</li> <li>・うちの子が一番かわいい！</li> <li>・寝顔がとってもかわいいな。</li> <li>・手間がかかって大変だなあ。</li> <li>・いそがしくてしんどいな。</li> <li>・よく泣くのでゆっくり寝られない。</li> <li>・死んでしまうかもしれない、どうしよう！</li> <li>・この子のすきなことは何かな？</li> <li>・どんな子になるか楽しみだな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族から聞き取った話を思い起こさせる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族のどんな話からそう思ったのかを考えさせる。</li> <li>・喜び、苦労、期待など様々な思いがあることに気づかせる。</li> </ul>	
展 開	<p>2 たまごを作って世話をすることを知り、たまごの誕生や世話をすることを期待する。</p> <p>みんなもお父さんやお母さんになって、子どもを育てる親の気持ちを考えてみましょう。明日たまごを作って、しばらくお世話をして育てましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜたまごなのかな。</li> <li>・どうやってたまごを作るんだろう。</li> <li>・世話ってどんなことをするの？</li> <li>・明日たまごが誕生するんだ。</li> <li>・たまごをつくるのが楽しみだな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たまごを入れる部屋や育児日記も後から作ることを伝える。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たまごを入れる部屋や育児日記も後から作ることを伝える。</li> </ul>	

まとめ	3 たまご作りのために準備することを知る。	
	ぜったいに自分だけしか知らないひみつをひとつ、明日までに考えてきてね。 誰にも教えないで、心のなかにしまって持ってきてください。	
		・たまごを自分自身として意識づけるために必要なので、真剣に考えてくるように伝え、たまご作りへの興味を持たせる。

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) 子どもたちはたまごを作ることを知って最初戸惑ったようだが、助産師の「命のはじまりはみんな小さなたまごだった」という話が大変印象に残っていたので、すぐに納得し、活動に興味と期待を持たせることができた。
- (イ) 家族への聞き取り活動を十分行っていることが、学習を深めるポイントになると思われる。
- (ウ) たまごを自分自身として意識づけることが大切なので、指導者の言葉かけなどに工夫が必要である。今回は「自分しか知らない秘密」をたまごの中に埋め込んだこと、心臓に見立てた赤いハート形を入れたこと、一人ひとり違う模様にしたこと、振ると音が出るように作ったことなどが子どもの気持ちを引きつけるのに成功した要因の一つだと思われる。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	<input type="checkbox"/> たまごを作るのが楽しみですか。 <input type="checkbox"/> たまごにどんな世話をしたいですか。	
感性を育む	<input type="checkbox"/> 家族にインタビューをして、親や家族のどんな気持ちがわかりましたか。	
想像力の育成	<input type="checkbox"/> 子どもを育てる親や家族の気持ちをたくさん考えることができましたか。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

(3) 3次第6時

ア 本時のねらい

たまごの世話に向けて、たまごの呼び名やどんなことをしたいかを考えて発表し合い、世話の開始に期待と意欲を持つ。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

たまごの誕生に喜びを感じさせ、たまごとの生活を楽しもうとさせる。

(イ) 感性を育む

自分が親にしてもらったことやして欲しいことを思い起こさせながら、たまごにしたことを考えさせる。

(ウ) 想像力の育成

たまごを自分自身に見立てさせ、親しみや愛情を持たせる。

ウ 準備物

制作中のたまご（各自の手に持たせる）

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) 子どもの家庭環境をよく把握し、個別指導や家庭との連携など、十分な配慮しておく。

特に家庭環境や親子関係の変化による子どもの変化に留意する。

(イ) たまごの様子に絶えず注意しておく。（乾燥によるひび割れなどはその都度手当てをする）

(ウ) 通信等により学習の様子を保護者に伝え、理解と協力を得る。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	<p>1 たまごの様子を発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・だいぶかわいてきたな。</li> <li>・ひびが入ってきて心配です。</li> <li>・早くみがいてピカピカにしたいよ。</li> <li>・いつごろおうちに連れて帰れるんですか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの興味がたまごからそれないように、よく見える所にたまごを置き、毎日様子などを話題にしておく。</li> </ul>
展 開	<p>2 たまごの呼び名を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>たまごをどんな名前と呼ぶか考えましょう。考えられたらその呼び方でいいか、たまごさんにも聞いてみましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼくが赤ちゃんのころ家族に呼ばれていた名前にする。</li> <li>・たまごに聞いてみるよ。</li> <li>・たまごがこれでいいって言うてる！</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たまごは自分自身なので、本当の名前は自分の名前であることを確認しておく。</li> <li>・子ども自身がいつも呼んでもらって嬉しいと思う名前がいいことを伝える。</li> <li>・子ども自身が小さい頃呼ばれていた名前もいいことを伝える。</li> </ul>

展 開	3 たまごにしたいことを考え、発表し合う。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">たまごさんにどんなことをしたいですか。どんなことをしたらいいと思いますか。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なでてあげる。抱っこしてかわいがってあげる。</li> <li>・毎晩一緒にねます。</li> <li>・一緒にごはんを食べます。一緒に遊んであげます。</li> <li>・家族に紹介します。おばあちゃんちに連れて行く。</li> <li>・大好きって言ってあげます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども自身が親や家族にしてもらっていたことや、してもらって嬉しかったこと、また自分がしてもらいたいことをたまごにするように子どもの考えを促す。</li> </ul>
ま と め	4 育児日記のたまごのお世話のページに自分が決めたたまごの呼び名と世話をすることを書き込む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員がする世話として、朝と夜に必ず声をかけることを約束しておく。</li> </ul>

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) たまごを作って完成を待つ間に、どんどん子どもの関心が高まっていくのを感じた。特に呼び名を考えた時、たまごの声が聞こえると語り始めた子どもが次々と現れ、この頃からたまごに深く感情移入していく子どもが多かった。
- (イ) たまごにしたいことを考えていく中で、子どもがこれまでに経験してきた家族との愛情の体験や、子どもの求めている家族からの関わりをはっきりと知ることができた。
- (ウ) 指導者自身のたまごの扱い方が子どもの感情移入の深さを左右する。子どもがたまごにひびが入ったと訴えてきた時は「かわいそうに、大丈夫よ」とたまごに話しかけ、すぐに「薬と手当て」と称して修理をほどこした。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	<input type="checkbox"/> たまごの誕生日にはどんなことを感じましたか。 <input type="checkbox"/> たまごの世話でどんなことが楽しみですか。	
感性を育む	<input type="checkbox"/> たまごにどんな世話をしたいですか。	
想像力の育成	<input type="checkbox"/> たまごのことをどう思いますか。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

(4) 4次第1時

ア 本時のねらい

- (ア) たまごとの別れについて考え、タイムカプセルを作ることを知る。
- (イ) タイムカプセルを開ける時期や何を入れるかを考えることで、未来の自分に思いをはせる。

イ 指導のポイント

- (ア) 感動の体験  
たまごとの生活を振り返り、別れへの準備をさせる。
- (イ) 感性を育む  
再びたまごと会う未来やこれからの生活に期待や希望を持たせる。
- (ウ) 想像力の育成  
自分の未来やこれからの生活に思いをはせさせる。

ウ 準備物

子どもが書いているたまごの育児日記

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

- (ア) たまごの育児日記に目を通し、たまごに対する子どもの気持ちや接し方の変化を把握する。
- (イ) 通信等により学習の様子を保護者に伝え、理解と協力を得る。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	<p>1 最近のたまごの様子を発表し合い、たまごとの別れの時期が近づいていることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元気に育っているよ。</li> <li>・このごろたまごはよくねてるよ。</li> <li>・朝よくねていたから、家にねかせてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちがたまごを学校に持って来るのを忘れてたり、たまごが眠りがちだと言い始める時期を見逃したりせず、別れに向けての授業のタイミングをとらえる。</li> </ul>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     たまごは大きくなるまでに、しばらくじっとしておく時期が必要なんですよ。みんなのたまごさんも、そろそろその時期にきているようです。タイムカプセルに入れる準備を今日から始めましょう。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・えーっ！お別れなの？</li> <li>・たまごはどうなるの？</li> <li>・タイムカプセルはいつ開けるの？</li> <li>・ずっと一緒に暮らしてきたのにお別れなんていやだ！かなしいよ！</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助産師の話から、自分たちも母親のお腹の中で40週間じっとして外へ生まれるのを待っていたことを思い起こさせる。</li> <li>・胎児期は命を育てるために大切な時期であったということ思い起こさせる。</li> </ul>

展 開	<p><b>2 タイムカプセルを開ける時期を考えて発表し合う。</b></p> <p>タイムカプセルをいつ開けるかは、自分で決めていいですよ。でも『みんなが大人になってから』というのが約束です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・25才。わたしは薬剤師になろうと思っているから、25才にはなっていると思うからです。</li> <li>・ぼくは野球選手になったとき。たまごにホームランを打っているところを見せたいから。</li> <li>・何歳になるかわからないけど、わたしが料理人になったときに開けてたまごに美味しい料理を食べさせてあげる。</li> <li>・少しでも早くたまごに会いたいから20才の誕生日に開けます。</li> <li>・自分の子どもが生まれたとき。たまごをわたしの赤ちゃんに見せてあげたいから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成人してからということを経験に考えさせる。</li> <li>・なぜその時を選んだのか理由も述べさせる。</li> </ul>
	<p><b>3 タイムカプセルに何を入れるか考えて発表し合う。</b></p> <p>タイムカプセルに入れるものは『たまごに必要なもの』と『未来の自分今の自分からおくりたいもの』です。何を入れたいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たまごのおふとんは絶対いる。寒いもん。</li> <li>・たまごがさみしがらないようにおもちゃも入れてあげたい。</li> <li>・手紙を書く。今の顔や友だちの写真も入れたい。</li> <li>・サッカーでもらったメダルを入れておいて、大人になったぼくに見せてあげたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイムカプセルを開けるときの自分を思い描きながら考えさせる。</li> <li>・タイムカプセルを開けるときの自分が喜ぶものや嬉しいもの、必要なものや役立つものは何かを考えさせる。</li> </ul>
ま と め	<p><b>4 タイムカプセルについて考えたことを振り返りカードに書き、今後の予定を聞く。</b></p> <p>たまごさんと過ごす時間が残り少なくなってきたので、あとしばらく心をこめて世話をしてください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入れたいものを家族とも相談して用意するように伝える。</li> <li>・手紙は全員が書くことを伝える。</li> </ul>

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) たまごと別れると聞いて泣き出す子どもたちもあり、たまごに対して深い愛着を持っていることがわかった。
- (イ) たまごと再会するときの自分を思い描かせることで、別れのさみしさを未来への希望へと変えることができた。
- (ウ) 世話の期間が長くなるにつれて意欲を低下させている子どももいたが、別れというゴールを示すことによって新たな意欲を持たせることができた。
- (エ) 手紙には保護者からのメッセージ（未来の我が子に向けて）も加えるので、通信等で学習への理解を求め、早めに準備を依頼しておきたい。

事例1 誕生・成長の喜び—たまごの世話をする体験を中心に—（三田市立武庫小学校第3学年）

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標 (めあて)	自分の振り返り
感動の体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>○たまごといっしょにすごして、心に残っているできごとはどんなことですか。</li> <li>○タイムカプセルにどんなものを入れたいですか。</li> </ul>	
感性を育む	<ul style="list-style-type: none"> <li>○タイムカプセルをあけるときに楽しみなことは何ですか。</li> <li>○タイムカプセルをあけるまでにどんなことが楽しみですか。</li> </ul>	
想像力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○タイムカプセルをあけるときの自分についていろいろ想像してみましよう。</li> <li>○タイムカプセルをあけるまでに、自分にどんなことがおこるか想像してみましよう。</li> </ul>	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		



## 10 実践を終えて

### (1) 先生の振り返り

#### ア たまごの世話をする体験について

この実践の中心となった学習活動はたまごの世話をする体験である。中身をぬいた卵の殻を育てるという海外の学習プログラムを参考に、今回考案、実践を試みた。元々は成人向けのプログラムなので、小学校中学年に合わせて紙粘土で制作することにした。またこの年齢の子どもでは、たまごを自分の子どもとして意識づけにくいので、たまごは自分自身であるとした。たまごを大切に世話をするという子育ての疑似体験をとおして、自分が親や家族にしてもらっていることを再確認し、自分が大勢の人々の愛情を受けて大切に育てられていることや、自分の命のかけがえのなさに気づかせていくことを目標とした。

導入は前時の助産師の話とうまくつながることができた。助産師から卵子と精子の受精、受精卵の胎内での成長の様子などを中心に映像や模型を使って話していただいた。

制作の段階から、たまごを自分自身として意識づけられるように、中に入れるものや言葉かけなどを工夫した。たまごに愛着を持てるように呼び名を考え、部屋や布団を作ったり、毎日育児日記をつけたりして、学校でも家庭でも常にそばにおいて生活するようにさせた。

子どもたちは予想以上にたまごに感情移入していき、当初3週間程度と考えていた体験期間は冬休みをはさんで2ヶ月を越えた。その間の世話の様子やたまごへの気持ちを振り返る時間を何度か設定し、愛情を注ぐことの喜びや子育ての苦労や大変さに気づかせていった。

最後はたまごをタイムカプセルに入れ、大人になったときに開けるという設定にした。たまごと再会するときの自分を想像させることで、自分の未来やこれからの生活に期待や希望を抱かせ、自分の命を大切に生きていこうとする子どもたちを育てたいと願った。

子どもたちがたまごに自分を投影させている興味深い事例がみられた。例えば心臓疾患を持ち行動の制限がある子どもは、たまごを振ると聞こえる音を心臓の音と見立て、毎日心臓の音を聞いて「今日も元気に心臓が動いていました」と1日も欠かさず日記に記入していた。ちょっとしたことですぐに泣いてしまっていた子どもは、たまごの誕生日に「つよいたまごになるんだよ」とお祝いの言葉を贈り、ある日の日記に「きょうはころがったのに、泣かなかった。えらいぞ」と記していた。今の自分の姿だけでなく、自分のなりたいた姿をもたまごに託している事例は他にも多くみられた。

さらにたまごの世話を続けることで、子どもたちに様々な変化がみられた。友だちとのコミュニケーションが苦手な子どもが多かったが、みるみるおさまっていった。二人ともやや幼いところがあるので、たまごへの感情移入も深く、かわいがっていると気持ちが落ち着くのか、休み時間など掌でなでたり、ポケットの中に入れて触っていたりする姿がよく見られた。前者はたまごのお世話だけでなく親への聞き取り活動と合わせて大きな効果があった事例と考えている。

また保護者からも多くの感想が寄せられた。「今まで妹となかなか遊んでくれず、たまに遊んでいると思えば人形でもミニカーでも必ず闘いごっこでドカーン！とやっていたのが、たまごの学習を始めてから、落ち着いて人形遊びをしてくれて、一緒に人形の世話までしてくれている」「たまごの世話をしている間はとても穏やかだ」「大人びていると思っていた子がここまでたまごに夢中になるとは驚きだったが、一人っ子で今まで小さい子に接するのが苦手だったのに、進んで小さい子に声をかけるようになった」などの意見があった。たまごの世話をする様子を見て、気づきがあった保護者の感想も多くあった。「子育ては自立を目指すことだと信じて厳しく接していたが、子どもがたまごを扱うのを見て自分もそうして欲しいのだなあと感じ、久しぶりに抱っこしてあげたらとても落ち着いた」「自分がして欲しいことをたまごにすることで、私に伝えていることに気づいた。〇〇くんにもしようかと言ったら素直に膝に乗ってきた。まだこんなふれあいを求めているということに私は気づかなかった」等である。

この他にも、手形の年表づくりの際に親や家族の気持ちを考えさせることが何度もあったが、自分の世話体験から考えてみるができる等、この実践の効果は様々な面で発揮されていると考える。今後も実践と考察を進めていきたい。

## イ 親や家族への聞き取り活動について

今回の実践では自分の誕生や成長について、親や家族に聞き取りをしていくことが重要な学習活動となり、聞き取りの内容が子どもの学習への意欲や深まりを左右していった。子どもたち自ら「もっと親の話を聞きたい」と意欲が持てる学習の場を設定し、必要に応じて何度も聞き取りを繰り返した。すべての子どもが聞き取りを進められるように保護者への連絡は特に丁寧に行い、協力を求めるために個別に対応した家庭も多かった。

この聞き取り活動だけでも子どもの自尊感情が大きく高まることを今回の実践で感じた。自分の誕生や成長についての聞き取り活動は低学年でも行っているが、今回は特に「心配だったこと、大変だったこと」にも焦点を当てさせた。自分がこんなに大切にされていたということに気づいただけで問題行動が落ち着き、友だちとのトラブルもおさまった子どもがいる。どの子どもも親や家族に大切にされ、認められていることを知ることで喜びと満足感を得たようだ。また親にとっても、この機会に子どもと向き合うことでその成長を感じるとともに、子どもとの絆を再認識し、接し方を見直すきっかけとなっている。それが子どもの心の安定につながっていったと思われる。

## ウ 保護者との連携について

聞き取り活動だけでなく、たまごの世話体験においても保護者の理解と協力が不可欠な実践であった。そのため「いのち通信」と名付けて学習の内容や目的、経過を保護者にもわかりやすく伝えるようにし、家庭での理解と学習への協力を求めた。また通信には保護者からの意見や希望を書いてもらう欄を設け、広く保護者の声を聞くようにした。いじめによる子どもの自殺等の社会状況と相まって保護者の命の問題への関心は大変高く、多くの意見や感想が寄せられ、それを実践に反映させることができた。

参観日での授業を行うとともに、学年集会でこの学習について説明を行った。助産師の授業は保護者への公開授業とし、授業終了後、助産師と保護者で命について語る会を設定したところ多くの参加者があった。

タイムカプセルには未来の我が子に宛てて保護者からのメッセージを入れることにし、協力を求めた。母親だけでなく、父親や姉からもメッセージを書いてももらった子どもも多く、家族で未来に思いをはせることができた家庭もあったようだ。

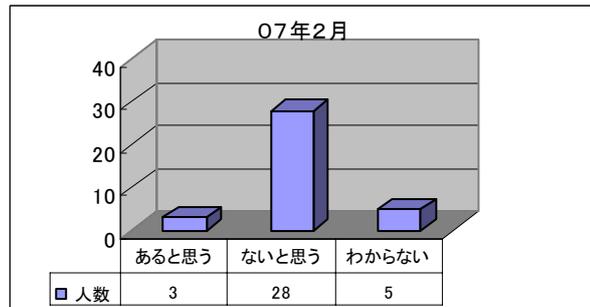
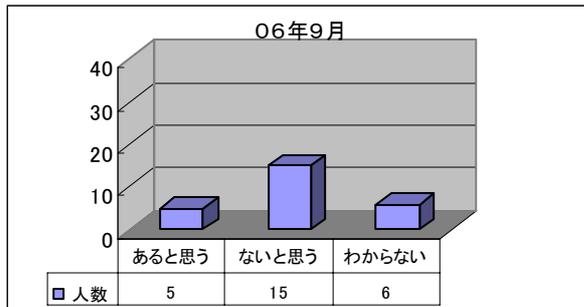
聞き取りについては、初めのうちは面倒なことだと思った保護者は多かったようだが、実践が進むにつれて実践のねらいに理解を示す保護者が増えていった。たまごの世話が始めると興味を持って子どもと一緒にたまごをかわいがったり、布団や袋を作ったりして積極的に関わってくれたりした。

(2) 今後の課題

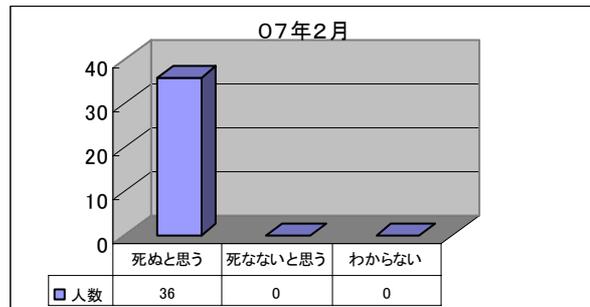
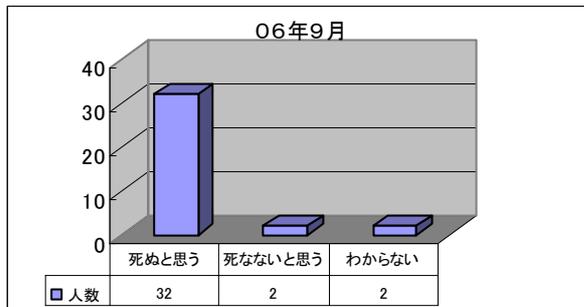
実践開始前の9月中旬と、実践が終了に近づいた2月上旬の2回にわたって、死に対する意識と自尊感情についてのアンケートを記名式で行った。この実践のねらいとして『命は失われると二度と取り戻せないものであること』と『自分の命が大切に育まれたものであること』を設定したので、アンケート結果を考察し、実践の成果と今後の課題とする。

主な設問の回答の変化

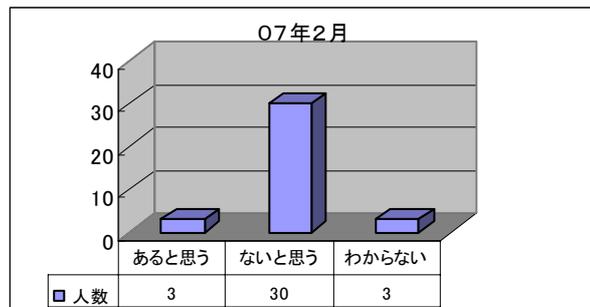
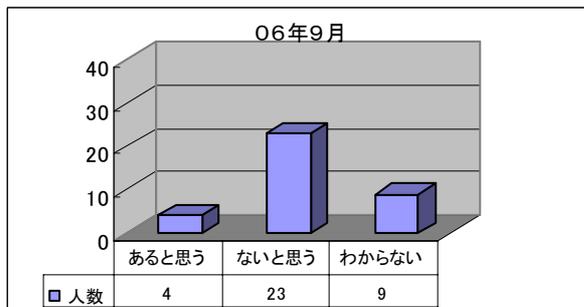
Q 死んだペットや生き物が生き返ることがあると思いますか？



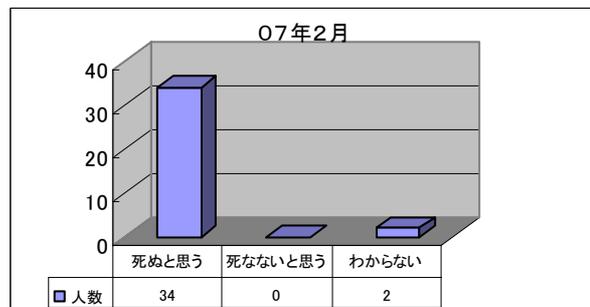
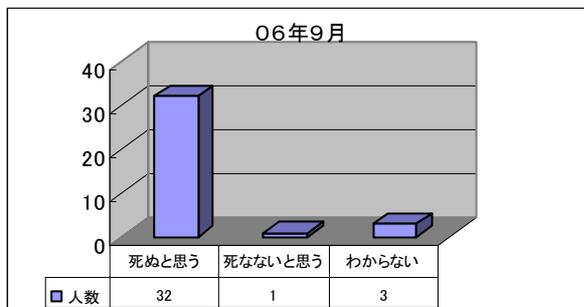
Q 人はいつか死ぬと思いますか？



Q 死んだ人が生き返ることがあると思いますか？

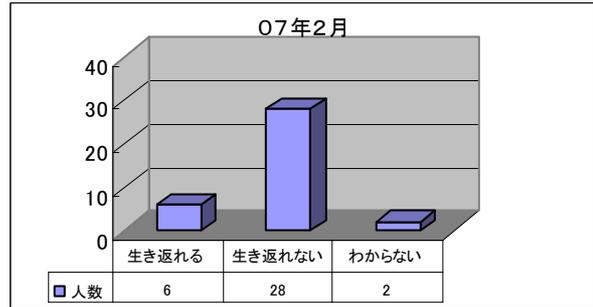
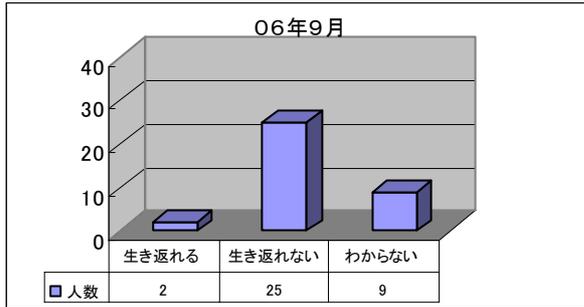


Q 自分はいつか死ぬと思いますか？

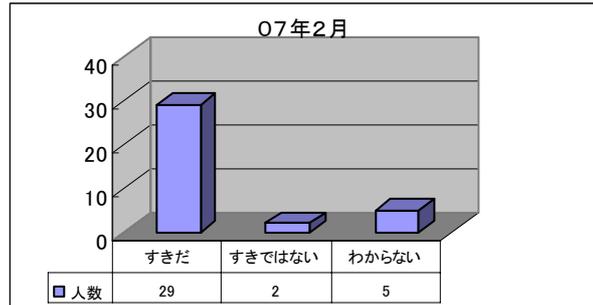
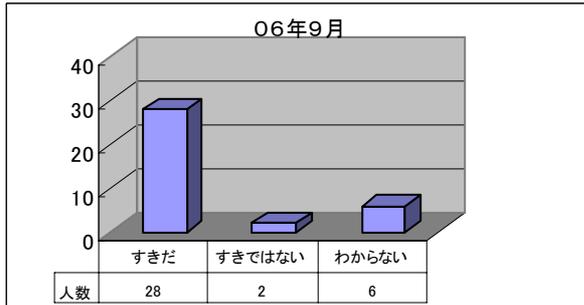


事例1 誕生・成長の喜び—たまごの世話をする体験を中心に— (三田市立武庫小学校第3学年)

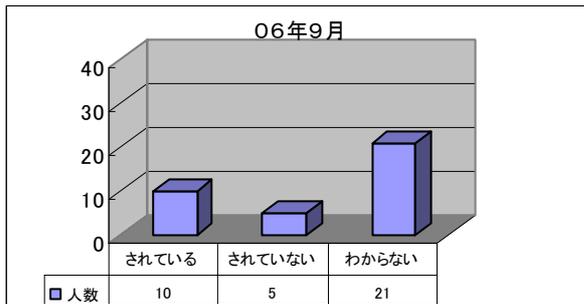
Q もし自分が死んだとしてもまた生き返れると思いますか？



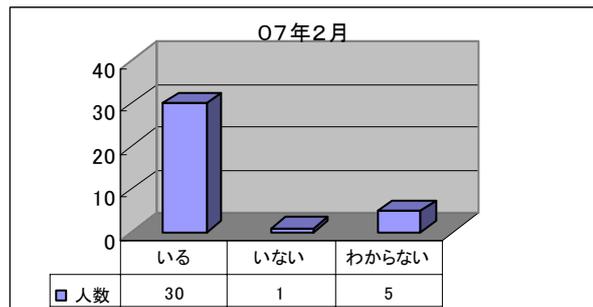
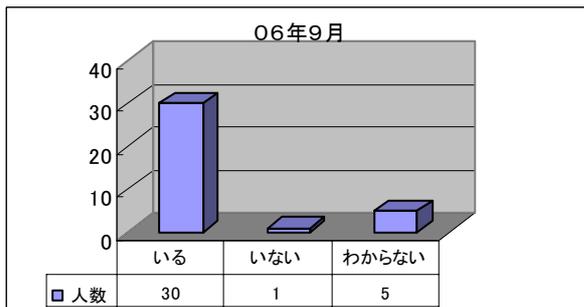
Q 自分のことが好きですか？



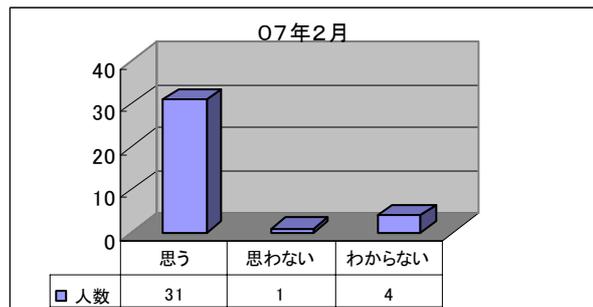
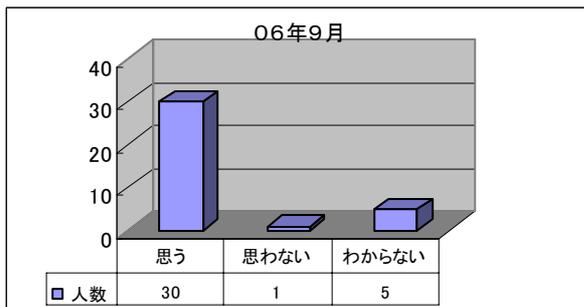
Q 自分は友だちから頼りにされていると思いますか？



Q 自分のことを大切にとおもってくれる人がいますか？



Q 自分は家族から大切にされていると思いますか？



死に対する意識に関する設問では、自分を含め全ての生き物が必ず死ぬことや、死んでしまえばその体は二度と生き返らないことなど、死の絶対性について問うた。全ての回答においてその認識ができたと思われる子どもが増えている。特に『人はいつか死ぬと思うか』の問いには「死なない」または「わからない」と答えていた子どもが4人いたが、2月には全員が「いつか死ぬ」という回答に変わった。どの設問でも「わからない」という回答が減っているため、この子どもたちが正しい認識を得ていったと思われる。

死については授業などで特に取りあげて指導したことはなかったが、聞き取りの中で親が子どもの死を恐れていることを感じ取ったり、助産師の話の中にお腹の中で死んでしまって生まれることができなかつた赤ちゃんの話があったりしたことが、理解を深める一助となったかもしれない。またこの半年間に祖父母の死に接するなどの生活体験が増えていることも考えられる。

『生き返り』についても「ない」との回答が増えているが、『自分自身の生き返り』については「ある」と答えた子どもが2人から6人に増えている。これについてはさらに考察が必要である。約3分の1の子どもが命の有限性や死の絶対性についての認識があやふやであるというスタートからの実践であったが、徐々に死に対する認識を確立しつつあるこの年齢の子どもたちの意識の変化が読みとれた。

一方、自尊感情についての設問では数値的に大きな変化は認められなかった。『自分のことが好きか』『自分のことを大切にだと思ってくれる人がいるか』『自分は家族から大切にされていると思うか』に対する回答の数値はほとんど変わらない。

「自分のことが好きかどうかわからない」「大切に思ってくれる人がいるかどうかわからない」「家族から大切にされているかどうかわからない」等の回答の数は9月と2月でほとんど同じだが、入れ替わっている子どもも多い。特に「わからない」から「自分が好きだ」や「大切にされている」の回答に変わった子どもには、聞き取り活動やたまごの世話をする体験でのいきいきした学びや気づきがあり、問題行動が落ち着いていった事例も多い。しかし依然として「わからない」と答える子どもについては、親子や家族の関係や友だちとの関わり、子ども自身の発達の特徴、クラスでの居場所等の点で、それぞれの課題と思われるものがあり、今後の適切な見守りと導きが必要である。

今回の実践では子どもや保護者の反応に相当な成果を感じていただけに、自尊感情の高まりの点でアンケート結果にはっきりとした変化が認められなかったことが残念であった。このことから学習活動や体験活動で自尊感情を育てることの難しさを改めて思い知らされた。同時に親や家族との心のふれあい、友だちとの関わり、集団の中での連帯感や自己有用感が自尊感情を育てるために不可欠であり、その中でもとりわけ親や家族の役割が大きいことを感じた。今後命の大切さを実感させる教育を進めていくためには、学校は保護者や家庭にもっと積極的に発信し、親と教師がともに子どもと向き合う取組を心がけて行かねばならないと思う。

## 11 参考・引用文献

- ・星川ひろ子他 『あかちゃんてね』小学館 2005
- ・兵庫県教育委員会 『「命の大切さ」を実感させる教育への提言』 2006
- ・岸本喜代子他 『家族で語る性教育』かもがわ出版 2005
- ・ニコル・テイラー他 『赤ちゃんの誕生』あすなろ書房 1996
- ・本実践の「たまごの世話をする体験」授業については、関西学院大学社会学部の藤井美和准教授のワークショップを参考に実践したものです。

**事例2 限りある命だからこそ  
(高砂市立伊保南小学校第5学年)**

## 小学校事例2

## 限りある命だからこそ

高砂市立伊保南小学校第5学年

## 1 テーマ

限りある命だからこそ

## 2 実践のねらい

命の有限性に気づき自他の命のかけがえのなさを実感するとともに、自他の命を大切にするための方法を学ぶことをとおして、よりよく生きようとする意欲や姿勢を持つ。

## 3 テーマ設定の理由

## (1) 本校の概要と児童生徒の実態

本校は高砂市南部に位置する児童数 336 名、13 学級の小規模校である。5年生の児童は、保育園、幼稚園の頃からの顔見知りのため、お互いをよく理解し合っているという反面、友だち関係が固定しており、「あの子は〇〇な子」という固定観念がなかなか崩せないという面がある。前向きに物事を考え、素直な児童も多いが、よく考えないままに相手を傷つける言葉を発したり、自分の考えをうまく伝えられなかったりする児童も多い。

児童は、「命は大切だ」という考えは当然持つてはいるが、その理解は観念的・表面的なものにとどまっている現状にある。実際に「死」というものに直面したことがなかったり、自分の命がいろんな人に支えられ、つながっているものだと感じられなかったりする等、様々な要因が考えられる。

本校では、家族や友だちから認められるという体験をとおして、命というものを様々な視点から捉え、命は自分だけのものではないということに気づかせるとともに、かけがえのない限りある命を大切に、よりよく生きていこうとする意欲を持たせることをねらいとして本テーマを設定した。

## (2) 指導のポイント

## 【感動の体験】

- ・震災記念公園や病院を見学することとおし、生と死について考えることの大切さを実感させる。
- ・家族や友だちと心がつながるという体験をとおし、信頼し合うことの喜びを感じさせる。

## 【感性を育む】

- ・震災体験者や助産師の話から、命の重みを感じさせる。
- ・自分の素直な気持ちをきちんと伝え、それを受けとめてもらう満足感を感じさせる。

## 【想像力の育成】

- ・生きているということは当たり前のことではなく、素晴らしいことであるということを知識させる。
- ・自分の思いがどうすれば相手に受け止めてもらえるか、相手の立場に立って考えさせる。

## 4 事前

## (1) 先生の準備

- ・授業の中だけでなくすべての教育活動の中で、命を大切にしていこうとする視点や姿勢を持つ。
- ・命に関する本を読んだり、教員自身が人生の振り返りを行ったりする。
- ・事前に関連施設との十分な打合せを行い、交流が一時的なものにならないようにする。
- ・現在悲嘆にある子どもが存在する可能性もあるので、個別に話を聞く時間を設定するなど、事前事後の個別指導を充実させる。
- ・子ども一人ひとりを把握し、学級内の人間関係を掌握しておく。
- ・家庭・地域との連携の上、学習や体験内容に配慮する。

(2) 教育課程上の位置づけ

- ・総合的な学習の時間

(3) 子どもたちの準備

- ・祖父母との別れ、ペットとの別れなど、生と死に関する体験を振り返る。
- ・これまでの読書活動の中で、命に関連した内容の本がなかったかを振り返る。
- ・震災や自分の誕生に関して、これまで聞いたことなどについてまとめる。

(4) 家庭・地域との連携

- ・あらかじめ授業内容を伝え、家庭でも話題にするなど積極的に関心を持ってもらう。

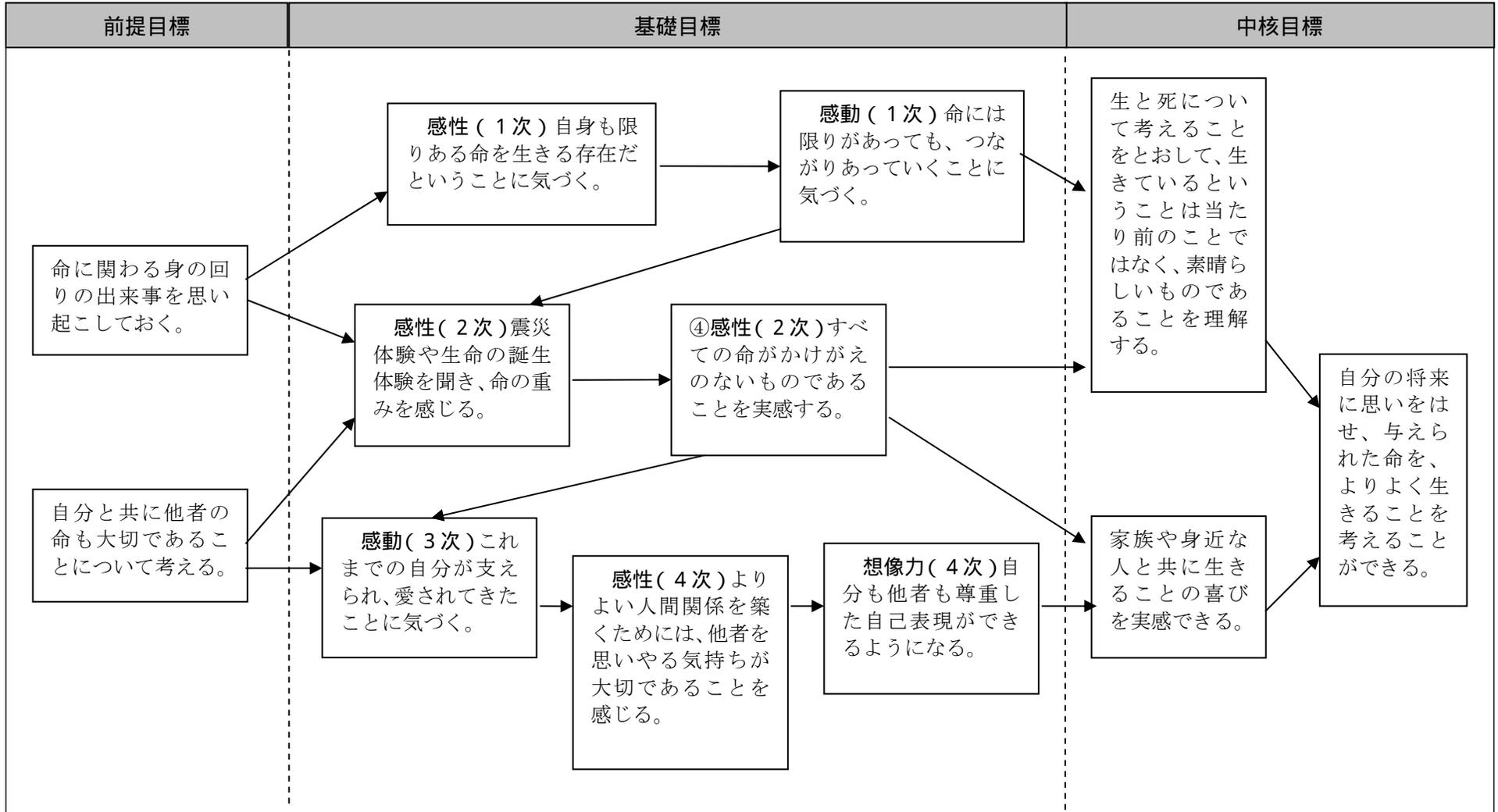
5 本校の実践の特色

- ・各自の命についての考えを整理し、深めるためにブックトークを行う。
- ・生と死について考えを深めるために、震災体験者や助産師の体験談を聞く。
- ・これまでの人生を保護者とともに振り返り、自分がかげがえのない存在であることを実感する。
- ・アサーショントレーニングやストレスマネジメント体験をすることにより、よりよく生きていこうとする意欲を高める。

6 目標分析表

	学習活動	感動の体験	感性を育む	想像力の育成	先生の振り返り
事前	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「命の大切さ実感尺度」に回答する。</li> <li>○自尊感情を高める体験をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自他の命の存在に気づく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○命に関わる身の回りの出来事を思い起こしておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分と共に他者の命も大切であることについて考える。</li> </ul>	
1次（9時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○命についての各自の思いを話し合う。</li> <li>○命に関する絵本を読んで話し合う。</li> <li>・『わすれられないおくりもの』（スーザン・バーレイ作 評論社）を読み、感想を話し合う。</li> <li>○ブックトークをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○命に対して様々な見方や捉え方があることに気づく。</li> <li>○命には限りがあっても、つながりあっていくことに気づく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自身も限りある命を生きる存在だということに気づく。</li> <li>○互いに伝え合うことの大切さを実感する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○遭された者の痛みや悲しみを想像できる。</li> <li>○かけがえのない人を失った悲しみを乗り越える心のあり方を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○命に対して様々な見方や捉え方があることに気づかせることができたか。</li> <li>○命には限りがあるが、つながり合っていることを理解させることができたか。</li> </ul>
2次（6時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○震災記念公園に行き、震災体験者の話を聞く。</li> <li>○産婦人科の助産師を招いて話を聞く。</li> <li>○震災記念公園や助産師の話を聞いて学んだことをまとめ、話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多くの大切な命が失われた悲しみを受けとめようとする。</li> <li>○命の誕生の素晴らしさや大変さを感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○すべての命がかけがえのないものであることを実感する。</li> <li>○震災体験や生命の誕生の体験を聞き、命の重みを感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○命を守るためにはどうすればよいかを考える。</li> <li>○生と死について考えることをとおして、生きていることは当たり前のことではなく、素晴らしいものであることを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○命の重みを感じさせることができたか。</li> <li>○生きているということは当たり前のことではなく、素晴らしいものであることを理解させることができたか。</li> </ul>
3次（4時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「私の人生時計」をつくる。</li> <li>家族から「うれしかったこと」「一番心配したこと」について聞き取る。</li> <li>○家族への手紙を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○これまでの自分が支えられ、愛されてきたことに気づく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分を支えてくれた周りの人に対して感謝の気持ちを持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家族や身近な人と共に生きることの喜びを実感できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○命は一人だけのものではなく、つながり受け継がれていくものであることを実感させることができたか。</li> </ul>
4次（4時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○与えられた命を大切に、よりよく生きる方法を考える。</li> <li>・エゴグラムチェック</li> <li>・アサーショントレーニング</li> <li>・ストレスマネジメント体験</li> <li>○未来の自分への手紙を書き、発表し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の中にある様々な感情に気づき、自己を見つめることができる。</li> <li>○いろいろな場面を体験することにより、様々な感じ方や見方ができるとに気づく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○怒りに任せず、冷静になるには、気持ちをコントロールすることが大切であることを感じる。</li> <li>○よりよい人間関係を築くためには、他者を思いやる気持ちが大切であることを感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分も他者も尊重した自己表現ができるようになる。</li> <li>○自分の将来に思いをはせ、与えられた命を、よりよく生きることを考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○感情に流されず、自分の気持ちをコントロールすることができたか。</li> <li>○自他の命のかけがえのなさを実感させることができたか。</li> </ul>
事後	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「命の大切さ実感尺度」に回答する。</li> </ul>				

7 目標構造図



（凡例）①感性（1次）：「①」は指導の順路、「感性」は指導の観点が「感性を育む」、「（1次）」は学習活動が「1次」であることを示す。

## 8 事前の教員研修と指導の概要

### (1) 事前の教員研修

	研修内容
a	○自尊感情を高める体験をする。 <提言 P64：教員研修テーマ①> ・『わたしはわたしが好きです。なぜなら・・・』 ・『ここがあなたのいいところ』（いいところさがし）
b	○震災体験者の話、助産師から生命誕生の話を聞く。 ・生命の大切さや命を守るためにどうすればよいかを学ぶ。 ・生命誕生のすばらしさを感じ取る。
c	○自己再発見の体験をする。 <提言 P68：教員研修テーマ②> ・「私の人生時計」をつくる。
d	○保護者への協力依頼について話し合う。 ・子どもの聞き取りの内容について ・子どもの家庭環境について
e	○ストレスマネジメントを体験する。 ・怒りなどの自己の感情をコントロールする方法等

### (2) 指導の概要（全 23 時間）

	内容
事前	○「命の大切さ実感尺度」に回答する。 ○自尊感情を高める体験をする。 <span style="float: right;">教員研修 a</span>
1次 (9時間)	1 命についての各自の思いを話し合う。 ・父親を航空機事故で失った児童の作文について話し合う中で、遺された者の痛みや悲しみを想像し、命のかけがえのなさと人とのつながりを実感する。 (1時間) 2 命に関する絵本を読んで話し合う。 ・『わすれられないおくりもの』（スーザン・バーレイ作 評論社）を読み、感想を話し合う。 (1時間) 3 ブックトークをする。 ・「つながっている命」「心の中で生きている命」「限りある命」などのテーマでグループごとにブックトークをする。 (7時間)
2次 (6時間)	1 震災記念公園に行き、震災体験者の話を聞く。 (2時間) ・「北淡町震災記念公園」を見学し、震災体験者の話を聞く。 <span style="float: right;">教員研修 b</span> ・命の大切さや命を守るためにはどうすればよいかなどについて考えを深める。 2 産婦人科の助産師をゲストティーチャーとして招いて話を聞く。 (2時間) ・産婦人科の助産師から生命の誕生について話を聞き、それぞれがかけがえのない命であることを実感する。 ・赤ちゃん人形を抱いたり、助産師から話を聞くことをとおして、命が誕生することの喜びや大変さを感じ取る。 3 震災記念公園や助産師の話を聞いて学んだことをまとめ、感想を話し合う。 ・感想を交換することにより、命についての考えをさらに深める。 (1時間) ・命に関わる詩や本を読み、命のつながり・限りある命について考える。 (1時間)

<p>3次 (4時間)</p>	<p>1 「私の人生時計」をつくる。                  ・人間の一生の長さを意識する。                  ・家族から「うれしかったこと」「一番心配したこと」などについて聞き取り、自己肯定感や家族への感謝の気持ちを持つ。                  ・自分の将来について前向きに想像してみる。</p> <p>2 家族への手紙を書く。                  ・「私の人生時計」づくりをとおして感じたことや感謝の気持ちを手紙に書き表す。</p>	<p>教員研修 c (3時間)</p>
<p>4次 (4時間)</p>	<p>1 与えられた命を大切にし、よりよく生きる方法を考える。                  ・「エゴグラムチェック」をとおして、自分の特徴に気づき、よいところを積極的に伸ばそうという気持ちを持つ。(養護教諭)                  ・アサーショントレーニングをとおし、自分も他者も尊重する話し方や行動の仕方を学び、思いやりの心を持った行動について考える。(養護教諭)                  ・ストレスマネジメント体験をすることにより、怒りなどの自己の感情をコントロールする方法について知る。(養護教諭)</p> <p>2 未来の自分への手紙を書き、発表し合う。                  ・自分の未来を想像することで、自分の人生を大切に生きていこうとする思いや周りの人に対する感謝の気持ちを持つ。</p>	<p>教員研修 d (1時間)</p> <p>教員研修 e (1時間)</p>
<p>事後</p>	<p>○振り返りカードに記入する。                  ○「命の大切さ実感尺度」に回答する。</p>	

## 9 指導実践

### (1) 1次第1時

#### ア 本時のねらい

命に関する本を読んだり、それぞれの考えを交換したりする中で、命に対して様々な見方や捉え方があることに気づき、命には限りがあるが、つながり合っていることを理解する。

#### イ 指導のポイント

##### (ア) 感動の体験

- ・命に対して様々な見方や捉え方があることに気づかせる。
- ・命には限りがあっても、つながりあっていくことに気づかせる。

##### (イ) 感性を育む

- ・自身も限りある命を生きる存在だということに気づかせる。
- ・互いに伝え合うことの大切さを実感させる。

##### (ウ) 想像力の育成

- ・遺された者の痛みや悲しみを想像させる。
- ・かけがえのない人を失った悲しみを乗り越える心のあり方を考える。

#### ウ 準備物 命を考える上で関連すると思われる絵本や本

#### エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

- ・命に関するアンケートをとり、児童の命に関する意識を把握しておく。
- ・命に関する本にはどのような本があるかを調べ、図書館などで収集する。
- ・収集した本を読み、そのテーマについて教師間で話し合う。
- ・ブックトークをどのようなテーマで行うかを検討する。

#### オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	<b>1 命についての各自の思いを話し合う。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・命の値段について</li> <li>・父親を航空機事故で失った児童の作文</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・命に値段をつけることに対して憤りを持たせるとともに、命に値段はつけられない理由を話し合わせる。</li> <li>・遺された者の痛みや悲しみを想像し、命のかけがえのなさと人とのつながりを実感させる。</li> </ul>
展 開	<div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">命について考えよう</div> <b>2 命に関する絵本を読んで話し合う。</b> <p>(1) 『わすれられないおくりもの』（スーザン・バーレイ作 評論社）を読み、感想を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼくにもこんな経験がある。</li> <li>・おじいちゃんが自分をすごく大切にしてくれていたというのを聞いてすごくうれしかった。</li> </ul> <p>(2) 『わたしのいもうと』（松谷みよ子作 偕成社）を読み、感想を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私にもこんな経験がある。</li> <li>・人の命を大切にしていないからこんなことになると思う。</li> <li>・いじめられている人の味方になりたい。</li> <li>・戦争もいじめと同じようにひどいことだと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・祖父母やペットを失った体験を出させ同じような体験をしている子が多いことに気づかせる。</li> <li>・命に限りはあるが、心の中で生き続けているたくさんのものであることに気づかせる。</li> <li>・人からいじめられた時の気持ちを話し合わせることにより、いじめがいかに人を苦しめるのかということを実感させる。</li> <li>・自分の命だけでなく、周りの人の命も大切にすることが命を大切にすることであることに気づかせる。</li> </ul>

展 開	<p>3 様々な命に関する本を読み、カードに内容や感想をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな本を読んで、命について考えさせられたり、感動した。</li> </ul> <p>4 最もみんなに紹介したい本を一冊選ぶ。</p> <p>5 ブックトークの内容や方法を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・命に関する本をもっと読んで考えていこうとする意欲を高める。</li> <li>・命に関する本を教室に用意して、いつでも読めるようにしておく。</li> <li>・自分が印象に残った本を紹介し合ったり、学級通信に掲載したりすることにより、もっと読み広げていこうとする意欲を高める。</li> <li>・教師が実際にブックトークをしてみせ、その方法を理解させる。 『わすれられないおくりもの』 「私の母は2才の時に亡くなったので、母との思い出は全く覚えていないのですが、ある時に母の最後の言葉が「朋樹に会わせて。」だったということを教えてもらいました。2才の子を残してこの世を去る母の気持ちを想像すると悲しい気持ちにもなりますが、それだけ自分を大切にしてくれていたんだと思うと、言葉で表せないほどの感謝の気持ちがわいてきました。そして、どんなことがあっても生きていける勇気ももらいました。」</li> <li>・本の内容、メッセージ、感想などを整理させながら原稿を書かせる。</li> <li>・発表の順番やつながりを考えさせながら、聞いている人が読みたくなるようなブックトークになるように助言する。</li> </ul>
ま と め	<p>6 ブックトーク交流会をとおして命について考えを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前は、命なんか死んだらまた新しい自分ができる、とか思っていたけど、今は命は一人に一つしかないし、自分がもし死んでしまったら、きっと家族が悲しくなるから、絶対に命は大切にしないといけないと思った。</li> <li>・命は大切というのは分かっていたけど、命は一つしかないから、もっと大切にしないといけないと思った。</li> <li>・前までは自分の命は自分だけの大切なものだと思っていたけど、他の人にとっても、自分の命はとても大切だということが分かりました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれのグループの発表後に、感想や意見を交換させることにより、自分の考えを深めさせる。</li> </ul>

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

児童は、意欲的にブックトークに取り組むことができた。その中では、「大きな命も小さな命も同じ」「精一杯前向きに生きていくことが大切」「命には限りがあるけど、心の中に生き続けていることがよくわかった」「自然も人間も命はつながっているということが感動した」などの本質に迫る意見を多く聞くことができた。また、友だちと意見を交換することでさらに本を読んだり、考えを深めたりする児童も多くいた。様々な本を読んだり、交流したりする中で命に関しての見方や捉え方が広がっていったように思う。

しかし、自分とつなげて考えるという児童はまだ少なく、観念的な理解にとどまっているようにも思う。今後、生と死の現場で様々な体験をされた震災体験者や助産師の話の聞いたり、自分自身の人生や家族の思いを振り返ったりする中で、命に対する思いや考えをさらに深めていきたい。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○友達の見解を聞いて「命の大切さ」について、どのようなことに気がつきましたか。	
感性を育む	○ブックトークの授業で、「命の大切さ」に対して見方がどう変わりましたか。	
想像力の育成	○自分の大切な人・ペットを失った時、悲しみを乗り越えるためにどうしたらいいと思いますか。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

(2) 2次第3時

ア 本時のねらい

生命が誕生する神秘性を感じ、その感動をとおして自他の命のかけがえのなさに気づく。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

命の誕生の素晴らしさや大変さを感じさせる。

(イ) 感性を育む

助産師から生命誕生について話を聞き、命の重みを感じさせる。

(ウ) 想像力の育成

生と死について考えることをとおして、生きているということは当たり前のことではなく、素晴らしいものであることを理解させる。

ウ 準備物 なし

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) ゲストティーチャーとの打合せ

・生命誕生の素晴らしさと大変さ、新生児を取り巻く家族の思い等、助産師として医療現場で感じる思いを、子ども達へ伝えてもらうよう依頼する。

(イ) 子どもの家庭環境を把握し、個々の子どもへの配慮など事前事後の指導を充実させる。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 これまでの学習を振り返る。	・ブックトーク等とおして感じた限りある命、命のつながりなどを思い起こさせる。
展 開	2 ゲストティーチャーの助産師から話を聞く。 (1) 生命の誕生 (2) 受精について (3) 胎内での胎児の様子 (4) 家族のつながり など	・日々助産師として医療現場で感じる思いを伝えてもらう。 ・母親のお腹の中で育つ胎児の様子をおして、命の不思議さに気づかせる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     あなたたちは、誕生してから今まで様々なつながりの中では生きています。そのつながりを感じましょう。                 </div> 3 助産師の話を聞いて感想を話し合う。 ・ぼくたちは親といっしょに苦しい重い期間を乗り越えて生まれた一つの命だということがわかりました。こうやって生まれてきたのが奇跡に近いということもわかりました。 ・人間は一人で生きているのではなくて、みんなに支えられて生きているということがよくわかり、よかったです。お母さんも私を産む時にとっても苦労したんだなあと思いました。 ・一番印象に残ったのは、卵子の中に精子が入るのが3億分の1だということです。出産はみんなの願いがあってするんだなあと思いました。	・ここに自分が存在していることは、奇跡に近いことであり、いろんな命がつながってここにいることを伝える。



展 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おなかから産まれるまで、短いきよりなのに、長い時間がかかるということがびっくりしました。赤ちゃんの人形を持ってみて、すごく重く感じました。私たちはいろんな人に支えられているんだなと思いました。</li> <li>・私は今生きていること自体、奇跡に近いんだなあと感じました。私は今、いろいろな人に支えられて生きているから、これからはいろいろな人を支えたいです。</li> </ul>	
ま と め	<p>4 「生まれてくる時一人でないのと同じように、今もたくさんの方があなたたちの周りにいて見守ってくれています。」という助産師からのメッセージを受け取る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族のつながり、家族の大切さに改めて気づかせる。</li> </ul>

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

聖パルモア病院の岸本喜代子助産師から、地球上に生命が誕生し、人間が生まれるまでの歴史について、そして、精子と卵子が出会い、命の誕生から、赤ちゃんとして産まれるまでの経過について詳しく話してもらった。助産師として、命の誕生に立ち会えることの素晴らしさやその思いについても熱く語られ、今ここに自分が存在しているのは、奇跡に近いことであり、いろんな命がつながってここにいるということ、子どもたちにメッセージとして伝えられた。子どもたちは、岸本さんの話をとおして、命の重みを感じるとともに、自分たちの命が家族や多くの人によって支えられていることを知ることができたように思う。その感謝の思いを、次時に手紙として伝えさせたい。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○命の誕生の素晴らしさや大変さを感じよう。	
感性を育む	○すべての命がかけがえのないものであることを感じ、命の重みを感じよう。	
想像力の育成	○人が「生きている」ということについて、自分の考えをまとめてみよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

(3) 3次第4時

ア 本時のねらい

命は一人だけのものではなく、つながり受け継がれていくものであることを理解する。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

これまで自分が支えられ、愛されてきたことに気づかせる。

(イ) 感性を育む

自分を支えてくれた周りの人に対して感謝の気持ちを持たせる。

(ウ) 想像力の育成

家族や身近な人と共に生きることの喜びを実感させる。

ウ 準備物 人生時計のプリント

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) 教員自身が自分の誕生を含めた人生の振り返りをする。

(イ) 子どもの家庭環境を把握し、個々の子どもへの配慮など事前事後の指導を充実させる。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	<p>1 発表内容を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">人生時計を発表しよう</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受容的にそれぞれの発表を聞くように伝える。</li> </ul>
展 開	<p>2 各自の人生時計を発表し合う。</p> <p>(1) うれしかったこと (2) 悲しかったこと (3) 家族から聞き取ったこと (4) 家族の自分への思い (5) 家族への思い などについて発表する。</p> <p>3 発表者に対して、質問・感想を述べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その時のことについて、お家の人はどんなことを話していましたか。</li> <li>・お家の人の話を聞いて、どんなことを思いましたか。</li> <li>・お家の人は、すごく心配していたんだね。</li> </ul> <p>4 発表後の感想を全体で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私は人生時計を作って、お母さん、お父さん、友だちに支えられて、今の自分がいるんだなあと思いました。</li> <li>・お家の人の思いも聞けて、ぼくたちはみんな一人では生きていけないということがわかった。</li> <li>・お母さんがぼくを産む時に苦勞して産んでくれたことやぼくが熱を出した時には仕事を休んで多くの世話をしてくれたことがわかりました。お父さんやお母さんがぼくのことを支えてくれていたんだなあと思いました。いやなことがあってもみんな前向きに生きているんだなあと思った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表しにくい子には、教師から質問をするなどして、話しやすい雰囲気をつくる。</li> <li>・家族の思いや本人の思いをできるだけ詳しく聞かせる。</li> <li>・家族の思いや本人の思いをできるだけ詳しく聞くよう助言する。</li> <li>・一人一人が多くの人に支えられて生きてきたということに気づかせる。</li> <li>・人生を一日にたとえるなら、まだ小学5年生は夜中の3時であるということを確認し、これからの人生を前向きに生きていこうという気持ちを持たせる。</li> </ul>

まとめ	<p>5 人生時計発表会についての教師の感想と今後の学習予定について聞く。</p>	<p>・人生をよりよく生きるための方法について次回から学習していくことを知らせる。</p>
-----	---	---

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

お家の方からの温かいメッセージを受け取った児童は、自分がたくさんの人から支えられて今ここに生きているということを実感し、前向きに生きていこうという意欲を抱いたようである。また、友だちの発表を聞きながら共感したり、勇気を与えられたりもした。しかしながら、中には十分に家庭からのメッセージを受け取れなかった児童もいる。その児童に対しての対応として、教師が保護者の思いを代弁したが、やはり十分ではなかったと思われる。児童から家族への手紙を書く予定ではあるが、その際に児童へのプラスのメッセージを贈っていただくことを依頼した。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○これまでの自分が支えられ、愛されてきたことについて考えよう。	
感性を育む	○自分を支えてくれた周りの人に対してどのような思いを持っているか。	
想像力の育成	○家族や身近な人と共に生きることの喜びを感じているか。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

(4) 4次第3時

ア 本時のねらい

自分自身の身体や心の状態をみつめ、そのストレス状態を理解するとともに自分に関わるストレス反応を知る。そして、よりよい人間関係を築くために、自分の気持ちをコントロールしようとする態度を身につけさせる。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

- ・リラックス法を身につけることで、怒りや悲しみといったストレスが変化することを実感させる。

(イ) 感性を育む

- ・よりよい人間関係を築くためには他者を思いやる気持ちが大切であることを感じさせる。
- ・怒りや悲しみ等の感情を自分で和らげられることに気づかせる。

(ウ) 想像力の育成

- ・人を支える心の絆の大切さを実感させる。
- ・不安や緊張等のストレスをプラスのイメージを用いて乗り越えさせる。

ウ 準備物 CDラジカセ

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

教師自身がストレスマネジメントを体験し、不安や緊張をコントロールし、ストレスに対処する方法を身につける。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	○本時のねらいを簡単に説明する。	
	自分のストレスを知ろう	
展 開	<p>1 人との関係において、自分はどんな時やどんなことにストレスを感じるか振り返る。</p> <p>2 ストレスによって自分の身体がどんなふうに変化するか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表情が固くなる</li> <li>・心臓がドキドキする</li> <li>・頭の中がそのことしか考えられなくなる</li> <li>・腹が立つ（イライラする）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレスを感じると、冷静さを保てなくなることに気づかせる。</li> </ul>
	<p style="text-align: center;">自分のストレスに対応するための工夫を知ろう</p> <p>3 ストレスを感じた時に自分はどのようにしているかを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・走ったりして、別のことをする</li> <li>・先生や家族に話をする。</li> <li>・はっきりと相手に伝える。</li> <li>・楽しいことをする。</li> <li>・友だちに話をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな方法でストレスに対応するための工夫をしているか思い起こさせる。</li> <li>・それぞれの工夫の良い点、悪い点に気づかせ、整理す</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>&lt;板書例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○人と人のよいつながり</li> <li>○問題に立ち向かう</li> <li>○気持ちを切り替える</li> </ul> </div>
	ストレスマネジメント体験をしよう	

展          開	<p>4 呼吸を整え、心の落ち着きを体験する（腹式呼吸法）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「腹式呼吸法」をやってみて気持ちが和らいだ。</li> <li>・最初は深呼吸だけで、ストレスがとれるなんて思っていなかったけど体験をして、ストレスがなくなることがわかりました。ストレスがたまったらまたやってみようと思いました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな疲れが、身体の外に出ていくイメージを浮かべさせる。</li> <li>・腹式で呼吸させる。</li> <li>・吐く息の感じに注意を向けさせる。</li> </ul> 
	<p>5 ペアリラクゼーションを体験する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアリラクゼーションの時、後ろに人がいて肩に手をおいてくれると、なんだか「ホッ」とした気持ちになってすごく気持ちがよかったです。</li> <li>・ペアリラクゼーションを体験して、気持ちがとても楽になりました。そして、安心できる気がした。</li> <li>・ペアリラクゼーションで肩に手をおいてもらってゆっくり離してもらおうと、気持ちも楽になったし、肩が軽くなったように思いました。</li> </ul>	
ま と め	<p>6 今日の体験を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアリラクゼーションが一番すっきりしました。後ろにだれかがいて、いっしょにしてくれていると、1人の時より安心した。また、腹式呼吸や10秒呼吸もやってみて、ストレスを解消したいなあと思いました。</li> <li>・ペアリラクゼーションをした時に、後ろの人が肩に手をそっとおいてくれると、何かほっとした気持ちになって、すごく気持ちがよかったです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアリラクゼーションの体験により、自分自身のストレスの変化に気づかせる。</li> </ul>

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) 子どもたちがストレスマネジメント体験に前向きに取り組んでいた。
- (イ) 発言が積極的で、友だちの話とつなげて話すことができていた。
- (ウ) 二人ペアでやっている時、すごく自然であたたかい感じがしていた。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の怒りや悲しみが引き起こす自分の行動について考えよう。</li> <li>○ストレスを乗り越えるための様々な工夫について考えよう。</li> </ul>	

感性を育む	<p>○人とのよい関係をつくるためにも、相手を思いやる気持ちを持つことが大切であることについて考えよう。</p> <p>○怒りや悲しみ等の感情は自分で和らげられることについて考えよう。</p>	
想像力の育成	<p>○自分の話し方が人からどのように受け止められているかについて考えよう。</p> <p>○ストレスを乗り越えることについて考えよう。</p>	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

## 10 実践を終えて

### (1) 先生の振り返り

このプログラム実践中に、いじめによる青少年の自殺問題が大きくクローズアップされ、改めて命を大切にする教育の充実を図ることが教育の重大な課題となった。そうした状況下での実践となり、真剣に目の前の課題に向かっていたのができたと思っている。

「命の大切さの実感」に関するアンケート調査は、教員の日常の観察でとらえた児童の実態を科学的に分析するいい機会となった。クラスの中で自信がなく、存在感や安心感を持っていない子や友だち関係のトラブルで悩んでいる子などへの関わりにおいて、解決に向けての対策を考える上で大変参考になる資料となった。今後も是非とも活用していきたい。

今まで保健室に来室する子どもと「何でも話せる人間関係」をつくるよう心がけてきたつもりであったが、今回の取組の中で、5年生の担任と協力して取り組むことによって、保健室とは違った子どもの姿をみることができ、担任との協力関係の大切さを改めて感じた。

教員が、子ども達に命についての深い感覚を伝えるためには、しなやかな感性を身につけておく必要性を強く感じるとともに、子育てをする親としても、生きることの素晴らしさを子どもたちに感じさせていきたい。

### (2) 今後の課題

#### ア 授業実践上の課題

命についてのブックトーク、震災体験者及び助産師の話を聞くなどの活動を行ったが、命のかけがえのなさを自分のものとして実感させる体験が少なかった。

産婦人科病院や保育園を訪問し、新生児・乳幼児に接し、身近な動植物を育てるなど、子どもたちが実際に体験する活動を豊富にプログラムに取り入れることが必要であると感じた。

#### イ 家庭・地域との連携についての課題

児童が生まれた時の様子を聞き取る、家族への手紙を書くなどの活動を行ったが、「生まれた時のことなんか忘れてしまった」「家族への手紙なんかいらんわ」などと平気で話す保護者もいた。しかし、わが子に寄せる保護者の思いや願いは非常に強いものであり、親が語る言葉は、特別の重みを持つものとする。そこで、本プログラムへの協力の呼びかけや協力の依頼、一緒に活動する方法等をより一層工夫し、保護者と共に取り組む活動へと発展させていきたい。

#### ウ 学校の組織運営上の課題

今年度は5年生の総合的な学習の時間での実践にとどまったので、次年度は、「命の大切さ」を実感させる教育プログラムモデルを参考に、各学年におけるねらいや活動内容を考え、系統的に「命の大切さを実感させる教育プログラム」を全学年で取り組んでいきたい。また、写真や人形などの効果的な教材・教具があると子どもの興味・関心が高まり、より心に響く授業になるものである。実践の中で、制作した教材・教具は共有財産として残していきたい。

#### 11 参考・引用文献

- ・兵庫県立教育研修所 心の教育総合センター『学校のストレスマネジメント研究』 2004
- ・兵庫県立教育研修所 心の教育総合センター『平成14年度 心の教育授業実践研究 第4号 小学校編』 2003
- ・兵庫県立教育研修所 心の教育総合センター『平成14年度 心の教育授業実践研究 第5号 中学校編』 2003
- ・河村茂雄『Q-Uによる学級経営スーパーバイズ・ガイド』 図書文化 2004
- ・松木 繁・宮脇宏司・高田みぎわ『教師とスクールカウンセラーでつくるストレスマネジメント教育』 あいり出版 2004
- ・ストレスマネジメント教育臨床研究会テーマ『年間のストレスマネジメント授業案』 2002
- ・スーザン・バーレイ『わすれられないおくりもの』 評論社 2006
- ・富永良喜・山中寛『動作とイメージによるストレスマネジメント教育 展開編』 北大路書房 1999
- ・富永良喜・山中寛『動作とイメージによるストレスマネジメント教育 基礎編』 北大路書房 2000
- ・富永良喜・山中寛『学校におけるストレスマネジメント教育 35分』 1999
- ・富永良喜・山中寛『心を育むストレスマネジメント技法 40分』 1999

**事例3 『“いのち”生き生き』**  
**- 家族や地域の人と共に学ぶ「いのちの学習」 -**  
**(たつの市立香島小学校第5学年)**

### 小学校事例3

『いのち』生き生き』 - 家族や地域の人と共に学ぶ「いのちの学習」 -

たつの市立香島小学校第5学年

#### 1 テーマ

『いのち』生き生き』 - 家族や地域の人と共に学ぶ「いのちの学習」 -

#### 2 実践のねらい

生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を大切にしていこうとする意欲を持つ。

#### 3 テーマ設定の理由

##### (1) 本校の概要と児童生徒の実態

たつの市の最北部に位置する本校校区は、その中央を揖保川が流れ、山と田園に囲まれた自然豊かな地域である。三世帯同居の家庭が多く、地域の方々は学校教育活動やPTA活動に協力的である。

そのような環境で育った児童は、純朴で優しい子が多い。しかしながら、時には、人を傷つけるような言動があったり、自分本位の考えから人の立場を思いやる気持ちに欠けた行動をとったりすることもある。「自分に厳しく、人にやさしく」とか「自分も人も同じように大切にしよう」といった言葉が言葉だけに終わり、頭では分かっているものの、いざとなれば行動にうつすことができない現状があり、命の学習の必要性を感じ、本テーマを設定した。

##### (2) 指導のポイント

###### 【感動の体験】

- ・親子で生い立ちを振り返りながら「私の11年史」をつくることをとおして、共に生きていくことの喜びを実感させる。
- ・卵殻を育てる活動をおして、命を育むことの大変さや命の愛おしさを体感させる。
- ・乳幼児とのふれあい体験をおして、命のぬくもりを体感させる。
- ・病気と闘う子どもの姿をおして、生きることの尊さを実感させる。

###### 【感性を育む】

- ・命を守り育てることの喜びや苦勞を感じ取らせる。
- ・命の尊さを感じ取らせ、自分を支えてくれている周囲の人に感謝の気持ちを持たせる。
- ・命を支える人々の姿をおして、自分もまた支えられて生きていることに気づかせる。
- ・アニメやテレビゲーム等における仮想現実での死と現実の死の違いに気づかせる。

###### 【想像力の育成】

- ・子どもの誕生や成長によせる親の思いを想像させ、自分の将来について考えさせる。
- ・命はつながり受け継がれていくものであるということを理解させる。
- ・限りある命を全うしようと精一杯生きていくことの素晴らしさを実感させる。
- ・「死」を軽率にとらえず、自他の命を大切に生きていくことについて、自分なりの考えを持たせる。すべての生き物には寿命があり、自分の命も例外でないことを理解させる。

#### 4 事前

##### (1) 先生の準備

- ・様々な教育活動が、「いのちの学習」に結びつくような視点をもって、計画したり実施したりする。
- ・日頃から、資料を集めたり人材を見つけ出したりしようとする姿勢をもっておく。
- ・活動への協力者や関係者との事前打ち合わせを十分に行う。

##### (2) 教育課程上の位置づけ

- ・主に、道徳と総合的な学習の時間に位置づける。

## (3) 子どもたちの準備

- ・「私の11年史」づくりに向けて、生い立ちを家族から聞いたり、資料を集めたりする。
- ・「卵殻を育てる」活動に向けて、卵殻を用意する。

## (4) 家庭・地域との連携

- ・学習内容を学級通信等で知らせ、保護者に趣旨を理解してもらうとともに、活動への協力を得られるようにする。
- ・「私の11年史」づくりに際して、配慮を要する児童については、特に家庭との連絡を密にする。

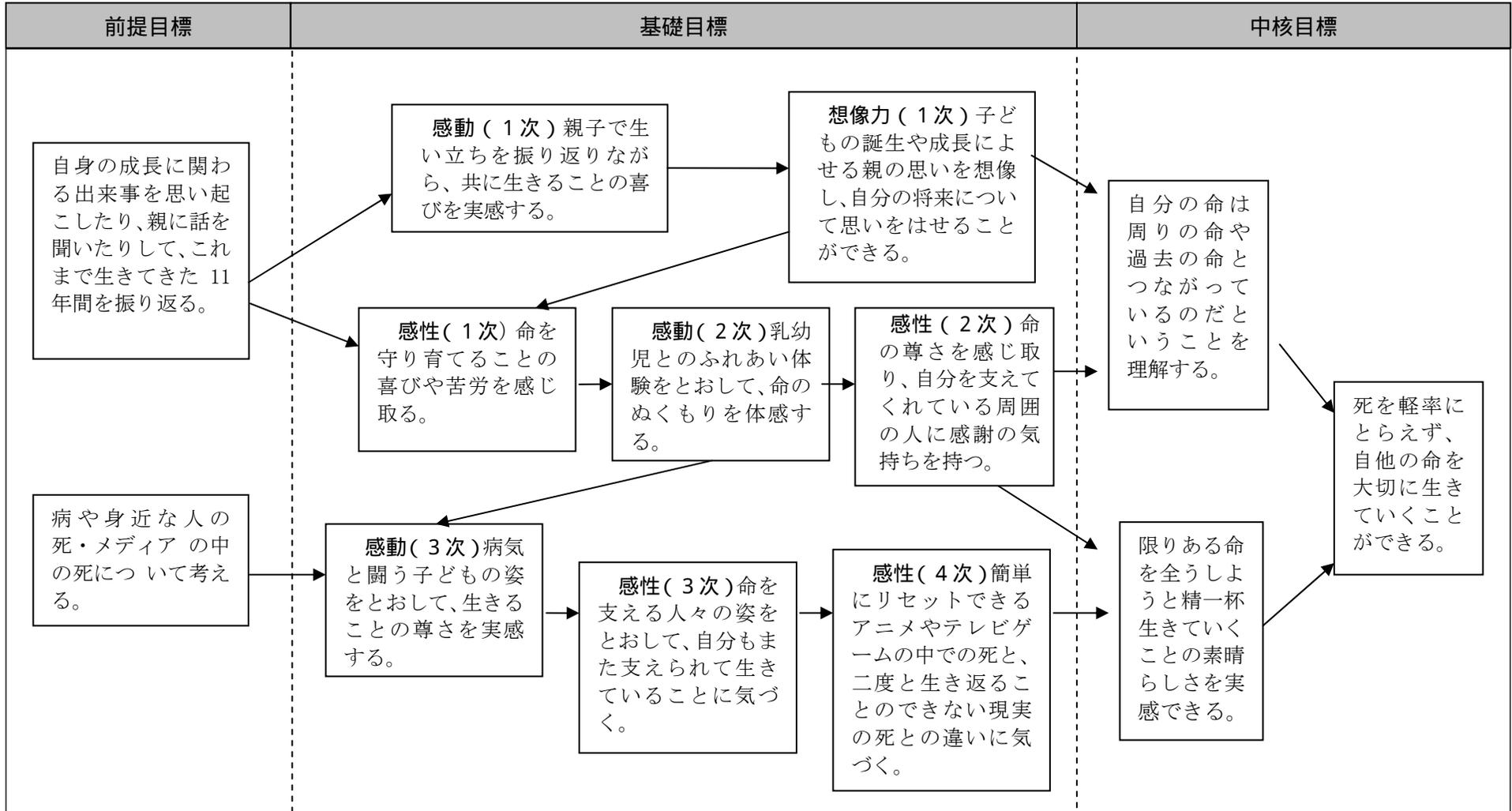
**5 本校の実践の特色**

本校では、特別活動や総合的な学習の時間において、地域との交流を深めている。中でも10月にある「香島っ子ふれあいカーニバル」では、全校児童がいくつかの講座に分かれ、地域の方を先生にいろいろなことを学んでいる。また、5年生の児童においては、「下笹に田んぼ水族館を作ろう」の学習で、ビオトープ作りを目標に、地域の方と一緒に、水田における水生生物の数と農薬の量の関係を調べたり、稲刈り前の水田から水が落ちて無くなる前にメダカをはじめとした生き物を救出しようと取り組んだりして、身近な動植物の命について考えている。

6 目標分析表

	学習活動	感動の体験	感性を育む	想像力の育成	先生の振り返り
1次 (7時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「私の11年史」を作る。</li> <li>○卵殻を育てる。</li> <li>・3日間、学校でも家庭でも、卵殻を割らないように注意を払いながら、身に付けておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○親子で生い立ちを振り返りながら、共に生きることの喜びを実感する。</li> <li>○卵殻に、名前を付けたり顔を描いたりして育てることをとおして、命のいとおいさを実感する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の命は両親の願いの結晶であり、その命を大切に生きていくことの素晴らしさに気づく。</li> <li>○命を守り育てることの喜びや苦労を感じ取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもの誕生や成長によせる親の思いを想像し、自分の将来について思いをはせることができる。</li> <li>○親の立場に立って、子育ての喜びや素晴らしさ、大変さを想像できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分を取り巻く人々の思いを想像させ、感謝の気持ちを持たせることができたか。</li> <li>○命を育むことの素晴らしさや苦労を感じ取らせることができたか。</li> </ul>
2次 (4時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○乳幼児とふれ合う。</li> <li>○「寿命」について考える。</li> <li>・『十歳のきみへ』(日野原重明著 富山房インターナショナル)を読み、感想を話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○乳幼児とのふれあい体験をとおして、命のぬくもりを体験する。</li> <li>○限りある命を精一杯生きることの素晴らしさを感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○命の誕生の不思議さやかけがえのなさを感じ取る。</li> <li>○命の有限性について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の命は、周りの命や過去の命とつながっているのだということを理解する。</li> <li>○命の尊さを感じ取り、自分を支えてくれている周囲の人に感謝の気持ちを持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○命のぬくもりを感じさせることができたか。</li> <li>○自分の命は一人だけのものではなく、つながり受け継がれていく(きた)ものであることに気づかせることができたか。</li> </ul>
3次 (6時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高齢者とふれ合う。</li> <li>○デイケア施設で働く方の話を聞く。</li> <li>○「病」について考える。</li> <li>・『種まく子供たち』(佐藤律子編 ポプラ社)を読み、感想を話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の高齢者との交流を通して、人は支え合って生きていることを実感する。</li> <li>○病気と闘う子どもの姿を通して、生きることの尊さを実感する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○死や老について考えることの大切さに気づく。</li> <li>○命を支える人々の姿をとおして、自分もまた支えられて生きていることに気づく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○限りある命を全うしようと精一杯生きていくことの素晴らしさを実感できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○支え合い、励まし合って生きることの大切さを理解させることができたか。</li> <li>○生きていることは当たり前のことではなく、素晴らしいことであると気づかせることができたか。</li> </ul>
4次 (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身近な死について話し合う。</li> <li>○メディアの中の暴力や死の表現について話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身近な人の死について語り合い、現実の死のもつ悲しみを感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○死の重みを感じ取る。</li> <li>○簡単にリセットできるアニメやテレビゲームの中での死と、二度と生き返ることのできない現実の死の違いに気づく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○死を軽率にとらえず、自他の命を大切に生きていくことを考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○仮想現実での死と現実の死の違いを理解させることができたか。</li> <li>○自他の命を大切にすることについて、自分なりの考えを持たせることができたか。</li> </ul>
事後	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ノーテレビデーを体験する。</li> </ul>				

7 目標構造図



(凡例) ①感性(1次): 「①」は指導の順路、「感性」は指導の観点が「感性を育む」、「(1次)」は学習活動が「1次」であることを示す。

## 8 事前の教員研修と指導の概要

### (1) 事前の教員研修

研修内容	
a	○自己再発見の研修 <span style="float: right;">＜提言 P68：教員研修テーマ②＞</span> 1 「自分史」づくり体験をする。 2 『十歳のきみへ』（日野原重明著 富山房インターナショナル）を読む。
b	○「卵殻を育てる」体験をする。
c	○死と向き合う人々から学ぶ研修 ・『種まく子供たち』（佐藤律子編 ポプラ社）を読む。
d	○メディアの中の「死」についての研修 ・子どもとテレビゲームとのかかわりについて

### (2) 指導の概要（全 20 時間）

内容	
1 次 (7 時間)	1 「私の 11 年史」を作る。 (第 1～5 時) 家族の話の聞いたり写真等の資料を集めたりして、「私の 11 年史」を作る。 (第 6 時) 「私の 11 年史」展示会を行う。 <span style="float: right;">教員研修 a - 1</span> (6 時間)
	2 卵殻を育てる。 (第 1 時) 卵殻を育てるうえでの工夫点や留意点を話し合う。 (課 外) 3 日間、学校でも家庭でも、卵殻を割らないように注意を払いながら育てる。 (1 時間+課外 3 日間) <span style="float: right;">教員研修 b</span>
2 次 (4 時間)	1 乳幼児とふれあう。 ・胎児の様子（超音波撮影による動画）を見る。 ・「私の 11 年史」を見直し、自分の幼い頃を想起する。 ・乳幼児とともに遊ぶなどして、ふれあう。 <span style="float: right;">教員研修 a - 2</span> (1 時間)
	2 「寿命」について考える。 ・『十歳のきみへ』（日野原重明著 富山房インターナショナル）を参考に、寿命やよりよい生き方について話し合う。 (3 時間)
3 次 (6 時間)	1 高齢者とふれあう。 ・「年齢の物差し」を使って、年を経た自分を想像する。 ・高齢者に教えてもらったり、ともにゲームをしたりしてふれあう。 <span style="float: right;">(2 時間)</span>
	2 デイケア施設で働く人の話を聞く。 <span style="float: right;">(1 時間)</span>
	3 「病」について考える。 ・『種まく子供たち』（佐藤律子編ポプラ社）を読み、精一杯生きることの尊さや限りある命を全うしようと生きることの素晴らしさについて話し合う。 <span style="float: right;">(3 時間)</span> <span style="float: right;">教員研修 c</span>
4 次 (3 時間)	1 「死」について話し合う。 <span style="float: right;">(1 時間)</span> ・身近な人の死に接した友だちの話を聞いたり、親から話を聞いたりして、現実の死について話し合う。 <span style="float: right;">教員研修 d</span>
	2 メディアの中の暴力や死の表現について話し合う。 ・普段よく見るアニメやテレビゲームの暴力や死の表現について話し合う。 ・仮想現実での死と現実の死の違いを話し合う。 <span style="float: right;">(2 時間)</span>
事後	○ノーテレビデーを体験をする。

## 9 指導実践

### (1) 1次第1時～6時

#### ア 本時のねらい

自分の生い立ちを振り返り「私の11年史」を作ることとおして、自分を取り巻く人々の思いや自分がかけがえのない存在であることに気づき、感謝の気持ちを持つとともに、命を大切に生きていこうとする意欲を持つ。

#### イ 指導のポイント

##### (ア) 感動の体験

家族で生い立ちを振り返りながら、共に生きることの喜びを実感させる。

##### (イ) 感性を育む

自分の命は両親の願いの結晶であり、その命を大切に生きていくことの素晴らしさに気づかせる。

##### (ウ) 想像力の育成

子どもの誕生や成長によせる親の思いを想像し、自分の将来について思いをはせさせる。

#### ウ 準備物 教員自身の自分史

#### エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) 学級通信等を通じて、子どもたちが、これまで大事に育てられてきたことや今も家族の愛情に包まれて生活していることを意識させたい旨を伝え、保護者に協力を依頼する。

##### (イ) 事前指導

- ・準備物（写真等）の確認
- ・写真等の取り扱い方の指導

#### オ 展開（6時間）

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 「私の11年史」の制作の進め方（完成までの日程、準備物等）や留意点を聞く。	・家族の助言や助力を、最大限生かして制作するように話す。
	2 どのような「私の11年史」にしたいか話し合う。 ・日記風にするか、年表風にするか ・写真や挿絵の使用について	・できるだけ子どもの発想を大切にしながら、完成までの日程を考えて制作するように留意させる。 ・写真の使用に際しては、必ず保護者の許可を得るようにさせる。
展 開	3 11年間を振り返り、おおまかな構想を練る。	
	4 「私の11年史」を作る。	
	5 「私の11年史」展示会を行う。	
	「私の11年史」を作った感想を話し合おう	
	・アルバムを全部出して、家族みんなでいい写真を探していたとき、おもしろい写真がいっぱいあって、みんなで笑って楽しかった。	・作っているときに感じたことや一番心に残ったこと、嬉しかったことなどを話し合わせる。

展 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私にもちっちゃくてかわいいころがあったんだなあと思いました。お母さんは、「昔はこんなにかわいかったのに。」と言っていました。そして、「けど、今もお母さんにとってはかわいい子どもや。」と言いました。家族にめぐまれて幸せです。</li> <li>・お母さんが、ぼくの小さいときに何をしていたか、ぼくにちゃんと教えてくれたことが一番心に残りました。だから、ぼくは8ページも書けたんだと思っています。お父さんとお母さんが、ぼくが生まれたときどう思ったかを書いてくれたことがうれしかったです。</li> <li>・お父さん、お母さんの一言が一番心に残りました。今まで知らなかったことが書かれているので、びっくりでした。写真についてもくわしく書いてくれて、とてもよく分かりました。この11年史は一生大事にしておきます。</li> </ul>
まとめ	6 振り返りカードに記入する。

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

子どもたちは、「11年史」づくりをとおして、両親の思いを知り、家族と共に生きていくことの喜びを感じたようである。その思いを、次の「卵殻を育てる」活動に生かし、11年間の成長に対する感謝の気持ちへとつなげていきたい。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○家族とともに生きる喜びを感じることができたか。	
感性を育む	○自分の命が両親の願いの結晶であり、その命を大切に生きていくことの素晴らしさについて考えよう。	
想像力の育成	○自分の誕生や成長を楽しみにしている両親の気持ちを考え、これからどんなふう生きていくか考えよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

(2) 1次第7時～課外

ア 本時のねらい

卵殻を大切に慈しみ育てることをとおして、親の立場に立って、命を守り育てることの喜びや苦勞を感じ取る。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

卵殻に、名前を付けたり顔を描いたりして育てることをとおして、命のいとおしさを実感させる。

(イ) 感性を育む

命を守り育てることの喜びや苦勞を感じ取らせる。

(ウ) 想像力の育成

親の立場に立って、子育ての喜びや素晴らしさを想像させる。

ウ 準備物 教員の製作した卵殻

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) 教員自身が卵殻を育てる体験をすることとおして、留意点を確認する。

(イ) 学級通信等を通じて、卵殻の準備や家庭での活動への協力を保護者に依頼する。

(ウ) 事前指導（準備物・活動に当たっての留意点）を確認する。

オ 展開（6時間）

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 卵殻を育てるために必要な準備物や期間等活動の進め方や留意点を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>卵殻の準備の仕方や取り扱い方を説明する。</li> <li>学校だけでなく、家庭でも活動することを伝える。</li> </ul>
展 開	2 卵殻を育てるうえでの工夫点や留意点を話し合う。 <p>(1) 簡単に割れないようにするための工夫について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>服を着せる。</li> <li>行動に気をつける。</li> <li>ベビーカーに見立てた入れ物を用意する。</li> <li>机の上などに簡単に置かない。</li> </ul> <p>(2) 簡単に割れないようにするための工夫について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>顔を描く。</li> <li>名前を付ける。</li> <li>体育の時間や委員会活動の時間に預けられる保育園を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3日間、卵殻を我が子のように大切に育てる活動であることを伝え、そのために気をつけたらよいと思われることや工夫できる点を考えさせる。</li> <li>児童の多様な発想を大切にすること。</li> <li>出てきた意見は、全員に強制するものではなく、自分の活動に取り入れたいものは取り入れていくように助言すること。</li> </ul>
	3 3日間、卵殻を育てる体験をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">卵殻を育てた感想を話し合おう</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>お母さんの気持ちがよく分かった。とてもしんどかった。最初はかんたんやと思っていたのに。お母さんありがとう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動しているときに感じたことや一番心に残ったこと、嬉しかったことなどについて話し合わせる。</li> </ul>

事例 13 『いのち生き生き』～家族や地域の人と共に学ぶ「いのちの学習」～（たつの市立香島小学校5年生）

展 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卵を持っていると外で遊びにくいし、机を送るのも大変だった。卵は割れやすいので、あまり遊べなかった。</li> <li>・家族として大事にするようにがんばった。お母さんたちはこんなに大変なんだなあと思いました。お母さんたちに感謝です。</li> <li>・「命を大切にしている」と感じたのが一番心に残った。卵は割れても修理できるけど、赤ちゃんはできないので、命を大切にしたいと思いました。</li> <li>・お母さんの大変さが分かった気がする。卵は動かないしご飯も食べないけど、ぼくは動くしご飯も食べるのでもっと大変。ありがとう、お母さん。</li> </ul>
まとめ	4 振り返りカードに記入する。

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

子どもたちは、「卵殻を育てる」活動をとおして、親の苦勞を知り、育ててもらったことに対する感謝の気持ちを持ったようである。次の「乳幼児とふれあう」活動で本当の命に接する中で、その思いが一層強くなるだろう。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○卵殻を本当の子どもだと思って育てることをとおして、命のいとおしさを実感できたか。	
感性を育む	○命を守り育てることのよろこびや大変さを感じ取ることができたか。	
想像力の育成	○自分が親になったときのことを思い、子どもを育てるよろこびや大変さを想像しよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		



(3) 2次第1時

ア 本時のねらい

生命の尊さを感じ取り、かけがえのない自他の生命を尊重しようとする態度を養うとともに、生きていることの素晴らしさに気づき、自分の生命を支えてくれている周囲の人に対する感謝の気持ちを育む。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

乳幼児とのふれあい体験をとおして、命のぬくもりを体感させる。

(イ) 感性を育む

命の誕生の不思議さやかけがえのなさを感じ取らせる。

(ウ) 想像力の育成

自分を支えてくれている周囲の人に感謝の気持ちを持ち、自分の命は、周りの命とつながっているのだということを理解させる。

ウ 準備物 胎児の超音波映像、乳幼児とのふれあいで使用する玩具

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) 乳幼児の保護者との打合せ

- ・学習の趣旨を伝え、協力を依頼する。
- ・授業開始時刻とふれあい活動の予定時間、活動の場の様子等知らせる。

(イ) 乳幼児とのふれあい活動にあたっての注意事項や準備物の確認

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 活動の進め方や留意点を聞く。	・爪を切っておくことや活動前に手をよく洗うこと等、衛生面について、十分指導する。
展 開	2 胎児の様子を見る。 ・胎児の超音波撮影による動画を見て、感じたことを発表する。 ・11年間の成長を確かめ、今まで大切に育ててもらってきた自分を感じ、11歳までの年齢のものさしを完成させる。	・母親の胎内で、すでに動き始めている新しい生命の様子を、感動を持って捉えさせる。 ・11年前に誕生してから、ここまで大きくなった自分自身に目を向けられるようにする。
	乳幼児とふれ合おう	
	3 乳幼児とのふれあいをとおして、「いのち」のぬくもりを感じ取る。 ・赤ちゃんは、あったかくて重たいんだなあと思いました。もっと軽いと思っていたのに、思ったより重くてびっくりでした。 ・ぼくは一回だけ抱っこをしました。あたたかかったです。やわらかかったです。	・乳幼児の世話をしたり一緒に遊んだりする感動体験をとおして、いのちのぬくもりを感じ取らせる。 ・幼い頃の自分を想起させ、大事にされていた思い出を振り返らせる。

展 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きげんの悪い赤ちゃんを世話するのは大変だった。お母さんは、こんなに大変なんだなあ。</li> <li>・赤ちゃんを抱っこしたことで、けっこう重かったけどぬくもりを感じました。ぼくが小さかったときも、よく泣いたり遊んだりしていたんだなと実感しました。きっとお父さんやお母さんを困らせたと思います。</li> <li>・抱いたときに、やわらかくって、ぬくくて、心がいやされたので、赤ちゃんは人の心をいやす力があるんだと思いました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卵殻を育てた体験を生かし、大切に守り育てることの大変さを想起させ、これまで育ててもらったことに対して感謝の気持ちを持たせる。</li> </ul>
ま と め	4 振り返りカードに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動しているときに感じたことや一番心に残ったこと、嬉しかったことなど記入させる。</li> </ul>

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

子どもたちは、乳幼児とふれあう中で、子育ての大変さを感じるとともに、いのちのぬくもりやいとおしさを実感したようである。その思いを今後の活動に生かし、いのちについての学習を深めていきたい。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学 習 ・ 体 験 の 目 標 ( め あ て )	自 分 の 振 り 返 り
感 動 の 体 験	○小さい子とふれ合うことをとおして、命のぬくもりを感じよう。	
感 性 を 育 む	○命の誕生の不思議さやかけがえのなさを感じ取ろう。	
想 像 力 の 育 成	○自分を支えてくれている周囲の人に感謝の気持ちを持とう。 ○自分の命は、周りの人の命とつながっているのだということについて考えてみよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

## 10 実践を終えて

### (1) 先生の振り返り

感動が入り口となり、心を生き生きと動かす体験によって「いのちの大切さ」を実感することができるという考えを持って、体験を多く取り入れた学習プログラムを作成した。

例えば、中身を抜いた卵殻を割らないように3日間育てた「卵殻を育てる体験」では、大事に守り育てることの大変さや時には自分のやりたいことを我慢しなければならないつらさ等、体験してみなければ味わうことのできない思いを感じ取らせることができたと思う。さらに、「乳幼児とのふれあい体験」では、短い時間ではあったものの、生命のぬくもりやいとおしさを実感させることができた。

また、家庭や地域と連携し、学習内容の理解や協力を得ることで、学習や体験をより豊かなものにすることができた。例えば、「私の11年史作り」では、家族で生い立ちを振り返ったり装丁作業をしたりする中で、家族の愛情を改めて感じ、喜びを実感することができたようだ。

この実践を通して、体験を多く取り入れた学習が非常に効果的であることを、改めて感じた。やはり、子どもたちに言葉だけで「命を大切にしよう」といくら説明しても、実感は伴わない。これから先、子どもたちが「命の大切さ」を心の中にしっかりと刻み込み、生活の中で実践できるように、このような体験を多く取り入れた学習を継続して行う必要がある。

### (2) 今後の課題

#### ア 授業実践上の課題

「命を大切に」を実感させる教育は、あらゆる機会をとおして行う必要がある。教科や特別活動等の指導と本学習プログラムをどう関連付けていくか、普段から意識し、教材研究をしておかなければならない。また、学習や体験後には子どもたち自身による振り返りの時間を必ず持ち、学びによる変化や成長を自分たち自身で捉えられるようにしたい。そのためには、児童の実態把握から始め、事前の準備や指導を十分に行ったうえで、事後の学習へとつなげていく必要がある。何をどのように振り返ったらよいか明確に捉えられるように、初めから終わりまで、丁寧に学習を進めていく必要がある。

#### イ 家庭・地域との連携についての課題

家庭に、学習の趣旨を理解してもらい協力を得るために、学級通信等をとおして、学習内容を頻繁に伝えたことが大変効果的であった。地域との連携という点では、文章だけでは無理で、直接会って依頼する必要がある。こうした地道な活動によって信頼関係を築くことが大変重要なことだと思う。なぜなら、「乳幼児とのふれあい体験」での協力者を募った際、一人の協力者が新たな協力者を紹介してくださり、連携がよりうまくいくようになったからである。

今後、このような体験を多く取り入れた学習を行うにあたって、家庭・地域との連携を見据えたネットワーク作りを平素より心がけておくことが求められる。

#### ウ 学校の組織運営上の課題

本校のような小規模校の場合、体験活動を行う際の教員の配置が常に課題となるので、年度当初の計画をしっかりと立てることが大切となる。すなわち、本教育プログラムを行う場合、教育課程上にどのように位置付けるか、学校全体でもっと話し合い、共通理解を図っておくことが大切である。

## 11 参考・引用文献

- ・兵庫県教育委員会『「命の大切さ」を実感させる教育への提言』 2006
- ・日野原重明『十歳のきみへー九十五歳の私からー』富山房インターナショナル 2006
- ・佐藤律子編『種まく子供たち 小児ガンを体験した七人の物語』ポプラ社 2001



**事例 4 環境学習をとおして学ぶ命の大切さ**  
**- コウノトリの成長をとおして -**  
**(豊岡市立五荘小学校第3学年)**

## 小学校事例 4

### 環境学習をとおして学ぶ命の大切さ - コウノトリの成長をとおして -

豊岡市立五荘小学校第3学年

#### 1 テーマ

環境学習をとおして学ぶ命の大切さ - コウノトリの成長をとおして -

#### 2 実践のねらい

コウノトリ放鳥の取組を調査することをとおして、自然環境保護の大切さと一羽のコウノトリが成長するには多くの命が必要であることを理解させる。また、自分の命も家族のつながりによって生まれ、多くの人たちによって支えられていることを学ぶ。

#### 3 テーマ設定の理由

##### (1) 本校の概要と児童生徒の実態

本校は、小高い丘の上であり、緑豊かな環境の中にある。この豊かな自然は、四季折々の変化に富み、山の斜面を利用したアスレチック施設「太陽の丘」は子ども達の絶好の遊び場となっている。児童数 731 人、23 学級。

校区は、市街地の北半分と新興住宅団地とその周辺に広がる田園地帯からなり、人口 11,800 人、約 4300 世帯に及ぶ。田園地帯には、休耕田を活用したビオトープがあり、コウノトリの餌場として利用されている。また校区内には、農薬を減らして安全な米作り、水田の生き物の増殖をめざす『コウノトリ育む農法』を実践する農家もある。しかし、子どもたちは、この豊かな自然の中にありながら自然の命、自然の恵みや人とのかかわりを意識することは少ない。

そこで、コウノトリ放鳥の取組を調査することにより、自然の命、自分の命の輝きに気づかせたいと考え、上記のテーマを設定し実践に取り組み始めた。

##### (2) 指導のポイント

###### 【感動の体験】

- ・校区内のビオトープや県立コウノトリの郷公園で生き物調査を行い、たくさんの命と出会わせる。
- ・高齢者とのふれあい体験活動をとおして、自分の命がたくさんの命とつながっていることを実感させる。

###### 【感性を育む】

- ・ビオトープやコウノトリの郷公園の生き物との出会いをとおして、命の多様さに気づかせる。
- ・生き物と人との関わりに気づき、自分の命がたくさんの命とつながっていることを知る。

###### 【想像力の育成】

- ・コウノトリの生活の調査をとおして、よりよい環境とは何か考えさせる。
- ・コウノトリの命を輝かせるためにどれほど多くの人々が努力しているかを知り、かけがえのない命を輝かせるために、自分を支えてくれている人々の存在やつながりを考えさせる。

#### 4 事前

##### (1) 先生の準備

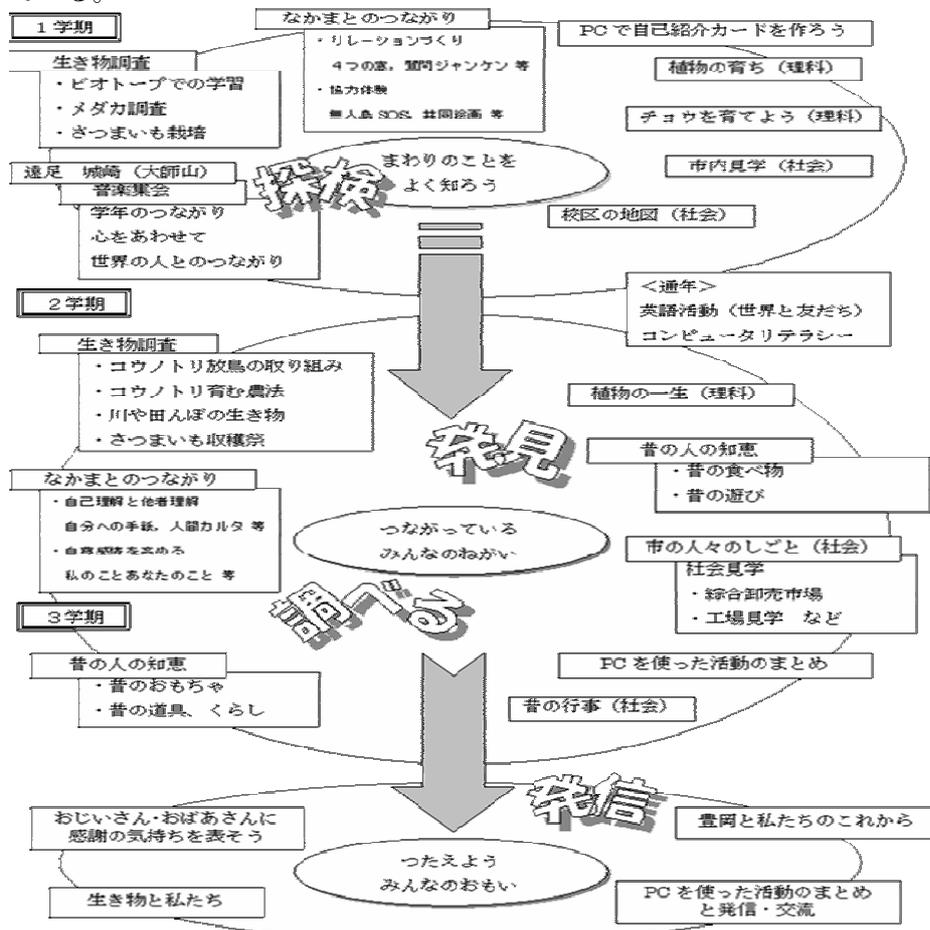
- ・校区内のビオトープについて地域の方から話を聞く。
- ・『コウノトリ育む農法』の実践農家の方から話を聞く。
- ・県立コウノトリの郷公園を訪問し、関係者の話を聞き、子ども達の見学・体験活動の方法について話し合う。
- ・子どもの家庭環境を把握し、個々の子どもへの配慮事項を考える。
- ・子どもの聞き取り内容を検討する。
- ・効果的な情報発信について研修する。

事例4 環境学習をととして学ぶ命の大切さ - コウノトリの成長をととして - (豊岡市立五荘小学校第3学年)

- (2) 教育課程上の位置づけ
- ・総合的な学習の時間 (単元構想図は下図参照)
- (3) 子どもたちの準備
- ・校区探検、市内めぐりをして校区の様子や市内の特色に気づく。
  - ・昆虫の飼育、植物の栽培 (理科の学習) を体験させ、命の存在に気づく。
  - ・発砲スチロール箱で稲を育て、水田に住む生き物に興味を持つ。
- (4) 家庭・地域との連携
- ・校区内のビオトープの生き物調査についての協力を依頼する。
  - ・『コウノトリ育む農法』について子どもたちに説明して下さるゲストティーチャーに協力を要請する。
  - ・児童の家庭環境を知り、配慮事項を理解するための協力依頼をする。
  - ・命の学習についてのお知らせとインタビューへの協力依頼をする。
  - ・昔の暮らしを知るため、高齢者へのインタビューを依頼する。

5 本校の実践の特色

- ・校区内にあるコウノトリの餌場でもあるビオトープに出かけて、環境学習についての実践を深めたり、『コウノトリ育む農法』の実践農家をゲストティーチャーに招いて話を聞いたりと取り組みを進めている。
- ・市内には県立コウノトリの郷公園があり、放鳥にむけての取組を学んだり、体験活動をしたりして、コウノトリとの共生をめざしたこうした取組を子どもたちも身近に感じている。
- ・地域の方とともに、子どもたちは環境問題や種の保存といった命にかかわることへの理解を深めている。

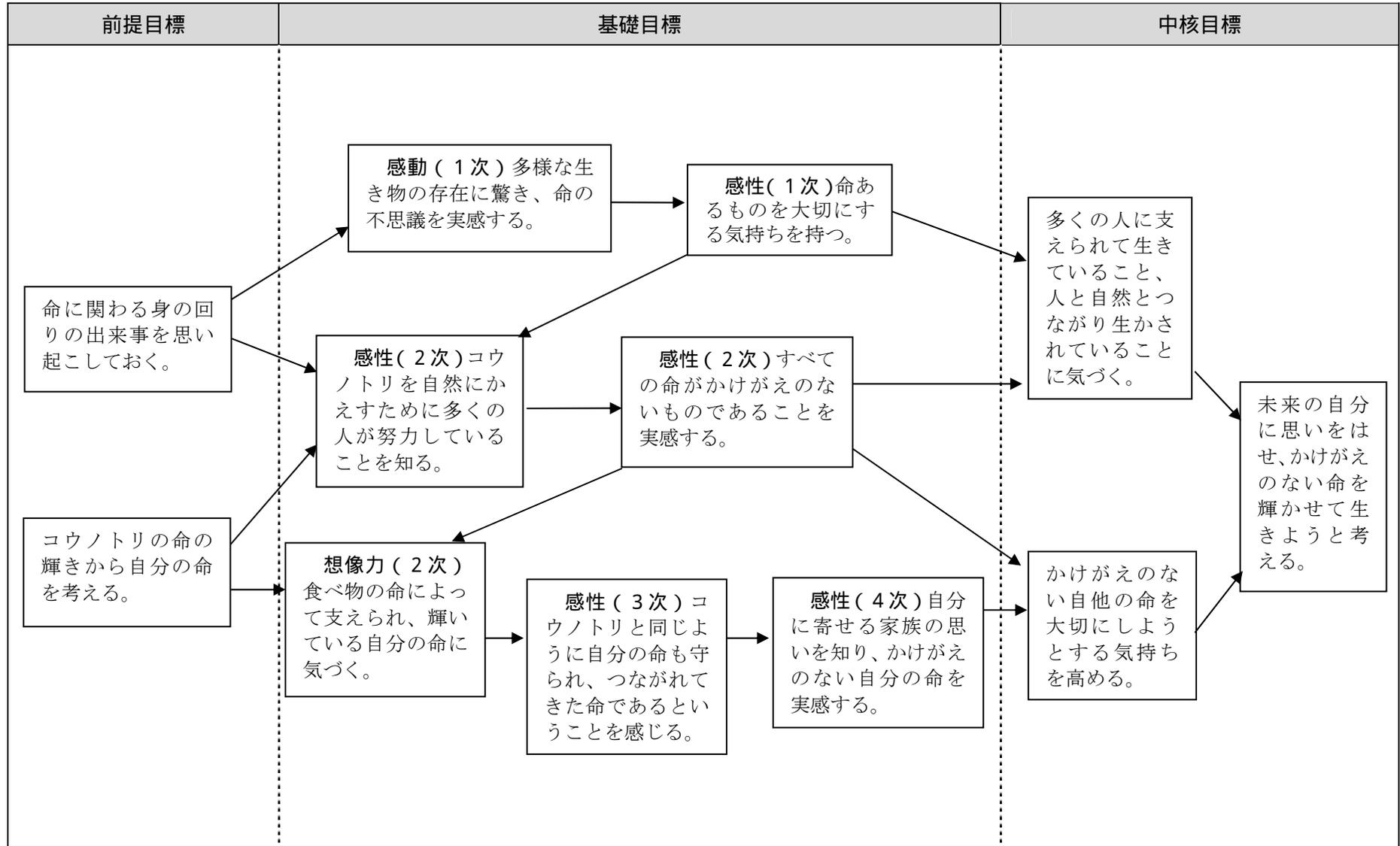


事例4 環境学習をとおして学ぶ命の大切さ - コウノトリの成長をとおして - (豊岡市立五荘小学校第3学年)

6 目標分析表

学習活動		感動の体験	感性を育む	想像力の育成	先生の振り返り
事前	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自尊感情についてのアンケートに記入する。</li> <li>○自尊感情を高める体験をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自他の命の存在に気づく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○命に関わる身の回りの出来事を思い起こしておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コウノトリの命の輝きから自分の命を考える。</li> </ul>	
1次 (6時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ビオトープの生き物観察をする。</li> <li>○生き物カード・生き物マップを作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多様な生き物の存在に驚き、命の不思議を実感する。</li> <li>○昆虫や水中生物の体の仕組みを学習しながら命ある存在に気づく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コウノトリを自然にかえすために多くの人が努力していることを知る。</li> <li>○命あるものを大切にす気持ちを持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コウノトリの餌場が足りないことに気づく。</li> <li>○小さな仲間(飼育生物・栽培植物)の死にふれ、悲しみを知り、自分の命もかけがえのない存在であることを感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ビオトープでの活動に進んで取り組み、生き物と触れ合うことを十分楽しむことができたか。</li> <li>○身の回りには多様な生き物が存在していることに気づかせることができたか。</li> </ul>
2次 (5時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○VTR「NHKスペシャルコウノトリがよみがえる里」をみる。</li> <li>○『コウノトリ育む農法』実践家の話を聞く。</li> <li>○ゲストティーチャーに手紙を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○『コウノトリ育む農法』に取り組む苦労や喜び、コウノトリやお米に対する思いに気づく。</li> <li>○みんなの命を守る取り組みの素晴らしさや大変さを感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コウノトリを自然にかえすために多くの人が努力していることを知る。</li> <li>○すべての命がかけがえのないものであることを実感する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○お米作りから身近な食べ物の命の存在に改めて気づく。</li> <li>○食べ物の命によって支えられ、輝いている自分の命に気づく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○たくさんの命に支えられていることを理解させることができたか。</li> <li>○ゲストティーチャーへの思いを自分の言葉で素直に表現し、伝えることができたか。</li> </ul>
3次 (10時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○県立コウノトリの郷公園で放鳥までの取り組みを学習し、生き物観察をする。</li> <li>○生き物探検隊の活動をまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コウノトリを目の当たりにし、その大きさや動く様子に感動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「くちばしのおれたコウノトリ」「コウノトリのふるさと」等の読み聞かせを通して、命を守り、つなぐための大変さを感じる。</li> <li>○コウノトリの命と同じように自分の命も守られ、つながれてきた命であるということを感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○魚道や人口巣塔などから命をつなぐ工夫を知る。</li> <li>○コウノトリ放鳥後の課題を知り、コウノトリの命を自然の中で輝かすためにはどうすればよいのかを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○命は一人だけのものではなくつながり受け継がれていくものであることを実感させることができたか。</li> <li>○自分の思いや願いをわかりやすく伝えたり、相手の立場に立って思いを受け止めたりすることができたか。</li> </ul>
4次 (26時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○おじいちゃん・おばあちゃんにインタビューをし、昔のくらしの様子や人々の思いを知る。</li> <li>○昔のくらしを劇化し、昔の人々の知恵や願いに気づく。</li> <li>○家族宛てに手紙を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○昔の人々の豊かな知恵と温かい心に気づく。</li> <li>○これまでの自分が支えられ、愛されてきたことに気づく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家族からの手紙を読み、誕生時から現在までの自分に寄せる家族の思いを知り、かけがえのない自分の命を実感する。</li> <li>○かけがえのない命を大切にしようとする気持ちを高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多くの人に支えられて生きていること、人や自然とつながり生かされていることに気づく。</li> <li>○高齢者とのふれあい体験活動を通して、未来の自分に思いをはせ、かけがえのない命を輝かせて生きようと思える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高齢者の持つ豊かさに気づかせたり、命には限りがあることを感じさせたりすることができたか。</li> <li>○自他の命のかけがえのなさを実感させ、大切にしようとする気持ちを高めることができたか。</li> </ul>

7 目標構造図



(凡例) ①感性(1次): 「①」は指導の順序、「感性」は指導の観点が「感性を育む」、「(1次)」は学習活動が「1次」であることを示す。

## 8 事前の教員研修と指導の概要

### (1) 事前の教員研修

研修内容	
a	○「仲間とのつながり」について構成的グループ・エンカウンターを体験する。 ・リレーションづくり・協力体験・自己理解と他者理解・自尊感情を高める体験等 ＜提言 P64：教員研修テーマ①＞ ○スクールカウンセラーよりリラクゼーションの指導を受ける。
b	○ビオトープについて地域の方から話を聞く。 ・休耕田をコウノトリの餌場としてビオトープにしている農家の方の思いや願いを知る。
c	○『コウノトリ育む農法』について農家の方に話を聞く。 ・『コウノトリ育む農法』に取り組んでいる農家の方に、この農法に切りかえた思い、苦労や喜び、これからの農業に対する希望を聞く。
d	○県立コウノトリの郷公園を訪問する。 ・県立コウノトリの郷公園でコウノトリの飼育、増殖にかかわる方の苦労や喜び、願いを聞く。 ・コウノトリの飼育場、施設内を流れる川、ビオトープ、池などを見学する。 ・関係者の話を聞き、子どもたちの見学・体験の方法について話し合う。
e	○子どもへの配慮事項や子どもが行う保護者への聞き取り内容について話し合う。 ・子どもの家庭環境を把握し、個々の子どもへの配慮を考える。 ・子どもの聞き取り内容について話し合う。
f	○効果的な情報発信について研修する。 ・相手の立場に立って、わかりやすく伝える情報発信の仕方について研修する。 情報モラルについて模擬体験をとおして考える。＜提言 P82：教員研修テーマ④＞

### (2) 指導の概要 (全 50 時間)

内容	
事前	○自尊感情を高める体験をする。 ○『こころのえほん』の読み聞かせをとおして、自分の心の存在に気づく。 教員研修 a
1次 (6時間)	○コウノトリの餌場としてのビオトープの調査をする。 1 ビオトープの生き物観察をする。 (3時間) ・多様な生き物の存在に驚き、命の不思議を実感する。 ・コウノトリの餌場が足りないことを知る。 教員研修 b 2 生き物カード・生き物マップをつくる。 (3時間) ・昆虫や水中生物の体の仕組みを学習しながら命ある存在に気づく。 3 生き物調査の結果をまとめ、コウノトリの餌が足りないことを再確認する。 4 ビオトープで見かけた身近な昆虫、水中生物 (メダカ・ドジョウ・オタマジャクシ・ミズスマシ・カワニナ等) を飼育、観察する。 5 教室のベランダに発泡スチロール箱で水田を作り、水中生物や稲を育てる。 ・小さな仲間 (飼育生物・栽培植物) の死にふれ、悲しみを知り、自分の命もかけがえのない存在であることを感じる。 ・命あるものを大切に持つ気持ちを持つ。

<p>2次 (5時間)</p>	<p style="text-align: right;">教員研修 c</p> <p>○『コウノトリ育む農法』の聞き取り調査をする。 (2時間)</p> <p>1 VTR「NHKスペシャル コウノトリがよみがえる里」を観る。          ・ビオトープの生き物とコウノトリとのつながりを知り、人と自然とのつながりに気づく。</p> <p>2 『コウノトリ育む農法』実践農家の話を聞く。 (2時間)</p> <p>・VTRに出演された農家の方をゲストティーチャーに招き話を聞く。          ・育む農法に取り組む苦労や喜び、コウノトリやお米に対する思いを知る。          ・お米作りから身近な食べ物の命の存在に改めて気づく。          ・食べ物の命によって支えられ、輝いている自分の命に気づく。</p> <p>3 ゲストティーチャーに手紙を書く。 (1時間)</p> <p>・驚きや感動を素直に表現し、感謝の気持ちを伝える。          ・相手にわかりやすい表現で、気持ちを込めて書く。</p>
<p>3次 (10時間)</p>	<p style="text-align: right;">教員研修 d</p> <p>○県立コウノトリの郷公園でのコウノトリの観察と餌場での生き物調査を行う。 (3時間)</p> <p>1 県立コウノトリの郷公園で放鳥までの取組を学習し、生き物観察をする。          ・コウノトリの大きさや動き(飛ぶ様子、餌を食べる様子、クラッタリング等)を目の当たりにして感動する。</p> <p>2 コウノトリの郷公園内のビオトープ、池を観察し、川で生き物調査をする。          ・魚道や人口巣塔などから命をつなぐ工夫を知る。          ・コウノトリの一日の食事量(体重の10%)を知り、餌場不足を再確認する。</p> <p>3 「くちばしのおれたコウノトリ」「コウノトリのふるさと」等の読み聞かせをとおして命を守り、つなぐための大変さを感じる。          ・コウノトリ放鳥後の課題を知り、コウノトリの命を自然の中で輝かすためにはどうすればよいのか考える。</p> <p>○生き物探検隊の活動をまとめる。 (7時間)</p> <p>1 新聞づくりを通して、生き物と触れ合った体験、命への気づきや思いをまとめる。          ・友だちの新聞を読み合い情報を交流しながら、友だちの思いや願いに気づく。</p> <p>2 自分の思いや考えをわかりやすく伝えたり、相手の立場に立って思いを受け止めたりすることを考える。</p> <p>3 学年通信、学校のホームページ等で家庭にも学習活動を発信する。</p>

<p>4次 ( 26時間 )</p>	<p style="text-align: right;">教員研修 e、f</p> <p>○わたしたちの命のつながりを考える。 (24時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 おじいちゃん・おばあちゃんにインタビューをし、自分の命のつながりを考える。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・コウノトリが飛んでいた頃の話から昔の様子を尋ねる。</li> </ul> </li> <li>2 昔の遊び、食べ物など生活の様子を知る。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・昔の道具やくらしぶりなどから昔の人の知恵を知る。</li> </ul> </li> <li>3 『いのちのまつり』の読み聞かせをとおして命のつながりの不思議を感じる。</li> <li>4 高齢者とのふれあい体験活動(栽培したサツマイモの収穫祭、昔の生活を体験、昔の生活を劇化)を通して未来の自分を考える。</li> </ol> <p>○悲しみの体験から生と死を考え、命のかけがえのなさとつながりを実感する。 (2時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 『わすれられない おくりもの』の読み聞かせをとおして、高齢者の持つ豊かさに気づいたり、命には限りがあることを感じたりする。</li> <li>2 道徳「大切なものは なんですか」の学習を通して、命はかけがえのないものであることを知り、命を大切にしようとする心情を養う。</li> <li>3 特別活動「わたしのかぞく」の学習を通して、家族のつながりや支え合いを理解する。</li> <li>4 家族からの手紙を読み、誕生時から現在までの自分に寄せる家族の思いを知り、かけがえのない自分の命を実感する。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの人に支えられて生きていること、人や自然とつながり生かされていることに気づく。</li> </ul> </li> <li>5 家族に手紙を書く。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族への思いを自分の言葉で素直に伝える。</li> </ul> </li> </ol>
<p>事後</p>	<p>○振り返りカードに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族のつながりによって自分の命が生まれ、多くの人々の支えによって輝いていることに気づく。</li> </ul>

9 指導実践

(1) 1次第1～3時

ア 本時のねらい

ビオトープの生き物観察をとおして、生き物とふれあい、身の回りには多様な生き物が存在していることに気づく。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

- ・多様な生き物の存在に驚き、命の不思議を実感させる。
- ・昆虫や水中生物の体の仕組みを学習しながら命ある存在に気づかせる。

(イ) 感性を育む

- ・コウノトリを野生にかえすために多くの人が努力していることを実感させる。
- ・命あるものを大切にす気持ちを持たせる。

(ウ) 想像力の育成

- ・コウノトリの餌場が足りないことに気づく。
- ・小さな仲間の命にふれ、自分の命もかけがえのない存在であることに気づく。

ウ 準備物 なし

エ 先生の準備 (事前の打ち合わせと教員研修)

(ア) ビオトープ実践農家の方との打合せ

- ・ビオトープの役割、どうしてビオトープを作ろうと考えたか、ビオトープの生き物調査の実態について等

(イ) ビオトープを訪ね、観察の仕方、体験学習の仕方について計画を立てる。

- ・川・水田・水路の安全性の確認、汚れを落とすための水道の確保等

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	<p>1 <b>ビオトープ実践農家の方の話を聞く。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビオは命、トープは広場の意味を持つ。</li> <li>・大学の調査隊が定期的に個体調査を実施している。</li> <li>・郷公園内のコウノトリが全て自然放鳥されるにはたくさんのビオトープが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農家の方の思いを感じながら話を聞かせる。</li> <li>・生き物観察の方法を知らせる。</li> <li>・安全に楽しく活動できるように注意する。</li> </ul>
展 開	<p>2 <b>ビオトープの生き物を見つける。</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <b>生き物調査隊 ビオトープを探検しよう！</b> </div> <p>3 <b>見つけた生き物を見せ合いながら体の仕組みを観察し、仲間分けをする。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な生き物がいることに驚いた。</li> <li>・コウノトリが何を食べるのかを知りたい。</li> </ul> <p>4 <b>どれくらいの生き物がコウノトリの命を支えているのか考える。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水田の感触を味わわせる。</li> <li>・多様な生き物がいることに気づかせ、身の回りにはたくさんの命が存在することを感させる。</li> <li>・コウノトリの食べ物に興味を持たせ、調べてみようとする意欲を高める。</li> <li>・県立コウノトリの郷公園での活動に発展させる。</li> </ul>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	

まとめ	<p>5 次時の活動を聞き、改めてビオトープに生きる命の多様さを感じる。</p>	<p>・次時は今日出会った生き物をカードにし、さらに生き物マップへと発展させることを知らせる。</p>
-----	--	---

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) 導入の話の中で、ビオトープは「命の広場」だということが分り、この命がコウノトリの命を支えていることに気づいた。
- (イ) 生き物の多様さに驚き、初めて見る生き物に感動し、もっと調べてみたいという意欲が高まった。
- (ウ) コウノトリへの興味・関心の高まりをさらに次の活動へとつなげたい。



ビオトープを探検する子どもたち



生き物カード・生き物マップ

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ビオトープの生き物観察は、楽しかったですか。</li> <li>○ビオトープにすむ生き物を見つけてどう思いましたか。</li> </ul>	
感性を育む	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コウノトリを自然にかえすために地域の人はどんなことをしていたでしょう。</li> </ul>	
想像力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○どうすればコウノトリが自然の中でくらししていけるのでしょうか。</li> </ul>	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

事例4 環境学習をとおして学ぶ命の大切さ - コウノトリの成長をとおして - (豊岡市立五荘小学校第3学年)

(2) 2次第3・4時

ア 本時のねらい

『コウノトリ育む農法』実践農家の話を聞き、コウノトリの命がたくさん生き物の命と人々の努力に支えられて輝いていることに気づく。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

- ・『コウノトリ育む農法』に取り組む苦労や喜び、コウノトリやお米に対する思いに気づかせる。
- ・みんなの命を守る取り組みの素晴らしさや大変さを感じさせる。

(イ) 感性を育む

すべての命がかけがえのないものであることを実感させる。

(ウ) 想像力の育成

- ・お米作りから身近な食べ物の命の存在に気づかせる。
- ・食べ物の命によって支えられ、輝いている自分の命に気づかせる。

ウ 準備物 なし

エ 先生の準備 (事前の打ち合わせと教員研修)

(ア) ビデオ「NHKスペシャル コウノトリがよみがえる里」(2006年8月27日放映)を鑑賞し、『コウノトリ育む農法』について理解する。

(イ) 『コウノトリ育む農法』の実践農家をゲストティーチャーに迎えるための打合せをする。

- ・ゲストティーチャーに学ぶ会を子どもたちが運営できるようにする。

(ウ) ゲストティーチャーとの打合せ

- ・『コウノトリ育む農法』に切り替えたのはなぜか。
- ・この農法で米作りをする苦労や喜びについて、子どもたちに期待すること 等

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	<p>1 ゲストティーチャーの紹介を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・VTRに出てきた人だ。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校区に住む方であることを知らせ、身近な所で『コウノトリ育む農法』は実践されていることに気づかせる。</li> </ul>
展 開	<p>2 ゲストティーチャーの『コウノトリ育む農法』についての話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組の苦労や喜びなどゲストティーチャーの気持ちを考えながら聞かせる。</li> <li>・疑問に思ったこと、伝えたいことを素直に表現できるように支援する。</li> </ul>

事例4 環境学習をとおして学ぶ命の大切さ - コウノトリの成長をとおして - (豊岡市立五荘小学校第3学年)

展 開	3 ゲストティーチャーに質問をする。	・質問をとおし、コウノトリ育む農法についての理解を深め、実践農家の思いを感じさせる。
	4 ゲストティーチャーへ感想やお礼の言葉を伝える。	
ま と め	5 ゲストティーチャーの話を聞いた感想を話し合う。	・自分の生活を振り返らせ、ゲストティーチャーの思いを感じさせる。

カ 先生の振り返り (次の実践に向けて)

- (ア) ゲストティーチャーの話に子どもたちは興味深く聞き入っていた。
- (イ) 子どもたちは、コウノトリの命がたくさんの命と人々の努力によって支えられていることを知ることができた。
- (ウ) 自分の命が他の命という食べ物によって支えられていることに気づき、改めて自分の生活を見直したようである。
- (エ) 子どもたちが驚いたことやわかったこと、命について考えたことをゲストティーチャーへ手紙にして伝えたい。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標 (めあて)	自分の振り返り
感動の体験	○森田さんはどんな思いで『コウノトリ育む農法』に取り組んでおられるのでしょうか。	
感性を育む	○あなたの周りに存在する命について気づいたこと、感じたことはありませんか。	
想像力の育成	○あなたの生活をふりかえって気づいたことはありませんか。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

事例4 環境学習をとおして学ぶ命の大切さ - コウノトリの成長をとおして - (豊岡市立五荘小学校第3学年)

(3) 3次第2・3・4時

ア 本時のねらい

コウノトリの命はたくさんの生き物の命と人々の努力によって支えられ、つながり、輝いていることを実感する。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

コウノトリを目の当たりにし、その大きさや動きに感動する。(飛ぶ様子、餌を食べる様子、クラッタリング等)

(イ) 感性を育む

命を守り、つないでいくための大変さを感じる。

(ウ) 想像力の育成

コウノトリ放鳥後の課題を知り、コウノトリの命を自然の中で輝かすためにはどうすればよいかを考える。

ウ 準備物 なし

エ 先生の準備 (事前の打ち合わせと教員研修)

(ア) 県立コウノトリの郷公園の関係者との打合せ

- ・活動場所の確認について
- ・コウノトリ放鳥までの取組について
- ・放鳥後の課題について
- ・川での生き物観察の仕方について

(イ) 体調等について配慮する子どもの確認をする。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 コウノトリの郷公園の指導者とあいさつをする。 (児童代表)	・活動のめあてなど児童の思いを伝えさせる。
展 開	2 コウノトリ放鳥までの取組について関係者から話を聞く。	・長い年月をかけ、試行錯誤を繰り返した取組の大変さを感じさせる。
	3 疑問に思ったこと、さらに深く知りたいことなどを尋ねる。	・これまでの学習の中で見つけた課題についても尋ねさせる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     生き物探検隊 川の生き物を観察しよう！                 </div>	
	4 川の生き物を観察する。 	・ビオトープと比べながら活動に取り組みさせる。

事例4 環境学習をとおして学ぶ命の大切さ - コウノトリの成長をとおして - (豊岡市立五荘小学校第3学年)

展 開	<p>5 見つけた生き物について説明を聞く。</p> <p>6 コウノトリの餌について話を聞く。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフの話聞きながら、魚道などの工夫に気づかせる。</li> <li>・コウノトリの1日の食事量を知らせ、餌場不足に気づかせる。</li> </ul>
ま と め	<p>7 お礼の言葉とコウノトリと出会って感じたことを伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感動を自分の素直な言葉で伝えさせる。</li> </ul>

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) コウノトリを間近に見て、その大きさや動きにたびたび感動の声があがった。
- (イ) コウノトリの命を守り、つないできた人々の努力に驚いた様子だった。さらに自然復帰をめざして今も多くの人々が努力していることを知った。
- (ウ) 自分の生活を振り返り、コウノトリとの共生について考えることをとおして、自分の命について考える取組につなげたい。



大空を舞うコウノトリ

事例4 環境学習をとおして学ぶ命の大切さ - コウノトリの成長をとおして - (豊岡市立五荘小学校第3学年)

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標 (めあて)	自分の振り返り
感動の体験	○コウノトリに出会ってどう思いましたか。	
感性を育む	○コウノトリの命と同じようにあなたの命について考えてみましょう。(あなたの命が危険にさらされたことはないでしょうか。)	
想像力の育成	○コウノトリの命を守り、つないでいくためにどんなことをしていましたか。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

(4) 4次第 18時

ア 本時のねらい

劇をとおして、昔のくらしの知恵や工夫、人とのつながりについて考える。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

- ・昔の人々の豊かな知恵と温かい心に気づく。
- ・これまでの自分が支えられ、愛されてきたことに気づく。

(イ) 感性を育む

お金や物が豊富でなくても、手間をかけ、助け合い、心を通わせあってくらしていたことに気づく。

(ウ) 想像力の育成

今も昔も変わらないものについて考える。

ウ 準備物 昔のくらしで使っていた道具類・参考になる写真等

エ 先生の準備 (事前の打ち合わせと教員研修)

(ア) 昔のくらしについて家族にインタビューする内容を検討する。

- ・昔の暮らしの様子：おやつ・遊び・服装・道具・学校・行事等

(イ) インタビューの依頼文を作成し、配布する。

(ウ) インタビューシートを作成する。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 本時のめあてを知る。	
展 開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;">                     劇の中から昔のくらしの知恵や工夫、人とのつながりを見つけよう！                 </div> 2 代わる代わる劇をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・クイズを出題する。</li> <li>・劇をする。</li> <li>・劇やクイズから見つけたことを発表する。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手にわかりやすい声で伝え、互いに協力できるよう支援する。</li> <li>・自分の役割を果たそうとする意欲を高め、やりとげた満足感を味わわせる。</li> </ul>

	<p>3 昔のくらしの様子を聞いたり、生活体験をして、そのよさについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昔の人の知恵や工夫</li> <li>・人とのつながり</li> <li>・学校生活</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お金や物が少なくても、手間をかけ、助け合い、心を通わせあってくらしていたことに気づかせる。</li> </ul>
<p>まとめ</p>	<p>4 今日の学習を振り返り、学習のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時は、自分達のくらしについて振り返ることを知らせる。</li> </ul>

カ 先生の振り返り (次の実践に向けて)

- (ア) 友だちの演じる劇に興味深く見入るとともに、自分なりに演技を工夫し、相手によりわかりやすく伝えようとする姿勢が見られた。
- (イ) 物の少なかった昔の生活にふれ、改めて自分の生活を見直したようである。
- (ウ) 驚いたことやわかったことをまとめる中で、昔の人々のくらしを体験してみたいという意欲が高まった。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標 (めあて)	自分の振り返り
感動の体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>○昔のくらしを演じてみてどんなことを感じましたか。</li> <li>○昔のくらしの劇を見てどんなことを感じましたか。</li> </ul>	
感性を育む	<ul style="list-style-type: none"> <li>○手間をかけ、助け合い、心を通わせていた昔の人と人とのつながりを感じることができましたか。</li> </ul>	
想像力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の今の生活も、多くの人たちの協力と支えが必要であることについて考えよう。</li> </ul>	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

事例4 環境学習をとおして学ぶ命の大切さ - コウノトリの成長をとおして - (豊岡市立五荘小学校第3学年)

(5) 4次第 21・22・23・24時

ア 本時のねらい

高齢者とのふれあい体験活動をとおして、昔の人々の豊かな知恵と温かい心に気づき、未来の自分を考える。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

- ・昔の人々の豊かな知恵と温かい心に気づく。
- ・これまでの自分が支えられ、愛されてきたことに気づく。

(イ) 感性を育む

- ・今に伝わる昔の人々の知恵を生活の中にいかし、さらに未来へと発展させていこうとする。

(ウ) 想像力の育成

- ・ふれあい体験活動をとおして、昔の生活を想像する。
- ・未来の自分に思いをはせ、かけがえのない命を輝かせて生きようとする。

ウ 準備物 昔のくらしで使っていた道具類・参考になる写真等

エ 先生の準備 (事前の打ち合わせと教員研修)

(ア) 高齢者とのふれあい体験活動についての打合せ

- ・体験の内容、家庭への道具の借用依頼、ゲストティーチャーへの依頼内容等

(イ) ゲストティーチャーとの打合せ

- ・体験や講演の内容について、本時のねらいを説明し協力依頼をする。

(ウ) ゲストティーチャーに学ぶ会を子どもたちの手で進められるように支援する。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 「昔のくらしを学ぶ会」の用意をする。	・会の進行、プログラム作り、各コーナーの案内カード作り等、役割分担して準備を進めながら活動への意欲を高めさせる。
展 開	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">「昔のくらしを学ぶ会」を開こう！</p> <p>2 はじめの会を行う。</p> <p>3 昔のくらしの様子を聞いたり、生活体験をしたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昔のくらしのお話コーナー</li> <li>・昔の道具コーナー</li> <li>・洗濯体験コーナー</li> <li>・おやつ(かきもち焼き)コーナー</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>4 ゲストティーチャーにお礼と感想を述べる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの力で進められるよう支援する。</li> <li>・昔の生活の苦労や喜びなどゲストティーチャーの気持ちを考えながら聞かせる。</li> <li>・尋ねたいこと、伝えたいことを素直に表現できるように支援する。</li> </ul> <p>・お礼の気持ちをこめた温かい会になるよう支援する。</p>

事例4 環境学習をととして学ぶ命の大切さ - コウノトリの成長をととして - (豊岡市立五荘小学校第3学年)

ま と め	5 ゲストティーチャーの話を聞いたり、洗濯やかきもち焼き体験をしたりした感想を話し合う。	・自分の生活を振り返らせ、昔のくらしと比べて気づいたことをまとめさせる。
-------------	--	--------------------------------------

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) ゲストティチャーの話に興味深く聞き入っていた。
- (イ) 昔の道具に触ったり、動かしたりして工夫や知恵に驚いた様子だった。
- (ウ) 物を大切にしたり昔の生活にふれ、改めて自分の生活を見直したようである。
- (エ) 驚いたことやわかったこと、昔の人々の人や物の命を大切に温かい心について考えたことを手紙にして伝えた。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○昔のくらしを体験してみて、どんなことを感じましたか。	
感性を育む	○昔の人の生活の知恵を感じ、未来へと発展させることができましたか。	
想像力の育成	○未来の自分に思いをはせ、かけがえのない命を輝かせて生きることについて考えよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

## 10 実践を終えて

### (1) 先生の振り返り

実践を終えて、以下のような子どもたちの変容を実感できた。

- ・体験活動をとおして多様な命の存在に気づいた。
- ・自分たちの命ばかりでなく自然の命や物の命までも大切にしていこうとする気持ちが高まった。
- ・活動をとおして、自分の中にあった力に気づいたり、友だちの持つ力を見つけたりすることができた。(自尊感情の高まり)
- ・自然に支えられ、人とかかわりの中で命は生まれ、つながれていることに気づいた。
- ・友だちを大切にできる心が生まれ、子ども同士の温かい雰囲気作り、仲間づくりが進んだ。また、この取組をとおして、指導者としても次のような変容を感じている。
- ・子ども達と感動体験を共有する中で指導者の意識が高まり、指導者の「自分の思いを子ども達に語る会」実施へと発展した。
- ・学年の取り組みを学校全体への取組へと発展させ、「命の大切さを実感し、生き方を考える性教育」として系統的な指導に取り組みもうとする意識が高まった。

### (2) 今後の課題

学校全体で取り組む性教育や防災安全教育、人権教育等において、学校全体の教育活動の中で「命の大切さ」を実感させる教育を意識化していかなければならない。と同時に、命の学習には家庭や地域とのより一層密な連携が欠かせない。親子学習会や三世代座談会等を実施し、お互いの思いや願いを交流する機会を持つことをとおして、感動体験を家庭や地域と共有することが必要であろう。

また、子どもの意識の高まりを日常生活の中でも生かすため、学級通信やホームページをとおして家庭や地域に、活動の様子を発信し啓発していき、活動を支える体制を整えていくことが課題である。

## 11 参考・引用文献

- ・兵庫県教育委員会『「命の大切さ」を実感させる教育への提言』2006
- ・川久保美紀『いのちのリレー』ポプラ社 2005
- ・國分康孝『エンカウンターで総合が変わる 小学校編』図書文化 2000
- ・近藤卓『学校メンタルヘルス vol 9 巻頭言』日本学校メンタルヘルス学会 2007
- ・近藤卓『「いのち」の大切さがわかる子に』PHP 2005
- ・草場一壽『いのちのまつり』サンマーク出版 2004
- ・なかえよしを『こころのえほん』ポプラ社 1999
- ・司馬遼太郎『21世紀に生きる君たちへ』朝日出版社 1999
- ・スーザン・バーレイ『わすれられないおくりもの』評論社 2006
- ・八巻寛治・吉澤克彦『エンカウンター実践テキスト2号』明治図書 2005

**事例 5 成長の実感**  
**(香美町立小代小学校第4学年)**

## 小学校事例5

## 成長の実感

香美町立小代小学校第4学年

## 1 テーマ

成長の実感

## 2 実践のねらい

赤ちゃんを見守る母親の姿をとおして、かけがえのない命を感じるとともに、自分の成長と照らし合わせ成長を実感し、自分を支えてくれた周囲への感謝の気持ちを持つ。

## 3 テーマ設定の理由

## (1) 本校の概要と児童生徒の実態

山間部の小さな学校なので、地域との交流は深く、協力体制も取れている。年間行事の中に地元の保育所や特別養護老人ホームとの交流も位置づけられ、世代を超えた学習の機会が多い。ただ、過疎化、高齢化、少子化の波は確実に押し寄せており、学年の人数構成に偏りが出ている。また、地区によっては、子どもの数が極端に少なく、子どもの遊びなどに弊害が起きている。また、実態を調査すると、赤ちゃんにふれる体験や、簡単な育児体験をしたことのある児童は1割にも満たない。そこで、命のリレーを引き継ぎ、未来を担う子どもの育成のために、本プログラムを実践した。

## (2) 指導のポイント

## 【感動の体験】

- ・妊婦のおなかに触れて胎児を感じたり、胎内のエコー写真などを見ながら妊婦の話を聞くことをとおして、命の誕生や生命の営みの不思議さを感じさせる。
- ・乳幼児を抱っこしたり、おしめ交換、沐浴体験したりすることをとおして、小さな命をいとおしく思う気持ちを持たせる。
- ・乳児と継続的に関わり、成長する姿を感じ取らせる。
- ・自分たちの入学時のビデオを見て、4年間の自分たちの成長を感じ取らせる。

## 【感性を育む】

- ・エコー写真で見ていた胎児が誕生し、新生児という新たな「命」としてふれることにより、命の重みを感じ取らせる。
- ・命のリレーが行われて私たちが存在していることに気づかせる。
- ・これまでの自分の成長を支えてくれた周りの人への感謝の気持ちを持たせる。

## 【想像力の育成】

- ・赤ちゃんとのふれあいから母親の気持ちを押し量らせる。
- ・相手のよさを認め、相手の立場に立つことのできる思いやりの心を育てる。

## 4 事前

## (1) 先生の準備

- ・授業の中だけでなくすべての教育活動の中で、命を大切にしていこうとする視点や姿勢を持つ。
- ・教員自身の人生の振り返りを行い、命に対する深い感覚を子どもたちに伝えられるようする。
- ・児童の家庭環境等の状況把握をする。
- ・家庭や地域へ、学習についての理解と協力を依頼するとともに、産婦人科医や助産師との綿密な打合せをする。

## (2) 教育課程上の位置づけ

- ・体育（保健分野）
- ・道徳

- ・特別活動
- ・総合的な学習の時間

(3) 子どもたちの準備

- ・自尊感情を高める体験をする。
- ・赤ちゃん人形を使った育児の疑似体験をする。
- ・人生最初が一番うれしかったことについての意見をまとめておく。

(4) 家庭・地域との連携

- ・家庭や地域の人々に対し、命の大切さを実感させる教育を進めていくねらいや趣旨を伝え理解と協力を求める。
- ・家庭へ「心のノート」への記載を事前に依頼する。
- ・地域の保育所や助産師に協力を依頼する。

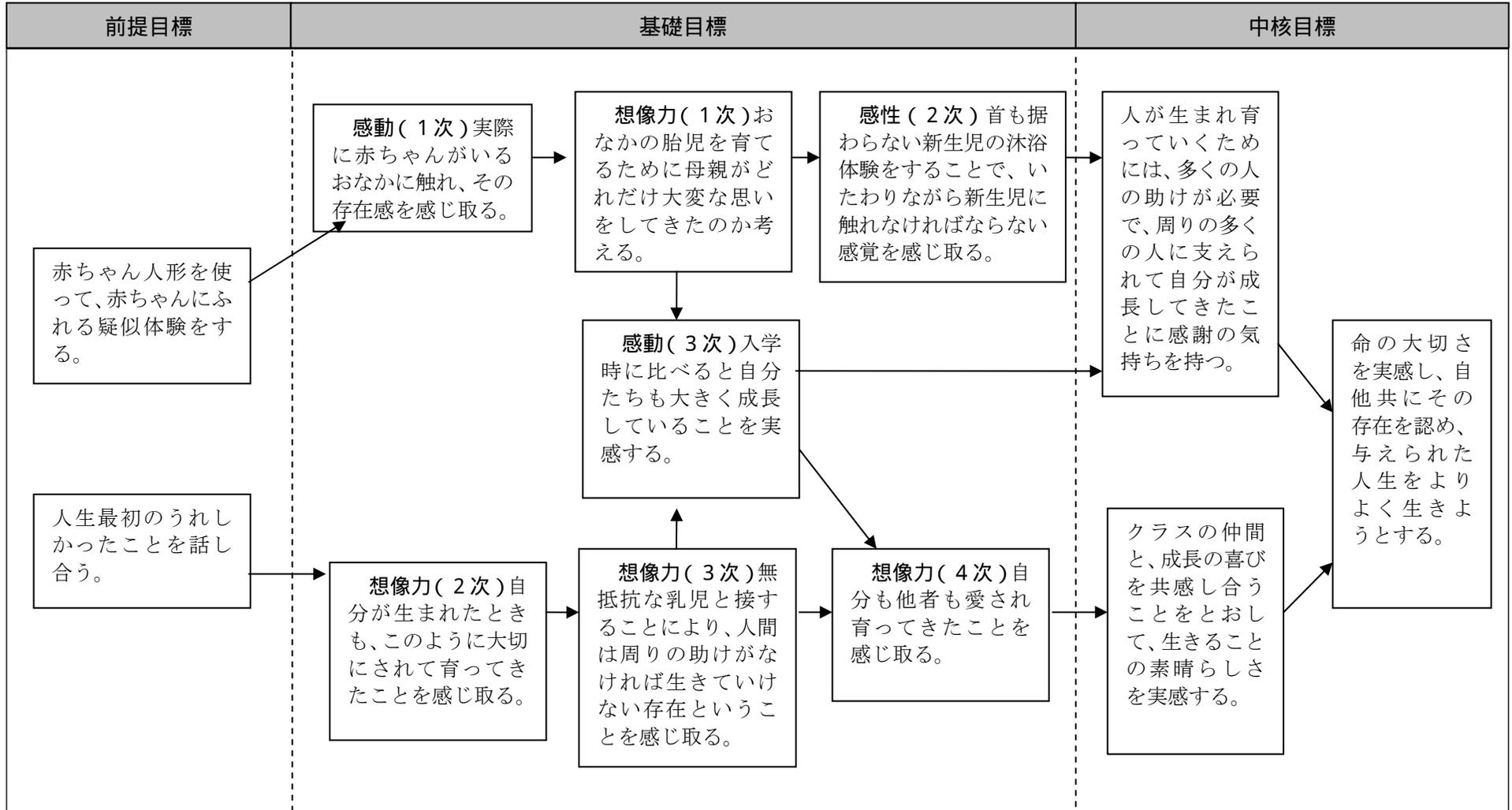
## 5 本校の実践の特色

- (1) 一年間、継続した育児体験（赤ちゃんの成長の記録をつける）
- (2) 小規模校の特色を生かしたグループ中心の学習
- (3) 地域の強い協力体制（助産師等のゲストティーチャー）
- (4) 人生10年目の児童での実践（2分の1成人式等）
- (5) 4年前の入学式等のビデオを用いての学習（自分たちの成長を実感させる）

6 目標分析表

	学習活動	感動の体験	感性を育む	想像力の育成	先生の振り返り
事前	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人生最初のうれしかったことを話し合う。</li> <li>○赤ちゃん人形で、赤ちゃんに触れる疑似体験をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の記憶をたどり、楽しかった思い出について振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○お母さんごっこなどを思い出し、赤ちゃんを育てる母親について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本物の赤ちゃんを抱いたときはどのような感覚なのか考える。</li> </ul>	
1次 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○妊婦のおなかにふれ、胎児が動く様子を感じ取る。</li> <li>○胎児のエコー写真を見ながら妊婦の話聞き、その後、質問をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実際に赤ちゃんがいるおなかに触れ、その存在感を感じ取る。</li> <li>○成長していく胎児の写真を見ることで、胎児の成長を実感する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○胎児の心音を聞くことで、胎児も必死に生きていることを感じ取る。</li> <li>○妊婦から直接話を聞くことで、妊娠した時の喜び等を感じ取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○おなかの中の赤ちゃんを育てるために、母親（自分の母親も含め）がどれだけ大変な思いをしてきたのかを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○おなかの赤ちゃんもしっかりと生きていることに気づかせることができたか。</li> <li>○妊娠時の大変さがある、自分たちが産まれてきていることを理解させることができたか。</li> </ul>
2次 (5時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○産まれて間もない新生児にふれる。</li> <li>○助産師を招いて、人の誕生について学習する。</li> <li>○絵本（『いのちは見えるよ』岩崎書店）を読み聞かせしてもらう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○誕生して間もない小さな新生児を抱くことをとおして、命の重みを感じ取る。</li> <li>○助産師から直接、人の誕生や、出産の大変さについて話を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○首も据わらない新生児の沐浴体験をすることで、いたわりながら新生児に触れなければならない感覚を感じ取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新生児に負担がかからない抱き方や、沐浴の仕方等命を慈しむ気持ちを持つ。</li> <li>○自分が生まれてきた時も、このように大切にされて育ったことを感じ取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新生児の命のぬくもりを感じさせることができたか。</li> <li>○命の誕生に携わる助産師の話聞いて、その重要性を理解させることができたか。</li> </ul>
3次 (8時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ほぼ一ヶ月ごとに、成長していく乳児と交流する。</li> <li>○自分たちの成長の様子をビデオで見る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実際に乳児とふれあう体験をとおして、小さな命をいとおしく思う気持ちを持つ。</li> <li>○入学時に比べると自分たちも大きく成長していることに気づく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○母乳だけで大きく育っていく人間に備わった不思議さを感じ取る。</li> <li>○普段は実感しない時間の流れと、成長の実感を話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○無抵抗な乳児と接することにより、人間は周りの助けがなければ生きていけない存在だということを感じ取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日々めまぐるしく成長していく乳児も、多くの助けを介しながら成長していることを理解させることができたか。</li> </ul>
4次 (8時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人生10年目に感謝し、自分の成長新聞を作成し、「2分の1成人式」を開く。</li> <li>○二十歳の自分に宛てた手紙を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○出生時の体重や、感動したこと、頑張っていること、得意なこと、人生の中で一番うれしかったこと等、生きる喜びを実感する。</li> <li>○クラス全員で「2分の1成人式」を企画・運営し、クラスの仲間と、成長の喜びを共感し合うことをとおして、生きることの素晴らしさを実感する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校低学年の頃や、保育所の頃の思い出を語り合うことで、共感しながら、成長の喜びを感じ取る。</li> <li>○家族からの手紙を読み、支えられ愛されながら生きてきたことを感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○周りの多くの人に支えられて自分が成長してきたことに感謝の気持ちを持つ。</li> <li>○自分だけでなく、友だちも周りから愛され育ってきた存在であることを感じ取る。</li> <li>○命の大切さを実感し、自他共にその存在を認め、与えられた人生をよりよく生きようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○クラスで成長の喜びを共感し合い、協力して「2分の1成人式」を成功させることができたか。</li> <li>○自他の命のかけがえのなさを実感させることができたか。</li> </ul>
事後	<ul style="list-style-type: none"> <li>○振り返りカードに記入する。</li> <li>○命の学習をしてきてどうだったかを話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○命の学習の中で一番感動したことをまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○命について感じたことを作文にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○これからの人生をどのように送っていきたいか発表する。</li> </ul>	

7 目標構造図



(凡例) ①感性(1次):「①」は指導の順路、「感性」は指導の観点が「感性を育む」、「(1次)」は学習活動が「1次」であることを示す。

## 8 事前の教員研修と指導の概要

### (1) 事前の教員研修

研修内容	
a	○自己再発見の体験をする。 <提言 P68：教員研修テーマ②> ・「私の人生の振り返り」
b	○産婦人科の医師や助産師から生命誕生の話聞く。 ・生命の大切さや生命を守るためにどうすればよいかを学ぶ。 ・生命誕生のすばらしさなど大変さを感じ取る。
c	○保護者への協力依頼について話し合う。 ・子どもの聞き取りの内容について ・子どもの家庭環境について
d	○地域に出かけ、高齢者とふれあう。 ・昔の子育てや、苦労話などを聞く。

### (2) 指導の概要（全23時間）

内容	
事前	○人生最初のうれしかったことを話し合う。 ○赤ちゃん人形で、赤ちゃんに触れる疑似体験をする。 <span style="float: right;">教員研修 a</span>
1次 (2時間)	○妊婦との交流等、生命が誕生する過程にふれる。 1 妊婦のおなかに触れる。 ・触った感覚を話し合ったり、胎児が動く様子を感じ取る。また、音を聞いてみたい児童は、妊婦の了承を得て聞かせてもらう。 (1時間) 2 妊婦の話聞く。 ・妊娠をしたときの喜びや、妊娠したことによる大変さ、気遣いなどを聞く ・胎児のエコー写真を見ながら、成長していく様子を感じ取る。 (1時間) <span style="float: right;">教員研修 b</span>
2次 (5時間)	○命の重みと誕生の喜びを感じる。 1 産まれて間もない新生児に触れる。 ・赤ちゃんを抱っこしたり、オムツ交換や沐浴体験をする。 ・赤ちゃんの体重や身長などをインタビューし、まとめる。 (2時間) 2 助産師に来てもらい、人の誕生について学習する。 ・赤ちゃんがおなかの中でどのように成長していくのか学習する。 ・病院等での、出産時の苦労話を聞く。 (2時間) 3 絵本の読み聞かせ。 ・交流している母親に絵本の読み聞かせをしてもらう。 及川和男・長野ヒデ子『いのちは見えるよ』2002 岩崎書店 (1時間) <span style="float: right;">教員研修 c・d</span>
3次 (8時間)	○成長を実感する。 (2時間×3) 1 成長していく乳児と交流する。 ・約一ヶ月ごとに乳児と交流し、成長を感じ取る。 ・母親とも交流し、育児についてインタビューする。 ・ペットボトルを利用したガラガラなどのおもちゃを作る。 2 自分たちの成長の様子をビデオで見る。 (2時間) ・学校で記録した「入学式」「運動会」「発表会」などを見て自分たちも大きく成長していることを感じ取る。 ・友だちのがんばりや、優しくしてくれたことなどの思い出を語り合う。

<p>4次 (8時間)</p>	<p>○成長への支援に感謝し、未来に思いを馳せる。</p> <p>1 クラスで「2分の1成人式」を開く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭環境を配慮した上で「〇〇（名前）新聞」を作り、出生時の体重や、頑張っていること、得意なこと、人生の中で一番うれしかったことなどをまとめる。 (6時間)</li> <li>・「自分新聞」を発表しながら、生きてきた10年間をみんなで祝う。</li> <li>・保護者の協力で児童宛にお祝いメッセージを書いてもらい、その場で披露する。</li> </ul> <p>2 二十歳になった自分への手紙を書く。 (2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・葉書大の自分の写真の裏に、二十歳になった自分への手紙を書く。その際、周りへの感謝の気持ちも書くようにする。</li> <li>・その写真は、小さな額に入れ、各自が保管する。</li> </ul>
<p>事後</p>	<p>○振り返りカードに記入する。</p> <p>○命の勉強をしてきてどうだったかを話し合う。</p>

## 9 指導実践

### (1) 1次第2時

#### ア 本時のねらい

妊婦のおなかに触れた経験（前時）をもとに、妊婦の話を書くことをとおして、妊娠をしたときの喜びや、妊娠したことによる大変さ、生活で気を遣っていることなどを知る。

#### イ 指導のポイント

##### (ア) 感動の体験

成長していく胎児の写真を見ることで、胎児の成長していく様子を知らせる。

##### (イ) 感性を育む

- ・妊婦から直接話を聞くことで、妊娠したときの喜びなどを感じ取る。
- ・胎児でも、おしっこなどの「生きる」活動をしながら成長していることを感じ取る。

##### (ウ) 想像力の育成

おなかの中の赤ちゃんを育てるために、母親（自分の母親も含め）が、どれだけ大変な思いをしているのか考える。

#### ウ 準備物 なし

#### エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

##### (ア) 協力してくれる妊婦との打合せ

- ・妊娠をしたときの喜びや、妊娠したことによる大変さ、生活の中で気を遣っている点などを話してもらうように依頼する。

##### (イ) 胎児についての教員研修

- ・養護教諭に話を聞いたり、関係する文献を読んだりして、それをもとに指導案を作成する。

#### オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 前時の、妊婦のおなかに触れた感想を出し合う。 ・パンパンで、すごく大きかった。	・胎児が動くときに触った児童もいるので、そのときの感想を詳しく聞く。
展 開	2 胎児の成長していく様子を図で確認する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">赤ちゃんのエコー写真を見ながら、お母さんの話を聞こう！</div>	・胎児の図を黒板に貼りながら、これから話を聞く妊婦の胎児はどのような様子なのか説明する。
	3 妊婦の話を聞き、質問をする。 ・「おなかに赤ちゃんがいて重くありませんか？」 ・「ご飯を食べられないときがあるっておっしゃっていましたが、その時は何も食べないのですか？」 ・「赤ちゃんは、一日何回動きますか？」 ・「赤ちゃんを産む前の気持ちは、どんな気持ちですか？」	・妊娠したときの喜びや、生活する上で気を遣っていることを話してもらう。また、話の途中にエコー写真を見せてもらう。 ・妊婦の体調を気遣い、無理をさせないように留意する。
ま と め	4 授業の感想を話し合う。 ・お母さんって大変なんだなと思った。でも、妊娠してうれしかったって言ってたときは、とても幸せそうだった。	・発言等をしっかりと記録し、児童が自分の誕生について話を聞く活動の際に生かせるようにしておく。

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) 妊婦の体調を気遣い、教室ではなく和室などのリラックスできる環境を設定すればよかった。
- (イ) 直接妊婦に質問することにより、児童は積極的に発言をしていた。



キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○赤ちゃんがいるお母さんのおなかをさわって、赤ちゃんがいることを感じとろう。	
感性を育む	○にんぷさんの話を聞いて、お母さんや赤ちゃんの気持ち、また、二人でどんな会話をしているのか考えてみよう。	
想像力の育成	○みんなのお母さんが、みんながおなかにいた時、どれだけ大変な思いをしたのか考えてみよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

(2) 2次第1・2時

ア 本時のねらい

誕生して間もない新生児に触れることにより、誕生の神秘性を感じ取る。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

誕生して間もない小さな新生児を抱くことをとおして、命の重みを感じ取らせる。

(イ) 感性を育む

首も据わらない新生児の沐浴体験をすることで、いたわりながら新生児に触れなければならない感覚を感じ取らせる。

(ウ) 想像力の育成

- ・新生児に負担がかからない抱き方や、沐浴の仕方等命を慈しむ気持ちを持たせる。
- ・自分が生まれたときも、このように大切にされて育ったことを感じ取らせる。

ウ 準備物 なし

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) 協力してもらう母親との打合せ

命を大切にする心を育てていかなければならない重要性等を十分に説明し、信頼関係を築いておく。

(イ) 全児童の沐浴体験は、協力してもらう側に多大な負担になるので、特に赤ちゃんに興味のある児童6名のグループを作り実施する。（その他の児童は、学校にて赤ちゃんについての調べ学習を行う。）

(ウ) 出産に関する研修

産婦人科の主催する両親学級等を見学し、新生児についての研修を深めておく。また、産婦人科医、助産師の話を聞き、出産に関する研修も深めておく。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 赤ちゃん人形を使い、首の据わらない新生児の抱き方を確認する。	・訪問するときのマナーや、新生児に負担のかからない行動をとるよう事前指導する。
展 開	2 新生児を抱っこする。 ・キャー、小さい！ ・ドキドキする！こわい。 ・かわいいー。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">生まれたての赤ちゃんを、お風呂にいれよう！</div>	
	3 新生児の沐浴体験をする。 ・すべすべして、やわらかい。	・新生児の安全を第一に考え、母親にサポートしてもらいながら、手伝える範囲で行うよう留意する。
	4 新生児のおむつ交換や湯冷ましを飲ませる体験をする。 ・〇〇さん、おむつ換えるのうまいね。	・活動の様子は、カメラやビデオで記録し、その他のクラスメイトに報告できるようにする。

	5 体験の感想とお礼を母親に伝える。	・授業後に、児童の感想とお礼を母親に届ける。
まとめ	6 本時の学習の感想を書く。	

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

(ア) 予想はしていたが、本物の新生児に触れる体験は、人形を使った疑似体験の何百倍も児童を感動させた。

(イ) 命の大切さを実感させる授業とは、真に児童の心に響くものではないと実感した。



キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○生まれて間もない赤ちゃんをお風呂に入れたり、オムツを換えたりしてみよう。 また、赤ちゃんのやわらかさにふれてみよう。	
感性を育む	○新生児に触れることをとおして、どのようなことを感じましたか。	
想像力の育成	○自分が産まれたときのお母さんの気持ちを想像してみよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

(3) 3次第1・2時

ア 本時（次）のねらい

首の据わらない乳児を抱く体験をとおして、小さな命をいとおしく思う気持ちから親子の情愛を感じさせる。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

実際に乳児とふれあう体験をとおして、小さな命をいとおしく思う気持ちを持たせる。

(イ) 感性を育む

首も据わらない生後3ヶ月の乳児を抱くことをとおして、小さな命へのいたわりとともに、命のぬくもりを感じさせる。

(ウ) 想像力の育成

無抵抗な乳児と接することにより、人間は周りの助けがなければ決して生きていけない存在だということを感じ取らせる。

ウ 準備物 なし

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) 協力していただく母親との打合せ

- ・乳児が学校に来て大丈夫なのか、交流時間はどれくらい可能なのか、どのような流れで授業を進めるのがよいか等

(イ) 乳児に関する知識を深める

- ・児童の質問に答えられるよう、教師側も育児書を読んで研修しておく。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	<p>1 まず、前回沐浴体験を行った児童が抱っこし、2ヶ月の成長を経て大きくなった乳児の感想をクラスメイトに伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わあ、めっちゃめっちゃ重くなってる！</li> <li>・重い！重い！</li> <li>・この前と全然ちがうよ！</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を和室で行い、乳児用の布団などを敷いておき、乳児に合わせた柔軟な対応が取れるようにしておく。</li> </ul>
展 開	<div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     生後3ヶ月の赤ちゃんを抱っこしてみよう！                 </div> <p>2 生後3ヶ月の乳児を抱っこする。</p> <p>3 母親に質問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今の体重はいくらですか？</li> <li>・一日何回、うんこをしますか？</li> <li>・身長はどれくらいありますか？</li> <li>・ミルクはどれくらい飲みますか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児の負担にならないよう、「抱っこ体験」は2班に分け、前半の児童が終わった後、質問時間にし、その後、後半の児童が「抱っこ体験」をする。しかし、乳児の様子をみて、随時休憩を入れる。</li> <li>・乳児の体重等は、次回の活動も留意し、表にまとめたらいいことをアドバイスする。</li> </ul>

まとめ	<p><b>4 授業の感想を発表する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前に、いとこの赤ちゃんを抱っこして泣かれたので、抱っこするのはいやだった。でも、お母さんが『私でも泣かれるよ。』と言っていたので安心して抱くことができた。抱いてみたら泣かなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感じたことを自由に話し合い、発表するよう促す。</li> </ul>
-----	---	--

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) 乳児の成長は、教師自身も驚くぐらい著しいものがある。しかし、その成長が自然発生的に起こるのではなく、多くの助けを介していることは理解させたい。
- (イ) 児童の中には、抱っこ体験を嫌がる女児がいた。理由を聞くと納得する面もあり、無理強いをさせまいと思ったが、母親が適切な言葉かけをしてくれ、その児童は抱っこをすることができた。彼女が母親になるための意味のある体験ができたと思う。



キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○成長していく赤ちゃんをだっこしよう。また、一ヶ月ごとに体重などを記録しよう。	
感性を育む	○赤ちゃんにふれることで、命のぬくもりを感じよう。また、赤ちゃんをいたわりながらだっこする理由を考えよう。	
想像力の育成	○赤ちゃんの成長を感じることで、自分にも赤ちゃんだったときがあり、いろんな人の助けを受けながら成長してきたことを想像してみよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

(4) 4次第1・2時

ア 本時のねらい

誕生して10年目を記念し、「〇〇（児童の名前）の命新聞」を作ることとおして、自分が存在することへの感謝と喜びを感じる。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

「〇〇の命新聞」を作り、出生時の体重や、感動したこと、頑張っていること、得意なこと、人生の中で一番うれしかったこと等、生きる喜びを実感させる。

(イ) 感性を育む

うれしかった思い出や、感動した思い出を語り合うことで、共感する心を育む。

(ウ) 想像力の育成

- ・自分が成長するために、多くの人にお世話になってきたことを感じ取らせる。
- ・自分だけでなく、友だちも周りから愛され生きていることを理解させる。

ウ 準備物 なし

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) 家庭環境に配慮した上で、新聞にまとめる具体例を考える。

- ・様々な家庭環境があるので、小学校中学年の段階では、楽しかった思い出を中心に進めていくよう指導案を作成する。

(イ) 各家庭に新聞作りの趣旨説明の学級だよりを配布する。

- ・児童からの質問に回答することを依頼する（児童が生まれてきたときの気持ちや、病気や怪我をしたときの気持ち、小学校に入学する時の気持ち等）。

(ウ) 現在配慮を要する子どもが存在する可能性もあるので、個別に話を聞く時間を設定するなど、事前の個別指導を充実させる。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 自分の中にある、過去の一番楽しい記憶をカードに書き、それをもとに友だちとの楽しかった思い出などを話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に、極端に悲しい過去の経験がないかアンケート等で調べておく。</li> <li>・児童の低学年の頃のビデオも、内容を厳選して見せる。</li> </ul>
展 開	2 誕生10年目を記念して、新聞の下書きを書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『心のノート』を利用し、事前に家族へのインタビューを済ませておく。</li> </ul>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">誕生10年目を記念し、自分の命新聞を作ろう！</div> <p>3 書きたい内容や工夫したい内容を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼくの大好物はたこやき！保育所ときは毎回、弁当に入ってた！</li> <li>・小さいときはケーキ屋さんになりたかったけど、今は保育士になりたい。</li> <li>・わたしが産まれた時、すごく小さかったけど、みんなが必死で看病をしてくれたと聞いてうれしかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭環境を配慮し、皆が楽しみながら作業ができる発問を心がける。</li> </ul>

展 開		<発問例> ・「小さい頃の夢と、今の夢は？」 ・「人生の中で最高のごちそうは？」 ・子どもの家庭環境に配慮し、家族団欒の楽しい思い出を話したい児童については、個別に机間巡視で聞く。
ま と め	4 下書きが完成した児童から、新聞の仕上げをする。	・途中の児童は家で完成させるように伝える。

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) 様々な家庭環境があるので、この活動については心配されたが、年間を通して自他共に命の存在を認め合う授業を展開してきたので、皆が楽しみながら活動できたように思う。
- (イ) 子ども達は、夢をもっていながらも、現実的に生きてきた親の話の聞き、親に対し親近感をもつとともに、生きるということを少し感じ取ったようだ。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○生まれて10年目への感謝の気持ちを大切に、「2分の1成人式」を成功させよう。	
感性を育む	○家族からの手紙を読み、自分がどれだけ大切に育てられてきたかを感じ取ろう。	
想像力の育成	○二十歳の自分への手紙を書くことで、これからの10年間の夢を書きつづてみよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		



## 10 実践を終えて

### (1) 先生の振り返り

本学級の児童は、年度当初の生活アンケートで「友だちに傷つけられたことがある。」と、半数以上が答えた。また、自傷行為にはしる児童もいるなど、決して落ち着いた状態ではなかった。そこで、学級の中に「受容的」・「許容的」・「共感的」な風を入れたいと思い、妊婦とのふれあいから始まり、出産、乳児の成長、自分史の振り返りという活動を取り入れた。これらの活動の目的は、「ものめずらしい実践」というわけではなく、最終目標は、『「命の大切さ」を心の底から実感できる児童の育成』であった。なぜなら、「命の大切さ」を実感したのであれば、自他共にありのままの存在を素直に受け止め、大切にできる心が育つであろうと考えたからである。

本実践が、その目標を十分に果たしたかどうかは分からないが、次の作文がある程度の成果を物語ってくれているのではないかと感じている。

#### 「命の重み」

ぼくたちは、四年生になってから、ずっと命について勉強してきました。このごろは、命という大事なものをむだにする人間がいます。ぼくは、そういう人はきらいです。自ら命をむだにするのは、生きたくても生きられない人に失礼だと思います。

この間、親せきのおじちゃんがなくなりました。「はいガン」という病気でした。年は、四十二才でした。若いし、子どもも二人いるし、まだまだ生きてかっただろうなと思います。お父さんがお見まいに行くと、おじちゃんは、体にいっぱい機械をつけてとても苦しそうにしていたそうです。苦しくて、しんどくて、しゃべれないおじちゃんは、「機械を止めてくれ」と手でペケをしたそうです。お父さんは、

「かわいそうで、見ていられなかった。」

と、言っていました。

おじちゃんは、命がなくなることがくやしかったと思います。でも、おじちゃんが病気になったのは、おじちゃんも、タバコがすきだったからかな？

ぼくのお父さんもタバコをすっています。ぼくが、

「タバコをすったらだめだ。」

と言ってもやめません。タバコのために、命をむだにしてほしくないです。

おじちゃんは、病室で飛行機のプラモデルを作りたいかったそうです。でも、作れないまま、なくなってしまいました。今度、ぼくが代わりに作って、おじちゃんのぶつだんにおそなえしようと思います。天国で、おじちゃんが、ぼくの作った飛行機を見て、喜んでくれたらうれしいです。

このごろ、いじめられて自殺する人がよくいます。いじめられてかなしいのかもしれないけど、命をもっと大事にしてほしいです。

子どもを殺す親もいます。子どもを何のために生んだのか、ぼくには理かいかできません。

「子どもを殺すなんて信じられない。」

と、お母さんがよく言います。ぼくも、そう思います。

時どき、お母さんがぼくに、

「元気で生まれてきてくれて、ありがとう。」

と、言ってくれます。その時は、とってもうれしいです。

これからも、かなしいこと、うれしいこと、楽しいこと、いっぱい経験したいです。そして、いろんなことにちょう戦して、自分の力をのばしていきたいです。でも、もっとがんばりたいことがあります。

それは、ぼくはぜったいに、この命をむだにはしません。

## (2) 今後の課題

### ア 授業実践上の課題

人形やビデオなどの疑似体験に比べ、本物の妊婦や新生児に触れる体験は、児童にとっては比較にならないくらい大きな成長を与えてくれる。しかし、協力してくれる側にとっては負担になる面も多く、今回のような協力者を探し出すことは容易ではない。

### イ 家庭・地域との連携についての課題

地域性を考えると、過疎化、少子化の影響で、協力してくれる妊婦の数が不足している。しかも、相次ぐ産婦人科の休業で、出産を地域から離れた所で行う人も増えてきている。数十年前なら、兄弟等も多く自然と育児の雰囲気を感じ取れていたと思うが、本校区には乳幼児に全くふれることなしに成長する児童・生徒も多い。そのような中で、「命」がどのように育っていくのか実感するための体験を、地域が一体となって行っていかなければならないと感じる。そこで、教育や行政などが一体となった体制作りが課題である。

### ウ 学校の組織運営上の課題

デリケートな乳幼児に触れるため、グループ学習等で少人数の活動になることが多い。また、活動場所が違う場合もあり、複数の教師が必要になる。そこで、年度当初からの計画、時間割等の調整等が重要となる。本校では、総合的な学習の時間を利用し複数の教師で活動を進めてきたが、活動時間の延長があった場合など、時間割の調整が難しいことも多々あった。

## 11 参考・引用文献

- ・及川和夫・長野ヒデ子『いのちは見えるよ』岩崎書店 2002



事例6 かけがえのない命・つながる命  
(淡路市立野島小学校高学年)

## 小学校事例6

## かけがえのない命・つながる命

淡路市立野島小学校高学年

## 1 テーマ

かけがえのない命・つながる命

## 2 実践のねらい

身近な人との関わりをとおして、老いや病にふれる体験や、死の悲しみにふれる体験などから、命の有限性や死の普遍性・絶対性に気づき、自他の命のかけがえのなさに思いをはせる。さらに、死の悲しみや苦しみに向き合う人々の思いに接し、人とのつながりを感じ、強く生きようとする心について考える。

## 3 テーマ設定の理由

## (1) 本校の概要と児童生徒の実態

本校区は、淡路の北部に位置し自然豊かな農村地帯にある。明石海峡大橋の開通により阪神間へのアクセスは便利になったが、過疎化には歯止めがかからず、現在本校の全児童数は35名までに減少している。社会が大きく変化する中で、子どもたちの暮らしぶりも変わり、豊かな自然に囲まれながらも自然体験は非常に少なくなり、都会の子どもたちとそれほど大きな差はない。子どもの遊びの形態も変化し、テレビ、ゲーム、パソコン等が中心となり、「命」を軽視した様々な情報刺激があふれている。また、農村地帯であるため3世代同居家庭が多く、祖父母を含めた地域の老人と接する機会は比較的多くあるが、高齢者はかつてのように人生の終末を自宅では迎えることは少なくなり、子どもたちが、人の死を間近で看取るような経験も減っている。

近年、本校においても、人を思いやれない、また、「命」を軽視するような言動が目立つようになってきており、危機感を抱いていた。そのため昨年度より、子どもたちに生きることの素晴らしさや「命」の尊さを心の底から感じさせ、仲間を大切にし、人を大切にしようとする心を培うため、上記のテーマを設定し実践に取り組み始めた。

## (2) 指導のポイント

## 【感動の体験】

- ・死というものを見つめ、死について考えることの大切さを実感させる。
- ・自分の命は両親の願いの結晶であり、毎日を精一杯生きることが大切であることを実感させる。

## 【感性を育む】

- ・遺された者の悲しみを通して、自分の命は一人だけの者ではなく、多くの人たちとつながっていることを実感させる。

## 【想像力の育成】

- ・すべての生き物には寿命があり、自分の命も例外でないことを理解させる。

## 4 事前

## (1) 先生の準備

- ・授業の中だけでなくすべての教育活動の中で、命を大切にしていこうとする視点や姿勢を持つ。
- ・教員自身の死に対する思いをまとめる。
- ・家庭や地域に対して学習についての理解と協力を依頼するとともに、施設等の関係者と綿密な打合せをする。
- ・現在悲嘆にある子どもが存在する可能性もあるので、個別に話を聞く時間を設定するなど、事前事後の個別指導を充実させる。

## (2) 教育課程上の位置づけ

- ・国語
- ・理科（植物・生き物等の分野）
- ・体育（保健分野）
- ・家庭
- ・道徳
- ・総合的な学習の時間

## (3) 子どもたちの準備

- ・自尊感情を高める体験をする。
- ・デジタルカメラの使用技術を習得する。

## (4) 家庭・地域との連携

- ・地域の人々に対し、アンケート調査や聞き取り学習を実施することについての理解を求める。
- ・特別養護老人ホームで継続的に体験学習ができるように事前に依頼する。
- ・祖父母、その知人、家族に対し学習のねらいを理解していただくために通信を発行する。

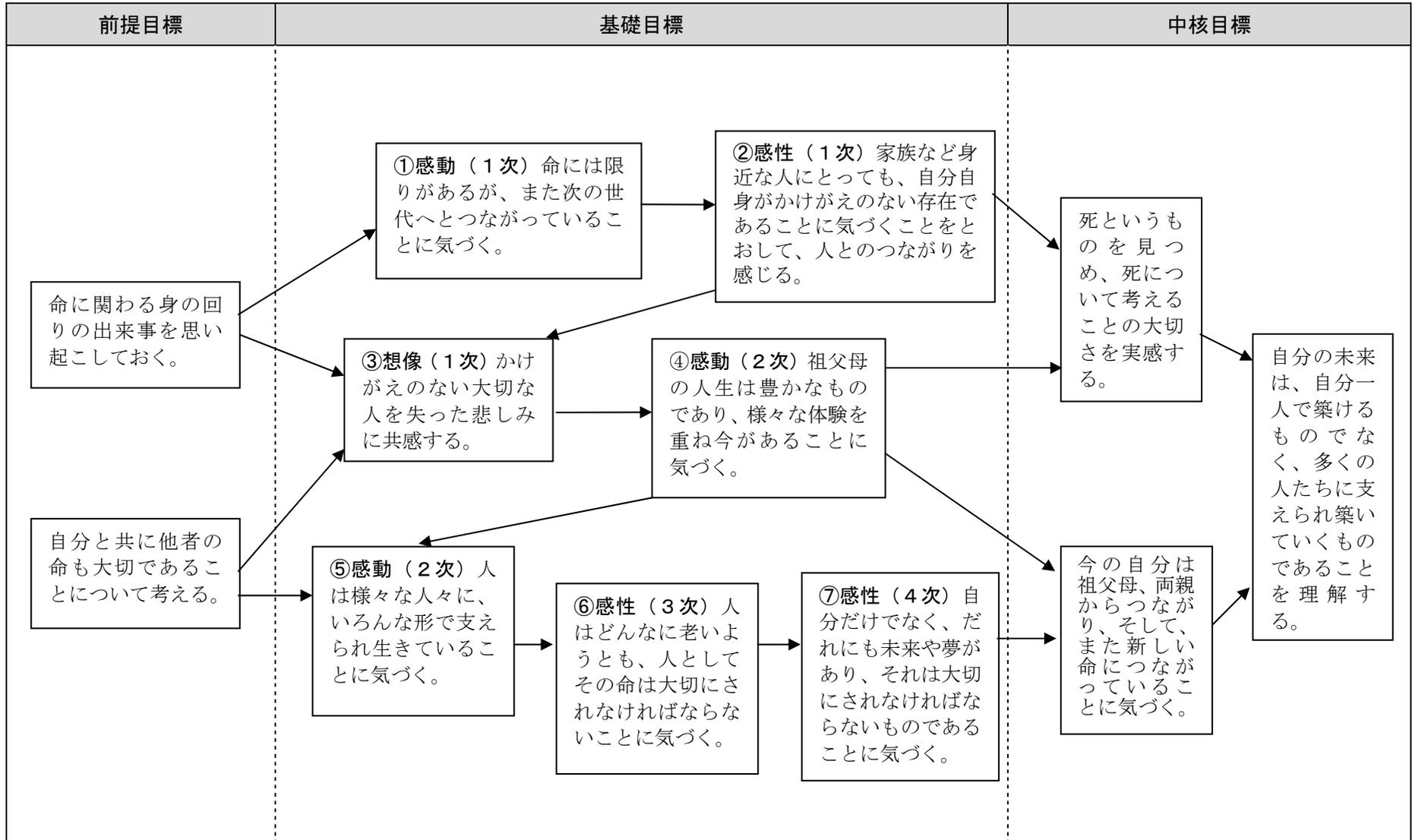
**5 本校の実践の特色**

本校では、様々な学習の素材を地域に求め、地域とのつながりを大切にした取組を進めている。今回の学習も地域に出かけ、地域の人たちの「死」に対しての思いや考えを聞き取り、それを手がかりにした実践を行った。特に、特別養護老人ホームとの交流においては、老いの豊かさを感じ、病いに立ち向かう人々の素晴らしさを感じられるよう協力を依頼した。また、北朝鮮拉致被害者の会の有本さんを招いての講演会には、地域の人たちにも参加を呼びかけ、子どもたちの学習の取組に関心を寄せ、共に考える機会とした。

6 目標分析表

	学習活動	感動の体験	感性を育む	想像力の育成	先生の振り返り
事前	○自尊感情を高める体験をする。	○自他の命の存在に気づく。	○命に関わる身の回りの出来事を思い起こしておく。	○自分と共に他者の命も大切であることについて考える。	
1次 (5時間)	○「命」をテーマに写真を撮り、話し合う。 ○家族や大切な人、またはペットを亡くした体験を出し合う。 ○突然に大切な人の命を奪われた人の話を聞き、その悲しみと痛みに共感する。	○命には限りがあるが、また、次の世代へとつながっていることに気づく。 ○我が子を亡くした親の手記を読むことをとおして、子を思う親の思いの深さに気づく。	○家族など身近な人にとっても、自分自身がかけがえのない存在であることに気づくことをとおして、人とのつながりを感じる。	○かけがえのない人を失った悲しみに共感する。 ○死というものを見つめ、死について考えることの大切さを実感する。	○一つの命には限りがあるが、その命はつながっていることを理解させることができたか。
2次 (10時間)	○自分と祖父母の伝記を作る。 ○ゲストティーチャーの生きてきた道筋を聞く。 ○できあがった伝記を発表し合う。	○祖父母の人生は豊かなものであり、様々な体験を重ね今があることに気づく。 ○人は様々な人々に、いろいろな形で支えられ生きていることに気づく。	○祖父母の人生を思いやることで、祖父母への尊敬や慈しみの念をもつ。 ○高齢者の豊かな知恵や経験に気づく。	○祖父母の人生を知ることから、これからの自分の人生へ思いをはせ、生きることの尊さを感じる。	○人の人生は豊かで多様であり、素晴らしいものであることを理解させることができたか。 ○人も必ず老い、死んでいくが、その命は大切にされなければならないことを理解させることができたか。
3次 (3時間)	○老人福祉施設を訪問する。 ○「老い」について考え命の尊厳に思いをめぐらせる。	○高齢者とのふれあいを通じて、自分が他人を元気付けることができることを体験する。 ○高齢者の人生の豊かさ等に気づき、尊敬の念を持つ。	○人はどんなに老いようとも、人としてその命を大切にされなければならないことを理解する。	○人も必ず老い、死を迎えることを理解する ○高齢者とのふれあい体験をとおして老いることを理解する。	○人はどんなに老いようとも、人としてその命を大切にされなければならないことを理解させることができたか。
4次 (5時間)	○家族からの手紙を読み、自分の命は自分だけのものではないことを実感する。 ○未来の自分に宛てて手紙を書く。	○自分の命は多くの人に支えられ、愛され育まれてきたものであることに気づく。 ○今の自分は祖父母、両親からつながり、そして、また新しい命につながっていくことに気づく。	○自分を大切にすることは両親や家族、周りの人の願いであることを実感する。 ○自分だけでなく、だれにも未来や夢があり、そして、それは大切にされなければならないものであることに気づく。	○自分だけでなく、友だちの命も多く愛情に支えられ育まれてきたものであることに気づく。 ○自分の未来は、自分一人で築けるものでなく、多くの人たちに支えられ築いていくものであることを理解する。	○自分の命は、自分だけのものだけでなく、両親や家族にとってかけがえのないものであることを感じ取らせることができたか。
事後	○振り返りカードにより、学習の成果を確認する。				

7 目標構造図



（凡例）①感性（1次）：「①」は指導の順路、「感性」は指導の観点が「感性を育む」、「（1次）」は学習活動が「1次」であることを示す。

## 8 事前の教員研修と指導の概要

### (1) 事前の教員研修

研修内容	
a	○自尊感情を高める体験をする。 <提言 P64：教員研修テーマ①> ・『わたしはわたしが好きです。なぜなら・・・』 ・『ここがあなたのいいところ』
b	○自己再発見の体験をする。 <提言 P68：教員研修テーマ②> ・「私の人生の振り返り」
c	○医療施設や老人福祉施設等で行われている介護やケアについて知る。 ・老・病・死と向き合う人々の様々な考えや生き方にふれ、命の尊厳について考え、意見交換をする。

### (2) 指導の概要（全 23 時間）

内容	
事前	○自尊感情を高める体験をする。 (1時間) 教員研修 a
1次 (5時間)	○「死」を見つめる。 1 季節の変化による生き物の様子の変わり方を思い出し、話し合う。 (1時間) 2 校庭に出て子どもたちにデジタルカメラで「命」をテーマに写真を撮らせ、発表する。(昆虫等の死がい等を意識させる) (1時間) 3 家族や大切な人、ペット等を亡くした体験について話し合う。 (1時間) 4 「北朝鮮拉致被害者の会 有本嘉代子さん」の話を読み、大切な人を突然奪われた家族の痛みと悲しみに共感する。 (2時間) 教員研修 b
2次 (10時間)	○自分と祖父母の伝記を作る。 1 家族から聞き取ったことをもとにして自分の伝記をつくり、今までの自分の人生を振り返る。 (2時間) 2 自分の祖父母の今までの人生の道筋を聞き取り、まとめる。 (2時間) 3 ゲストティーチャーで来てくれた祖父の今まで生きてきた道筋を聞く。 (1時間) 4 聞き取った自分の祖父母の伝記を作る。 (3時間) 5 できあがった伝記を発表し合い、人生の豊かさと多様さを感じ、誰の人生もかけがえのない大切なものであることを実感する。 (2時間) 教員研修 c
3次 (3時間)	○老人福祉施設を訪問する。 1 老人介護の手伝いの体験をする。 (2時間) 2 施設で働く職員から、高齢者の生き方から学んだことや介護についての体験談を聞き、「老い」について考え、命の尊厳に思いをめぐらす。 (1時間)
4次 (5時間)	○成長への支援に感謝し、未来に思いをはせる。 1 伝記づくりをとおして感じた家族や身近な人への思いを話し合う。 (1時間) 2 家族からの手紙を読むことにより、自分の命は自分だけのものではないことを実感する。 (1時間) ○未来の自分に宛てて手紙を書く。(タイムカプセルづくり) 1 大人になった自分の未来を想像することで、これからも自分の人生を大切に生きていこうとする思いを持つ。 (2時間) ○今までの学習を踏まえ、「命」への思いをまとめる。 (1時間)
事後	○自分の心の動きを振り返り、振り返りカードに記入する。

## 9 指導実践

### (1) 1次第3時

#### ア 本時のねらい

大切な人（ペット）を亡くした体験を出し合い、命のかけがえのなさを実感する。

#### イ 指導のポイント

##### (ア) 感動の体験

我が子を亡くした親の手記を読むことをとおして、子を思う親の思いの深さに気づかせる。

##### (イ) 感性を育む

家族など身近な人にとっても、自分自身がかけがえのない存在であることに気づかせることによって、人とのつながりを感じさせる。

##### (ウ) 想像力の育成

他者の喪失体験にふれることをとおして、他者の悲しみを押し量らせる。

#### ウ 準備物 なし

#### エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) 現在悲嘆にある子どもが存在する可能性もあるので、個別に話を聞く時間を設定したり、子ども一人ひとりを把握することを心がける。

(イ) 大切な我が子を亡くした親の悲しみの深さが伝わるものとして、長崎小6 女児殺人事件の被害者遺族である父親の手記（毎日新聞 2004 年 6 月 8 日掲載）を用意する。

#### オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	<p>1 今の自分にとって大切な人やペット等を思いうかべ、みんなに紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「わたしはお母さんが大好きで、一番大切な人です。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に、大切な人に関わる写真や思い出の物を持ってくるように伝え、自分の思いがよく伝わるようにさせる。</li> <li>・あなたにとって一番大切な人を紹介して下さい。</li> </ul>
展 開	<p>2 教師の大切な人を失った体験を聞き、その思いに共感する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先生にもそんな悲しいことがあったんだ。</li> <li>・もし、今、先生のお父さんが生きていたら先生は何をしてあげますか。</li> </ul> <p>3 大切な人やペット等を亡くした自分の体験について話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師自身の喪失の悲しみを語り聞かせることにより、自分の中にある体験を具体的に思い浮かばせる。</li> <li>・「先生は交通事故により、突然にお父さんを亡くしました。お父さんは、大学卒業直前の弟に最後の仕送りをした後に事故にあいました。その後、しばらく電話のベルが怖かったです・・・。」</li> </ul>

展 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わたしは去年の夏前に、ひいおばあちゃんを亡くしました。おばあちゃんの使っていた物を見ると、まだ涙が出てきます。</li> <li>・家族みんなでかわいがっていた犬が亡くなりました。その時は本当に悲しかったけど、今は新しい犬を飼っています。でも、亡くしたら代わりはいません。</li> </ul> <p><b>4 長崎小6女子殺害事件被害者の父親の手記を読み、感じたことを出し合う。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・悲しみが強くよみがえった子には個別に話を聴くなどの対応をする。また、喪失体験のない者には、今の自分にとって大切な人を亡くした時の思いを想像させ、発表者それぞれの思いに共感させる。</li> <li>・大切な人が命を失うことは、これほどにまで人に深い悲しみを与えるということを実感させ、自他共の命の尊さをつかませる。</li> </ul>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">親が、我が子を亡くした悲しみとはどんなものかを感じとってください。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親が子どもを亡くすと、こんなに悲しいんだ。ぼくのお母さんやお父さんも同じなんだろうと思う。</li> <li>・このお父さんは、奥さんを亡くして、また子どもを亡くしたんだ。心はぐちゃぐちゃになってしまうだろう。</li> </ul>	
ま と め	<p><b>5 本時の学習の感想を書く。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「先生も子どもが二人います。もし、突然にこの子たちのどちらかでも、こんな形で亡くしたとしたら、この女の子のお父さんと同じでしょうね。これから生きていく力もなくなすでしょう。これは、みんなのお父さん、お母さん、世界中のお父さん、お母さんも同じ思いです。」</li> <li>・今日の学習で強く印象に残ったことを書くように伝える。</li> </ul>

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) 導入の「大切な人を思い紹介する」という場面では、もっと具体的になるよう文章化させたい。
- (イ) 被害者の父親の手記は、子どもの心にしみ込んだ。
- (ウ) 学級での小動物の飼育に取り組む子どもたちの態度に、きめ細かさが感じられるようになった。又、保護者には、我が子の大切さをできるだけ言葉で表現してくれるよう依頼した。そのせいか、子どもたちから家族の話題が以前より多く出るようになったように感じた。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○自分を大切にすること、相手を大切にすることについて考えよう。	

感性を育む	○あなたの大切な人が、今までにあなたに どんなことをしてくれたか考えよう。	
想像力の育成	○大切な人を亡くすと、人はどんな思いを もつのか考えよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

(2) 2次第3時

ア 本時のねらい

自分や友だちの祖父母の人生の多様さを知り、伝記を作ろうとする意欲をもつ。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

どの人の人生も豊かなものであり、様々な体験を積み重ね今を迎えていることに気づかせる。

(イ) 感性を育む

自分の祖父母の人生に思いをやることで、祖父母への尊敬や慈しみの念をもたせる。

(ウ) 想像力の育成

祖父母の生い立ちを知ることとおして、これからの自分の人生に思いをさせ、生きることの尊さを感じさせる

ウ 準備物 なし

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) ゲストティーチャーには、子ども時代の生活や仕事への思い、子どもや孫の誕生時の喜び、大切な人との別れ等の悲しみについて詳しく語ってもらう。

(イ) 伝記作りは個人の情報が公開されることであり、必ず対象者の理解と同意を得た上で実施し、十分に配慮した取組が必要であることを認識する。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	<p>1 今までに読んだ偉人の伝記について出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>野口英世は貧しさや障害に負けないで、自分の夢を実現したんだ。けれど、人間としては欠点もずいぶん多い人だったんだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人生は多様であり、誰もがその中で喜びや痛み、悲しみを経験しながら生き抜き、素晴らしい生を生きていることを理解させる。</li> </ul>
展 開	<p>2 各自の祖父母のこれまでの生い立ちを発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ぼくのおじいさんはお店を開くまで、たくさんの店で修行しました。</li> <li>ぼくのおじいさんは、子どもの頃に両親を亡くしたので、中学校から一人で生きてきました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な人の生い立ちを数多く知ることにより、人生は多様であるということを実感させる。</li> <li>祖父母のプライバシーには配慮し、内容については十分に理解を得てから発表させる。</li> </ul>
	<p>3 ゲストティーチャー（児童の祖父・左官職人）の、今までの人生について話を聞く。</p> <p>「子どもの頃から親方の家に住み込みで働いた。修行は厳しかったが、おかげで結婚もでき子どもができて、今は孫に囲まれ幸せだ。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友だちの祖父の生まれた時から現在までの生い立ちを聞く中で、人生には多くの喜び、痛み、悲しみがあり、それを経て今があることを理解させる。</li> </ul>

展 開	4 ゲストティーチャーへ質問をする。	・質問をとおり、一人の祖父母の人生をより深く知り、その長さや豊かさを感じさせる。
ま と め	5 本時の学習の感想を書く。	・次時からの祖父母の伝記づくりに向けて、情報の収集法や取材方法について考えておくよう伝える。

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) ゲストティーチャーの話の中の、「人が“生”を実感するためには仕事が大切である。」との話は子どもたちの心に素直に入ったようである。
- (イ) 人生の多様さを感じ取ることが、命の大切さを実感することにつながるよう具体的手だてをしっかりと計画する必要がある。
- (ウ) この取組後、子どもたちの生活態度が大きく変わったとは言えないが、ただ、祖父母の伝記づくりをとおして、子どもたちが祖父母をより身近に感じ、その関係が今まで以上に密になったと保護者からお聞きした。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○どの人の人生も豊かなものであり、様々な体験を重ねることにより、今があることを理解できたか。	
感性を育む	○祖父母の人生を知り、今感じていることを手紙に書こう。	
想像力の育成	○祖父母の人生を知り、これから自分はどうのように生きていこうと思うか考える。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

(3) 4次第2時

ア 本時のねらい

親からの愛情の溢れる手紙を読むことにより、自分の命は家族や多くの人に支えられ生かされたものであり、大切にしなければならないことを感じ取る。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

自分の命は多くの人の支えによって誕生し、周りの人の愛情に包まれて育てられたものであることに気づかせる。

(イ) 感性を育む

自分を大切にすることは、両親や家族、周りの人の願いであることを実感させる。

(ウ) 想像力の育成

自分と同じように、周りの友だちの命も多くの人の支えと愛情によって育てられたものであることに気づかせる。

ウ 準備物 なし

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) 保護者に子どもたちが誕生した時の喜びや成長を実感したエピソードなど親の思いを手紙に綴ってもらう。

(イ) ゲストティーチャーには、阪神淡路大震災時に避難所で体験したこと、そして娘の名前の由来を語ってもらうようお願いする。

(ウ) 2次でまとめた自分の伝記と、幼少時の家族とのふれ合いの写真を準備させる。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	<p>1 最近の自分とお父さん・お母さんとの関係について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・勉強のことにうるさい。</li> <li>・勝手にぼくのかばんや机の中を見る。</li> <li>・わたしの着る服に文句を言う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思春期の入り口にさしかかった子ども達の、日常でのそれぞれの親への思いや不満等を出させる。</li> </ul>
展 開	<p>2 グループごとに、自分の伝記と自分の小さい頃の写真を見せ合い、思ったことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一緒に写っているお父さんもお母さんもうれしそうだ。</li> <li>・同じような写真ばかり何枚も撮っている。家族はわたしのことがかわいかったのだと思う。</li> </ul> <p>3 A児への母親からの手紙を聞く。</p> <p>4 A児の母親に当時の状況を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が写った写真を見ながら、自分が育ってきた今までの人生を振り返らせるとともに、それを写した両親や家族の自分への思いを想像させる。</li> <li>・A児を妊娠中に阪神・淡路大震災により自宅が倒壊し、避難所での厳しい生活を余儀なくされたA児の母親は、避難所の中で多くの人に助けられ、A児を無事出産することができた。そして、その感謝の思いを込め、A児に「愛」という名前を付けた。そのことを手紙に綴ってもらい、読み聞かせる。</li> </ul>

展 開	<p><b>5 A児の母親への質問や感想を出し合う。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Aちゃんは、みんなのおかげで生まれてこられたんだ。</li> <li>・Aちゃんが生まれたことは、みんなの喜びだったんだ。</li> <li>・Aちゃんのこと、今でもみんなが見ているのと同じかな。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                 みんなのお父さんはやお母さんは、君たちの誕生をどんな思いで迎え、どんな気持ちで今まで君たちを育ててきたのだろう。             </div>	
ま と め	<p><b>6 子どもたち一人ひとりの、両親からの手紙を読み、感想を出し合う。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼくのところの親も、Aちゃんと同じようにぼくの生まれたことを喜んでくれたんだ。</li> <li>・お母さんがわたしを産むまでこんなに気を遣って、大変なことをしたとは知りませんでした。</li> </ul> <p><b>7 両親の手紙に返事を書く。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの誕生も、A児と同じように喜びで迎えられ、両親にとってはかけがえない存在であることを感じ取らせる。</li> <li>・日頃の両親への不満が、本時の学習によってどのように変化したかを見つめさせながら、返事を書かせる。</li> </ul>

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

(ア) 子ども達は、すでに、幼少時の写真を見てそれを写した人の思いを考えさせる段階で、両親の自分への愛情を感じ取ったようであった。

(イ) 本気で話した言葉の力は人の心にしみ込むものであることを感じた。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○自分の命は多くの人の支えによって誕生し、周りの人の愛情に育まれて生かされてきたものであることに気がつきませんでしたか。	
感性を育む	○自分を大切にすることは、家族や周りの人の願いである事に気がつきませんでしたか。	
想像力の育成	○自分と同じように、友達の命も多くの人の支えと愛情によって育まれてきたものであり、大切にされなければならないものであることに気がつきませんでしたか。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

(4) 4次第3時

ア 本時のねらい

- (ア) 自分の将来の姿を想像し、その自分に手紙を書くことにより、自分の人生を肯定的にとらえ、困難にくじけず強く生きようとする態度を培う。
- (イ) 自分と同じように周りの人たちにも未来や夢があり、それは大切にされなければならないものであることに気づく。

イ 指導のポイント

- (ア) 感動の体験  
様々な出会いや選択、喜びや苦労などを経て、祖父母から両親へそして自分へとつながることによって現在があり、そして、それがまた未来へとつながっていくことに気づかせる。
- (イ) 感性を育む  
誰にも現在からつながる未来や夢があり、それは大切にされなければならないものであることに気づかせる。
- (ウ) 想像力の育成  
自分の将来は自分一人だけのものではなく、多くの人たちに支えられながら築いていくものであることを理解させる。

ウ 準備物 タイムカプセルにするための容器

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

- (ア) 子ども達には、事前に自分の将来の姿や夢を描き、文章化できる準備をさせておくとともに、両親の子どもの時の将来の夢を聞き取りさせておく。
- (イ) 教師自身も子どもの時にもっていた将来の夢を語れるように準備しておく。
- (ウ) タイムカプセルの容器、並びに埋設場所を用意しておく。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	<p><b>1 祖父母の伝記から、一生における今の自分の年齢の位置を確かめ、人生の長さを再確認する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まだこんな所か、先は長いなあ。</li> <li>・おじいさんたちは随分早くから働きはじめているな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・祖父母の人生の長さを感じ取らせるとともに、人生には様々な節目と出来事があることに気づかせる。</li> </ul>
展 開	<p><b>2 聞き取ってきた両親の子どもの時の夢を発表する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お父さんは漁師になりたかったけれど、家が漁師でなかったため、かなわなかった。</li> <li>・お父さんは町でサラリーマンをしたかったけれど、長男だから後をつがなければならず、農業をしている。</li> </ul> <p><b>3 自分の将来の夢を出し合う。</b></p> <p><b>4 夢を実現するために必要なことは何かを考える。</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>みんながもっている夢を実現するためにはどんなことが必要だと思いますか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夢と現実の差はありつつも、両親が一生懸命に働き今の暮らしを支える姿に思いを寄せることができるようにする。</li> </ul>

展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で努力する。</li> <li>・資格を得るために親に大学に行かせてもらう。</li> <li>・仕事を教えてくれる人がいる。</li> </ul> <p><b>5 20年後の自分の姿を想像し、32歳の自分に手紙を書く。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夢をかなえるためには、自分自身の努力とともに、多くの人たちの支えや協力が必要であることに気づかせる。</li> <li>・現在6年生の子ども達は20年後には32歳になっており、多くの者は職業人として、または、家庭人として責任ある立場で頑張っているはずなので、そんな将来の自分を肯定的に想像させ、手紙を書かせる。</li> </ul>
	<p>20年後の君たちは、そこに行き着くまでにはいろいろと大変なこともあったはずですが、でも、くじけずにそこまで行き着いた未来の自分に、励ましと褒め言葉でいっぱいの手紙を書こう。</p>	
まとめ	<p><b>6 書いた手紙を発表し、感想を話し合う。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼくはプロ野球の選手になろうとするがだめで、きっとサラリーマンをしている。</li> <li>・ぼくは英語を勉強して、外国で仕事をし、外国の人と結婚しているはず。</li> </ul> <p><b>7 タイムカプセルに手紙と一緒に入れる物品、20年後の再会時の約束等を確認する。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分だけでなく友だちにも未来や夢があり、だれの思いも大切にされなければならないことに気づかせる。</li> <li>・事前に指示したタイムカプセルに入れる物品、また、埋設時の注意等について確認をさせる。</li> </ul>

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

(ア) 子ども達は、将来の自分を現実的にとらえていた。

(イ) 子ども達は、夢をもっていながらも、現実的に生きてきた親の話を聞き、親に対し親近感を持つとともに、生きるということを少し感じ取ったようだ。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○様々な出会いや選択、困難や苦労を経て、祖父母から両親へ、そして自分へと繋がることによって現在があり、そして、未来へとつながっていくことを感じられましたか。	
感性を育む	○だれにでも未来や夢があり、それは大切にされなければならないものであることについて考えよう。	

想像力の育成	○自分の将来は自分一人だけのものではなく、多くの人たちの協力と支えが必要であることについて考えよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

## 10 実践を終えて

### (1) 先生の振り返り

A児の母親の手紙は、震災時の記憶がほとんどない子どもたちの心にしみ込んでいった。これは、手紙が力のある良いものであったことと、本校が震源地の学校であり、震災体験を風化させないよう取り組んだ学習が下地になっていると感じた。

また、子ども達は普段、自分が両親や家族の愛情に包まれていることを強く自覚するような機会は少ない。そのため、今回のように直接的な言葉で両親から愛情を表現されることは、どの子どもも気恥ずかしい中にも喜びがあふれていた。この思いは自己肯定感につながり、これからの自分の将来を肯定的に考え、見つめる土壌となるはずである。

現地点において子どもたちは全員、将来の自分に肯定的であり、手紙の中でも頑張った自分を認め、褒めることができており安心した。ただ、この思いが、成長するに従い自分の能力に不安を感じ、現実が大きいものであると感じてくる中でどう変化していくかが気になった。

実践をとおしての実感として、大人は常に子どもたちに長い人生には苦しいこともあるけれど、うれしいこともたくさんあり、生きることは素晴らしいことであるということを語ることが大切だと考える。

### (2) 今後の課題

子どもたちを他者の喜び、悲しみや苦しみに心から共感できるようにするためには、家族や友人、地域の人々などとのふれ合い、また自然体験などの直接体験、読書や音楽を介しての感動体験などを重ねさせ、感性を培っていく必要がある。感性が生まれていないのに命の大切さを理解させることは難しい。学校がどのようにそうした場や機会を設定していくかが課題となる。

本実践の中では、「死」をみつめて「命の尊さ」を考えるとという重いテーマを扱ったため、小学生には少々難しかったようである。このことは、計画段階から職員や保護者にも指摘されてはいたのだが、老人福祉施設での体験、大切な人を突然に奪われた人の悲しみ等を直に感じるにより、子どもたちの心の中に迫れるとの思いがあり進めた。子どもたちは命の大切さについて、それぞれに感じ取ってくれたように思うが、実践のねらいを達成するためには、老人福祉施設の職員や講師ともできるだけ打合せを行ってこちらの意向を伝えるなど、より綿密な準備が必要であろう。

また、アンケートや聞き取りをとおして、「死」は、子どもだけではなく保護者や地域の人たちにとっても現実感のないものであることを実感したが、子どもだけでなく、保護者や地域の人々の実態も充分踏まえることも重要な課題である。

## 11 参考・引用文献

- ・兵庫県教育委員会『「命の大切さ」を実感させる教育への提言』 2006

## 第3章 実践事例－中学校編－

**事例 1 心を伝え合う豊かなコミュニケーション  
（三田市立ゆりのき台中学校第2学年）**

## 中学校事例1

## 心を伝え合う豊かなコミュニケーション

三田市立ゆりのき台中学校第2学年

## 1 テーマ

心を伝え合う豊かなコミュニケーション

## 2 実践のねらい

- ・自分の気持ちや考えを適切に伝える力を育み、他者と関わり合う力を身につける。
- ・他者を認め、互いに尊重し合い、望ましい人間関係を築く力を身につける。

## 3 テーマ設定の理由

## (1) 本校の概要と児童生徒の実態

三田市は、人口増加率7年連続日本一の記録をもつ、急激に人口が増えた市である。創立15周年を迎えた本校は、ニュータウン開発により生まれた最後の中学校で、年々生徒数も増加の一途をたどり、現在970名（29学級）の生徒が在籍している大規模校である。

「キモイ」「キショイ」「うせろ」といった言葉を感情的に相手に投げつけたり、自分の気持ちや考えを適切に表現することが苦手な生徒も多く、友だちとの関わり合いの中で、傷つくケースも多い。こうした状況に危機感を持ち、自他の存在（命）を大切にする心を育む必要性を強く感じるようになった。そこで、他者と関わり合う力を高め、自分の気持ちや考えを相手に適切に伝える力を身につけ、望ましい人間関係を築く力を育成することをねらいとして本実践に取り組んだ。

## (2) 指導のポイント

## 【感動の体験】

- ・心がつながる体験をとおして、信頼し合うことの喜びを感じさせる。

## 【感性を育む】

- ・自分の素直な気持ちをきちんと伝え、それを受け止めてもらう満足感を感じさせる。

## 【想像力の育成】

- ・自分の素直な気持ちをもとに、相手の立場に立って相手の心情を考えさせる。

## 4 事前

## (1) 先生の準備

- ・コミュニケーションに関する研修会に参加し、自身を振り返ったり知識を広めたりする。
- ・学年会議の実施（週1回）をとおして、教員間の情報交換を図る。
- ・生徒の状況を把握し、生徒の実態に応じた関連資料の収集に努める。

## (2) 教育課程上の位置づけ

- ・道徳の授業
- ・特別活動
- ・総合的な学習の時間

## (3) 子どもたちの準備

- ・自尊感情を高めておく。

## (4) 家庭・地域との連携

## 5 本校の実践の特色（学習・体験の内容）

本校では、道徳・特別活動・総合的な学習の時間の3領域の時間を、教育課程の中で有機的に関連させている。特に、道徳と総合的な学習の時間とのタイアップを試みており、「トライやる・ウィーク」で学んだことを基盤に、「共生」から「進路」へと発展させている。これは、自

## 事例1 心を伝え合う豊かなコミュニケーション（三田市立ゆりのき台中学校第2学年）

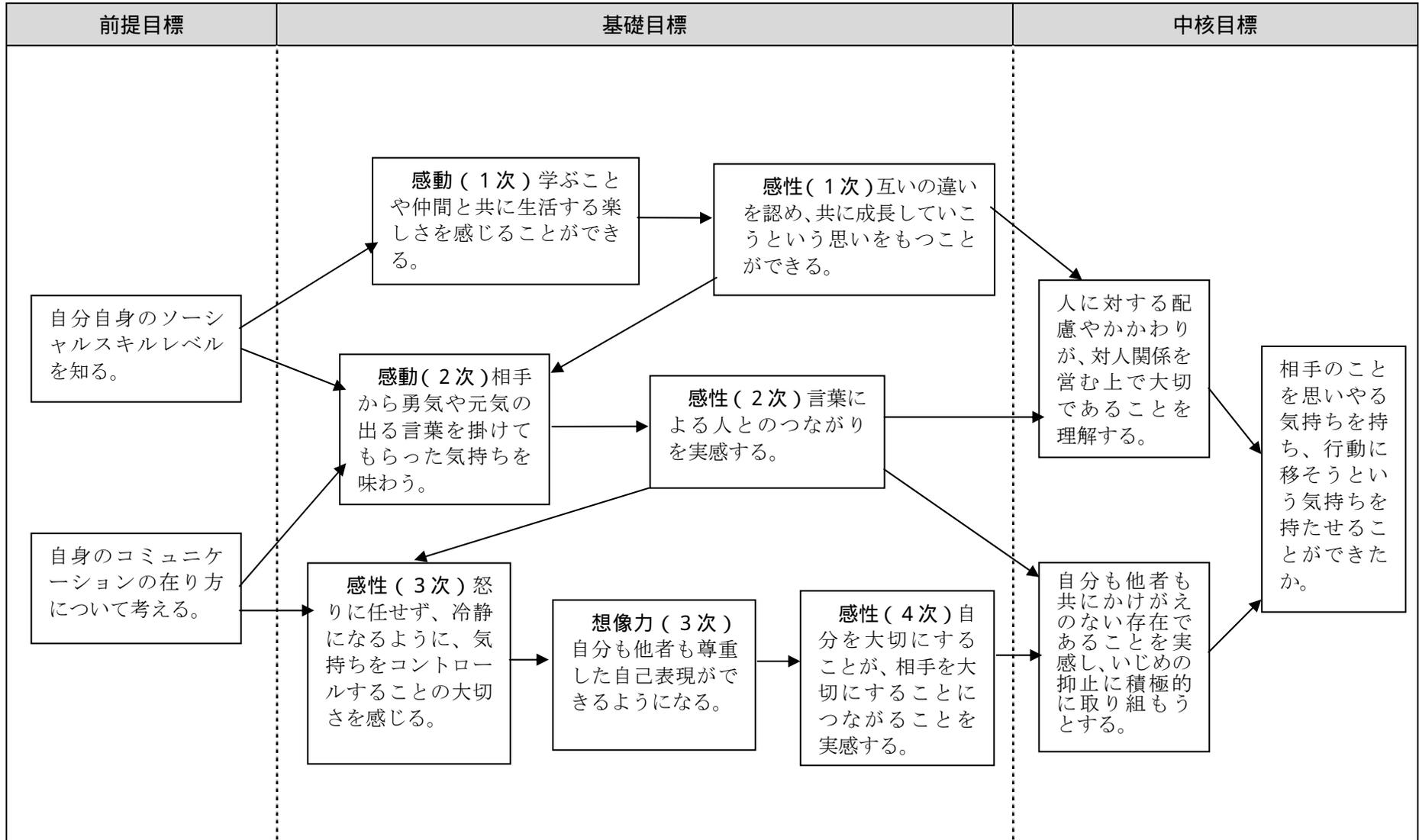
分の周りには多くの人が働いて社会を支えていることを生徒が理解し、自分の生き方を考えることへとつなげることをねらいとしている。

また、多くの人に支えられて生きている自分を実感することとおして、自分自身を大切にするとともに、周りの人も大切にすることを育てることをめざしている。

6 目標分析表

	学習活動	感動の体験	感性を育む	想像力の育成	先生の振り返り
事前	○日常の行動を振り返るアンケートに記入する。	○自分自身のスキルレベルを知る。	○自身のコミュニケーションの在り方について考える。	○スキルレベルを上げるために必要なことについて考える。	
1次 (4時間)	○望ましい集団づくりを体験する。 ○仲間意識を育てる体験をする。 ○学校で学ぶことの意義を考える。 ○「おしゃべりゲーム」をとおして、広い心で人の気持ちを理解し、自分と異なる立場を大切にしようとする態度を養う。	○学ぶことや仲間と共に生活する楽しさを感じることができる。 ○相手を知り、また自分を知ってもらうことの心地よさを実感する。	○互いの違いを認め、共に成長していこうという思いをもつことができる。 ○人には伝えたい人がいるから、伝えたいことがあるから、対話や会話が成立するのを感じる。	○世界中には、満足に学校に行けない子どもたちがいることを知り、その生活を想像することができる。 ○コミュニケーションを円滑にするために、何が必要であるかを考えることができる。	○班で協力することの意味を感じさせることができたか。 ○相手を知り、自分を知ってもらうことの心地よさを実感させることができたか。
2次 (3時間)	○人にはいろいろな感情があることを理解する。 ○「元気や勇気の出る言葉を掛け合おう」を行い、相手の感情に対して、自分の気持ちの伝え方を考える。 ○絵本「おれはティラノサウルスだ」を読んで、相手に気持ちを伝えることの意味を考える。	○周りの人の言動が、自分自身の感情にも影響を与えていることに気づく。 ○相手から勇気や元気の出る言葉を掛けてもらった気持ちを味わう。 ○2頭の恐竜の優しさに気づく。	○人には言葉だけでなく、行動にも感情があることを知る。 ○言葉による人とのつながりを実感する。 ○思いを伝えられなかった2頭の恐竜に共感する。	○表情画から、感情を想像できる。 ○生活の中のいろいろな場面で、相手に対する言葉の掛け方を考える。 ○自身の生活を振り返り、伝えられなかった言葉を思い起こすことができる。	○人には多様な感情があることに気づかせることができたか。 ○人からの言葉掛けで、気持ちに変化することを実感させることができたか。 ○言葉が人と人とのつながりに重要な働きをすることを感ぜさせることができたか。
3次 (2時間)	○ストレスマネジメントを体験する。 ○アサーション・トレーニングを行う。	○学校生活での様々な体験により引き起こされる感情を、自分でコントロールできることを実感できる。 ○多様な場면을体験することにより、様々な感じ方や見方ができることに気づく。	○怒りに任せず、冷静になるように、気持ちをコントロールすることの大切さを感じる。 ○人とのよい関係を築くためには、他者を思いやる気持ちが大切であることを感じる。	○自分の話し方が人からどのように受けとめられているか想像することができる。 ○自分も他者も尊重した自己表現ができるようになる。	○思いに任せる行為が、予期しない結果を招くことに気づかせることができたか。 ○感情に流されず、自分の気持ちをコントロールできることを実感させることができたか。
4次 (1時間)	○いじめる側の「軽い気持ち」が相手には「大きな苦しみ」となることを理解する。	○いじめられている生徒の辛さ、悲しさを知る。 ○相手のことを思いやる気持ちを持ち、行動に移そうという気持ちを持つことができる。	○自分を大切にすることが、相手を大切にすることにつながることを実感する。 ○人に対する配慮やかかわりが、対人関係を営む上で大切であることを理解する。	○自分も他者も共にかけがえのない存在であることを実感し、いじめの抑止に積極的に取り組もうとする。 ○いじめについて、これまでの自分を振り返ることから、いじめをなくすために、自分は何をすべきなのかを考える。	○自他のかけがえのなさを実感させることができたか。 ○相手のことを思いやる気持ちを持ち、行動に移そうという気持ちを持たせることができたか。

7 目標構造図



（凡例）①感性（1次）：「①」は指導の順路、「感性」は指導の観点が「感性を育む」、「（1次）」は学習活動が「1次」であることを示す。

8 事前の教員研修と指導の概要

(1) 事前の教員研修

研修内容	
a	○生徒の実態を把握する。 ・生徒のソーシャル・スキルに関する調査結果を分析する。
b	○集団作りや生徒の仲間意識を高めるための研修 ・構成的グループ・エンカウターの技法を活用
c	○コミュニケーション能力を高めるための研修 ・自分の気持ちや考えを相手に適切に伝える力、他者の気持ちを受け止める力を身につける。
d	○ストレスマネジメントについての研修 ・リラクゼーション、呼吸法等

(2) 指導の概要（全10時間）

	内 容	
事前	○日常の行動を振り返るアンケートを実施する。	教員研修 a
1次 (4時間)	1 構成的グループ・エンカウターを活用して望ましい集団作りと仲間意識を育てる。 ・「みんなで気持ちを合わせれば」 ・「私をととえと」	教員研修 b
	2 『世界がもし100人の村だったら』（池田香代子）を活用して、学校で学ぶことの意義を考えさせる。 ・学校に通うことによって、知識を身につけ、友だちを見つけ、多くの人に囲まれ、人として成長するとはどういうことかについて考える。	(1時間)
	3 「おしゃべりゲーム」を行う。 ・広い心で人の気持ちや立場を理解し、自分と異なる立場を大切にしようとする態度を養う。	(2時間)
2次 (3時間)	1 人にはいろいろな感情があることを理解する。 ・1つの表現にも、人それぞれ感じ方が異なることを知る。 ・感情を表現する方法を学習する。	教員研修 c
	2 「元気や勇気の出る言葉を掛け合おう」を行う。 ・言葉のかけ方について考える。 ・相手の感情に対して、自分の気持ちの伝え方を考える。	(1時間)
	3 絵本『おれはティラノサウルス』（宮西達也作・絵）を使って、相手に気持ちを伝えることの意味を考える。 ・お互いそれぞれ相手を思いやる気持ちがありながら、その思いを伝えられなかった2頭の恐竜の気持ちを考える。 ・相手に言葉を伝えることが人と人とをつなぐことに気づく。 ・相手を大切にすることについて考える。	(1時間)

事例1 心を伝え合う豊かなコミュニケーション（三田市立ゆりのき台中学校第2学年）

3次 (2時間)	<p>1 ストレスマネジメントを体験する。<span style="float: right;">(1時間)</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・怒り等の自己感情をコントロールする方法について知る。 (リラクゼーション、呼吸法等)</li> </ul> <p>2 アサーション・トレーニングを行う。<span style="float: right;">(1時間)</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の気持ちを尊重した言い方や行動について学ぶ。</li> <li>・人からの誘惑や仲間からのプレッシャーを断る言い方を身につける。 「断りにくいことを友だちから言われたら、あなたはどのようにしますか？」</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">                 教員研修 d             </div>
4次 (1時間)	<p>1 いじめの問題をとおり、自分も相手も大切な存在であることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が演じる「いじめ」をテーマにした劇を見る。</li> <li>・いじめられた生徒の気持ちをもとに、自分自身がどのようにいじめを考えていたかを振り返る。</li> <li>・新聞記事を読んで、いじめを許さない集団をつくるために、自分たちが何をすべきかを考える。</li> </ul>	
事後	<p>○振り返りカードに記入する。</p> <p>○日常の行動を振り返るアンケートを実施する。</p>	

9 指導実践

(1) 2次第1時

ア 本時のねらい

人にはいろいろな感情があるということを理解する。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

周りの人の言動が、自分自身の感情に影響を与えていることに気づかせる。

(イ) 感性を育む

言葉だけでなく、表情やしぐさ等の行動にも感情が込められていることを理解させる。

(ウ) 想像力の育成

会話などをとおして、他者の考えや思いを感じ取る力を身につけさせる。

ウ 準備物

表情絵ポスター「いま、どんなきもち？」（大阪人権教育研究協議会作成）、ワークシート、「授業を終えて」のプリント

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) 表情ポスター（大阪府人権教育研究協議会作成）活用にむけて話し合う。

(イ) 生徒の実態を把握し、感情の表現が苦手な生徒への関わりについて話し合う。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 昨日一日、心に残っている感情や気持ちとその理由を思い出す。	・何気なく過ごしている一日、意外と忘れていたり、こだわっている感情や気持ちがあったりすることに気づかせる。
展 開	2 感情を表現した1枚の表情画を見て、状況や感情を言葉で表現する（ワークシートに記入）	・1つの表現にもいろいろな感情があることに気づかせる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">表情画は、どのような時の、どんな気持ちなのかを考えてみよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活の試合で勝った時「わあー、やった！」</li> <li>・定期テストで勉強したことが出た時「ラッキー！」</li> <li>・誕生日に友だちからプレゼントをもらった時「もらっていいの？」</li> </ul>	・できるだけ多くの感情を表現する言葉を記入させて、感情の多様さに気づかせる。
	3 班内で発表する。	・他の人の意見を聞きながら、相違点や共通点を確認させる。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・困惑→定期テストで問題が全くできなかった時 「あーわからない。」</li> <li>・怒り→お母さんに勉強しなさいと言われた時 「わかってるよ、言うなよ。」</li> <li>・内気→みんなの前で自己紹介する時 「恥ずかしい、うまく言えるかな。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1つの感情表現も、人それぞれ受けとめ方が違うことに気づかせる。</li> <li>・様々な感情の表現があることに気づかせる。</li> </ul>

事例1 心を伝え合う豊かなコミュニケーション（三田市立ゆりのき台中学校第2学年）

まとめ	<p>4 「授業を終えて」のプリントに感想を記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一つの表情でも、人によっていろいろ違うということがわかった。</li> <li>・自分の生活を見直してみると、人に対していろんな感情を出していることがわかった。</li> <li>・みんなの意見を聞いていると、「おんなじ気持ち」「わかるわかる」という気がした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感じたことや思ったことを自由に書かせる。</li> </ul>
-----	---	---

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) ネガティブな感情を持つことが悪いことではなく、その感情をどう自分自身の中で受け入れるかを考えさせる必要があった。
- (イ) 人の感じ方にはいろいろあることを知るだけでなく、一歩進めて気持ちを聞いてもらうことの心地よさを感じさせる体験が必要であった。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○人にはいろいろな感情があることに気づきましたか。	
感性を育む	○一つの感情表現も、人それぞれ受けとめ方が違うことに気づきましたか。	
想像力の育成	○自分の感情に気づき、感情を言葉に置き換えることの大切さについて考えよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

# いま、どんなきもち？



ちえっ



えっへん



えっ！！



びびり



ほー



おんてやわん！



くそー



うきうき



ぐん



ホーッと



やったー！



ボーン



ほんわか



うじうじ



ムわっ！



いやあ...

大阪府人権教育研究協議会

(2) 2次第2時

ア 本時のねらい

相手に対して、適切な言葉で気持ちを伝えることの大切さに気づく。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

相手から勇気や元気の出る言葉をかけてもらった気持ちを味わわせる。

(イ) 感性を育む

言葉による人とのつながりを実感させる。

(ウ) 想像力の育成

生活の中でのいろいろな場面で、相手に対する言葉のかけ方を考えさせる。

ウ 準備物 ワークシート

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) コミュニケーション能力を高める研修

- ・ 廣岡秀一『朝日小学生新聞－言い方・聞き方学習室 こんなときどうする？』を使って、様々な言い方や聞き方によって受け止め方が変わることを体験する。

(イ) 前時の感想から、表現が苦手な生徒がどのように感じていたかを把握しておく。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 言葉が心に影響を与えることについて考える。	・「おいしい栄養のあるものを食べると心も体も元気が出るように、プラスの言葉をもらおうと元気が出てくるよね。反対に腐ったものを食べると、気分が悪くなって、戻したり下痢をして、体から一生懸命に出そうとするのと同じように、いやな言葉を食べるとそんな風になっちゃうよね。言葉も毎日食べてるんだよ。」
展 開	2 会話をとおして、受け止め方の違いについて考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     Aさんが「財布をなくした。」とBさんに言いました。Bさんは何と言ったでしょう？                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ いくら入っていたの？</li> <li>・ 泣きたいよね。</li> <li>・ 最悪だね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「どこで落としたの？」と財布のことについて言葉をかける場合があることに気づかせる。</li> <li>・ 「辛かったでしょう？」と財布を落とした人の気持ちに共感した言葉をかける場合があることに気づかせる。</li> <li>・ 言い方によって、受け止め方が異なることに気づかせる。</li> </ul>

事例1 心を伝え合う豊かなコミュニケーション（三田市立ゆりのき台中学校第2学年）

展 開	中間考査の結果が返ってきました。休み時間にCさんが机に顔をつけて、『はあーっ』と大きなためいきをつきました。その姿を見たあなたはどんな声をかけますか？	
	3 各自で考えた言葉を発表し合う。 ・もう、気にせんでもいいやん。 ・次がんばろう。 ・元気だそう。一緒に勉強しようか。  4 自分の心に響いた言葉をワークシートに記入する。  5 二人組になり、ワークシートを交換し、自分の心に響いた言葉について話し合う。	・Cさんの気持ちになって考えさせる。
ま と め	6 心に響いた言葉をかけてもらった時、自分がどんな気持ちになったかワークシートにまとめる。 ・落ち込んでいた気持ちが明るくなれた。 ・勇気をもらった。 ・頑張ろうとやる気が出てきた。 ・ホッとして安心した。	・言葉が心に与えるポジティブな側面を意識させる。

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) 生徒たちは言葉が心に与える影響を、自分自身の体験の中から思い起こし実感できたようだったが、言葉のもつ「魅力」についても感じさせる工夫が必要だった。
- (イ) 生徒にとって「ごめんね」を多用することで、他者との関わりをうまくやり過ごそうとしている自分に気づく機会となった。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○勇気や元気の出る言葉をかけてもらう体験をとおして、人の温かさを感じよう。	
感性を育む	○言葉をとおして、人とつながっていくことを感じよう。	
想像力の育成	○生活の中でのいろいろな場面で、相手に対する言葉のかけ方を考えよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

(3) 2次第3時

ア 本時のねらい

自分の気持ちや思いを伝えるためには、素直に自分の気持ちを言葉で表現をする必要があることを理解する。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

2頭の恐竜の優しさに気づかせる。

(イ) 感性を育む

思いを伝えられなかった2頭の恐竜に共感させる。

(ウ) 想像力の育成

自身の生活を振り返り、伝えられなかった言葉を考える。

ウ 準備物 絵本『おれはティラノサウルスだ』、ワークシート

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) 絵本『おれはティラノサウルスだ』を活用しての指導案の検討

・行為や行動の支えになっている心情をどのように読み取らせるかについて検討する。

(イ) 教員自身の、素直に言葉で表現できずに気持ちを伝えられなかった体験についてまとめておく。

オ 展開

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入	1 これまでの学習を振り返る。	・自分の心に響いた言葉を思い起こさせる。
展 開	2 絵本『おれはティラノサウルスだ』を読む。	・父親と母親がいかにかに子どものことを考えているかに気づかせる。
	3 言葉で気持ちを伝えられない2頭の恐竜の気持ちを考える。	・プテラノドンの子の優しさに気づかせる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;">                     プテラノドンの子はティラノサウルスと別れる時、どんな気持ちだったのだろう？                 </div>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ティラノサウルスが元気になってよかったな。</li> <li>・ティラノサウルスだと嘘をついてごめんね。</li> <li>・ティラノサウルスと本当は仲良くしたかった。</li> <li>・本当はこんなかたちで別れたくなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プテラノドンの子にとって、ティラノサウルスが、かけがえのない存在であることに気づかせる。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;">                     ティラノサウルスはどんな気持ちで追いかけたのだろう？                 </div>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼくのためにいろいろやってくれる君の優しさをわかっていたんだよ。</li> <li>・「ありがとう。」と言いたかったんだよ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ティラノサウルスのプテラノドンに対する思いの深さに気づかせる。</li> <li>・2頭の恐竜にどのようなアドバイスをすればよいかを考えさせる。</li> </ul>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;">                     2頭の恐竜は、どうすればよかったのだろうか？                 </div>		

事例1 心を伝え合う豊かなコミュニケーション（三田市立ゆりのき台中学校第2学年）

展 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本当はお互いの気持ちが通じ合っているのだから、言えばよかったのに。</li> <li>・お互いの気持ちは伝えてはじめてわかると思う。</li> </ul> <p>4 絵本と同じように、素直に言葉で表現できずに気持ちを伝えられなかったことを思い出し、言えなかった言葉を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちとちょっとしたことでけんかをしてしまい、気まづくなった時、「もうちょっと話そう。」と言えばよかった。</li> <li>・弟のものを黙って借りていた時、弟が一生懸命に探しているのに知らんふりをしてしまった。あの時素直に「ごめん」と言えばよかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の気持ちを素直に言葉で表現することにより、分かり合えることに気づかせる。</li> </ul>
ま と め	<p>5 コミュニケーションに必要なことは何かを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の中で人に対して言葉を掛ける時、何が大切かを考えさせる。</li> </ul>

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) 言葉で自分の気持ちを素直に伝えるためには、自分の気持ちを素直に表現する心地よさを感じさせる必要がある。3次のストレスマネジメント体験やアサーション・トレーニングをとおして実感させたい。
- (イ) 生徒の実態を十分に把握し、絵本と同じような辛い体験をした生徒への配慮が必要である。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○うまく自分の気持ちを伝えられなかった2頭の恐竜の優しさについて考えよう。	
感性を育む	○うまく自分の思いを伝えられなかった時のことを思い出し、今どのように感じますか。	
想像力の育成	○自分も相手も大切にしたい気持ちの伝え方について考えよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

(4) 4次第1時

ア 本時のねらい

いじめの深刻さを認識しないで、からかいやいたずら等の遊び感覚でいじめる風潮がある。「軽い気持ち」が相手には「大きな苦しみ」になることを理解する。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

- ・いじめられている生徒の辛さ、悲しさを理解させる。
- ・相手のことを思いやる気持ちを持ち、行動に移そうという気持ちを持たせる。

(イ) 感性を育む

- ・人に対する配慮や関わりが、対人関係を営む上で大切であることを理解させる。
- ・自分を大切にすることが、相手を大切にすることにつながることを実感させる。

(ウ) 想像力の育成

- ・いじめについて、これまでの自分を振り返ることから、いじめをなくすために、自分は何をするべきなのかを考えさせる。
- ・自分も他者も共にかげがえのない存在であることを実感し、いじめの抑止に積極的に取り組む姿勢を養う。

ウ 準備物 資料（朝日新聞 いじめられている君へ いじめている君へ 2006）

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

いじめに関する研修

- ・平成3年の東京地裁の判決文から、いじめをどうとらえるかを検討する。
- ・いじめに関する劇を練習し、BGMや小道具等の準備をする。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 本時のねらいと流れの説明を受ける。	・体育館で全員が話を聞く体勢が整うまで、静かに待つ等、教員がいじめに真剣に取り組むという姿勢を示す。
展 開	2 いじめについての劇を観る。  シーン(1) A子の教科書を借りたB子。なかなか返してくれないB子。授業の直前になってA子に返された教科書は破られていた。驚くA子。・・・  シーン(2) 休み時間。A子の傍に近づいたB子。B子はA子に「キショイ」「きもい」「うせろ」という言葉を投げかけて離れる。うなだれるA子。 シーン(3) いらいらしているB子。A子だけを残し、他の生徒を集めたB子は「A子だけ仲間はずれにしよう」、「口をきいたらだめだよ」とこそ話をする。 シーン(4) 国語の授業中。はさみを持っていないB子は、今まさに使おうとしているA子のはさみを強引に持っていく。B子は自分だけさっさと作品を仕上げてしまう。	・教師がいじめに関する劇を演じる。

展 開	<p>3 いじめられていたA子の心情を綴った作文を聴く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>このような事は、私の学校生活の中で日常茶飯事のように起こっています。私の近くで「キショ」「キモッ」「うわっ・・・」とか言ったり、私が何かで失敗したりすると異常に笑いたてます。一番いやだったのは、お気に入りのペンをたらいまわしにされた事。さらに、そのからかいは徐々に人数が増えていき、私のクラスでの居場所はなくなってきました。「嫌なことは嫌だと言えればいい。」といいます。そんなことは今の私にはできません。それこそいじめではないですか。学校へも行きづらくなってきています。</p> </div> <p>4 A子役を演じた教師の思いを聴く。</p> <p>5 劇を見た感想をワークシートに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・皆が誰かをいじめていたら、自分もみんなつられて一緒にその子をからかったりいじめたりしたかもしれないと思う・・・。いじめをしてはいけないのは当たり前だけれど、つられてやってしまういじめもあるので、自分の意志をしっかりと貫いていこうと思った。</li> <li>・今日の劇を観て、実は自分の周りにはかなりのいじめがあることに気づいた。「いじめはよくない。」と自分や友だちは言ってるけれど、やっぱりそれは口だけ。実際のいじめの解決は、皆が直そうという意志をもたない限りは、とても難しいと思う。でも自分は少しずつでもいじめを止めていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・BGMを背景にA子役の教師がいじめられた心情を切々と語る。</li> <li>・心情を語り終えると幕間に下がる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・練習を重ねるたびに苦しくなった心情を生徒に聞かせる。</li> </ul>
ま と め	<p>6 『朝日新聞 いじめられている君へ いじめている君へ 2006』を読み、いじめられている生徒、いじめている生徒、いじめを見ている生徒のそれぞれの気持ちを考え、感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめられている人に問題はない、というのはそのとおりだと思うけれど、少し前にテレビでやっていたいじめについての番組の中でアンケートをとっていて、いじめられていると言っていた人が多かった。いじめはなくなるのかな。</li> <li>・いじている人はよく、いじめる理由があるというが、いじめられている人には原因はないんじゃないかと思った。</li> <li>・自分がそういう場面に出合ったとしても、典子ちゃんを助けられるかどうかわからない。だけれど、はさみをとられた時、隣の子が「使う？」と聞いてくれるだけで、典子ちゃんは救われるということはわかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際にそれぞれの立場に自分が立ったとしたら、どのように感じるか、想像してみるように促す。</li> </ul>

事例1 心を伝え合う豊かなコミュニケーション（三田市立ゆりのき台中学校第2学年）

カ 先生の振り返り

自分が書いた作文を学級内で読むという取組の中で、「私は人のいやがることをしていた。」と述べた生徒がいた。作文にはいじめに対する思いが切々と語られていた。自分をしっかり見つめるよい機会となり、聞いている生徒にもその生徒の反省する気持ちが伝わったように感じた。それぞれの思いを伝えることのできる生徒とともに、その思いを受け止めることのできる生徒たちの育成に努めることの重要性を感じた。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標 (めあて)	自分の振り返り
感動の体験	○いじめられている生徒の気持ちをどのように受け止めましたか。	
感性を育む	○人に対する配慮やかかわりが、対人関係を営む上で大切であることを理解できたか。	
想像力の育成	○『いじめ』に出会った時、あなたはどうしますか？	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

## 10 実践を終えて

### (1) 先生の振り返り

「小学校の時からいじめを受けていた」という生徒の話聞き、いじめに関する内容を授業に取り入れる必要性を感じていた。しかし、いじめを直接取り上げた場合、生徒につらい思いを想起させてしまう可能性も考えられたので、人と人のつながりは本来温かいものであると感じさせる取組から進めたいと考えた。人と人がつながるためには、肯定的に自分自身をとらえること、相手の思いを共感的に聞くこと、自身の思いを素直に伝えること、感情をコントロールすること等が必要である。今回は言葉と感情に重点を置いたが、本実践をとおして、十分にコミュニケーション能力が育ったとは言い切れないが、コミュニケーションの大切さは感じてもらえたように思う。

本取組を進めている時、いじめによる自殺が連鎖的に起こり、文部科学省が「児童生徒のいじめ問題に関する都道府県・指定都市生徒指導担当課長緊急会議」(2006. 10. 19)を開催し、学校におけるいじめ問題に関する基本認識と取組のポイントを提示した。そこで、本校でも学年会議において、いじめを受けたことのある生徒に配慮しながら、直接いじめを授業で取り上げることを決めるとともに、一時間の授業だけでなく、日々の生活の中で教師はいじめは絶対に許さないという姿勢をもって指導にあたることを職員間で確認した。

### (2) 今後の課題

今後は、より一層コミュニケーション能力の育成を目指し、総合的な学習の時間、国語や英語等の教科とも関連させて取り組んでいく必要性を感じている。また、道徳の年間計画を再考し、お互いの生き方や価値観の違いを認め合い、お互いのよさを伸ばしながら、共通して守るべきものは遵守する態度を育てていきたいと考えている。

## 11 参考・引用文献

- ・秋田喜代美 編集『学校全体で取り組む 子どものチカラ向上 作戦 第3巻』 教育開発研究所 2002
- ・朝日新聞社『朝日新聞連載－いじめられている君へ・いじている君へー』
- ・安達昇 編集『みんなとの人間関係を豊かにする教材 55』小学館 1999
- ・廣岡秀一『朝日小学生新聞－言い方・聞き方学習教室』2006年7・8月
- ・星野欣生 著『人間関係づくりトレーニング』金子書房 2003
- ・廣岡秀一 『朝日小学生新聞－2006. 6. 3～8. 26 13回シリーズ』
- ・兵庫県立教育研修所 心の教育総合センター 『平成10年度心の教育授業実践研究』1999
- ・兵庫県立教育研修所 心の教育総合センター 『平成12・13年度心の教育授業実践研究 第3号』2002
- ・兵庫県立教育研修所 心の教育総合センター 『平成14年度心の教育授業実践研究 第5号 中学校編』2003
- ・池田香代子『世界がもし100人の村だったら』マガジンハウス 2001
- ・河合隼雄 編集『京都発しなやかな道徳教育』創元社 2005
- ・河村茂雄 著『グループ体験による学級育成プログラム中学校編』図書文化社 2001
- ・河村茂雄 著『教師のためのソーシャル・スキル』誠信書房 2002
- ・河村茂雄 編集『Q-Uによる学級経営スーパーバイズ・ガイド』図書文化社 2004
- ・國分康孝 総編集『構成的グループエンカウンター事典』図書文化社 2004
- ・宮西達也 『おれはティラノサウルスだ』ポプラ社 2006
- ・岡山県人権教育推進委員会『人権教育の充実に向けた取組を総合的に推進するための方策について』2005
- ・大阪府人権教育研究協議会 編『自分を生きる 21』 2003
- ・大阪府人権教育研究協議会 編『わたし出会い発見 5』 2004

**事例 2 防災教育をとおして実感させる命の大切さ  
(加古川市立山手中学校第 2 学年)**

## 中学校事例2

## 防災教育をとおして実感させる命の大切さ

加古川市立山手中学校第2学年

## 1 テーマ

防災教育をとおして実感させる命の大切さ－防災教育と命の教育との融合を図る－

## 2 実践のねらい

阪神淡路大震災の学習をとおして、防災の大切さや命の重みを実感するとともに、よりよい地域づくりのため、今自分たちにできることを考え、実践していける力を身につける。

## 3 テーマ設定の理由

## (1) 本校の概要と児童生徒の実態

本校は加古川市の北部に位置する創立60周年を越える歴史ある学校である。学校の周辺は、田園地帯が広がる自然豊かな地域で、学校周辺には福祉施設が多く、校門前には病院、北隣には知的障害者支援センター、東隣には保育園とデイ・ケアセンター等があり、それらの施設の協力を得て福祉教育に力をいれてきた。

生徒たちは、全般的には辛抱強く言われたことは最後までやり遂げようとするが、自分から進んで何かを成し遂げようとする自主性に乏しい面がある。

そこで、総合的な学習の時間を活用して班別自主学習に取り組み、阪神淡路大震災をテーマに、実体験としての大震災が薄れていく中、より深く防災の大切さを理解し、命の重みを実感できるようにするため、本実践に取り組んだ。

## (2) 指導のポイント

## 【感動の体験】

- ・被災された方から、震災当時の悲惨な様子や、その後の復興の苦労について教えていただき、震災の恐ろしさや命の重みを実感し、今生きていることの素晴らしさを感じさせる。
- ・救命救急法やボランティア体験を通して、生徒自身が人のために出来ることを実感させる。

## 【感性を育む】

- ・被災された方の話から、防災の大切さを知り、防災に関して自分たちにできることを考え実践する。その活動をとおして、「命の大切さ」「協力の大切さ」「地域とのつながりの大切さ」などを実感させる。

## 【想像力の育成】

- ・自分と周りの人たち（家族・友人・クラスメート・地域の方々等）との関係を見つめ、よりよい人間関係を築いていこうという意欲を持たせる。

## 4 事前

## (1) 先生の準備

- ・「人と防災未来館」への下見を含め、阪神淡路大震災について深く理解する。震災等で家族を亡くすなど、現在悲嘆にある子どもが存在する可能性があるため、個別に話を聞く時間を設定するなど、事前事後の個別指導を充実させる。

## (2) 教育課程上の位置づけ

- ・道徳
- ・総合的な学習の時間

## (3) 子どもたちの準備

- ・周りの人から阪神淡路大震災についての話を聞かせてもらう。

## (4) 家庭・地域との連携

- ・市民救命士の講習について加古川市消防署と打合せをする。

・ボランティア活動について、地域の役員や周辺の福祉施設職員と打合せ、協力依頼をする。

## 5 本校の実践の特色

本校では、総合的な学習の時間を使って、地域との交流を深めている。1年生では「高齢者との交流会」「地域を探る・地域を歩く」と題して、校区の歴史や文化遺産について地域の方々から教えていただいている。2年生ではその活動を広めて、「神戸での校外学習」、そして発展として「市民救命士講座」・「ボランティア活動」、3年生の長崎での修学旅行でも、地元の人との交流を持ち「長崎市内での総合学習」・「長崎市立淵中学校との交流会」を行っている。そして3年間のまとめとして、地域に住む「高齢者訪問」を行っている。

このように教室を出て、教師だけでなくいろんな方と出会い、いろんなことを吸収していこうという活動を生徒たちに体験させるように計画している。こうした活動をととして、初めて出会う方々に対しても、マナーを守り積極的に発言できる力、相手が気持ちよく話ができるように聞く力、教えていただいたことへの感謝の気持ちが持てる生徒に育ててくれることを願い計画を進めている。



1・17 山手のつどい



神戸校外学習



ボランティア活動

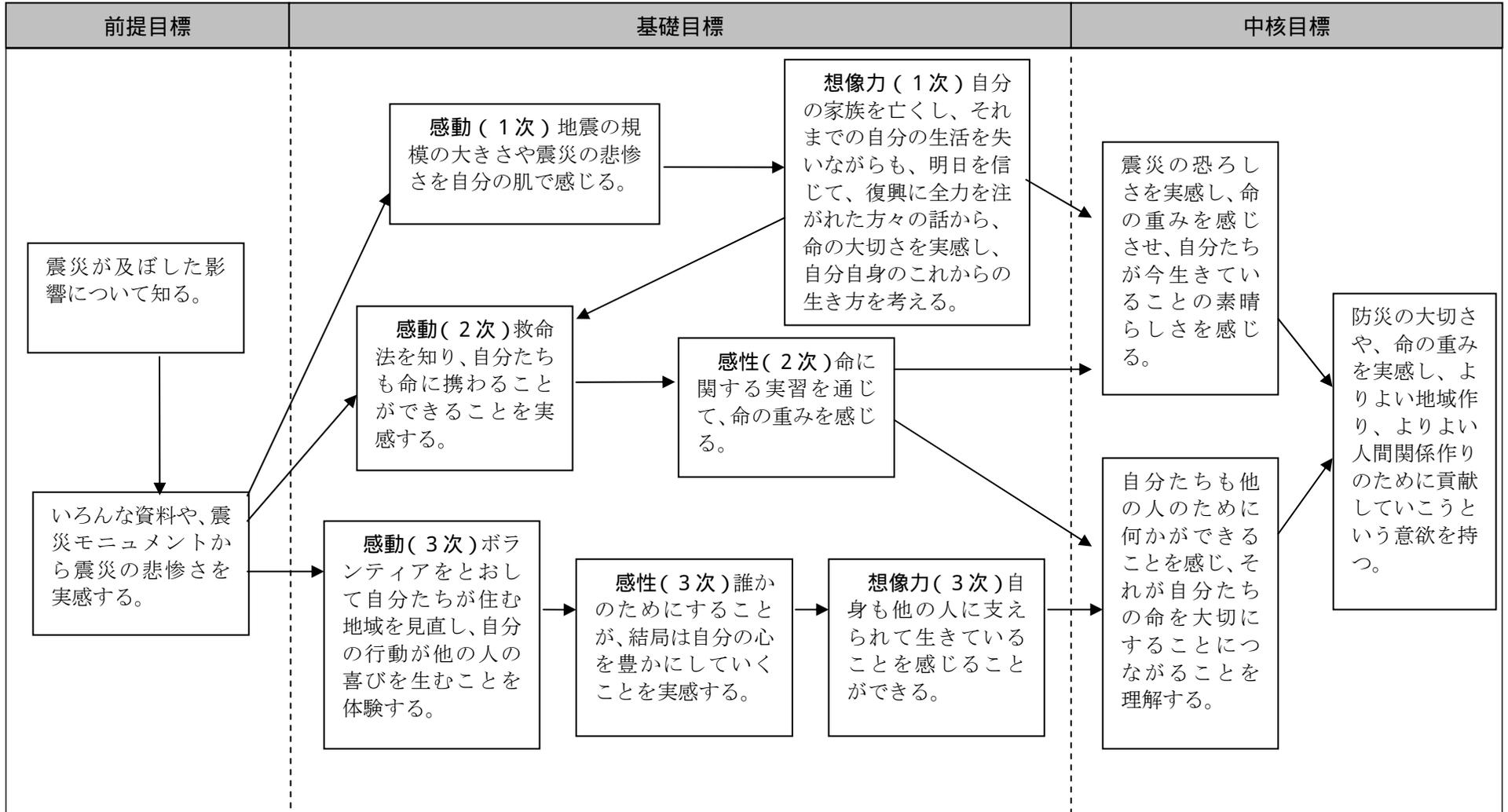


市民救命士講座

6 目標分析表

	学習活動	感動の体験	感性を育む	想像力の育成	先生の振り返り
事前	○『阪神大震災ノート 語り継ぎたい。命の尊さー生かそうあの日の教訓を』を読む。	○震災が及ぼした影響について知る。	○震災を体験した人から話を聞いておく。	○震災によって、人はどのような思いをしたのか考える。	
1次 (12時間)	○阪神淡路大震災で被災された方々の気持ちを考える。 ○震災モニュメントを見学し、被災された方からの「聞き取り体験」をする。 ○「聞き取り体験」をまとめ、学年発表会を行う。	○地震の規模の大きさや震災の悲惨さを自分の肌で感じる。 ○被災された方々の辛さや大変さを感じ取る。 ○震災に負けず、精一杯生きようとする事の大切さを実感する。	○身近な人を亡くした死の悲しみの深さを思いやり、命の重みについて考えることができる。	○自分の家族を亡くし、それまでの自分の生活を失いながらも、明日を信じて、復興に全力を注がれた方々の話から、命の大切さを実感し、自分自身のこれからの生き方を考える。 ○震災についての多様な受け止め方があることに気づく。	○震災の恐ろしさを実感し、被災された方々の気持ちを考えさせることができたか。 ○震災に負けず、精一杯生きようとする事の大切さを実感させることができたか。
2次 (4時間)	○自分たちに今できることを考える。 ○消防署の方から市民救命士の講習を受ける。	○止血法、人工呼吸、心臓マッサージの方法、AEDの使用法などを知り、自分たちも命に携わることができることを実感する。	○命に関する実習を通じて、命の重みを感じる。	○災害時や緊急時を想定し、その場面で困っている人のために何かをすればよいか考えることができる。	○救命実習の重要性を理解し命の重みを感じさせることができたか。 ○自分たちも命に携わることができると感じさせることができたか。
3次 (8時間)	○ボランティア体験をする。 ○ボランティア体験をまとめ、そこから得たもの、これからできることを考える。	○ボランティア体験を通して自分たちが住む地域を見直し、自分の行動が他の人の喜びを生むことを実感する。	○誰かのためにすることが、結局は自分の心を豊かにしていくことを実感する。	○自身も他の人に支えられて生きていることを感じることができる。	○他の人のために何かができることの喜びを感じさせることができたか。 ○自身も他の人に支えられて生きていることを感じさせることができたか。
4次 (5時間)	○今までの学習を振り返り、今後どのような取組ができるかを考える。 ○「1・17 山手のつどい」 ○「2年総合学習まとめの会」	○命の尊さ、思いやりの心、協力して生活することの大切さを実感する。 ○震災の恐ろしさを実感し、命の重みを感じさせ、自分たちが今生きていることの素晴らしさを感じる。	○震災をテーマにした壁画作りや、震災への思いを込めたランタン作りをとおして、命のかけがえのなさを実感する。	○自分たちも他の人のために何かができることを感じ、それが自分たちの命を大切にすることにつながることを理解する。	○防災の大切さや、命の重みを実感し、よりよい地域づくり、や人間関係づくりのために貢献していこうという意欲を持たせることができたか。

7 目標構造図



(凡例) ①感性(1次) : 「①」は指導の順路、「感性」は指導の観点が「感性を育む」、「(1次)」は学習活動が「1次」であることを示す。

## 8 事前の教員研修と指導の概要

### (1) 事前の教員研修

研修内容	
a	○大震災で被災された方の当時の様子を知るための研修 ・住田功一『阪神大震災ノート 語り継ぎたい。命の尊さー生かそうあの日の教訓を』を使って震災当時の様子、被災された人々の人生を知る。
b	○阪神淡路大震災についての研修 ・ビデオ「震度7・阪神大震災の教訓 ドキュメント神戸72時間の記録」（NHKビデオ）を鑑賞し、震災当時の様子を再確認する。
c	○大震災からの復興についての研修 ・岩波ジュニア新書「神戸ー震災をこえてきた街ガイド」を使って、復興の様子を知る。
d	○市民救命士についての研修 ・市民救命士のシステムや心肺蘇生法・AEDについて理解する。
e	○ボランティアについての研修1 ・『知っていますか？ボランティアと人権一問一答』（解放出版社）を使って、ボランティアについて理解する。
f	○ボランティアについての研修2 ・地域の福祉施設・病院・ボランティア団体等と連絡を取り、ボランティアの状況について知り、中学生がどのように参加できるかを考える。

### (2) 指導の概要（全29時間）

研修内容		
事前	○朝の読書の時間を活用 ・『阪神大震災ノート語り継ぎたい。命の尊さー生かそうあの日の教訓を』住田功一（一橋出版）を学年の生徒全員が読む。  (1時間)	教員研修 a
	○ 阪神淡路大震災について理解を深める。 1 震災当時の映像が収められているビデオ「震度7・阪神大震災の教訓 ドキュメント神戸72時間の記録」（NHK「震度7・阪神大震災の教訓」制作委員会）を鑑賞し、地震直後の被害状況・災害救助の模様について知る。  (1時間)  2 聞き取り調査に向けて、被災された方への質問事項を考える。 映像の中での、崩れた家や火災の様子から、その場に居られた方の気持ちを想像する。また、現在の様子を写真などで見せ、ここまでの復興の苦労を想像させる。（事前にこの質問事項を被災者の方に送っておき、それをもとに話をしていただく。）  (1時間)	教員研修 b
1次 (12時間)	3 神戸への校外学習 (1) 神戸三宮の東遊園地からメリケンパークの震災モニュメントを見学する。 (2) 「人と防災未来館」の見学をする。 (3) 神戸市長田区（神戸市長田区の新長田駅周辺・高速長田駅周辺）での震災に関する聞き取りを15グループに分かれて行う。  (6時間)	教員研修 c
	4 聞き取り体験をまとめる。 聞いたこと・見たこと・わかったこと・そこから感じたことなどに分けて、まず個人でまとめ、それをもとに班で発表できるように準備する。  (2時間)	
	5 学年で発表会を行う。 体育館で学年集会を開き、「聞き取り体験」で、教えていただいたこと、それに対して感じたことを班ごとに発表していくことをととして、各自が聞いたことを共通体験へと広げる。保護者も発表会に来ていただく。  (2時間)	

<p>2次 (4時間)</p>	<p>○中学生として自分たちが今できることを考える。</p> <p>1 1次の経験を通して、中学生として自分たちが今できることを考える。          ・実際に負傷した人を目の前にした時に、援助できる技術を身につける。          ・阪神淡路大震災で活躍したボランティアを自分たちでもやってみる。 (1時間)</p> <p>2 消防署のレスキュー隊の方に来ていただき、ビデオ等を使って講習を行う。 (1時間)</p> <p>3 クラスごとに、レスキュー隊の方から実技講習を受ける。(止血方法・人工呼吸・心臓マッサージ・AEDの使用法)の実技講習を受けて、市民救命士の資格を取得する。 (2時間)</p>	<p>教員研修 d</p>
<p>3次 (8時間)</p>	<p>○ボランティア体験をする。</p> <p>1 ボランティアについて理解する。          ・資料等をもとに、「ボランティアって何か?」「どんな活動があるのか?」「ボランティアをするうえでの注意点」について理解する。 (1時間)</p> <p>2 自分がやってみたいボランティアを考える。          ・「地域の清掃」「福祉施設や病院でのお手伝い」「高齢者宅訪問」「地域でボランティアを継続している方にインタビュー」「地域の問題点について地域の方にインタビュー」などの中から考える。 (1時間)</p> <p>3 ボランティアを行うために準備する。          ・自分たちで選択したボランティアごとのグループで、行きたい所に連絡をとり、具体的に持っていくもの、準備しておくものなどを考える。ボランティア活動場所での留意点の確認、挨拶、お礼の言葉等の練習をする。 (2時間)</p> <p>4 ボランティア体験をする。          ・平日の午後2時間を使って各グループで、安全に留意しながらボランティアを体験する。 (2時間)</p> <p>5 ボランティア体験をまとめる。 (1時間)</p> <p>6 クラスで、自分のボランティア体験について発表する。          ・ボランティア体験から得たもの・これからもできることを考える。 (1時間)</p>	<p>教員研修 e</p> <p>教員研修 f</p>
<p>4次 (5時間)</p>	<p>○活動を振り返る。</p> <p>1 これまでの活動を振り返る。          ・自分たちが成長できた点は何か。          ・今後どのような取り組みができるかを生徒一人ひとりが考える。 (1時間)</p> <p>2 「1・17山手のつどい」          ・1月17日に阪神淡路大震災で亡くなられた方を追悼するための全校集会を開き、これまでの学習の成果を発表する。          ・被災された神戸市長田区大正筋商店街副理事長伊東正和氏の講演を聞く。 (2時間)</p> <p>3 「2年総合学習のまとめの会」          ・住田功一さんの講演を聞く。 (2時間)</p>	
<p>事後</p>	<p>○自分の心の動きを振り返り、振り返りカードに記入する。</p>	

## 9 指導実践

### (1) 1次第3時

#### ア 本時のねらい

震災から立ち直った神戸の街の姿を実際に見るとともに、被災から復興に努力された方の話を聞くことをとおして、命の大切さを実感し自分たちの生き方を考えさせる。

#### イ 指導のポイント

##### (ア) 感動の体験

神戸への校外学習をとおして、震災の凄まじさや悲惨さを自分の肌で感じ取らせる。

##### (イ) 感性を育む

震災モニュメントの見学では、東遊園地の「希望の灯り」「慰霊のモニュメント」、阪神高速の下に残っている高速道路が倒壊した跡、メリケン波止場に残る壊れた岸壁の姿から、地震の恐ろしさや被災された人々の苦勞を感じ取らせる。

##### (ウ) 想像力の育成

地震によって、自分の家族を亡くされ、それまでの自分の生活を失いながらも、明日を信じて、復興に全力を注がれた方々の話から、命の大切さを実感し、自分自身のこれからの生き方を考えさせる。

#### ウ 準備物 デジタルカメラ、インタビューカード

#### エ 先生の準備（事前の打合せと教員研修）

##### (ア) 被災者の方で、中学生に話をして下さるボランティアの方（神戸市長田区）を探す。

「教師の事前研修C」で紹介した「神戸―震災をこえきた街ガイド」の本を片手に、そこに紹介されている被災者の方を探し、中学生に震災の話をしていただけないかと話してまわる。本を持っていった効果か、時間の都合がつけば快く引き受けてくださった。また、そこから「こんな方も居られます。」と、紹介もしていただき広がりを見せた。ただ15人のボランティアを探し、目的を理解してもらうためには5回ぐらいの下見・打ち合わせが必要であった。

##### (イ) 神戸三宮東遊園地からメリケン波止場の下見をし、生徒たちが学べる内容を把握する。

三宮の東遊園地で下見をしている時に、神戸市役所24階「協働と参画のプラットホーム」に「神戸観光ボランティア」というのがあり、震災のモニュメントの説明をして下さるとい話を聞き、連絡を取り案内してもらうことにする。

その際、「協働と参画のプラットホーム」の方に、「震災で生き埋めになり助かった人の何割が、自衛隊や消防士に助けられたかわかりますか？」と聞かれた。答えは「2割以下ですよ。8割以上は地域の人たちが助けたんです。防災には地域の協力が一番大切なのです。」という話を教えていただき、地域の連携の大切さを改めて考えさせられた。

##### (ウ) 「人と防災未来館」の下見をして、生徒たちが学べる内容を把握する。

##### (エ) 移動するための交通機関・時間・経路の確認をする。

##### (オ) 被災者のボランティアの方へ、生徒たちが質問したい内容を送付する。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	<p>1 学校 加古川駅までバスで移動する。</p> <p>2 JR で三宮へ移動する。</p>	
展 開	<p>3 東遊園地まで教師が引率し、そこから「神戸ボランティア」から、モニュメントの説明を聞きながら、メリケンパークへ向かう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>たった数秒の揺れでこんなにも人が死ぬのかと思った。ぼくはこれを見て『命の尊さ』を学ばなくちゃいけないと思いました。</li> <li>希望の灯りは、きれいに磨かれていて、どれほど大切なものなのかが、わかりました。</li> </ul> <p>4 「人と防災未来館」の見学をする。</p> <p>5 聞き取り体験をする。</p> <p>(1) グループごと（15グループ）に、自分たちが話を聞くボランティアがいる所に行き話を聞く。（神戸市長田区）</p> <p>(2) 2班（約12名）ごとに分かれて、ボランティアの方を訪問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>こうやって生活できていることに感謝の気持ちを持って、一日一日を大切に生きたい。</li> <li>震災が残してくれたもの、それは人々の優しさや勇気でした。1人でも多くの命を救いたいという気持ちがみんなの心をひとつにしたことがよくわかった。教えていただいた「命の尊さ」を伝えていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3班（約18人）に1人のボランティアの方について案内していただく。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>4Fの「1・17シアター」から見学させる。</li> <li>教師はポイントに分かれて生徒の動きを確認。</li> </ul>
ま と め	<p>6 終了した班からバスの待機場所に向かう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>聞き取った内容のまとめを次時までにしておくように伝える。</li> </ul>

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) 三宮の東遊園地の「希望の灯り」や「慰霊のモニュメント」は生徒に大きなインパクトを与えた。
- (イ) 実際の被災者の方の話はそれぞれにドラマがあり、学年での発表会では、15のグループそれぞれに内容も濃く、大変意味深いものになった。生徒たちも感慨深い感想を多く寄せてくれた。
- (ウ) 何度も神戸市長田区に下見に出かけ、被災者の方からいろんな話を聞かせていただいたことは教師にとっても、大変有益であった。特に、「協働と参画のプラットホーム」の方に聞いた「助け合える地域づくり」は、学年の総合で取り扱ってきたテーマとも合致するものでもあり、もっと深く取り組んで生きたいという意欲へとつながった。この経

事例2 防災教育をととして実感させる命の大切さ（加古川市立山手中学校2年生）

験をこれだけで終わらせずに、次にひろげていきたいと思わせるものに出会えたように感じた。



（聞き取り体験の様子）

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		年 組 名 前 ( )
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○地震の規模の大きさや震災の悲惨さを自分の肌で感じる事ができたか。	
感性を育む	○身近な人を亡くした死の悲しみの深さを思いやり、命の重みについて考えよう。	
想像力の育成	○復興に全力を注がれた方々の話から、命の大切さを実感し、自分自身のこれからの生き方を考えよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

(2) 3次第7時

ア 本時のねらい

阪神淡路大震災でのボランティアの活躍が、日本でのボランティア観を変え 1995 年が「ボランティア元年」と呼ばれるようになった。生徒たちは震災の被災者の方から、ボランティアの大切さを教えていただき、自分もやってみたい気持ちを持った。ボランティア体験をとおして、自分たちも他の人のために何かができることを実感し、それがみんなの命を大切にすることにつながることを実感させる。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

地域の清掃、福祉施設・病院の訪問、高齢者宅訪問などの体験をとおして、自分たちが住む地域を見直し、自分の行動が他の人の喜びを生むことを体験させる。

(イ) 感性を育む

誰かのためにすることが、結局は自分の心を豊かにしていくことを実感させる。

(ウ) 想像力の育成

自身も他の人に支えられて生きていることを感じさせる。

ウ 準備物 なし

エ 先生の準備 (事前の打合せと教員研修)

生徒たちの受け入れ施設との綿密な打合せをする。

- ・ボランティア体験の内容の確認
- ・受け入れ人数の確認
- ・活動場所の確認

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 本時の授業の流れを理解する。	・ボランティアをしたグループごとに、自分たちが体験したこと・感想などを順番に発表させる。
展 開	2 グループでボランティア体験について発表する。 (1) 地域の清掃班: 12ヶ所に分かれて実施 ・ボランティアは、自分にプラスになる。 ・するほうもされるほうもすっきりした気分になる。 ・ボランティアは楽しい。 (2) 福祉施設・病院訪問班: 高齢者施設6ヶ所、病院1ヶ所で実施 ・互いの笑顔で、嬉しい気持ちになれた。 ・心のこもった「ありがとう」の言葉をもらえて疲れが吹っ飛んだ。 (3) 高齢者宅訪問: 11名の高齢者を訪問 ・小さなボランティアでも、喜んでもらった。 (4) 地域でボランティア活動をしている方を訪問した班 ・小さなことも自分からすると大きなボランティアになる。	・人に奉仕して、喜んでもらうことは自分自身の喜びになり、自分自身の成長につながっていくものであることを、体験をとおして、自然と感じさせたい。 ・ボランティアを長年続けておられる方も、相手の笑顔や優しい気持ちが得られるから続けておられることをおさえる。 ・ボランティアは、肩肘張ったものではなく、少しでも人のためになろうという気持ちで、できる時にできる事をするものである。そのことが結局自分のためにもなることをおさえる。

展 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の気持ちを考えてから行動すること。</li> <li>・自分にできることを、自分ができるときにすればいい。</li> </ul> <p>(5) 地域の問題点としてわかったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみのポイ捨て。</li> <li>・犬のふんの放置。</li> <li>・自転車通学生が広がりすぎて困る。</li> <li>・地域活動に参加する人が減ってきた。</li> <li>・若い人が減り、祭りなどの伝統が衰退。</li> <li>・一人暮らしのお年寄りが増えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の問題点を知り、自分たちのできることから実践していけば、この地域がもっといい地域になっていくこと、一人ひとりがそういう力を持っていることに気づかせる。</li> </ul>
ま と め	<p><b>3 地域の問題を知り、今回のボランティア体験を発展させて出来ることを考える。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア体験で終わることなく、ボランティアを続けていくことの大切さをおさえる。</li> </ul>

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) 実際にボランティアを体験することによって、生徒たちはいろんなことが学べたように思う。生徒の感想として、「とてもすがすがしい気分になりました。ボランティアで大きなものを得ることができました。」「一番感じたことは、相手の気持ちを考えて行動することの大切さです。日頃の生活でも気をつけていきたい」などがあつた。
- (イ) しかし、一回だけの体験で、本当のボランティアの意味は理解できないであろう。これからも、このような体験を継続していくことが必要である。だが、第1学年の生徒全員を動かすため準備には教師側の多大な労力が必要であるし、中学生も部活動・塾と忙しい生活をおくっているものが多数であるので、活動を継続していくためには時間・活動内容等の調節が大変難しいのが実情である。
- (ウ) 中学生が気軽に参加できるボランティア、そういうものを紹介してくれる行政側の協力が必要ではないだろうか。小中学生の頃から身近にボランティアを感じることで、本当のボランティア精神を根付かせることになると思う。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
		年 組 名 前 ( )
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○ボランティア体験をとおして、自分たちが住む地域を見直し、自分の行動が他の人の喜びを生むことを実感できたか。	
感性を育む	○「誰かのため」が「みんなのため」につながることを実感できたか。	
想像力の育成	○自身も他の人に支えられて生きていることを感じる事ができたか。	

全体を振り返っての感想：

先生から：

家庭から：



(地域清掃 1)



(地域清掃 2)



(高齢者宅訪問)



(病院訪問)

## (3) 4次第2時

## ア 本時のねらい

兵庫県で起こった阪神・淡路大震災を風化させることなく、そこから学んだ「命の尊さ・思いやりの心・協力して生活することの大切さ」等を確認する。

## イ 指導のポイント

## (ア) 感動の体験

震災を体験し、店が全焼し、路上で毛布をかぶりながら商売を再開するなど、いろいろな困難を乗り越えてこられた伊東さんの講演を聞く。

## (イ) 感性を育む

会場の体育館を飾るための、震災をテーマにした壁画作りや、震災への思いを込めたランタン作りを通して、防災への思いを強くする。

## (ウ) 想像力の育成

実際に自分たちがそういう状況に陥ったら、どのような行動が取れるかを考える。

## ウ 準備等

- ① ビッグアート1年（震災で亡くなられた人々の顔）  
3年（震災をテーマにクラスごとに作成した壁画） —（1・3年職員・生徒）
- ② ランプシェード2年 —（2年職員・生徒）
- ③ キャンドルパネル・キャンドル・希望の灯り —（2年職員・生徒）
- ④ 体育館準備（椅子・看板・マイク・防災学習の写真） —（2年職員・生徒）
- ⑤ 進行・司会・お礼の言葉・花束・講師紹介 —（生徒会）
- ⑥ 2年生の防災学習の取り組みの発表原稿 —（2年生徒・職員）
- ⑦ 誓いの言葉 —（学年代表生徒・各学年防災担当教師）

## エ プログラム

- ① 1・3年生の入場
- ② 2年生の入場（希望の灯りを分灯しながら、大きなキャンドルアート「1・17」を作る）
- ③ 開会のことば（生徒会）
- ④ 2年生の防災学習の発表（2年生代表）
- ⑤ 講師の紹介（生徒会）
- ⑥ 講演「大正筋商店街副理事長 伊東正和さん－出会い・助け合い・愛」（約50分）
- ⑦ お礼のことば（生徒会）・花束贈呈（生徒会）
- ⑧ 誓いのことば（1・2・3年生代表）
- ⑨ 閉会のことば（生徒会）

## オ 先生の振り返り

(ア) 今年の「山手のつどい」は、地域の方にも地区の回覧板でお知らせしたり、公民館の協力もあって、一般の方も60名参加して下さる盛会となった。体育館の壁面を飾った1・3年生が制作したビッグアート、2年生のランプシェード、ともに力作で会場を盛り上げた。

(イ) 伊藤さんの講演はとても感動的で、生徒たちの感想も「涙が出ました。伊東さんの話を聞いて本当に良かったです。毎日、毎日感謝しつつ、大切に生きていきたいです。」「私の大切な人はたくさんいます。そんな人たちが居てくれたから私はいる。本当にありがとうございます！そう思いました。」などの意見があった。学校そして地域も含めて、災害の恐ろしさを実感し、そこから学んだものを語り継いでいこうという良い機会になった。

(ウ) 震災から10年以上がたち、新しく入学してくる中学生は、全く震災を知らない子どもたちも増えてくる。「山手のつどい」も形を考えながら、震災の記憶を時代とともに風化させることなく、震災の与えた教訓「命の尊さ・思いやりの心・協力して生活することの大切さ」を伝えていかなければいけないという思いを新たにしたい。

事例2 防災教育をとおして実感させる命の大切さ（加古川市立山手中学校2年生）



「1・17山手のつどい」で作った、壁画とランプシェード

カ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標 (めあて)	自分の振り返り
感動の体験	○阪神・淡路大震災の教訓「命の尊さ・思いやりの心・協力して生活することの大切さ」について考えよう。	
感性を育む	○会場の体育館を飾るための、震災をテーマにした壁画作りや、震災への思いを込めたランタン作りをとおして、防災について考えよう。	
想像力の育成	○実際に自分たちが震災等の状況に陥ったら、どのような行動が取れるか、またどのような考えを持てるかを考えよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

## 10 実践を終えて

### (1) 先生の振り返り

一連の学習を終えての生徒の感想として、

- ・「人の気持ちが考えられるようになり、命の大切さを実感できたと思う。人の役に立つのは気持ちのいいことだとわかりました。」
- ・「普段できないような体験ができ、そのような環境を作ってくれた方々への感謝の気持ちが持てるようになりました。また、「命」について多くのことを学びました。今、こうして生きていられるのも周りの人のおかげだなあと、感謝する気持ちが持てました。」
- ・「私たちがいろんな場所でいろんな場所でいろんな事を学んでいるのは、きっと全て命につながっているのだろう。いろんな奇跡を、良い方向につなげるために学習している。何もせず、ただ生きるより、何かを残し、何かを受け取り、何かを生み出していける人生を過ごすための学習をどんどんとしたい。」などがあつた。

このような感想を生徒が書くということは、教師にとってこのうえない喜びである。ここまで考えている生徒が存在するだけで素晴らしいことだと思う。生徒たちがこのように考えた理由は、「体験」である。机上の学習では、一教師の言葉だけでは、ここまで考えられることはできないであろう。私自身も、この学習のために阪神淡路大震災の被災者の方、消防署のレスキュー隊の方、地域でボランティアを続けておられる方や福祉施設の方々など、いろんな人に出会い、いろんな話を聞かせていただいたが、それらはすべて自分自身の宝物になったと思う。「命の大切さを実感する」というのは、言い換えれば「生きていることの素晴らしさを実感する」ということではないだろうか。いろんな人との新しい出会い、そして自分の知らなかった世界を教えてもらえる体験、それこそが「生きていることの素晴らしさ」。バーチャルな世界を得意とする今の中学生にとって、生の体験、これこそが「生きていることの実感」つまり、「命の大切さ」の実感の根本だと思う。

### (2) 今後の課題

#### ア 授業実践上の課題

聞き取り体験等、教師以外の方に教えていただく場面が多いので、生徒たちの「聞く姿勢」「質問する方法」「聞きながら記録する方法」の育成を平素から継続的にしておく必要がある。

#### イ 家庭・地域との連携についての課題

特にボランティア体験は、地域の協力がなければ全く前に進まない。どこで、どのような地域の協力を得たらいいのか、最初は全く分からず、地域の公民館・市の福祉会館内にあるボランティアセンターなどに相談し、地域の連合町内会長、町内会長、老人会の会長、民生委員などの御協力で進めることができた。学校を出て地域の多くの方々と交流する粘り強さと時間をかけることが求められると言えるだろう。そして地域の好意的な協力が不可欠である。

#### ウ 学校の組織運営上の課題

新しいことにチャレンジするには、学校全体の共通理解と支援がなければ、絶対に進まない。そして、一緒に計画を進めていく同じ学年担当教師集団のコンセンサスがどこまで得られるかがその計画の質を決めていくと言っても過言ではない。

## 11 参考・引用文献

- ・早瀬昇・牧口明『知っていますか？ボランティアと人権一問一答』解放出版社 1997
- ・島田誠・森栗茂一『神戸一震災をこえてきた街ガイド』岩波ジュニア新書 2004
- ・住田功一『阪神大震災ノート 語り継ぎたい。命の尊さ』一橋出版 2004
- ・ビデオ「震度7・阪神大震災の教訓 ドキュメント神戸72時間の記録」(NHKビデオ)

事例3 つながり支えあう命の重み  
生・老・病・死をとおしてー  
(三木市立三木東中学校第1・3学年)

## 中学校事例3

## つながり支えあう命の重み－生・老・病・死をとおして－

三木市立三木東中学校第1・3学年

## 1 テーマ

つながり支え合う命の重み－生・老・病・死をとおして－

## 2 実践のねらい

誕生の喜びと感動から伝わる命のいとおしさ、死を見つめてわかるかけがえのない命、つながり、支え合う命の重みを通して、自他の命を尊重する態度を養う。

## 3 テーマ設定の理由

## (1) 本校の概要と児童生徒の実態

本校は三木市のほぼ北東部に位置し、豊かな自然と古い歴史に囲まれた町である。全校生は283名、創立（平成元年4月）時は614名であったが、少子化に伴い生徒数は年々減少の傾向にある。学校周辺には三木市役所、三木市文化会館、三木市教育センター、県立三木山森林公園、県立三木東高校等があり、学究の拠点となる一方、自然探求にも恵まれているが、少子化、都市化、情報化等の社会の急激な変化は、子どもたちに様々な影響を与えている。中でも、連帯感の希薄化、子どもたちの遊びの形態の変化は、人間関係づくりの困難さがかかわせるものである。また、日常生活の中では、出産や死等、命に関わる大切な場面に触れる機会が失われ、人の命の有限性やかけがえのなさを実感としてとらえにくく、命の重みに対する感受性が乏しくなっている。以前は起こり得なかったような事件が毎日のように報道され、本校においても「命の大切さ」を実感として受け止められない態度を示す生徒が目につくようになってきている。「誰もの命が地球よりも重い」命の重みを実感としてとらえさせるべくテーマを設定した。

## (2) 指導のポイント

## 【感動の体験】

・「命って何だろう？」「命ってどこにあるの？」命の誕生から育まれてきた命、自己を見つめ自分を好きになるために自尊感情を育む体験を通して、つながり、支え合う命の重みを実感させる。

## 【感性を育む】

・「大人になるって何なの？」育まれた命の大切さを自分が生まれる前の父母の物語をたどることで、「生と死」の意味を実感させる。

## 【想像力の育成】

・「命を学んだあの時の体験・授業が私を変容させた」と子どもたちに「生きる」ことの意味を考えさせる。

・老病死の現実にふれることにより、「命の声に耳をすます」とはどんなことかを考えさせる。

## 4 事前

## (1) 先生の準備

- ・子どもの家庭環境や友だち関係等を把握する。
- ・STAIテスト（状態・特性不安テスト）及び交流分析「エゴグラム」による生徒の個々の状況を把握する。
- ・家庭や地域社会に学習の趣旨を伝え、様々な取組への協力を依頼する。

## (2) 教育課程上の位置づけ

- ・国語
- ・理科
- ・音楽
- ・美術

- ・保健体育
- ・技術・家庭
- ・外国語
- ・道徳
- ・特別活動
- ・総合的な学習の時間

### (3) 子どもたちの準備

- ・情報機器活用の技術を習得する。（技術・家庭科、総合的な学習の時間等を利用したホームページの利用と作成）
- ・地域の防犯マップ（地域の駆け込み110番等）を確認する。
- ・「自分史新聞づくり」のための情報・資料を集めておく。
- ・トライやる・ウィークでの体験についてまとめておく。（第3学年）

### (4) 家庭・地域との連携

- ・学習に対する理解と協力を得る（オープンスクール参加への声掛け、毎月の交通指導等）
- ・地域の警察、補導員、民生委員との定期的な情報交換を行い連携を図る。
- ・保護者を対象とした命の学習についての講演会を実施する。
- ・一回限りの取組で終わらないように、デイサービスセンター等で継続的な体験活動を行う。

## 5 本校の実践の特色（学習・体験の内容）

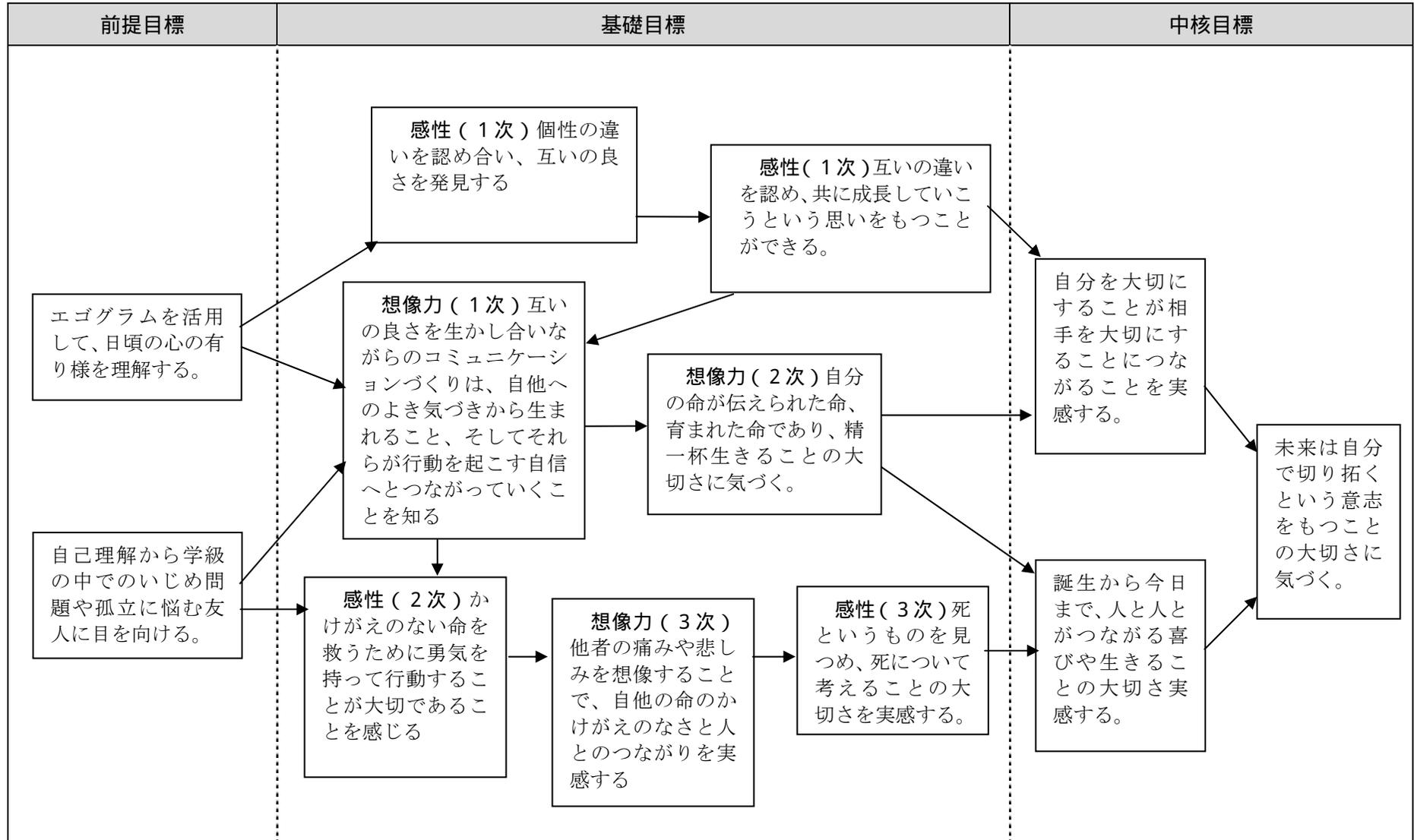
本校では様々な学習を命の大切さと直結させた取組を念頭に置き、また「ふるさとの良さを発見」をサブテーマに以下の取組を進めている。

- ① 毎月3回の定期的な早朝交通安全指導
- ② 自尊感情の育成をめざした生徒会主催の挨拶運動の継続的な実践
- ③ 生徒指導部と教育相談部の連携による定期的なカウンセリングウィークの実施（今年度はエゴグラムを活用した全校生徒対象のカウンセリングウィーク）
- ④ 救命救急法の実施（1年生対象）と防災学習により自他の命を守る体験学習及び一斉道徳学習の実施
- ⑤ 食育をテーマにした校内での農園活動を通し、土を育て作物を栽培するまでの体験学習。
- ⑥ 人権尊重の大切さを訴える人権弁論大会及び親子人権講演会の実施
- ⑦ 健康教育の立場から3年生対象の性教育の実施
- ⑧ 地域に開かれた学校づくり及び小中高連携のオープンスクール実施
- ⑨ 教育講演会の実施（今年度はコウノトリの再生から人と自然の共生について）
- ⑩ 環境教育を充実させるために、また、絶滅を危惧される蝶の復活のために地域のいきいき応援団、ふるさとの先輩方を講師として、ギフチョウ復活を助けるヒメカンアオイの植栽
- ⑪ 日本赤十字社との連携による継続的な年末の募金活動（車椅子の贈呈）

6 目標分析表

	学習活動	感動の体験	感性を育む	想像力の育成	先生の振り返り
事前	○生活日誌を2日間記入する。	○日々の生活リズムを再認識する。	○一日の生活スタイルのバランスの大切さに目を向ける。	○「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣が、学校生活と深く関わることについて考える。	
1次（4時間）	○生活サイクルを発表し合う。 ○自尊心を高める体験をする。 ・アサーション・トレーニングを体験する。 ・ストレスマネジメントを体験して自己の感情をコントロールする方法を知る。	○自分の性格の特徴や行動パターンについて学ぶ。 ○エゴグラムを活用して、日頃の心の有り様を理解する。 ○様々なストレスを乗り越える方法を知り、感情が自分でコントロールできることを知る。	○自己理解から学級の中でのいじめ問題や孤立に悩む友人に目を向ける。 ○個性の違いを認め合い、互いの良さを発見する。 ○怒りや悲しみなどの感情がリラクゼーション、呼吸法によって和らげられることに気づく。	○アサーション・トレーニングにより「ことばを大切にできる子は、いのちを大切にできる子」であることに気づく。 ○互いの良さを生かし合いながらのコミュニケーションづくりは、自他へのよき気づきから生まれること、そしてそれらが行動を起こす自信へとつながっていくことを知る。	○自己理解の大切さと言葉の大切さについて考えさせることができたか。 ○様々な不安や緊張の中、自己コントロールする大切さに気づいたか。
2次（3時間）	○救命救急法を学ぶ。 ○日本助産師会の助産師による命の授業を聞く。	○実際に体験することにより、自分の行動が他者の命を救うことができることを理解する。 ○助産師から直接、人の誕生や、出産の大変さについて話を聞き、誕生の神秘性を感じ取る。	○かけがえのない命を救うために勇気を持って行動することが大切であることを感じる。 ○赤ちゃんの誕生が「5億分の1の奇跡」であることに気づく。	○自分が助ける場面と自分が助けられる場面を想像し、救急法を身につけておくことが大切であることを理解する。 ○自分の命が伝えられた命、育まれた命であり、精一杯生きることの大切さに気づく。	○自分が勇気を持って行動することで命を救うことができたか。 ○自他の命のかけがえのなさを実感させることができたか。 ○誕生が神秘的なものであり、自他の命の大切さに気づくことができたか。
3次（4時間）	○「死」とおして、命についての考えを深める。 ・伝えたい命 ・精一杯生きた命 ・心の中に生きている命	○池田貴族さんの家族に伝えたいメッセージから彼の無念さ、残された家族への深い愛情を感じ取らせる。 ○遺書を遺し自らの命を絶った男子生徒の手記より、その悲痛さと無念さを、そして「二度と帰ることのない命」の尊さにふれる。	○死というものを見つめ、死について考えることの大切さを実感する。 ○「泣いていた、淋しそうにしていたり、喧嘩をしていたり」などの小さなことから芽をつみ取る大切さを考える。	○他者の痛みや悲しみを想像することで、自他の命のかけがえのなさと人とのつながりを実感する。 ○いじめ解消に向けて「傍観者」の役割はいじめに加担していること、そして陰湿で執拗ないじめを繰り返される子どものつらさは「死と直面」しているという事実を考える。	○死というものを見つめ、死について考えることの大切さを実感させることができたか。 ○苦しい状況の中でも、強く生きようとする尊さを感じ取らせることができたか。
4次（5時間）	○自分史新聞を作る。	○自分史新聞を作ることにより、受け継がれた命の大切さを感じる。 ○誕生から今日まで、人と人がつながる喜びや生きることの大切さを実感する。	○未来は自分で切り拓くという意志をもつことの大切さに気づく。 ○自分を大切にすることが相手を大切にすることにつながることを実感する。	○今の自分を肯定するために、今何をすべきか考えることができる。 ○過去の自分と未来の自分に向き合うことで、かけがえのない自己の存在と夢をかなえるためにどうしたらよいかを考える。	○未来は自分で切り拓くという意志をもつことの大切さに気づかせることができたか。 ○誕生から今日まで、人と人がつながる喜びや命のもつつながりの深さを実感させることができたか。

7 目標構造図



（凡例）①感性（1次）：「①」は指導の順路、「感性」は指導の観点が「感性を育む」、「（1次）」は学習活動が「1次」であることを示す。

## 8 事前の教員研修と指導の概要

### (1) 事前の教員研修

研修内容	
a	○生活日誌 ・ 基本的生活習慣（早寝、早起き、朝ご飯の習慣）の大切さを教員自身が体験する。
b	○自尊感情を高める体験 ・ 自己理解（エゴグラム活用とアサーション・トレーニング）、他者理解（インタビュー）をとおして、自尊感情を高める体験をする。 ・ 怒り、ストレスをコントロールするストレスマネジメント体験をする。
c	○AEDを用いた救命救急法の体験
d	○日本助産師会の助産師による命の授業 ・ 出産の疑似体験、おなかの中の赤ちゃんの心音を聴く体験をする。 ・ 生徒の自分史ノートづくりための取組（家族へのインタビュー、命のつながりと誕生の神秘性等）の指導について検討する。

### (2) 指導の概要（全16時間）

内 容	
事前	○生活日誌を2日間記入する。 <span style="float: right;">教員研修 a</span>
1次 (4時間)	1 生活サイクルを発表し合う。 ・ 睡眠時間、体内時計、食卓でのコミュニケーションづくり等が学校生活と深くかかわることを知る。 (2時間) <span style="float: right;">教員研修 b</span> 2 自尊感情を高める体験をする。 ・ 「ことばを大切にできる人は、いのちを大切にできる」との考えのもと、エゴグラム活用とアサーション・トレーニングを体験する。 ・ ストレスマネジメントを体験して自己の感情をコントロールする方法を知る。 (2時間)
2次 (3時間)	1 救命救急法を学ぶ。 ・ 君は心臓の鼓動を聴いたことあるかい？鼓動を聴くことで命の重みを想像する。 (2時間) <span style="float: right;">教員研修 c</span> 2 日本助産師会の助産師による命の授業を聞く。 ・ 出産の疑似体験、おなかの中の赤ちゃんの心音を聴く体験をする。 (1時間) <span style="float: right;">教員研修 d</span>
3次 (4時間)	○「死」とおして、命についての考えを深める。 1 伝えたい命…ガンに冒されたロックミュージシャン池田貴族さんのビデオから命の尊厳を知る。 (1時間) 2 精一杯生きた命…2006（平成18年）10月、福岡中2男子の遺書「生まれ変わったら最強に」から、男子生徒が遺したものは何かを考える。 (1時間) 3 かけがえのない人との別れを体験した教師の話聞き、「心の中に生きている」とはどういうことか考える。 (1時間) 4 愛する人やかけがえのない人との別れを迎える人を励まし支える音楽を聴く。『さようなら ありがとう』（歌 夏川りみ ビクターエンターテイメント 2006） (1時間)

事例3 つながり支えあう命の重み－生・老・病・死をとおして－（三木市立三木東中学校第1・3学年）

<p>4次 (5時間)</p>	<p>○自分史新聞を作る。</p> <p>1 誕生が「5億分の1の奇跡なり！」そして280日間の長旅から「すごい力であなたが生まれてきた」ことを知る。 (1時間)</p> <p>2 過去の自分に手紙を書き、「置き去りにしてきた何か」を感じ取る。 (1時間)</p> <p>3 未来の自分に手紙を書き、世間の思いや価値観に固執せず、自分らしさを求めることの大切さに気づく。 (2時間)</p> <p>4 誕生から今日まで「自分の番」(相田みつを)の詩を音読し、命のもつ「つながりの深さと生きることの素晴らしさ」を実感する。 (1時間)</p>
<p>事後</p>	<p>○振り返りカードに記入する。</p>

9 指導実践

(1) 1次第3時

ア 本時のねらい

自己理解を深め、やさしい自己主張（アサーショントレーニング）を学ぶことをとおして、自尊感情を高める。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

自分の性格の特徴や行動パターンを学ばせる。

(イ) 感性を育む

個性の違いを認め合い、互いの良さを発見させる。

(ウ) 想像力の育成

互いの良さを生かし合いながらのコミュニケーションづくりは、自他へのよき気づきから生まれること、そしてそれらが行動を起こす自信へとつながっていくことを知らせる。

ウ 準備物

兵庫県立教育研修所 心の教育総合センター『心の教育授業実践研究 第5号 中学校編』

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) 自己理解のためのエゴグラム記録用紙とエゴグラムについての資料プリントを準備する。

（兵庫県立教育研修所 心の教育総合センター『心の教育授業実践研究 第5号 中学校編』P19～22 参照）

(イ) 本音のことは上手に伝えることができるアサーティブな言い方を学ぶためのトレーニング用紙を準備する。（兵庫県立教育研修所 心の教育総合センター『心の教育授業実践研究 第5号 中学校編』P31～45 参照）

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 呼吸法（腹式呼吸・10秒呼吸法）を体験する。	・ストレスを和らげるために呼吸法が役に立つことを知らせる。
展 開	2 エゴグラムチェックリストに回答する。  3 自己表現の特徴に気づく。 ・各項目の合計点を鉛筆で記入し、折れ線グラフを作成する。 ・一番高い所、一番低い所に赤い丸印でチェックする。	・自己理解の大切さを知らせる。 ・エクササイズに楽しく参加できるように肯定的な言葉を用意する。  ・エゴグラムの結果の見方を説明することで、グラフの理解を助ける。 ・各自の結果からコミュニケーションを円滑にするアサーティブな表現について考えさせる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     どんな話し方があるのか考えよう。                 </div>	

まとめ	<p>4 多様な表現の特徴を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受け身的な態度表現、攻撃的な態度表現、冷たい合理的な態度表現 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分らしい言葉とは何かを考えさせる。</li> <li>・人間関係を円滑にさせるために必要なことは何かを考えさせる。</li> </ul>
	<p>5 日常生活の中で「つい腹が立って言い過ぎたこと」「言おうとしたが、我慢して悔しい思いをしたこと」「ドキドキして言いそびれたこと」を思い出す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の気持ちに気づかせる。</li> </ul>
	<p>6 自分の感情を落ち着かせる方法を探す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感情を落ち着かせると、違った表現ができることに気づかせる。</li> </ul>
	<p>7 ロールプレイングでアサーティブな言い方（自他を大切にしたい自己表現）を体験する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その時の感情を知り、適切な表現方法に気づかせる。</li> </ul>
	<p>8 ロールプレイングを振り返り、感じたことを話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き手、話し手の受け止め方、感じ方を話し合う。</li> </ul>

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) エゴグラムは小学校でも実施した生徒がおり、楽しく実践していた。
- (イ) アサーティブな表現の仕方の学習では、やさしい自己主張を学ぶことで自身のストレスを低下できると実感した生徒が見られた。
- (ウ) 怒りは人間本来持っている大切な感情であるために、正直な表現と怒りとの関係は継続的な課題である。言葉の持つ暴力性はいじめの根っこであり、命をも脅かす存在であることをさらに深く追求したい。
- (エ) 今回はこの一考察をもとにカウンセリングワークへとつなぐ試みとなった。ストレスを抱え、自己効力感が持てない子どもたちが増える中、家庭においても、学校においても「自分を話そう」と日常的な自分を語る場面を設定していくことは大切である。「こころづかいとはことばづかいから」言葉で心を結ぶことで希薄な人間関係が深まるような実践を続けたい。

キ 振り返りカード

振り返りカード		
年 組 名前 ( )		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○ストレスを乗り越える方法を知り、感情が自分でコントロールできたことを実感できたか。	
感性を育む	○自分を大切にすることが、相手を尊重する態度へとつながることを実感しよう。	

事例3 つながり支えあう命の重み－生・老・病・死をととして－（三木市立三木東中学校第1・3学年）

想像力の育成	○かけがえのない自他の存在にこれからの自分自身の果たすべき役割について考えよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

(2) 3次第1時

ア 本時のねらい

ガンに冒されたロックミュージシャン池田貴族さんの家族に伝えたい思いを考えることをとおして、命の尊厳を感じ取る。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

池田貴族さんの家族に伝えたいメッセージから彼の無念さ、残された家族への深い愛情を感じ取らせる。

(イ) 感性を育む

死というものを見つめ、死について考えることの大切さを実感させる。

(ウ) 想像力の育成

他者の痛みや悲しみを想像することで、自他の命のかけがえのなさや人とのつながりを実感させる。

ウ 準備物 開隆堂出版 ビデオ『ふれあいを大切にビデオシリーズ ガンに侵されたロックミュージシャン』、ワークシート

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) 使用するビデオについての研修

・1996年、ミュージシャン・タレントとして活躍する池田貴族さんはガンの宣告を受け、ほどなくして妻の一美さんの妊娠がわかり、一美さんは出産を決意する。そして、娘の美夕ちゃんが誕生。美夕ちゃんが1歳になった頃、池田さんは余命半年の宣告を受けることに……。池田貴族さん、一美さん、美夕ちゃんの姿を通じて「家族について」「いのちについて」考える。

(イ) 教員自身が、死というものを見つめ、死についての考えをまとめておく。

(ウ) 現在配慮を要する生徒が存在する可能性もあるので、個別に話を聞く時間を設定するなど、事前の個別指導を充実させる。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 「伝えたい命とは何か」を考える。	・人間の持つ生命力と家族への愛について考えさせる。
展 開	2 ビデオを鑑賞する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">精一杯生きるとはどういうことかを、今までの自分たちの生き方と重ね合わせて考えよう。</div>	
	3 ビデオについての感想を出し合う。 ・この学習を通して、命の大切さ、家族の思い、自分の夢の大切さがわかった。いつも普通に過ごせたり、遊んだり、元気なのは当たり前じゃないこともわかった。池田さんはロックミュージシャンで自分の夢があるし、家族を置いて死にたくないという気持ちが強かったから、できるところまでやれたのかなと思う。もし、池田さんがロックミュージシャンじゃなく、美夕ちゃんもいなかったら、すぐに死んでしまっていたかもしれないと思った。これからは一日一日を悔いのないように生きようと思う。	・死別の悲しみに思いをめぐらすことによって、自他の命を大切にしようとする気持ちに気づかせる。

事例3 つながり支えあう命の重み—生・老・病・死をとおして—(三木市立三木東中学校第1・3学年)

展 開	<p>・池田さんの美夕ちゃんが3歳になるまで生きるという目標は達成できなかったけど、ガンと闘っていたことはとても素晴らしいことだと思いました。池田さんが生きていられたのは一美さんや美夕ちゃん、メンバーの人々やファンの人たちがいたから支えてくれたからだと思います。今、一美さんや美夕ちゃんはどのようにしているのか、池田さんが亡くなったあと、メンバーの人たちはどのようにしているのかなと思います。亡くなった池田さんは立派に生きていたと思います。入退院を繰り返しながらも大好きな歌を歌うことを絶対にあきらめてはいませんでした。「美夕」という歌を作詞して歌っている池田さんはとても輝いていました。</p>	<p>・死に対する過度の恐怖心を抱かせていないか、生徒一人ひとりの心の動きを十分に捉える。</p>
ま と め	<p>4 ワークシートに感想をまとめる。</p>	<p>・本時のねらいである、苦しい中でも、強く生きようとする事の尊さを感じ取らせる。</p>

カ 先生の振り返り(次の実践に向けて)

- (ア) ほとんどの生徒が真剣にビデオ鑑賞をし、ワークシートにもしっかりと記入できた。
- (イ) 家族の絆の深さ、人と人のつながり合いの大切さを実感していた。
- (ウ) 子どもたちにとっては、「死」というものが大変漠然としており、捉えどころのないものであり、「余命を宣告される」ことや「死に至る病に冒される」ということを実感としてとらえることはなかなか難しいが、この学習を通して、口先だけで「命は大切」なんて言うのではなく「命の重さ」ということはしっかりと感じ取ったようである。その延長で「『今』を大切に生きる」ことの大切さを実感した生徒が多く、感想にも書いていた。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標(めあて)	自分の振り返り
感動の体験	○彼の家族への深い愛情を感じ取ろう。	
感性を育む	○死というものを見つめ、死について考えることの大切さを実感できたか。	
想像力の育成	○残された妻と幼い子どもが、彼の遺志を受け継いで、逞しく生きていく強さについて考えよう。	
全体を振り返っての感想:		
先生から:		
家庭から:		

(3) 3次第2時

ア 本時のねらい

「いじめられてもう生きていけない」という言葉を遺し自らの命を絶った福岡中2男子生徒の遺書を読むことをとおして、命を奪う「いじめ」の実態及び、いじめの解消に向けて何が大切で何が必要であるかを理解し、払拭に向けた積極的な態度を養う。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

- ・遺書を遺し自らの命を絶った男子生徒の手記より、その悲痛さと無念さを、そして「二度と帰ることのない命」の尊さにふれさせる。
- ・いじめを見て見ぬふりをすることは加害者になることを知らせる。

(イ) 感性を育む

- ・「泣いていたり、淋しそうにしていたり、喧嘩をしていたり」などの小さなことから芽をつみ取る大切さを考えさせる。
- ・いじめの残酷さ、酷さから自分にとって一番大切なものを亡くしてしまった家族の心情と心の叫び、絶望感にふれさせる。

(ウ) 想像力の育成

- ・いじめ解消に向けて「傍観者」の役割はいじめに加担していること、そして陰湿で執拗ないじめを繰り返される子どものつらさは「死と直面」しているという事実を考えさせる。
- ・「いじめはいけない」「いじめに負けない」というメッセージについて考えさせる。

ウ 準備物

- ・「生まれ変わったらディープインパクトの子どもで最強に」そんな思いを残して自らの命を絶った福岡筑前町中2男子の遺書全文。（読売新聞 2006年10月12日掲載）
- ・NHKソフトウェア『いじめ第1巻 ドキュメント・1000の叫び』
- ・実態調査用紙「いじめられ体験アンケート」

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) 中2男子の遺書全文を活用しての指導案の検討

- ・男子生徒の心情をどのように読み取らせるかについて検討する。

(イ) ビデオ『いじめ第1巻 ドキュメント・1000の叫び』についての研修

- ・いじめを苦にして自殺した（1994）男子生徒の父親のビデオメッセージから、生徒に向けて最も伝えなければならないことについて検討する。

(ウ) 「いじめられ体験アンケート」の質問項目の検討

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 アンケート「いじめられ体験」に記入する。	・心を落ち着かせ、いじめに対する問題意識を持たせる。

展 開	<p><b>2 資料（新聞記事）を読む。</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>資料（新聞記事）の抜粋</p> <p><b>【学校が配布した家庭への連絡プリントの裏】</b> お母さんお父さんこんなだめ息子でごめん 今までありがとう。いじめられて、もう生きていけない。</p> <p><b>【画用紙】</b> See you again?人生のフィナーレがきました さようなら さようなら さよ～なら～ 生まれかわったらディープインパクトの子供で最強になりたいと思います。</p> <p><b>【スケッチブック】</b> 遺言 お金はすべて学校に寄付します。うざい奴等はとりつきます。さよなら いじめが原因です。いたって本気です。さようなら</p> <p><b>【理科のノート】</b> 遺言 さようなら 僕が死んだら僕の貯金は学校にあげます。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・黙読させる。</li> </ul>
	<p><b>3 将来調教師になりたいという夢をも、絶たざるを得なかった男子生徒の心情に思いをはせる。</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「誰にも相談できない苦しさ」「家族に心配かけたくない気持ち」「暴力を受けた時の恐怖感」「お金を取られる悔しさ」等、気づいたこと感じたことを話し合おう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめのもつ酷さ、残酷さから死を選んだ男子生徒の心情や遺された家族の悲しみについて考えさせる。</li> </ul>
ま と め	<p><b>4 いじめを苦しめた男子生徒の父親のビデオレターを視聴する。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちには守ってくれる人、必要としている人が必ずいることを知らせる。</li> <li>・息子が先に逝った親の無念さから、一生つきまとう悲しみの深さを理解させる。</li> <li>・いじめられる側の立場の深刻さに気づくことで、他者の気持ちを考えることの大切さに触れさせる。</li> </ul>
	<p><b>5 授業を振り返って、自分の思いや考えを発表し、話し合う。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの自分の体験も思い出させ、いじめは誰にでも起こりうる身近な問題として捉えさせる。</li> <li>・資料「決心」（道徳副読本「ともだち」より）を配布し、次時の課題であることを知らせる。</li> </ul>

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) 今の世の中、子どもは生きにくいかもしれない。いじめは絶対に根絶できないという大方の子どもたちの意見は、いじめる側にいて安全圏にいると「自分は大丈夫」という安心から生まれるのかもしれない。しかし、遺書を前に、子どもたちは真剣にいじめについて考え、かけがえのない命の重要性について討議することができた。
- (イ) いじめには常に多くの傍観者がいる。傍観者はなぜ悪いのか。自分には関係ないという子どもたちを前に、「いじめてはいけない」と教えたからといっていじめはなくなるものではないことを痛感した。いじめを解決する過程を大切に、その中で人間の尊厳や命の大切さを家庭と連携を取り合いながら、早い段階で芽をつみ取ることが求められている。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○かけがえのない命は、なくすと二度と帰ってこないことが理解できたか。	
感性を育む	○なぜいじめは起きるのか、いじめはなくなるのか考え、いじめをなくすためにできることを考えよう。	
想像力の育成	○いじめにおける傍観者はどんな役割を果たしているのか考えよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

(4) 4次第1時

ア 本時のねらい

自分史新聞づくりをとおして、自己を様々な観点から見直し未来への展望を開く。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

自分史新聞をつくることにより、受け継がれたこの命の大切さを感じさせる。

(イ) 感性を育む

未来は自分で切り拓くという意志をもつことの大切さに気づかせる。

(ウ) 想像力の育成

今の自分を肯定するために、今何をなすべきかを考えさせる。

ウ 準備物 自分史新聞の例4～5点

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) 教員自身の自尊感情を高める研修

(イ) 家庭や地域と連携し、子ども家庭環境や心身の状態等を把握し、事前事後の個別指導を充実させる。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 事前に調べておいた自分の誕生日の出来事を確認する。 ・印象に残った記事をメモする。	・生まれた時の社会情勢に目を向けさせる。
展 開	2 相田みつをの詩「自分の番・いのちのバトン」を音読する。	・誕生までの280日間という長旅を経て、すごい力で生まれてきたことを伝える。
	3 自分史新聞の内容を過去・未来の観点から記入する。 ・過去の自分への手紙 ・未来の自分への手紙	・生まれてから15歳までの間の 「してもらったこと」 「うれしかったこと」 を思い出させる。
	4 今の自分を見つめ直す。 ・自分の好きなところ、自慢できること、将来の夢等を挙げる。	・適切な自己表現をすることによって、自己存在感を感受できる体験となることを伝える。
	5 将来どのように道を切り拓いていくか、「私の人生設計」に記入する。	・気持ちを率直に出せる雰囲気づくりを心がける。 ・今懸命に取り組んでいること、こんなことを学びたい、こんな高校生活を送りたい等、将来について考えさせる。

まとめ	<p>6 ペアになり、お互いに自分の夢について話し合い、交流を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この新聞作りで自分のいろいろなことが両手で数えられないくらい発見できた。予定日の4日前に難産で生まれたこととか、名前の由来（素直で美しい子）には感動した。最初は書くことが決まらなかったけど無事完成してよかった。</li> <li>・今までいろんなことがいっぱいあったなあと思った。毎日が楽しかった。まだ将来の夢とかはわからないけど、一日一日を大切にしたい。そして、やりたいことにはしっかりと取り組みたい。</li> <li>・『過去を記すことは未来への出発点、夢(目標)のある人に未来はほほえむ』のキャッチフレーズではじめた自分史ノートづくりでは、「受験で忙しい中、なんで？」と思ったが、将来の夢(弁護士)が明確になってよかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未来は自分で切り拓くという意志をもつことの大切さに気づかせる。</li> </ul>
-----	---	--

カ 先生の振り返り

自ら情報を発信し、お互いに評価し合うことをとおして、相互に理解を深めることができ、自分史新聞づくりは有意義であった。幼い頃の様子について、家庭からメッセージをいただいたが、それは大人と子どもがつながりを感じ取れるよい機会となったように思う。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標 (めあて)	自分の振り返り
感動の体験	○自分史をつくることにより、受け継がれたこの命の大切さを感じられたか。	
感性を育む	○今の自分肯定するために、今なにをすべきかを理解できたか。	
想像力の育成	○未来への希望と願いを持たせることができたか。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

## 10 実践を終えて

### (1) 先生の振り返り

過去から現在までの振り返りは、生きている喜び、周囲への感謝を実感させることができた。保護者からのメッセージでは、自身の命の誕生にかかわる話を聞くことができる機会となり、その後の出産・育児の過程とともに、生徒が自身の生を見つめ直すきっかけとなったように思う。家庭での会話も増えて、親子関係がスムーズになったとの意見も聞かれた。

### (2) 今後の課題

学校でのいじめや、いじめを苦しめた子どもたちの自殺が相次いでいる。なぜ、いじめが起きるのか、どうすれば解決できるのか、どう子どもたちの命を守るのか、子どもたちの命のハードルの低さを何とかするために教師自身が「子どもと一緒に闘う」という当たり前のことが求められているのではないだろうか。

子どもたちに死について教えるのは難しいかもしれない。しかし答が出せなくても一緒に考えることが必要ではないだろうか。現代社会の命の軽薄さとともに命の有限性（死が必ず訪れること）を理解させることで、限りある命を充実させたいと願ってくれたらこの学習は意義あるものになるであろう。

夢を語り、目を輝かせて何かに没頭する生徒が少なくなってきたと感じる現在、夢や志を育み、何かを学びたいという動機を高めるためにも、自分史新聞づくりはその環境づくりの一つとなったように考えている。家庭での会話が増え、子どもの視野が広がることになると確信した。

しかし、昨今家庭で夕食を共にする機会は減り、家事を分担している子どもも非常に少ない現実がある。乏しくなっているコミュニケーションが「命の大切さの実感しにくさ」ともつながっていると考えられる。命の大切さを実感させるために、学校がいかに夢と志を育む環境づくりを進められるかが求められていると言えよう。

## 11 参考・引用文献

- ・相田みつを『いのちのバトーン－初めて出会う相田みつをのことば』角川書店 2005
- ・兵庫県教育委員会 『「命の大切さ」を実感させる教育への提言』 2006
- ・兵庫県立教育研修所 心の教育総合センター 『平成10年度心の教育授業実践研究 第1号』1999
- ・兵庫県立教育研修所 心の教育総合センター 『平成12・13年度心の教育授業実践研究 第3号』2002
- ・兵庫県立教育研修所 心の教育総合センター 『平成14年度心の教育授業実践研究 第5号 中学校編』2003
- ・兵庫教育大学附属中学校 研究紀要 2006

## 第4章 実践事例－高等学校編－

**事例 1 「命」それぞれの輝き**  
**(県立農業高等学校<定時制>第3学年)**

## 高等学校事例1

## 「命」それぞれの輝き

県立農業高等学校&lt;定時制&gt;第3学年

## 1 テーマ

「命」それぞれの輝き

## 2 実践のねらい

命の大切さを実感し生き方について考えるために、「自分の経験や感情を表現する力」「他者の経験や感情を理解し受け入れる力」を養う。

## 3 テーマ設定の理由

## (1) 本校の概要と生徒の実態

本校は、加古川市東部の住宅・商業地帯に位置し、南部に工業地帯、北部に農業地帯が広がる。本校は2007年度には創立110周年となる農業高校の併置校として、60周年を迎える定時制課程の伝統校で、半数以上の生徒が就業し勤労学生として本校に通っている。生徒の中には、上手くコミュニケーションをとることが出来ず、自他を大切にしたい言動をとれないことも多い。

そこで、仲間を大切にし、人を大切にしようとする心を培うために、それぞれが背負っている人生の素晴らしさや「命」の尊さを感じさせ、そのことを自分の言葉で心から表現することが必要と考え、上記のテーマを設定し実践に取り組み始めた。

## (2) 指導のポイント

## 【感動の体験】

- ・現在までの日常生活・家族・学校生活・友人・仕事など、体験したことを見つめ直し、それぞれの体験を通しての苦しみや感動を再発見させる。
- ・他者の発表を聴くことでその人物の新たな部分を知り、人の心の深さ広さを実感させる。

## 【感性を育む】

- ・他者の体験を聴くことにより、他者に対する共感を感じ、個々の表現方法の違いに気づかせる。
- ・体験を発表することで自分を見つめ直し、他者を理解し協調性を養わせる。

## 【想像力の育成】

- ・自分の作品を通して、その時の自分の気持ちや第三者から見た場合の状態を考えさせる。
- ・他者の作品を通して、相手の気持ちを考え想像し理解させる。

## 4 事前

## (1) 先生の準備

- ・授業という枠の中だけでなくすべての教育活動の中で個々の人間性を大切にしているとする視点や姿勢を持つ。
- ・教員自身の自分史をまとめる。
- ・生徒の生活環境を把握する（三者面談・家庭訪問・職場訪問などをとおして情報を広く収集する）。
- ・生徒の校内・校外交友関係を把握する（教師が連携し生徒についての情報交換を密に行い、情報を共有する）。
- ・家庭に取組ついで理解と協力を依頼する。
- ・現在悲嘆にある子どもが存在する可能性もあるので、個別に話を聞く時間を設定するなど、事前事後の個別指導を充実させる。

## (2) 教育課程上の位置づけ

- ・現代文（第3学年）

(3) 子どもたちの準備

- ・ 自尊感情を高める体験をする。
- ・ 校内生活体験発表会のこれまでの優秀作品等を読ませ、第3学年の生徒が全員、クラスで発表することを想定し自分について考えさせる。

(4) 家庭・地域との連携

- ・ 三者面談・家庭訪問・職場訪問など情報を広く収集する。

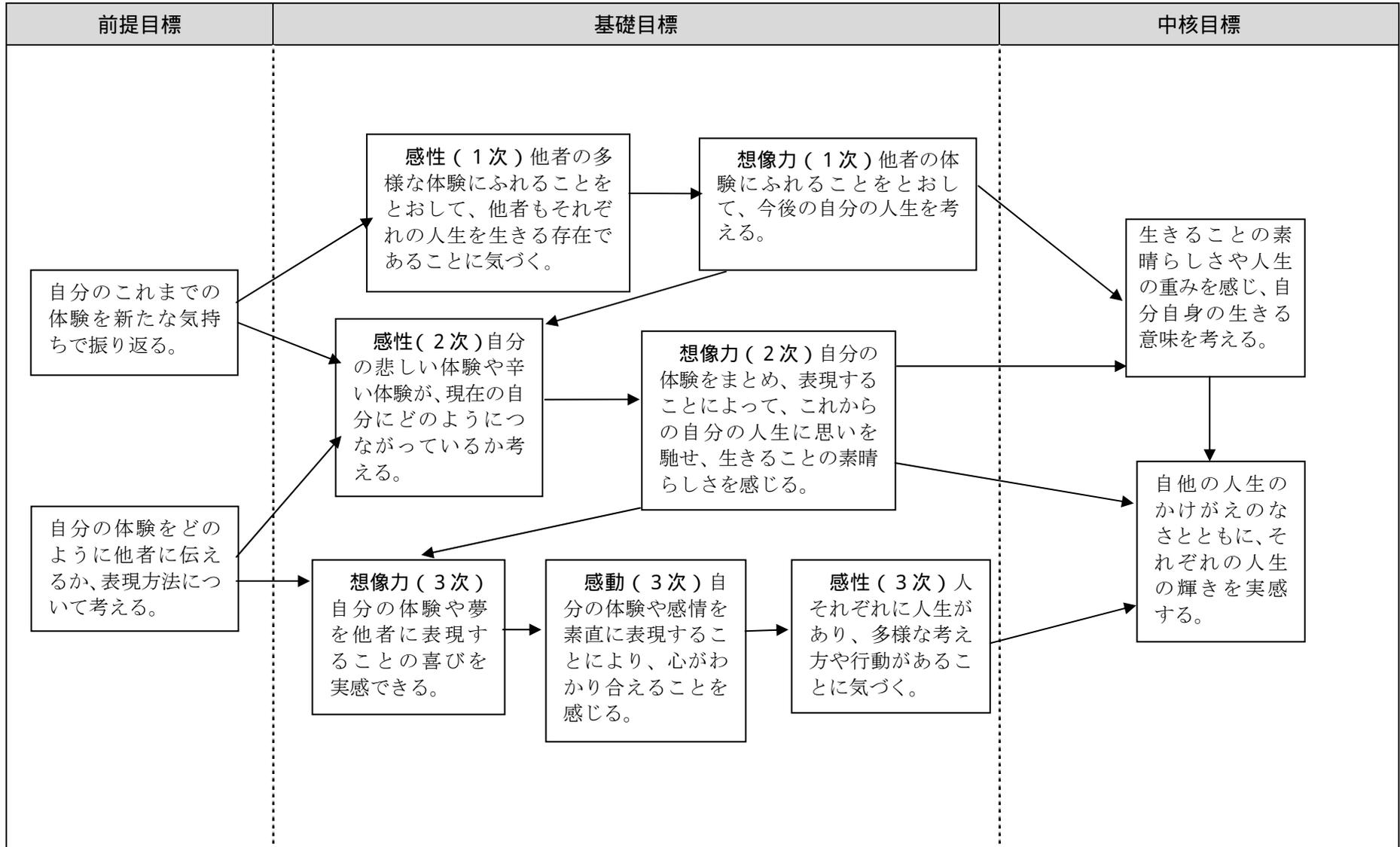
5 本校の実践の特色

定時制生徒ならではの生活体験をまとめ、クラスメイトの前で発表する。個々の学校生活で見せる顔とは違った顔を見せる場を作り、さらに深く人間性を理解させるとともに人生の深さに思い至らせる。

6 目標分析表

	学習活動	感動の体験	感性を育む	想像力の育成	先生の振り返り
事前	○自尊感情を高める体験をする。	○自他の命の存在に気づく。	○自分に起きたこれまでの出来事を思い起こしておく。	○自分と共に他者の命も大切であることについて考える。	
1次（1時間）	○これまでの優秀作品を読む。 ○自分が誕生した時からの人生の振り返りを行う。	○自分のこれまでの体験をあらたな気持ちで振り返る。	○他者の多様な体験にふれることをとおして、他者もそれぞれの人生を生きる存在であることに気づく。	○他者の体験にふれることをとおして、今後の自分の人生を考える。	○それぞれに体験してきた内容は違っても、それぞれの思いや感情があり、自分の人生と重なる部分があることを理解させることができたか。
2次（2時間）	○主題を決定する。 ○文章の構成図を作成する。 ○執筆作業をする。	○これまでの思い出に残る体験を思い起こし、その時の感情を見つめる。	○自分の体験をどのように他者に伝えるか、表現方法について考える。 ○自分の悲しい体験や辛い体験が、現在の自分にどのようにつながっているか考える。	○自分の体験をまとめ、表現することによって、これからの自分の人生に思いを馳せ、生きることの素晴らしさを感じる。	○生きることの素晴らしさや人生の重みを感じさせ、それを表現する意欲を持たせることができたか。
3次（4時間）	○生活体験発表をする。 ○発表を終えての感想をまとめる。	○自分の体験を自分の言葉で話すことができる。 ○自分の体験や感情を素直に表現することにより、心がわかり合えることを感じる。	○自分の発表を真剣に受けとめてくれる周りの人に対して感謝の気持ちを持つ。 ○発表者の態度に敬意を示して聞くことができる。 ○人それぞれに人生があり、多様な考え方や行動があることに気づく。	○自分の体験や夢を他者に表現することの喜びを実感できる。 ○自他の人生のかけがえのなさとともに、それぞれの人生の輝きを実感させる。	○他者に自分を受け入れてもらうことの喜びを実感させることができたか。 ○自他の人生のかけがえのなさとともに、それぞれの人生の輝きを実感させることができたか。
事後	○振り返りカードにより、学習の成果を確認する。				

7 目標構造図



（凡例）①感性（1次）：「①」は指導の順路、「感性」は指導の観点が「感性を育む」、「（1次）」は学習活動が「1次」であることを示す。

## 8 事前の教員研修と指導の概要

### (1) 事前の教員研修

研修内容	
a	○自尊感情を高める体験をする。 <提言 P64：教員研修テーマ①> ・『わたしはわたしが好きです。なぜなら・・・』 ・『ここがあなたのいいところ』
b	○自己再発見の体験をする。 <提言 P68：教員研修テーマ②> ・「私の人生の振り返り」
c	○生活体験発表会についての研修をする。 ・優秀作品を読み、人の心に訴えかける作品にするための工夫について考える。

### (2) 指導の概要（全7時間）

内容	
事前	○自尊感情を高める体験をする。 (1時間) <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">教員研修 a・b</div>
1次 (1時間)	1 これまでの優秀作品を読む。 ・自分の体験と比較させながら読む。 2 自分が誕生した時からの人生の振り返りを行う。 ・現在の生活とのつながりを考える。 ・5分間でいかに自分の人生観や夢などを表現するか考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">教員研修 c</div>
2次 (2時間)	1 主題を決定する。 (1時間) ・自分の一番伝えたいことを考える。 2 文章の構成図を作成する。 ・発表内容を箇条書きにカードにまとめ、構成を考える。 3 執筆作業をする。 (1時間)
3次 (4時間)	1 生活体験発表会を行う（一人5分間）。 (3時間) ・わかりやすい言葉で、はきはきと発表する。 ・発表者に敬意を示し、真剣に聴く。 2 感想をまとめる。 (1時間) ・過酷な体験の克服、心温まる体験などが、夢の実現にどのように大切であることかを忘れないように記録する。
事後	○自分の心の動きを振り返り、振り返りカードに記入する。 ○発表後の自分、他者に対する思いの変化を認識しまとめる。

## 9 指導実践

### (1) 1次第1時

#### ア 本時のねらい

これまでの校内優秀作品を読むことをとおして、それぞれの人生や体験に対して様々な見方や捉え方があることを理解する。

#### イ 指導のポイント

##### (ア) 感動の体験

自分のこれまでの体験をあらたな気持ちで振り返る。

##### (イ) 感性を育む

他者の多様な体験にふれることをとおして、他者もそれぞれの人生を生きる存在であることに気づかせる。

##### (ウ) 想像力の育成

他者の体験にふれることをとおして、今後の自分の人生を考えさせる。

#### ウ 準備物

これまでの校内優秀作品

#### エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

現在悲嘆にある子どもが存在する可能性もあるので、個別に話を聞く時間を設定したり、子ども一人ひとりを把握することを心がける。

#### オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 授業の概要について説明を受ける。 2 今までの本校代表の生活体験発表作品について説明を受ける。	・各自がクラスで発表を行うことを自覚させる。 ・自分たちと同じ高校生の作品であることを知らせる。
展 開	3 今までの本校代表の生活体験発表作品を読む。 4 自分の人生の振り返りを行う。 ・自分の大切な体験について話し合う。 ・現在の日常とどのようにつながっているか考える。	・他人事として捉えるのではなく、自分の立場として捉えるよう助言する。 ・同じ高校生として自分の人生と比較し考え方などの同じ点、相違点を考えさせる。
	自分には書けないなどと言う不安をもらしているが、それぞれに人生があり、今という時間は、その人生の延長線上にあるんだよ。	
ま と め	5 本時を振り返る。	・5分間という時間の中で「自分の人生・人生観・夢」を発表することの意義を考えさせる。

#### カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

(ア) 本校代表者の作品をきっかけに自分の人生や未来について真剣に考え始めた。

(イ) 他人事に捉えてきた他者の人生に少し向き合う姿勢を持ったように思った。また、保護者には、幼少期のことについて子供からの問いかけがあった時にはできるだけ詳しく話してくれるよう依頼するなど家庭の協力が必要である。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○これまでの作品を読んで、自分の生活体験を考えよう。	
感性を育む	○自分の心の言葉をどう表現するかを考えよう。	
想像力の育成	○他者の作品にふれ、今後の人生についてどのように考えましたか。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

(2) 2次第1時

ア 本時のねらい

生きることの素晴らしさや人生の重みを感じ、それを表現する意欲を持つ。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

自身のこれまでの思い出に残る体験を思い起こし、その時の感情を見つめさせる。

(イ) 感性を育む

自分の体験をどのように他者に伝えるか、表現方法について考えさせる。

(ウ) 想像力の育成

自分の体験をまとめ、表現することをとおして、これからの自分の人生に思いを馳せ、生きることの素晴らしさを感じさせる。

ウ 準備物 なし

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) 1年生の頃より書いてきた作文やアンケートなどを再読し、子ども時代の生活や仕事への思い、友人関係、親子関係などについて詳しく思い起こしやすいよう把握しておく。

(イ) 生活体験発表は個人の情報が公開されることであり、必ず対象者の理解と同意を得た上で実施し、十分な配慮した取組が必要であることを認識する。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 前時を思い起こし、感想を話し合う。 ・あんな風にまとめられるなんてすごいな。 ・うまく表現するには、どうすればいいのだろう。 ・あんなにうまく自分にはできないかも。どうしたらいいのかな。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの人生も多様であり、誰もがその中で喜びや苦しみ、悲しみを経験しながら、生き抜いていることを伝える。</li> <li>・自分たちと同じ高校生の作品を読み感じたことを言葉で表現させる。</li> </ul>
展 開	2 発表原稿の主題を決定する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の生活体験の中の、どの部分の出来事を中心に発表するのかを考えさせる。</li> </ul>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     自分の中で「気にかかっていることや、面白いと感じること、大変だったと感じていること」等を表現してみよう。                 </div>	
ま と め	3 文章の構成図を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容をカードに箇条書きにまとめ、構成を考えさせる。</li> </ul>
	4 文章の構成図をもとに、発表原稿を作成する。 5 振り返りカードを書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時からの発表に向けて、文章の校正や発表方法の工夫などについて考えておくよう伝える。</li> </ul>

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) 題材探しの段階で今までの作文やアンケートの内容を提示することで、主題や構成で考えの煮詰まった状態を脱することができ、考えをまとめやすくなったように思う。
- (イ) 1次で得た他者の人生の多様さを、自分の人生の重さ・大切さに重ね合わせて自分の人生を思い起こさせて実感することにつなげるようしっかり計画する必要がある。
- (ウ) この取組後、子どもたちの生活態度が大きく変わったとは言えないが、ただ、自分の人生・言動をよく振り返り見つめ直すようになり、友人関係がスムーズになったようである。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○自身も様々な体験を重ね、そして今があることに気づいたか。	
感性を育む	○自分の体験を他者に伝えるための工夫について考えよう。	
想像力の育成	○自分の体験をまとめ、表現することをおして、これから自分はどのように生きていこうと思うか考えよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

(3) 3次（第1時～第4時）

ア 本時のねらい

- ・自分の体験や夢を、他者に表現することの喜びを実感する。
- ・自身の経験と照らし合わせながら他者の発表を聴くことをとおして、他者の経験や感情を理解する。

イ 指導のポイント

- (ア) 感動の体験  
自分の体験や感情を素直に表現することにより、心が分かり合えることを感じさせる。
- (イ) 感性を育む  
人それぞれに人生があり、その人それぞれの考え方や行動があることを理解させる。
- (ウ) 想像力の育成  
自他の人生のかけがえのなさだけでなく、それぞれの人生の輝きを実感させる。

ウ 準備物

感想シート、ストップウォッチ

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

- (ア) 子どもたち自身が自発的に発表を行うよう授業以外でも常に声かけをし、ヒントなどを話し、発表の心構えを作るよう心がける。
- (イ) 2次でまとめた自分の発表用原稿を準備させる。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	<p><b>1 発表方法の説明を受ける。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・落ち着いた態度で発表する。</li> <li>・わかりやすく、はきはきと話す。</li> <li>・時間を有効に使う。</li> </ul> <p><b>2 聴く態度の説明を受ける。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表者に敬意を示し、真剣に聴く。</li> <li>・発表を聴いての感想や感動をメモする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員が同じ条件のもとで発表を行うことを自覚させる。</li> </ul>
展 開	<div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">生活体験を発表しよう</div> <p><b>3 発表を終えて感想・感動を交換する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の作文を聞いてくれて気持ちがわかってくれてうれしかった。最初はすごくイヤだったけど、みんなに聞いてもらえてよかったと思う。</li> <li>・緊張したけれど、大事に考えていたことが発表できてよかったと思う。</li> <li>・自分には発表なんてできないと思っていたけれど、みんなが頑張っているのを見たら、やる気が出てきて頑張れた。</li> <li>・みんなの前で発表し、もっとしっかりした気持ちで夢に向かっていこうと思った。</li> <li>・人それぞれに人生があるんだなと思った。</li> <li>・普段の学校での姿と全く違った一面を見ることができて、好感がもてた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問や関心のあることについては、発表者に質問させる。</li> <li>・他者や自分に対する気づきを大切にするよう伝える。</li> </ul>

まとめ	<p>4 発表をとおして得られたものを考える。</p> <p>5 振り返りカードを書く。</p>	<p>・本時の学習によって、自他への思いがどのように変化したかを見つめさせる。</p>
-----	--	---

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) 人生の多様さを感じ取ることが、それぞれの命の輝きを感じ取ることになったように思う。
- (イ) 命の大切さを実感することにつながる具体的手だてをしっかりと計画する必要がある。
- (ウ) この取組後、子どもたちの生活態度が大きく変わったとは言えないが、ただ、他者の言葉や行動の背景を理解しようとするようになり、クラスの協調性が強まったようである。
- (エ) クラスメイトの本音（言葉）の力は心にしみ込むものがあり説得力があることを感じた。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○自分の体験や感情を素直に表現することにより、心が分かり合えることを感じられましたか。	
感性を育む	○人生の多様さをどのように受け止めましたか。	
想像力の育成	○自他の人生のかけがえのなさだけでなく、それぞれの輝きを感じられましたか。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

## 10 実践を終えて

### (1) 先生の振り返り

本校の生徒は、厳しい生活環境の中にありながらも、「高校を卒業したい」という強い思いを抱き、頑張っている生徒が多い。また一方、他者とのコミュニケーションがうまく取れず、なかなかうまく思いや気持ちを伝え合うことができない生徒も多い。今回の実践の中で、クラス全員がそれぞれの生活体験を発表することにより、自分の仲間だけの小さな世界から、もっと広い視野を持つようになり、それぞれの生徒（人間）の背景にはいろんな事があり、自分だけが苦しいのではなくそれぞれが背負っているものがあるのだということに気づいて、連帯感が生まれてきたように思う。さらに、人を思いやることの大切さ、命（人生）の多様性や不思議さ、そして縁（つながり）についても考えられるようになってきたように思われる。

### (2) 今後の課題

#### ア 授業実践上の課題

人前で自分の体験（作文）を発表するという事は、これまでこのような体験のない生徒にとって、どのような時期にこの授業を行うべきか、生徒たちの実態に合わせて行う必要がある。

#### イ 家庭・地域との連携についての課題

発表内容に関して、特につらい体験をしていた場合には、その時の感情を呼び起こしてしまう場合があるため、十分にそれぞれの生徒の状況を理解し、保護者と連絡を密にとりあいながら慎重に進めていく必要がある。

#### ウ 学校の組織運営上の課題

生活体験発表会という行事が定時制・通信制高校で全国的に行われているが、「クラスの代表者が発表をする」、「特別な体験をした者」、「人前でうまく話せる者」が出場する場だと思われているが、全ての生徒（人）にそれぞれの人生があり、それを発表するのだと認識させていく必要がある。

そのためには、他者を受け入れる雰囲気づくり、協調性を養うための学級づくり、そのための体制づくりを平素から心がけていかなければならない。

## 11 参考・引用文献

- ・兵庫県教育委員会 『「命の大切さ」を実感させる教育への提言』 2006



**事例 2 命を見つめ、自己の生き方を探る**  
**( 県立姫路別所高等学校第 3 学年 )**

## 高等学校事例2

## 命を見つめ、自己の生き方を探る

県立姫路別所高等学校第3学年

## 1 テーマ

命を見つめ、自己の生き方を探る。

## 2 実践のねらい

生命の誕生や限りある命を見つめることをとおして、今後の自己の生き方を探る。

## 3 テーマ設定の理由

## (1) 本校の概要と児童生徒の実態

1学年5学級の全日制普通科高等学校で全学年約2：1の割合で女子生徒が多い。姫路市の東端に位置し、三方を山に囲まれ、自然に恵まれた環境の中で学校生活を送っているため、のんびりとした雰囲気を持っている。が、反面、規範意識や目的意識にやや乏しい面も見られ、命を軽視した発言や行動を取ってしまうこともある。

そこで、自他のかげがえのなさ、前向きに生きることの素晴らしさに気づかせることをとおして、「命の大切さ」を実感させることをねらいとして、本実践に取り組んだ。

## (2) 指導のポイント

## 【感動の体験】

- ・生命誕生の素晴らしさや命のかげがえのなさを実感させる。
- ・乳幼児とのふれあい体験やゲストティーチャーから話を聞き、育まれる命の素晴らしさ、生きていることの喜びや周りの人の思いを実感させる。
- ・訪問先の人々の様々な生き方にふれ、互いを認め、共に生きていることを実感させる。
- ・自分を知り、自分を認めて精一杯生きることの尊さを実感させる。

## 【感性を育む】

- ・命の誕生や生命の営みの不思議さを感じ取らせる。
- ・乳幼児との関わりやゲストティーチャーの話をとおして、かけがえのない命をはぐくんでいこうとする喜びを感じ取らせる。
- ・訪問先の人々の様々な考えや生き方にふれ、命の重みを感じ取らせる。
- ・自他のかげがえのなさを実感させるとともに、自他がかげがえのない関係の中で生きている存在であることに気づかせる。

## 【想像力の育成】

- ・自分と同様に他者の命もかけがえのないものであることに気づかせる。
- ・命の誕生に寄せる思いや喜びを感じ取らせ、自分のこれからの生き方を考えさせる。
- ・老いの豊かさや障害のある人のいきいきと生きる姿にふれることにより、生きることの尊厳について考えさせる。
- ・様々な活動をとおして感じた生や死、命への思いを今後の生き方に重ね合わせて考えさせる。

## 4 事前

## (1) 先生の準備

- ・授業の中だけでなく全ての教育活動の中で、命を大切にしていこうとする視点や姿勢を持つ。
- ・生・老・病・死などのテーマについて、日頃から関連する情報等を収集し、考察しておく。
- ・関係施設と綿密な事前の打ち合わせをする。
- ・施設等の訪問前の事前指導について詳細に計画する。

## (2) 教育課程上の位置づけ

- ・3年生総合的な学習の時間

(3) 子どもたちの準備

- ・自分が生まれたときの様子や幼い頃のエピソード等を家族から聞いておく。
- ・施設等の訪問に際しての心構えや準備物を確認する等。

(4) 家庭・地域との連携

- ・取組の趣旨を充分理解いただき、資料の収集や訪問の受け入れの協力の依頼をする。

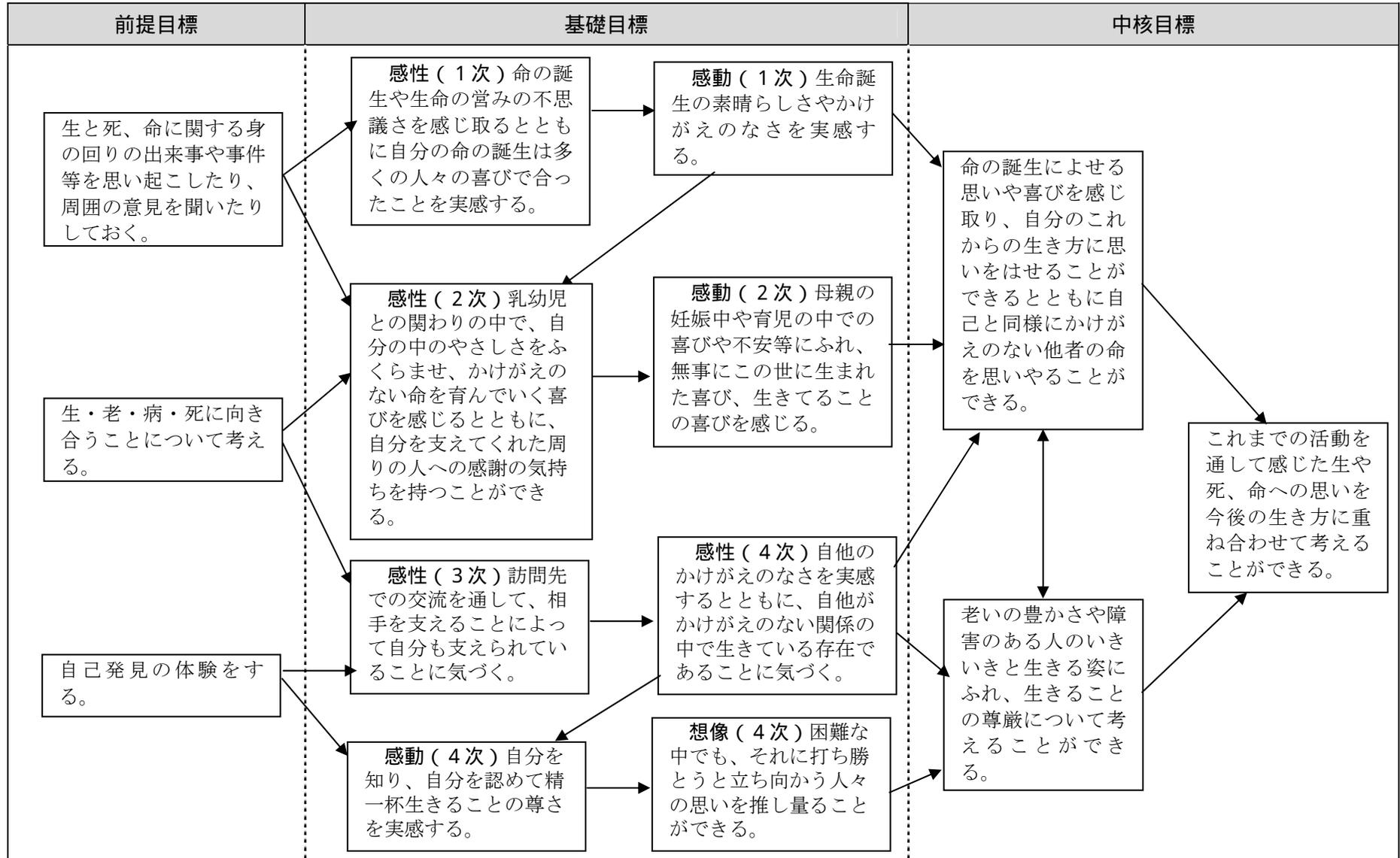
5 本校の実践の特色

体験中心の学習（ビデオ視聴・ゲストティーチャーによる体験談・施設訪問等）

6 目標分析表

	学習活動	感動の体験	感性を育む	想像力の育成	先生の振り返り
事前	○自尊感情を高める体験をする。 ○生と死、命に関する様々なテーマについて関連する情報を調べる。	○自己発見の体験をする。	○生と死、命に関する身の回りの出来事や、事件等を思い起こしたり、周囲の意見を聞いたりしておく。	○生・老・病・死に向き合うことについて考える。	
1次 (2時間)	○一つの命の誕生によせる思いや喜びを感じ取る体験をする。(ビデオ学習等) ○「生命誕生」や「命」について自由に感想意見を出し合う	○生命誕生の素晴らしさやかけがえのなさを実感する。 ○生命の誕生に関わる様々な考えにふれることをとおして、命に対する考え方の多様性に気づく。	○命の誕生や生命の営みの不思議さを感じ取る。 ○自分の命の誕生は多くの人々の喜びであったことを実感する。	○自己と同様にかけてがえのない他者の命を思いやることができる。 ○命に関する様々な価値観を受容できる。	○生命誕生の素晴らしさやかけがえのなさを実感させることができたか。 ○命に関する様々な価値観を受容させることができたか。
2次 (4時間)	○保育園等の施設を訪問する。 ・幼児とのふれあい体験 ○ゲストティーチャーから話を聞く。 ・乳児の母親から体験談を聞いたり、妊娠中の胎児のビデオを見せてもらう。 ○自分史づくり ・家族から聞き取ったりして誕生から今までを振り返り、感動したことを中心にまとめる。	○乳幼児とのふれあい体験をとおして、生まれる命の素晴らしさにふれ、生きていることの喜びを感じる。 ○母親の妊娠中や育児の中での喜びや不安等にふれ、無事にこの世に生まれた喜びを感じる。 ○自分史づくりを通して、家族等、周りの人々の思いや自身の成長を実感する。	○乳幼児との関わりの中で、自分の中のやさしさをふくらませ、かけがえのない命を育んでいこうとする喜びを感じる。 ○命を育む妊婦の喜びや苦労等を感じる。 ○自分を支えてくれた周りの人への感謝の気持ちを持つことができる。	○命の誕生に寄せる思いや喜びを感じ取り、自分のこれからの生き方に思いをはせることができる。 ○今の自分を肯定し、かけがえのない命を未来につないでいこうとする思いを持つことができる。	○乳幼児とのふれあい体験やゲストティーチャーの話を通して、生まれる命の素晴らしさにふれ、生きていることの喜びを感じさせることができたか。 ○命の誕生によせる思いや喜びを感じ取り自分のこれからの生き方に思いをはせさせることができたか。
3次 (5時間)	○老人介護施設を訪問する。 ・関係者から様々な話を聞く。 ○養護学校を訪問する。 ・障害を持った生徒達と交流する。 ○施設体験等をおして感じた生や死、命への思いや考えを整理し、まとめる。	○老いによる障害を持った人たちと関わる人々の思いに気づく。 ○障害を持ちながらもいきいきと生きる同世代の生徒達にふれ、共に生きていることを実感する。 ○体験を整理することにより、生や死等「命」について考えることの大切さを実感する。	○訪問先の人々の様々な考えや生き方にふれ、多様さを受けとめるとともに命の重みを感じる。 ○訪問先での交流を通して、相手を支えることによって自分も支えられていることに気づく。	○老いの豊かさや障害のある人のいきいきと生きる姿にふれ、生きることの尊厳について考えることができる。 ○限りある生を精一杯生きることの素晴らしさを実感することができる。	○訪問先の人々の様々な考え方や生き方にふれ、多様さを受けとめるとともに命の重みを感じさせることができたか。 ○老いの豊かさや障害のある人のいきいきと生きる姿にふれ、生きることの尊厳について考えさせることができたか。
4次 (2時間)	○「生」について考える。 ・『命と対話した人々 ヘレン・ケラー & 中村久子』（「知ってるつもり？」日本テレビ）のビデオ学習 ・命の尊さを見つめ、自分自身の生き方を考える。	○真摯に生きることの凄さや素晴らしさを感じる。 ○自分を知り、自分を認めて精一杯生きることの尊さを実感する。	○自分自身の生きる意味を考えることができる。 ○自他のかけがえのなさを実感するとともに、自他がかけがえのない関係の中で生きている存在であることに気づく。	○困難な中でも、それに打ち勝とうと立ち向かう人々の思いを推し量ることができる。 ○これまでの活動をおして感じた生や死、命への思いを今後の生き方に重ね合わせて考えることができる。	○自分自身の生きることの意味を考えさせることができたか。 ○命の大切さを実感させることができたか。
事後	○「命の大切さ実感尺度」に回答する。				

7 目標構造図



（凡例）①感性（1次）：「①」は指導の順路、「感性」は指導の観点が「感性を育む」、「（1次）」は学習活動が「1次」であることを示す。

## 8 事前の教員研修と指導の概要

### (1) 事前の教員研修

研修内容	
a	○「一つの命の誕生」についての研修 ・ビデオ 「プロジェクトX『耳をすませ 赤ちゃんの声～伝説のパルモア病院誕生～』」（NHKエンタープライズ）
b	○自己再発見の体験をする。 <提言 P68：教員研修テーマ②> ・「私の人生の振り返り」 ・「今後の生き方を考える」
c	○老・病・死（加齢に伴う心身の変化等）についての研修をする。 ・『家庭総合－ともに生きる－』指導資料（一橋出版） ・日野原重明『死をどう生きたか－私の心に残る人々』2003 中央公論新社
d	○「生きること」についての研修をする。 ・ビデオ 「知ってるつもり？『命と対話した人々 ヘレン・ケラー&中村久子』」（日本テレビ）

### (2) 指導の概要（全13時間）

内容	
事前	○自分自身を知るワークシートに記入する。 (1時間) ・自分を見つめ、理解し受け入れる。 教員研修 a
1次 (2時間)	1 「一つの命の誕生」によせる思いや喜びを感じ取る体験をする。 ・出産シーンや困難を極めた日本初の新生児医療についてのビデオ学習 プロジェクトX『耳をすませ 赤ちゃんの声～伝説のパルモア病院誕生～』(NHKエンタープライズ) (1時間) 2 ビデオ視聴後に「生命誕生」や「命」について自由に感想・意見を出し合う。 ・無事に生を受けた尊さ・かけがえのなさ・喜び等 (1時間) 教員研修 b
2次 (4時間)	1 保育園を訪問する。 ・乳幼児とのふれあいの中で、育まれる命を実感する。 (2時間) 2 ゲストティーチャーによる話を聞く。 ・乳児とその母親を招き、出産・育児の過程にふれるとともに母親の思いを実感する。 (1.5時間) 3 ミニ自分史を作る。 ・誕生から現在までをふり振り返り、生きている喜び・周りに対する感謝を実感する。 (0.5時間) 教員研修 c
3次 (5時間)	1 老人保健施設を訪問する。 ・老・病・死を見つめ、命には限りがあることや重みを感じる。 (2時間) 2 養護学校を訪問する。 ・いきいきと生きる生徒達にふれ、共に生きていることを実感する。 (2.5時間) 3 施設等の体験をとおして感じた生や死、命への思いを整理する。 (0.5時間)

4次 (2時間)	<div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">教員研修 d</div> <p>1 「生」について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分を知り、自分を認めて精一杯生きることの尊さを実感するビデオ学習 「知ってるつもり? 『命と対話した人々 ヘレン・ケラー&amp;中村久子』」(日本テレビ) (1時間)</li> </ul> <p>2 生きることの意味を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 命の尊さを見つめ、自分自身の生き方を考える。 (1時間)</li> </ul>
事後	○「命の大切さ実感尺度」に記入する。

## 9 指導実践

### (1) 1次第1・2時

#### ア 本時のねらい

命の誕生に関わるビデオを視聴し、感想や意見を出し合うことにより、命に対する考え方の多様性に気づく。

#### イ 指導のポイント

##### (ア) 感動の体験

生命誕生の素晴らしさや命のかけがえのなさを実感させる。

##### (イ) 感性を育む

自分の命の誕生は多くの人々の喜びであったことを実感させる。

##### (ウ) 想像力の育成

自分の命のかけがえなさとともに、他者の命のかけがえのなさを思いやる。

#### ウ 準備物 ワークシート、ビデオ、感想記入用紙等

#### エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) 命に関する最近の事件等について調べておく。

(イ) ビデオを視聴する。

- ・感想を整理しておく。
- ・生徒への問いかけを考えておく。
- ・感想や意見の記入用紙を準備する。

#### オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	<p>1 「命」について学習していくことを知る。</p> <p>2 自分自身を知るワークシートに記入する。 ・自分を見つめ、理解し受け入れる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ、今この学習が必要なのかを、しっかり説明する。</li> <li>・自分のよい面を確認させる。</li> </ul>
展 開	<p>3 「一つの命の誕生」によせる思いや喜びを感じ取る体験をする。 ・出産シーンや困難を極めた日本初の新生児医療についてのビデオを視聴する。 (「プロジェクトX『耳をすませ 赤ちゃんの声～伝説のパルモア病院誕生～』(NHKエンタープライズ)」)</p> <p>4 「生命誕生」や「命」についての自分の思いや考えを整理する。</p> <p>5 自由に感想・意見を出し合う。 (1) 妊娠中の母親の思いについて ・無事に育って欲しい。 ・無事に生まれて欲しい。 ・元気な産声を上げて欲しい。 ・出産が近づくにつれて不安が大きくなるのでは。 ・おなかの赤ちゃんのために気をつけて生活しよう。 ・元気な子どもを生みたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感じたことを素直に表現させる。</li> <li>・同じ考えや意見のときも自分の言葉で発表させる。</li> </ul>

<p style="text-align: center;">展 開</p>	<p>(2) 赤ちゃんが生まれたときの母親の思い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生まれてくれてありがとう。</li> <li>・心からうれしい。</li> <li>・お医者さんや周りの人に感謝の気持ちでありがとう。</li> <li>・元気に育ってほしい。</li> <li>・本当にほっとした。</li> <li>・最高の幸せだ。</li> <li>・しっかり生きて欲しい。</li> </ul> <p>(3) 出産に関わったお医者さんはじめ周りの人の思いについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな状態でも絶対に助けたい。</li> <li>・きっと強い責任を感じてる。</li> <li>・母子ともに元気でいてほしい。</li> <li>・お母さんに元気な赤ちゃんを見せてあげたい。</li> <li>・助けられなかったときは本当につらい、悲しい。</li> <li>・無事に生まれたり、命を助ける事が出来たときは本当にうれしいと思う。</li> </ul> <p>(4) 「命」についてどう思うか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども（命）を産むって事はすごいことなんだな。</li> <li>・命はとても大切なもの、大切にしていかなければならないもの。</li> <li>・どんなに小さな命でも、ちゃんと生きてるんだということを実感した。</li> <li>・かけがえのないもの。</li> <li>・一つの命に何人もの人が悲しんだり、喜んだり、幸せになれたりするものなんだな。</li> <li>・無駄な命なんか一つもない。</li> <li>・自分も親からもらった命と体を大切にしたい。</li> <li>・将来自分も子どもを産みたい。</li> <li>・命が生まれることは本当にすばらしい。</li> <li>・私たちのお母さんもたくさんの思いや不安の中で私たちを産んでくれたんだな。</li> <li>・自分にも子どもが出来たら大切に育てたい、そして命の大切さを教えたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・命の誕生を支えている人々の思いに気づかせる。</li> <li>・命について思うこと、感じることを自由に発表させる。</li> </ul>
<p style="text-align: center;">ま と め</p>	<p>6 一人ひとり表現は違うが、「命」は大切なもの、かけがえのないものだと感じていることを互いに確認する。</p>	

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

生徒たちは生命誕生の素晴らしさや命のかけがえのなさを実感することができた。さらにその実感を命を育むことの素晴らしさや自分たちが今、生きていることの喜びの実感へとつなげていきたい。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○生命誕生の素晴らしさや命のかけがえのなさについて考えよう。	
感性を育む	○命の誕生や生命の営みの素晴らしさを感じ取ることができたか。 ○自分の命の誕生は多くの人々の喜びであったことを感じることはできたか。	
想像力の育成	○自分の命と同様に、かけがえのない他者の命を思いやることはできたか。	
全体を振り返ったの感想：		
先生から：		
家庭から：		

(2) 2次第1・2時

ア 本時のねらい

保育園を訪問し、乳幼児とふれあう体験を通して、自他の命をいとおしく思う気持ちを持つ。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

乳幼児とのふれあい体験を通して、育まれる命の素晴らしさにふれ、生きていることの喜びを実感させる。

(イ) 感性を育む

乳幼児との関わりの中で、自分の中のやさしさをふくらませ、かけがえのない命を育てていく喜びを感じさせる。

(ウ) 想像力の育成

乳幼児の命の輝きを感じ、自分の幼少期を思い起こし、これからの生き方に思いをはせる。

ウ 準備物 感想記入用紙等

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) 保育園の園長との打ち合わせ

- ・授業の趣旨の説明と協力の依頼をする。
- ・活動内容や流れについて（晴天時・雨天時）の確認をする。
- ・生徒の準備物等について（服装、持ち物他）の確認をする。

(イ) 事前指導

- ・幼い子どもと関わる上での留意点の確認をする。
- ・体調管理、衛生面（手洗い、爪切り等）の指導をする。
- ・準備物の確認をする。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 園長先生から園の説明や活動内容・園児と接する際の注意等を聞く。 ・言葉遣い、表情（笑顔）、安全・衛生面等、子どもたちの見本となるような言動をする。	・しっかり挨拶をさせる。
展 開	2 部屋の外から0歳児、1歳児、2歳児の様子を見る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">子どもたちとのふれあいをおして、どのようなことを感じるだろうか？</div>	・無邪気な笑顔を見て心を和ませる。 ・眠っている乳幼児もいるので、静かに見させる。
	3 2部屋に分かれ、4歳児とふれあう。 ・おもちゃ・折り紙 ・積み木 ・ブロック ・絵本 ・お絵かき ・ままごと 等 	・部屋に入る前にしっかり手を洗わせる。 ・積極的に自分たちから声をかけさせる。 ・子どもの目線で話をするように気をつけさせる。

	<p>4 5歳児とゲームをとおしてふれあう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハンカチ落とし</li> <li>・じゃんけん列車 等</li> </ul>  <p>5 園長先生に一人ずつ簡単にお礼と感想を述べる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定の子どもだけでなく、周りの子どもにも気を配るようにさせる。</li> <li>・安全面に気をつけさせる。</li> <li>・園長先生からコメントをもらう。</li> </ul>
<p>まとめ</p>	<p>6 訪問で感じたことをまとめる。</p> <p>(1) 保育園で小さな子どもたちを見たり、実際に接してみて思ったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・とてもかわいかった、自分にもこんな頃があったんだ。</li> <li>・みんな素直で元気だ。</li> <li>・初めはとまどったけれど子どもたちの方から寄ってきてくれて嬉しかった。</li> <li>・言葉や行動がストレートだ。</li> </ul> <p>(2) 子どもたちと接するときどんな心配りをしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの目を見て話す。同じ目線で話す。</li> <li>・しっかり最後まで話を聞いてあげる。</li> <li>・正しい言葉を使うようにした。</li> <li>・けがをさせないように気をつけた。</li> <li>・一人の子どもだけに集中せず、周りの子どもの話も聞いたりするように気をつけた。</li> </ul> <p>(3) 保育園訪問で何を得たか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園は、単に子供を預かるだけじゃなく、命を預かる場所だと思った。</li> <li>・小さい子どもを育てるのは大変だけど、保育士は、やりがいのある仕事だと思った。</li> <li>・どんな小さい子供でも、泣いたり、笑ったり精一杯生きているのだと思った。</li> <li>・いい経験ができた、考えることがいっぱいあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感じたことを素直に書くようにさせる。</li> <li>・互いの感想や活動の写真等を一覧にし、共感し合えるようにする。</li> <li>・相手のことを考えて行動することが相手を大切にすることにつながることに気づかせる。</li> <li>・命を育むことについて考えさせる。</li> </ul>

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

生徒たちは、直接幼児に触れることで自分たちの幼少期を思い起こすとともに、かけがえのない命を育んでいく喜びを感じることができたのではないかと思われる。さらに、これからの生き方にも思いをはせさせるようにしていきたい。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○乳幼児とふれあうことをとおして、命の素晴らしさや生きていることの喜びを感じることができたか。	
感性を育む	○保育士の方々の様子を見て、命を育んでいく素晴らしさについて考えよう。 ○乳幼児との関わりの中で、自分の中のやさしさについて考えよう。	
想像力の育成	○自分の幼少期を思い起こし、自分のこれからの生き方に思いをはせよう。	
全体を振り返った感想：		
先生から：		
家庭から：		

(3) 2次第3・4時

ア 本時のねらい

ゲストティーチャーの話をとおして、命の誕生に寄せる喜びや思いを感じ取り、自身が今生きている喜びを感じる。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

母親の妊娠中や育児の中での喜びや不安等にふれ、無事にこの世に生まれた喜びを感じさせる。

(イ) 感性を育む

命を育む妊婦の喜びや育児での苦労等を感じ、自身に置きかえ感謝の気持ちを持たせる。

(ウ) 想像力の育成

今の自分を肯定し、かけがえのない命を未来につないでいこうとする思いを持たせる。

ウ 準備物 ビデオ、感想記入用紙、ミニ自分史作成用紙等

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) ゲストティーチャーとの打合せ

- ・授業の趣旨の説明
- ・活動内容や流れについての確認
- ・準備物の確認

(イ) 事前指導（対生徒）

- ・話を聞く態度、赤ちゃんの接し方等の指導
- ・体調管理、衛生面（手洗い、爪切り等）
- ・自分の生まれたときの様子や幼少の頃について調べさせる。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 本時の流れについての説明を聞く。	・自分たちも同じ過程を経たことを意識させる。
展 開	2 胎児のビデオ（定期検診時毎のエコーによる胎児の様子を撮映したもの）を視聴する。  3 ゲストティーチャー（母親と赤ちゃん）から妊娠中の様子や気持ち、育児についての話を聞く。 ・自由に質問をする。 ・赤ちゃんにふれさせてもらう。	・撮影された時期や様子を解説する。 ・話を聞く前にしっかり手洗いをさせる。  ・お母さんの抱き方をよく見ておくようにさせる。
		

展 開	<p>4 感想を書く。</p> <p>(1) お母さんのお腹の中で命が芽生え、育っていく様子を見てどう思ったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感動した。また、どんどん大きくなっていくのを見て命ってすごいと思った。</li> <li>・お腹の中で手足や口を動かしているのを見て、小さな命が一生懸命生きているんだなと思った。</li> <li>・不思議な気持ちになった。</li> <li>・あんなに小さかったのに一日一日成長していつてびっくりした。</li> <li>・なんだか温かい気持ちになった。</li> </ul> <p>(2) 自分も同じようにお母さんのお腹の中で育ってきたことをどう思うか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分がお腹にいるときも大変だったんだなと思うと「ありがとう」という気持ちになる。</li> <li>・自分もお母さんのお腹にいたことが信じられない。</li> <li>・お母さんは、自分のお腹で育て、産み、ここまで育ててくれて、本当に感謝したい。</li> <li>・自分もお母さんの中で頑張ったのかなあ。</li> <li>・自分もお母さんのお腹の中で成長したんだなあ」と改めて思った。</li> <li>・無事に育ってきて、自分はすごく幸せなんだと思った。</li> </ul> <p>(3) ゲストティーチャーの話聞いて思ったこと、感じたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠が分かって本当に嬉しかったんだな。</li> <li>・妊娠するって大変なんだな。</li> <li>・つわりや陣痛がひどかったり、出産にすごく時間がかかっても、生まれてきた赤ちゃんの顔を見たら、そんなことを全部忘れてしまうなんて、喜びの方がずっと大きいんだな。</li> <li>・赤ちゃんの話をされている顔が本当に幸せそうだった。</li> <li>・話を聞いて自分まで幸せな気分になった。</li> </ul> <p>(4) 実際に赤ちゃんを見たり、抱いてみて感じたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かわいかった。また、実際に抱いてみてすごい命の重さのようなものを感じた。</li> <li>・柔らかかった。抱けて嬉しかった。</li> <li>・小さくて、もし落としたりはどうしようと思うと怖くて抱けなかった。</li> <li>・思ったより、ずっしりと重くて、命があるんだと実感した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感じたことを素直に書かせる。</li> <li>・互いの感想を一覧にし、共感し合えるようにする。</li> <li>・命の誕生の神秘さに気づかせる。</li> <li>・自分への母親の思いも合わせて考えさせる。</li> <li>・命を生み育てることの素晴らしさに気づかせる。</li> <li>・命のぬくもりを実感させる。</li> </ul>
--------	--	---

事例2 命を見つめ、自己の生き方を探る（県立姫路別所高等学校第3学年）

展 開	<p>(5) 将来、赤ちゃんを欲しいと思うか、また、どのような気持ちで育てるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぜひ欲しい（全員）。</li> <li>・優しい子どもになるように育てたい。</li> <li>・愛情いっぱい育てたい。</li> <li>・大切に育てたい。</li> </ul> <p>5 ミニ自分史を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生まれたときの様子や幼児期のエピソードを中心にまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親になり、子供を大切に育むことにつながる自身の生き方を考えさせる。</li> <li>・教師自らの幼少期のエピソード等を紹介する。</li> <li>・自分の歩んできた歴史をしっかりと思い起こさせる。</li> </ul>
ま と め	6 本時を振り返る。	

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

生徒たちは、母親の命の誕生に寄せる喜びや思いを感じ取り、自分の命の誕生は、多くの人の喜びであったことに気づくことができた。ここでは、これまでの成長は多くの周りの人によって支えられたものであることに気づかせ、命のかけがえのなさをしっかり確認させたい。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○母親の妊娠中や育児の中での喜びや不安等にふれ、自身が無事にこの世に生まれた喜びを実感しよう。	
感性を育む	○自分史づくりを通して、家族等の周りの人々の思いを考えよう。 ○命を育む妊婦の喜びや苦勞等について考えよう。	
想像力の育成	○かけがえのない命を未来につないでいくことについて考えよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

(4) 3次第1・2時

ア 本時のねらい

介護老人保健施設を訪問し、生きることの尊厳についてふれるとともに、人間は互いに支えあって生きていることを知る。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

老いによる障害のある人たちと関わる人々の思いに気づかせる。

(イ) 感性を育む

訪問先の人々（入所者、支える人々）の様々な生き方にふれることにより、命の重みを感じさせる。

(ウ) 想像力の育成

老いの豊かさや老いによる障害に立ち向かう姿にふれ、生きることの尊厳を考えさせる。

ウ 準備物 感想記入用紙等

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) 施設の職員（事務長）との打合せ

- ・授業の趣旨の説明と協力の依頼
- ・活動内容の確認

(イ) 事前指導

- ・聞く態度、体調管理、衛生面（手洗い等）

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	<p>1 老人介護保健施設の事務長から活動内容の説明を聞く。</p>	
展 開	<p>2 事務長からいろいろな話を聞く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>&lt;ケアの概念&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の立場に立って考える。</li> <li>・相手の人生、価値観を理解する。</li> <li>・相手の希望に耳を傾ける。</li> <li>・相手の心と体を決して傷つけない。</li> </ul> </div> <p>3 施設内を見学する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・懸命にリハビリに取り組む人たちを見る。</li> <li>・入所者の自立を支援している人々の働く姿を見る。 （医師、看護師、介護士、作業療法士、理学療法士等）</li> <li>・障害のある人のことを考えた設備（特殊なベッド、風呂等）を見学する。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老いによる障害に負けず、回復訓練に励む人々のたくましさに気づかせる。</li> <li>・老いによる障害のある人たちと関わる人々の思いに気づかせる。</li> <li>・設備をはじめ、さまざまな配慮があることに気づかせる。</li> </ul>

まとめ	<p><b>4 施設訪問の感想をまとめる。</b></p> <p>(1) 施設の設備を見てどう思ったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よく考えて作ってあった。</li> <li>・設備が整っているなど思った。</li> <li>・入所している老人のためをよく考えてあるな。</li> <li>・障害物がなかったり、廊下も見通しが良くて、何かあったらすぐ駆けつけられるようになっていた。</li> <li>・一つ一つの設備やつくり理由があることが分かった。</li> </ul> <p>(2) この施設で働いている人々の姿を見て何を感じたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・色々な仕事があるんだな。</li> <li>・みんな一生懸命だった。</li> <li>・笑顔で仕事をされていた。</li> <li>・この仕事の大切さが分かった。</li> </ul> <p>(3) 誰でもいずれ年老いていくことをどう思うか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今のうちに少しでもお年寄りの役に立ちたい。</li> <li>・お年寄りを大切にしていきたい。</li> <li>・年を取っても気持ちよく生活できる環境にしていかなければならない。</li> <li>・動けないお年寄りを見たら、少しつらいけど、趣味などを楽しんでいるお年寄りを見るとステキだと思う。</li> <li>・自分の祖父がだんだん一人で何も出来なくなっていくのを見るととても寂しい。</li> <li>・元気なお年寄りを見ると幸せな気分になれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感じたことを素直に書くようにさせる。</li> <li>・環境を整えることの大切さにも気づかせる。</li> <li>・何事にも真剣に取り組むことが人を支えることややりがい感に結びつくことに気づかせる。</li> <li>・誰でも命に限りがあることをしっかり認識させるとともに、今後の生き方についても意識させる。</li> </ul>
-----	---	---

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

生徒たちは、老いや障害のある人々、またそれを支える人々の様々な生き方にふれ、命の重みを感じることができた。幼い命も若い命も老いた命も誰もがたどるもので、同じかけがない命であることをさらにしっかりと認識させていきたい。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標 (めあて)	自分の振り返り
感動の体験	○老いによる障害のある人たちと関わる人々の思いを考えよう。	
感性を育む	○訪問先の人々の様々な考えや生き方にふれ、命の重みについて考えよう。	
想像力の育成	○老いの豊かさや老いによる障害に立ち向かう姿にふれ、生きることの尊厳について考えよう。	
全体を振り返ったの感想：		
先生から：		
家庭から：		

(5) 3次第3・4・5時

ア 本時のねらい

養護学校を訪問し、知的障害のある生徒たちと交流を図り、互いの命の重みを感じる。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

いきいきと生きる同世代の養護学校の生徒たちにふれ、共に生きていることを実感させる。

(イ) 感性を育む

交流を通して、相手を支えることによって自分も支えられていることに気づかせる。

(ウ) 想像力の育成

限りある生を精一杯生きることの素晴らしさを実感させる。

ウ 準備物 感想記入用紙等

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) 養護学校の担当者との打合せ

- ・授業の趣旨の説明
- ・活動内容や流れ（晴天時、雨天時）の確認

(イ) 事前指導

- ・交流活動の内容・留意点の確認をする。
- ・訪問先の学校について理解を深める。
- ・準備物の確認。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 担当教師からの日程説明、諸注意等を聞く。	・しっかり挨拶をさせる。 ・配置クラスを確認させる。
展 開	2 高等部3年生の各HR教室に行き、朝の学習に参加する。 ・自己紹介、挨拶をする。	・積極的に交流するように心がけさせる。
	3 高等部の各専門委員会に参加し、共に活動する。 (代表・保健・美化・体育・文化・放送・園芸・広報)	
	4 農園作業に参加する。 ・農園の作物の肥料・水やり、雑草取り等を養護学校生とペアを組んで行う。	・自分たちの方から声をかけるようにさせる。
	5 各HR教室での交流活動。 ・自由に会話、ボール遊び、音楽鑑賞等	
	 	

展 開	<p><b>6 養護学校訪問の感想を書く。</b></p> <p>(1) 一緒に活動した感想は？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最初は不安だったけど、みんなからしゃべりかけてくれて安心した。</li> <li>・うまくしゃべれない子も一生懸命しゃべってくれて、うれしかったし、楽しかった。</li> <li>・仲良くなれて本当によかった。</li> <li>・初めはとまどったけど先に声をかけてくれて、すぐうちとけられてうれしかった。ぜひまた行きたい。</li> <li>・作業は大変だったけど、楽しくていい経験ができた。</li> <li>・普段、同世代の友だちと手をつないで歩くことなどないから本当に楽しかった。</li> <li>・自分たちと接し方が少し違うところがあるけど、他は何も変わらなくて話も弾んで楽しかった。</li> </ul> <p>(2) 自分自身の学校生活とくらべてどう思うか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんな明るかった。自分も負けず頑張って生きていきたい。</li> <li>・みんな助け合っていて、自分たちと違ってすばらしいと思った。</li> <li>・みんな素直で、友だちの気持ちも考えて行動していてすごいと思った。</li> <li>・何に対しても真剣に取り組んでいるなど思った。</li> <li>・見習わなければならないところがいっぱいある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感じたことを素直に書くようにさせる。</li> <li>・ふれあうことで自分が感じる喜びは、相手も感じていることを認識させ、互いに支えられ、支えていることに気づかせる。</li> <li>・今までの自分の生き方を振り返らせ、明日からの自分の生き方を考えさせる</li> </ul>
ま と め	<p><b>7 施設等の体験を通して感じた生や死、命への思いを整理する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんな大切な命であることがよくわかった。</li> <li>・いずれ年にとって死ぬのだから今をしっかり生きていかなければいけないと思う。</li> <li>・自分も周りの多くの人もみんな命があって一緒に生きているんだ。</li> <li>・みんな仲良く、大切にしまわないといけないと思う。</li> <li>・どんな立場であっても一生懸命生きる大切さを強く感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流をとおして、共に生きていることを実感するとともに、一人ひとりが限りある命を精一杯生きていることを確認させる。</li> </ul>

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

生徒たちは、人とふれあうことの楽しさ、大切さを感じ、共に生きていること、そして互いに支えあって生きていることに気づくことができた。今後、それを自他の命を大切にすること、今を一生懸命生きることに結びつけていきたい。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○いきいきと生きる同世代の生徒たちにふれ、共に生きていることを実感できたか。	
感性を育む	○交流をとおして、相手を支えることによって自分も支えられていることについて考えよう。	
想像力の育成	○限りある生を精一杯生きることの素晴らしさを感じよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

(6) 4次第1・2時

ア 本時のねらい

身体に大きなハンディを抱えながらも、それに正面から立ち向かう人々のビデオを視聴し、「生」について考えるとともに、命の尊さや自分自身の生き方を考える。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

真摯に生きることの凄さや素晴らしさ、精一杯生きることの尊さを実感させる。

(イ) 感性を育む

自分自身の生きる意味を考えさせ、自他のかげがえのなさを実感させるとともに自他がかげがえのない関係の中で生きている存在であることに気づかせる。

(ウ) 想像力の育成

これまでの活動をとおして感じた生や死、命への思いを今後の生き方に重ね合わせて考えさせる。

ウ 準備物 ビデオ、感想記入用紙、「命の大切さ実感尺度」

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) ビデオを視聴する

- a 感想を整理しておく。
- b 生徒への問いかけを考える。

(イ) 「命の大切さ実感尺度」の内容を検討する。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 本時の説明を聞く。	・今までの取組を思い起こさせる。
展 開	2 生について考える。 ・自分を知り、自分を認めて精一杯生きることの尊さを実感するビデオを視聴する。 (知ってるつもり？『命と対話した人々 ヘレン・ケラー&中村久子』<日本テレビ>)	・両手両足の切断という厳しい状況にありながらも人生をたくましく生きた中村久子の生き方について考えさせる。
	3 ビデオ視聴の感想を書く。 ・この人達は強いな。自分の悩みなんて本当にちっぽけに思えてくる。 ・すごい人だ。障害に負けず生きている姿はかっこよくさえ見える。 ・精神的に強い人たちだ。自分というものをしっかり持っている。また、障害があるからこそ分かることもあるんだなと思った。 ・生きることの素晴らしさが分かった。2人とも障害があることに対して感謝しているのにびっくりした。 ・2人に勇気もらった気がする。 ・一生懸命生きた2人の人生はすごい。人生において一生懸命生きる大切さを感じた。	・感じたことを素直に書くようにさせる。 ・2人の生き様だけでなく、考え方にも注目させる。

- ・ 2人の真剣に生きる姿は本当にすばらしい。自分も出来ることをもっと頑張らないとだめだと思った。
- ・ 自分よりずっと輝いて見える。
- ・ 人間は努力次第で何でも出来るんだなと思った。
- ・ 障害があることに対して、最後はありがとうって思えたことが本当にすごい。

4 生きるこの意味とこれからの生き方を考え、自由に意見を出し合おう。

(1) 生きるとはどういうことだと思うか

- ・ すばらしいこと。一生懸命頑張ること。
- ・ 何があってもくじけたり、諦めたりしないで前に向かっていくこと。
- ・ 自分の持っている可能性を生かすこと。
- ・ 自分というものを見つけること。
- ・ 自分の人生と一生向かい合うこと。
- ・ 生きていたらいろんなことがあるけど負けないようにしないと自分も周りもつらくなる。一度だけの人生だから悔いの残らないようにすること。
- ・ 生きることは大切なこと。そして、自分自身の気持ち次第で人生は変わらと思う。
- ・ 生きているだけで、気付かないうちに誰かを幸せにしているかもしれない。
- ・ 大変なこと。それだけに支えてくれたり、関わってくれる人たちにありがとうという気持ちを伝える時、生きているって感じると思う。
- ・ 自分の可能性を信じて勇気を持って行動したり考えたりすること。
- ・ 生きるとは、希望があることだと思う。

(2) 今後ともに生きる異性との付き合い方をどう考えるか

- ・ 本当に好きと思える人と結婚して、子どもを育てていける自信がついたときに子どもは作るべきだと思う。中絶は絶対したくない。
- ・ 妊娠したら別れるような人と付き合いたくない。自分のことも子どものことも考えてくれる人と付き合いたい。
- ・ 妊娠して安易に中絶なんて絶対にしないように気を付けたいし、相手にも気を付けて欲しい。将来大切な人との間に子どもが出来たら責任を持って育てたい。
- ・ 自分に出来た新しい命を幸せに育てられる環境で産みたい。そのためにも、今も未来も間違いのない異性との付き合い方をしたい。
- ・ もし妊娠したらという話になったときに、命の大切さを分かっていない相手だったら付き合いを考えてしまう。

- ・ 生きるということは、ただ命があるということではなく、強い意志が働いていることに気づかせる。

- ・ 一人ひとり、持っている思いは違うことと、いろいろな感じ方があることに気づかせる。

- ・ 人との付き合いが自分の人生に大きな影響を与えることに気づかせる。

- ・ 自他の心身や命を大切にすることを踏まえた異性との付き合い方や必要性を考えさせる。

	<p>(3) これからの生き方をどう考えるか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来、保育士になりたいと思うので努力していきたい。そして少しでも社会に貢献したい。</li> <li>・将来、幸せな家庭を作っていけるように頑張りたい。</li> <li>・命や周りの人たちを大切にしていきたい。</li> <li>・自分の命を大切に、目標を持って前向きに生きていきたい。</li> <li>・絶対、後悔しない生き方をしたい。</li> <li>・将来、介護士になりたい。また、誰に対しても素直にありがとうといえる人間になりたい。</li> <li>・自分だけが良ければいいのではなく、他の人のことも考えられようになりたい。</li> <li>・どんなつらいことがあっても最後まで生き抜きたい。</li> <li>・人とのふれあいを大切に、人の役に立てるように生きていきたい。</li> <li>・自分の将来の夢に向かって、しっかり勉強して強く生きていきたい。また、相手のために出来ることを考えて生きていきたい。笑顔を忘れず、また、それが人に伝わるように生きていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の将来をしっかりと見つめさせ、展望を持たせる。</li> </ul>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">まとめ</p>	<p><b>5 これまでの授業で得たこと、感じたことをまとめよう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子供を産むことの素晴らしさや命の重さが分かった気がする。</li> <li>・いろいろな経験ができたことや多くの人と仲良くなれたことが楽しかった。</li> <li>・何があっても、しっかり生きていこうと思った。</li> <li>・いろいろな体験をして考えることができた。どの人も強く生きていることを感じた。</li> <li>・命の大切さを知った。いろいろな体験ができて将来、役に立つと思う。</li> <li>・ふれあうことの楽しさや大切さを感じた。また、命の大切さや人間が生きることの凄さを強く感じた。</li> <li>・相手の気持ちを考えながら行動すること、ふれあうことの素晴らしさや難しさも実感した。</li> <li>・命の大切さ、生きている素晴らしさを学んだ。感動したことがたくさんあった。</li> </ul> <p><b>6 「命の大切さ実感尺度」に回答する。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな体験の中で、特に強く心に残ったことを書かせる。</li> <li>・今持っている思いを忘れないよう、日頃の生活の中に反映させることの大切さに気づかせる。</li> </ul>

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

生徒たちは、これまでの活動をとおして、命の大切さや精一杯生きることの尊さを実感し、今後の自己の生き方を真剣に考える機会となった。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標 (めあて)	自分の振り返り
感動の体験	○真摯に生きることの凄さや素晴らしさ、そして、自分を認めて精一杯生きることについて考えよう。	
感性を育む	○自他のかけがえのなさを実感し、自己の生きる意味を考えることができたか。	
想像力の育成	○これまでの活動をとおして感じた生や死、命への思いを今後の生き方に重ね合わせて考えよう。	
全体を振り返った感想：		
先生から：		
家庭から：		

## 10 実践を終えて

### (1) 先生の振り返り

本校の生徒にとっては、感性を育むための様々な体験学習が特に効果的だと思われる。ゲストティーチャーの母親の話からは、自分の誕生が多くの人の喜びであったことを実感できた。そして、施設訪問では交流をとおして、周囲の人から喜ばれ、自分が役に立ったという自己有用感を肌で感じ、それが自分の存在の自信となり、自己肯定感につながったように思われる。

また、母親や園児、高齢者や障害のある方と感性を生かして関わることで、誕生の素晴らしさや命の重みを感じることができた。生徒たちは、以前から命は大切なものという観念は持っていたようだが、実感までには至っていなかったかもしれない。しかし、一連の取組をとおして、体験的に感じ取ったように思う。今後の人生において、自他の命を大切にしていきたい、意欲的に生きたいと思うようになってきたのは大きな成果である。しかし、日常生活の中での意識や行動に十分反映させるにはいたっていない。そのためには、今後このような体験学習を継続的に行っていく必要があると思われる。

### (2) 今後の課題

#### ア 授業実践上の課題

このような取組を行う場合には、生徒の実態の把握を十分に行い、それに基づいてしっかりとした方向性を定めてプログラムを組み、事前学習・事後学習を丁寧に行っていかなければならない。

また、普段から教材研究や情報収集をしっかり行い、視聴覚教材においても実践のねらいの方向性に合致した生徒の心に強く訴えるもの、深く考えさせるものを準備しておく必要がある。施設等の訪問を取り入れる場合は、下調べを十分に行い、その施設の実態や地理的条件な面も考慮して候補を決め、受け入れの依頼を行うことが重要である。

#### イ 家庭・地域との連携についての課題

家庭や地域に、この取組の必要性や趣旨を理解してもらうことに努め、十分に協力が得られるようにする。特に施設等の訪問においては、教職員が交流先のことを十分理解したうえで、生徒のプラス面だけでなく交流先にとってもプラスになるように打ち合わせや連絡を密にし、長期にわたる受け入れをしてもらえるよう信頼関係を築いていくことが求められる。

#### ウ 学校の組織運営上の課題

今回は、総合的な学習の時間の一つの講座を選択した生徒を対象に実施したが、このような取組は、少なくとも学年全体を対象として行う必要があると思われる。しかし、体験学習を中心としているだけに全クラスの同時展開は非常に難しい。総合的な学習の時間の年間計画の中で、体験学習をどう位置づけるか、実施内容の工夫、また実習に協力いただける施設との連携の問題等、課題は多い。それだけに学校全体の共通理解と支援、実践をささえる教職員の日々の研修が不可欠である。

## 11 参考・引用文献

- ・日野原重明『死をどう生きたか』中央公論新社 2003
- ・一番ヶ瀬康子、寺出浩司 他 16名『家庭総合—ともにいきる—指導資料』一橋出版 2002
- ・ビデオ 「プロジェクトX」『耳をすませ 赤ちゃんの声～伝説のパルモア病院誕生～』（NHK エンタープライズ）
- ・ビデオ 「知ってるつもり？」『命と対話した人々 ヘレン・ケラー&中村久子』（日本テレビ）

**事例3 「つながり」の中で生かされている命  
- 屋久島・種子島への修学旅行をとおして学ぶ -  
( 県立姫路飾西高等学校第2学年 )**

## 高等学校事例3

「つながり」の中で生かされている命 - 屋久島・種子島への修学旅行をととして学ぶ -  
 県立姫路飾西高等学校第2学年

## 1 テーマ

屋久島・種子島方面への修学旅行の体験をととして、命がつながり、そして互いに支え合っていると感じ取らせ、命の大切さを実感させる。

## 2 実践のねらい

個々の限りある命が周囲の命とのつながりの中で生かされていることを知るとともに、世代交代を通じて受け継がれ、生命が連続していることを実感する。また、自尊感情を育み、豊かな人生を送るための生き方を探る。

## 3 テーマ設定の理由

## (1) 本校の概要と児童生徒の実態

本校は、創立22年目を迎える生徒数約680名の全日制普通科高校である。各学年にグローバル・コミュニケーション・コース(国際文化コース)とサイエンス・サーベイ・コース(自然科学コース)が1クラスずつ設けられており、ほぼ全生徒が4年制大学への進学を志望し、部活動や学校行事等も盛んな学校である。

生徒は、大変素直で、与えられたことに対しては真面目に取り組むが、消極的な側面もあることは否めない。また生き物を育てたり、自然の中で遊んだりの体験が大変少なくなっており、命に直接ふれる機会が不足しがちである。そこで、本実践の対象となる学年の生徒には入学以来、綿作りをはじめ様々な体験を系統的に行うとともに、活動の記録づくりをととして、自主性を育む工夫をしてきた。また、各行事の感想や作品等を機会あるごとに、学年専用の掲示板に展示したり、学年通信で紹介するなど、様々な機会を利用して、学年全体での取組を行ってきた。

本実践においても学年の行事である修学旅行を活用し、屋久島・種子島の豊かな自然の中でのつながりに目を向けさせ、命の大切さを実感させることとした。

## (2) 指導のポイント

## 【感動の体験】

・屋久島の大自然に直接触れることで、生命の神秘性や畏敬の念を感じさせる。

## 【感性を育む】

・倒木更新や切り株更新を目の当たりにすることによって、命のつながりに気づかせ、自他共に生命がかけがえのない存在であることを実感させる。

## 【想像力の育成】

・個の命が周囲のつながりによって生かされ、個体が死を迎えても、命が次の世代に引き継がれている事実気づかせる。また、「命を大切にすることは、どのような生き方をすることか」を考えさせ、行動や考え方を見直させるきっかけとする。

## 4 事前

## (1) 先生の準備

- ・担当者だけでなく、常に学年の全職員が関連する資料にあたり、学年会議で互いにアイデアを出しながら、修学旅行と結びついた系統的な学習が図れるように工夫する。
- ・事前学習で、外部講師を招聘する際にも関連する複数の候補を当たった上で、生徒に最も適した人物を講演者に迎えるように配慮する。
- ・学年の企画担当者3名で、企画の原案と日程調整等を行いながら、学年会議で、詳細に打合せを行いつつ、綿密に準備を進める。

## (2) 教育課程上の位置づけ

- ・国語(現代文)

## 事例3 「つながり」の中で生かされている命-屋久島・種子島への修学旅行をとおして学ぶ(県立姫路飾西高等学校第2学年)

- ・理科(生物)
- ・特別活動(修学旅行)
- ・総合的な学習の時間

## (3) 子どもたちの準備

- ・夏季課題として、講演会のテーマを調べさせるなど、生徒自身に考えさせ、問題意識を持たせる。
- ・修学旅行前に、屋久島の自然に関するVTRの映像等や『木』(幸田文)に関する読書会を実施し、興味・関心を持たせる。

## (4) 家庭・地域との連携

- ・1年次の綿作りでは、綿会社の経営者より、綿畑を借りるとともに、綿の会のメンバーより、糸紡ぎの方法や紡錘車の作り方などの手ほどきを受けた。
- ・1年次のふれあい育児体験では、学校近隣の幼稚園・保育園の協力を得ることができた。
- ・生徒の製作した作品レポートを学年パネルに掲示し、保護者会、文化発表会で公開するとともに、一連の学習に対する協力を求めた。

## 5 本校の実践の特色

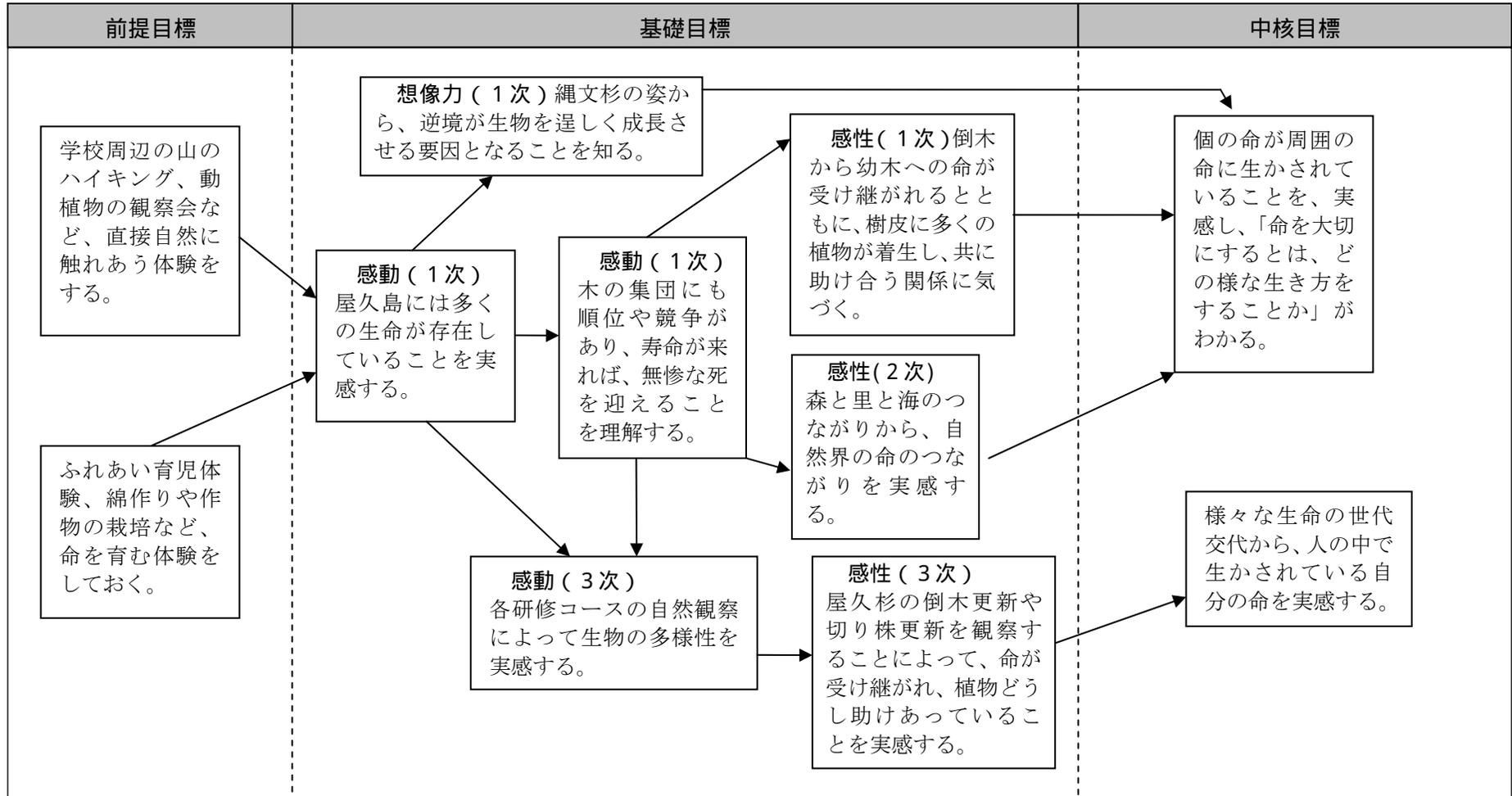
- ・新聞や書籍等の知識だけでなく、生徒自身による取材やフィールドでの体験活動を重視している。活動の前後に、常に課題や報告書の作成を求め、思考・アイデアなどをまとめる記録を伴う活動となるような工夫をした。
- ・既製の教材を使うのではなく、その都度、生徒の学習の目的にあった資料や講演者を学年の全教員で当たり、生徒が興味・関心を持つことの出来る仕掛けを工夫し、独自の内容とした。
- ・課題については、正解がひとつではなく、一人一人の個性を發揮できるようなレポートになるよう、出題方法を工夫した。
- ・メッセージカードの活用をとおして、提出されたものを生徒間で評価し合い、優れた作品を掲示あるいは学年通信に掲載するなど、生徒の自尊感情を育むように試みた。

事例3 「つながり」の中で生かされている命-屋久島・種子島への修学旅行をととして学ぶ( 県立姫路飾西高等学校第2学年 )

6 目標分析表

	学習活動	感動の体験	感性を育む	想像力の育成	先生の振り返り
事前	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「自然観察の森トレッキング」</li> <li>○「ふれあい育児体験」</li> <li>○「綿の栽培と収穫」(春～秋)</li> <li>○「倉敷校外学習」(倉紡記念館見学)</li> <li>○「文化発表会学年展示」</li> <li>○「文化発表会学年展示」</li> <li>○22世紀に遺したいもの</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○森林を歩き、四季折々の動植物を観察し、生命の輝きを肌で実感する。</li> <li>○集団で様々な行事を行い、友人・先生と豊かな人間関係を築く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生物の栽培や飼育、ふれあい育児等の体験を通じて、生きている命のぬくもりを感じ取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分と共にすべての生命を大切にすることを育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身近に存在する多くの生物の命の存在を意識し、それらを大切にすることを育むことができたか。</li> </ul>
1次 (4時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ビデオ『屋久島の四季・生命の輝き』を鑑賞する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○映像を通じて屋久島に溢れる様々な生命の存在に気づく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○縄文杉の語る「言葉」から、風雪などの厳しい環境に耐える木の強さを感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○逆境が人や生物を逞しく成長させる要因となることを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○屋久島には様々な生命が溢れており、厳しい環境によって生命力が育まれることを理解させられたか。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○『木』(幸田文)の「えぞ松の更新」を用いて、読書会を行う。(国語：現代文)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○木の集団にも順位や競争があり、寿命が来れば、無惨な死を迎えることを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○木の持つ情感や倒木が新芽や次の幼木の栄養となり、次世代を育むことを実感する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○木は次世代に何を遺すのか、何を伝えるのかを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○命には限りがあるが、つながり合っていることを理解できたか。</li> <li>○倒木更新や切り株更新を、親子の命のつながりに結びつけて考えられたか。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○『屋久島自然観察ガイド』を用いて、森林の世代交代と植物群落の遷移について学ぶ。(理科：生物)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○植物群落の遷移の様子を理解し、森の様相は変わらずとも個々の木は、世代交代することを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○倒木から幼木への命が受け継がれるとともに、樹皮に多くの植物が着生し、共に助け合う関係に気づく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○寿命を迎えた倒木から、新たな芽生えに命がリレーされる様子から、人としての生き方を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○命には限りがあるが、仲間同士または世代を超えてつながり合っていることが理解できたか。</li> </ul>
2次 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○京都大学フィールド科学教育研究センター長 田中克教授より『森と里と海をつなぐについて』の講演を聴く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○森や海が多くの生命の存在場所であることを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○森の命と海の命のつながりについて具体的な例を聞きながら、命のつながりを感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○樹木や人の命は有限であるが繋がっていることを実感する。</li> <li>○森と海と人の命のつながりを総合的な視点で捉え、これらの命を守る方法を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○命の重みを感じさせることができたか。</li> <li>○集団としての命が他の集団の生命に大きな影響を与えることを理解できたか。</li> </ul>
3次 (19時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○屋久島の体験学習(修学旅行)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>①縄文杉トレッキング②白谷雲水峡・太鼓岩トレッキング③屋久杉ランドトレッキング④安房川カヌー・春田浜タイドプールでの生物観察</li> </ul> </li> <li>○修学旅行中課題(1つ選択)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>①作文部門②レポート部門</li> <li>③造形部門(クラフト・コラージュ)</li> <li>④絵画部門⑤西部林道トレッキングと大川の滝見学</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大自然の命に感動の気持ちをもつ。</li> <li>○各研修コースの自然観察によって生物の多様性を実感する。</li> <li>○樹齢1000年以上の屋久杉に直接触れることによって、生命への畏怖の念を実感する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○屋久杉の倒木更新や切り株更新を観察することによって、命が受け継がれ、植物どうし助けあっていることを実感する。</li> <li>○グループごとの体験学習を通じて人とのつながりと協力、互いに生かし合うことの大切さを実感する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○何千年の間、命が受け継がれることにより、私たちを含む全ての生命が存在することを理解させる。</li> <li>○人も自然界の中で共に助け合い、子孫を残し、親から子へ、子から孫へと命が受け継がれていることに気づく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○命は単独の個体(個人)のだけのものではなく、つながり受け継がれていくものであることを実感させることができたか。</li> </ul>
事後 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○修学旅行の振り返り</li> <li>○修学旅行課題パネル展示</li> <li>○命を守る                             <ul style="list-style-type: none"> <li>杉の間伐材の再利用による木造新工法 j-pod(建築現場見学会)～防災の視点から～</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友人の課題レポートを見て、様々な感じ方や見方があることに気づく。</li> <li>○間伐材という不要になった木の活用方法をととして、命の再生について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な生命の世代交代から、人の中で生かされている自分の命を実感する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個の命が周囲の命に生かされていることを、実感し、「命を大切にすることは、どの様な生き方をすることか」がわかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○屋久杉の世代交代から、限りある人生をどの様に生きればよいかについて考えさせることができたか。</li> <li>○命のつながりを実感し、自他の命を大切にすることをもちこたえられたか。</li> </ul>

7 目標構造図



(凡例) ①感性(1次): 「①」は指導の順序、「感性」は指導の観点が「感性を育む」、「(1次)」は学習活動が「1次」であることを示す。

## 8 事前の教員研修と指導の概要

### (1) 事前の教員研修

研修内容	
a	○限りある命について実感をもつ。 『わすれられないおくりもの』等を読んで、限りある命について考える。
b	○生命の視点を「自然界の命」に広げ、人の命との共通点を学ぶ。 ・ビデオ「屋久島の四季 生命の輝き」をみて、命の多様性と生命のつながりを学ぶ。
c	○木の世代交代について学ぶ。 ・幸田文著『木』、宮大工 塩野米松著『木の教え』、『屋久島自然観察ガイド』等を読んで、木の世代交代と、命のつながりを学ぶ。
d	○自尊感情を高め、様々なつながりの中で生かされている自分に気づかせる ・構成的グループ・エンカウンターを活用する。 <提言 P64：教員研修テーマ①>
e	○自己の生き方と次世代に引き継ぐべきものについてについて討議する。 ・自身の子育てや教育の仕事を通じて、次の世代に伝えたいものについて話し合う。

### (2) 指導の概要 (全 27 時間)

内容		
事前 (1年)	○「自然観察の森トレッキング」(春と秋) ～有機的で美しい自然の姿～ 春：新緑(命の芽生え) 秋：紅葉・落葉(命の終わり) ○ふれあい育児体験(9月) ～あふれる生命力～ 食事・遊び・排泄 ○「綿の栽培」(春から秋) ～一粒の種から生まれる命の不思議と大切さ～ 綿の工夫(綿で実をくるむ意味)、育てる苦労(草引き、台風で倒れた茎を起こす)、収穫の喜び(一粒も無駄にできない気持ち)	教員研修 a
	○倉敷校外学習(倉紡記念館)(4月) ～ひとりひとりの労働者を大切にすること～ 住まいの改善、労働時間の短縮、趣味の時間、病院の設立・・・ ○文化発表会学年展示『OUR WISH 22世紀に遺したいもの』(6月) ～私たちにとって大切なものは何か～ 思い出・友達 ○夏期課題『記憶にあるうちに 30年前にあつて今はなくなったもの』(8月) クマゼミ、自然、公衆電話、ちゃぶ台、地域のつながりなど	教員研修 e
	1 屋久島の自然・生命に関するビデオ学習 『屋久島の四季 生命の輝き』 縄文杉が語る言葉 2 幸田文『木』－えぞ松の更新－読書会(国語：現代文) ～倒木更新・世代交代～ 感想は学年通信へ掲載 3 「受け継がれる命」屋久杉の世代交代について(理科：生物) 『屋久島自然観察ガイド』を用いて、植物群落の遷移・木の倒木更新・切り株更新の様子の説明を聞き、森林の世代交代のしくみを理解する。	教員研修 b (1時間) 教員研修 c (1時間) (2時間)
2次 (2時間)	1 「森・里・海のつながり」についての講演会 京都大学フィールド科学教育研究センター長 田中 克 教授 ～つながりあう命～「森は海の恋人」漁師が山に木を植える運動により海に魚が戻った。	教員研修 d (2時間)

事例3 「つながり」の中で生かされている命-屋久島・種子島への修学旅行をとおして学ぶ(県立姫路飾西高等学校第2学年)

<p>3次 (19時間)</p>	<p>1 屋久島修学旅行体験学習(2日間で2コース選択)          ～命の様相・真実を確かめる～          ① 縄文杉登山コース ② 白谷雲水峡・太鼓岩トレッキングコース          ③ 屋久杉ランドトレッキングと千尋の滝見学コース          ④ 安房川カヌー・春田浜タイドプールでの海の生物観察          ⑤ 西部林道トレッキングと大川の滝見学コース          &lt;修学旅行中研修課題&gt;          次の4つの課題の中から一つ選択し、修学旅行後に提出する。取材メモは葉に記入する。          (1) 作文部門          修学旅行の感想、エッセー、紀行文、屋久島に着想を得た創作物語などを、最低800字以上書く。          (2) レポート部門          屋久島・種子島に関するレポートをB4サイズ1枚にまとめる。          テーマは自由だが、次の項目は必ず入れること。テーマ、図(イラスト・写真・切り抜き)、図についての説明・感想。          (3) 造形部門          修学旅行中に手に入れたものを使って、クラフトやコラージュを作成する。大きさは自由。色を塗るなど、最低限の加工をすること(素材そのものは不可)。その作品にテーマをつけ、また以下の説明文を加えること。          材料の入手経路、作成上の留意点、一言感想。          (4) 絵画部門          4つ切り画用紙(各自準備)を用意する。          (例) イメージ画、風景画、宣伝ポスターなど。</p>
<p>事後 (2時間)</p>	<p>○帰りの飛行機の機内にて修学旅行を振り返る。(取材シートに記入)          ○修学旅行課題をパネル展示 ～屋久島で学んだこと～          ○命を守る          ～防災の観点から～          J-p o d (耐震建築新工法:杉の間伐材を再利用した住宅立て替え工事)          夢前町:希望者による現地見学会実施</p>
<p>発展</p>	<p>○「つながり」を創る          ・人と人のつながりをつくる ～よりよい人間関係づくりを目指して～          ・地域とのつながりをつくる ～地域の一員として～</p>

## 9 指導実践

### (1) 1次第1時

#### ア 本時のねらい

映像を通じて、屋久島に溢れる様々な生命の存在を実感する。

#### イ 指導のポイント

##### (ア) 感動の体験

屋久島は、亜熱帯から亜寒帯までの気候が凝縮されており、多様な生物が存在することを実感させる。

##### (イ) 感性を育む

縄文杉の語る「言葉」から、風雪などの厳しい環境に耐える木の強さを実感させる。

##### (ウ) 想像力の育成

栄養に乏しい土壌や風雪によって、年輪の詰まった立派な杉が育つことを理解し、厳しい環境が人や 生命を成長させる要因となることに気づかせる。

#### ウ 準備物

ビデオ「屋久島の四季 生命の輝き」・プロジェクター・VTRデッキ・スクリーン・小型スピーカー・VTR記録カード

#### エ 先生の準備 (事前の打ち合わせと教員研修)

##### (ア) 担当教員でVTRを事前に視聴する。

##### (イ) 『屋久島自然観察ガイド』を読み、気候・地質・生物などの自然環境についての知識を学ぶ。

#### オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 VTRの見所とポイントの説明を受ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋久島に樹齢の古い杉が生育する理由に注目させる。</li> <li>・VTR記録カード(感想用紙)を配布。</li> <li>・ビデオの内容や、紹介される生物の名称を記録させる。</li> </ul>
展 開	2 屋久島の地理・気候等について理解する。 ・島の大きさ、代表的な山の紹介、年間降水量、地形、地質等について  3 縄文杉の語り(声:三國連太郎氏)を聞いて風雪に耐えるスギの逞しさを実感する。  4 標高の低い所から高い所への植生の変化を理解する。  5 樹皮にコケが着生する樹木と、樹皮を交換する木など、樹種による生き方の違いを学ぶ。  6 貧栄養な土壌によって、年輪の詰まった強く逞しい屋久杉が生育することを知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できるだけ大きなスクリーンまたは壁に画像を投影し、臨場感を出す。</li> <li>・屋久島の自然の多様性について補足する。</li> <li>・照葉樹林(スダジイ・タブノキ・イスノキ・ガジュマル・シロダモなど)、針葉樹林(スギ・ヒノキ・ツガなど)について理解させる。</li> </ul>

事例3 「つながり」の中で生かされている命-屋久島・種子島への修学旅行をとおして学ぶ(県立姫路飾西高等学校第2学年)

ま と め	<p>7 ビデオを見て感じたことを発表する。</p> <p>8 要点・感想を書く。</p>	<p>・生まれた環境下で精一杯生き、逞しく育つ杉の姿から、命の尊さと人の生き方について考えさせる。</p>
-------------	---	---

カ 先生の振り返り(次の実践に向けて)

- (ア) 生徒たちは、迫力ある映像を見て、屋久島が多様な生命に恵まれた神秘の島であることを実感した様子であった。
- (イ) 事前学習をする場合、総合的な学習の時間だけでなく、各教科担当者と連携し、関連した事項を授業で取り上げてもらう等、教科横断的な学習が図れるよう工夫していく必要がある。

事例3 「つながり」の中で生かされている命-屋久島・種子島への修学旅行をとおして学ぶ(県立姫路飾西高等学校第2学年)

(2) 1次第3時

ア 本時のねらい

現代文の授業で、『木』(幸田文)の「えぞ松の更新」を読み、世代交代の中での命のつながりを実感させる。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

木の集団の中にも順位や競争があり、寿命が来れば死を迎えることを理解させる。

(イ) 感性を育む

木の持つ情感や死んだ倒木の無惨な姿を感じさせるとともに、倒木が新芽や次の幼木の栄養となり次世代を育むことを実感させる。

(ウ) 想像力の育成

木は次世代に何を遺すのか、何を伝えるのかを考えさせる。

ウ 準備物

(ア) 『木』(幸田文)

(イ) 設問に対する生徒のコメント記入用紙

エ 先生の準備(事前の打ち合わせと教員研修)

事前に『木』(幸田文)を読んでおき、木の命について生徒に考えさせるキーワードや文章について話し合い、設問を用意しておく。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 本時のねらいと流れについての説明を受ける。	
展 開	2 後述の(1)～(3)の文章を読み、作者が述べていることについて考えるとともに、感じたことをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間があれば、各自がまとめた内容についてグループ内で話し合ったり、発表させたりする。</li> <li>・「倒木更新」と木の世代交代の記述から、親から子への命のつながりに気づかせるような展開とする。</li> <li>・「ぬくみ」という言葉から想像できる「体温」・「あたたかさ」等、「命」につながることに気づかせたい。</li> </ul>
ま と め	3 学年通信を読み、他の人の多様な意見にふれる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の感想を「屋久島で命を感じたい・・・」修学旅行直前紙上読書会と題して、学年通信「北辰」25号に掲載し、まとめとした。</li> </ul>

カ 先生の振り返り(次の実践に向けて)

授業を受けた生徒の多くは、「倒木更新」や「切り株更新」と、親から子へと受け継がれる命とを結びつけて感じてくれたようだ。感想から、えぞ松の気持ちや命について様々な考えが出され、自然の中の命の大切さを学ぶことができたように思う。グループごとの話し合いや発表の時間をもう少し取りたかった。

#### 【設問の文章】

(1) 「エリートならざる数々の凡庸、その凡庸にまたそれぞれ等級はつく。これらもまた、力強い頼もしさだ。そして、どんじりは辛うじて弱く生きている虚弱劣級木だろうか。かなしいというか、いとしいというか。木はまことに無言であり、私はなにか誰かに語りかけたくてたまらないのを、ただ控えて、森林の静寂に従って佇んだ。」

#### 【生徒の感想】

・「木」は無機質でただそこにいるだけだと思っていたけど、人間と同じように、あるいは人間以上に多くの感情と強い意志を持っていると思った。

(2) 「…じわじわと無惨だなあ、と思わされた。死の変相を語る、かつての木の姿である。そして、あわれもなにも持たない、生の姿だった。先に見た更新を、澄みきって自若たる姿とするなら、これはまあなんと生々しい輪廻の形か。…なにか目を伏せて避けていたい思いもあるし、かといって逃げたくもない。」

・木が死んだら倒木として残り、次の木へと命がつながっているが、果たして人間の場合だとどうだろう。人間が死んだら果たして何が残るだろうか。僕は心が他の人に残ると思う。その人の意志や夢は他の人の記憶の中でその人の心として残っていると思う。これも輪廻と言えるのではないだろうか。

(3) 「この古い木、これはただ死んじゃいないんだ。この新しい木、これもただ生きているんじゃないんだ。生死の継目、輪廻の無惨をみたって、なにもそうこだわることはない。あれもほんのいつ時のこと、そのあとこのぬくみがもたらされるのなら、ああそこをうっかり見落さなくて、なんと仕上げせだったことか。このぬくみは自分の先行き一生のぬくみとして信じよう。」

・えぞ松は死んでもただ死んだだけでなく、次の世代のために優しさを残して死んでいったのかな、と思った。次の新しい命も死んだ木から優しさを受け継いで、また、次の命に優しさを託して死んでいくのだと思う。人間の優しさという心は、もしかしたら木から教わったのかもしれないと思った。

・人は人の上にたたず。でも木は次の世代のために立たせる。自分がどうなろうとも上に木を立たせる。子を思う親のように。

・人間に体温があるように、木にもぬくみがある。古い木は一見枯れて何の役目も果たしていないように見えるけど、それでも温もりはある。私は「ぬくみ=生きている」だと思う。倒木更新は命のリレーみたいなものだなあと思った。

#### 【生徒の詩】

「だれかが死んで/だれかが生きる/死んだら生きる/生きたら死ぬ/なんとあたたかいのか」

「死がない生などない/絶望がない希望などない/死があるから自分は生きる/絶望があるから希う」

事例3 「つながり」の中で生かされている命-屋久島・種子島への修学旅行をとおりて学ぶ(県立姫路飾西高等学校第2学年)



切り株更新で受け継がれる命

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標 (めあて)	自分の振り返り
感動の体験	○地球上の様々な生命の存在に気づくことができたか。 ○風雪に耐える縄文杉の姿からどんなことを感じたか話し合ってみよう。	
感性を育む	○倒木更新・切り株後の新芽の更新などからどの様なことを感じたか。	
想像力の育成	○縄文杉の生き方と人の人生を比較して、どんなことを感じたか話し合ってみよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

事例3 「つながり」の中で生かされている命-屋久島・種子島への修学旅行をとおして学ぶ( 県立姫路飾西高等学校第2学年)

(3) 2次第1・2時

ア 本時のねらい

森と里と海のとつながりについて、具体的な例をもとに、命のつながりと生命の多様性、人と自然のつながり等について思いをめぐらせ、深く考察する。

講師：京都大学フィールド科学教育研究センター長 田中 克 教授

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

森や海が多く生命の存在場所であることに気づかせる。

(イ) 感性を育む

森と海のとつながりについての具体例を聞くことをとおして、命のつながりを実感させる。

(ウ) 想像力の育成

- ・樹木や人命は有限であるが、つながっており、それによって生かされていることを実感させる。
- ・森と海と人の命のつながりを総合的な視点で見ることによって、環境問題の解決を図るきっかけに気づかせる。

ウ 準備物

生徒レポート用紙・演題垂れ幕

エ 先生の準備 (事前の打ち合わせと教員研修)

(ア) ゲストティーチャーによる教師向けの講演会を企画・実施する。

- ・「森と里と海の連環学」が注目されるようになった経緯を丁寧に説明してもらう。
- ・講演に向けて、講演のねらいと生徒の実態を講師に詳しく伝えておく。
- ・講演に向けて、講師から事前学習の課題を出題してもらう。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 ゲストティーチャーに、学校紹介のプレゼンテーションをする。	・プレゼンテーションは生徒に主体的に制作させる。
展 開	2 講師に事前学習の課題(「30年前にはあって今は失われてしまったもの」の作文)の講評を受ける。 ・自然環境 ・クマゼミ ・公衆電話 ・ちゃぶ台 ・家族団らん ・地域とのつながり	・司会・挨拶・謝辞など講演会の運営について生徒に指導する。 ・優れた課題作文を数点選び、講演までに講師に送付しておく。
	3 「森と里と海のとつながり」が総合的に研究されるようになった理由について、以下の説明を受ける。 ・北海道のニシンの漁獲量減少と森林伐採量を比較したグラフからわかること ・コンクリートによる河川改修、及び消波ブロックによる砂浜の減少と漁獲量の減少について ・漁師が山に木を植える運動を行い、魚が海に戻った例(宮城県気仙沼 畠山重篤氏の例)について	・「つながり」というキーワードを元に森の命・海の命等、「自然界の生命のつながり」に目を向けさせる。

<p>展 開</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サケが森をつくる例 (川を遡上したサケがヒグマに食われた後、食われたカスによって森林の土壌が豊かになる)</li> <li>・マングローブ林がインドネシアの大津波から村の人々の命を守った例</li> <li>・杉の間伐材による新建築工法 j - P o d について (地震に強い木の命の再利用)</li> <li>・森を再生することは川の再生・海の再生につながることにについて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自が具体的に実行できることを考えさせる。</li> </ul>
<p>ま と め</p>	<p><b>4 講義の内容及び感想をまとめる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の話を聞いて、森と里と海につながりがよくわかった。私たちの何気ない行動が海や森を壊しているのだと思った。修学旅行では自然の素晴らしさを学びたい。</li> <li>・海と森というものは切り離してはいけないものだと今日わかりました。日々の生活がもう少し森や海とか生態系のことを広く考えて行動したいと思いました。</li> <li>・「心に木を植える」とあるように、「森と里と海」がつながっているためには、意志のある人間がきちんとした意識を持って生きていくしか方法はないと思う。</li> <li>・森林の伐採量が増えるとニシンの漁獲高が減少するというのにはビックリした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義内容をレポートにまとめて提出させる</li> </ul>

カ 先生の振り返り (次の実践に向けて)

- (ア) 外部講師を招聘するにあたり、修学旅行のねらいに沿った内容で講演していただける方を探したので、素晴らしい講演を聴くことが出来た。
- (イ) これまで、森・里・海をそれぞれの研究者が別々に研究して解明できずにいた事象を結びつけ、総合的な見方をすることによって、生命現象や環境問題などの因果関係や相互関係が見えてくることを聞いて感動を覚えた。田中教授の講演内容が、命のつながりを幅広い視点で捉えており、命の大切さを実感させるとともに、屋久島への修学旅行の事前学習として最適であった。
- (ウ) 9月の講演会に向けて、生徒に「30年前にあって、今は失われてしまったもの」というタイトルで夏休み課題を課した。提出されたレポートには、教師が想像した以上の多くの事例が描かれており、生徒自身が楽しんで積極的に課題に取り組んだ跡が感じられた。
- (エ) 企画を生徒の手で進行させ、命の大切さを実感させる教育プログラムで提唱されている「自尊感情」を育てたいと考え、講演会の司会・進行・謝辞等を生徒に割り当てた。また、生徒会役員は夏季休業中、本校に入学後に体験した学習や取組をまとめたプレゼンテーションを制作し、田中教授の講演前に発表し、好評を得た。
- (オ) 田中教授の講演の中で杉の間伐材を利用した新しい建築工法が紹介された。講演前に新聞記事を見た職員から、この工法が姫路の市営住宅の建て替えに適用されることを知った。早速、県土整備部に問い合わせ、希望生徒6名が現場見学の説明を受ける機会を得ることができた。担当者が常にアンテナを高く上げ、関連するニュースがないか意識する事で、発展的な内容を実施するヒントが得られると実感した。

事例3 「つながり」の中で生かされている命-屋久島・種子島への修学旅行をとおして学ぶ(県立姫路飾西高等学校第2学年)

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標 (めあて)	自分の振り返り
感動の体験	○森と里と海に、多くの動植物の生命が存在することを実感できたか。 ○海を蘇らせるため、山に木を植えた漁師についてどう思ったか、書いてみよう。	
感性を育む	○講演を聞き、森と里と海の間につながりについて、どのような事を感じたか、書いてみよう。	
想像力の育成	○屋久島では、多様な生命を守るため、どのような取り組みをしているか考えてみよう。 ○身の回りの自然の中から、命のつながりの例をあげ、話し合ってみよう。	
全体を振り返った感想：		
先生から：		
家庭から：		

事例3 「つながり」の中で生かされている命-屋久島・種子島への修学旅行をとおして学ぶ(県立姫路飾高等学校第2学年)

(4) 3次第3・4時

ア 本時のねらい

屋久島での自然体験と研修課題の制作を通じて命の大切さとつながりを実感する。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

- ・屋久島での自然体験と研修課題の制作を通じて命の大切さとつながりを実感させる。
- ・樹齢 1000 年以上の屋久杉に直接に触れることによって、生命への畏敬の念を実感させる。

(イ) 感性を育む

屋久杉の「倒木更新」や「切り株更新」を観察することによって、命が受け継がれ、植物同士が助け合っていることを実感させる。

(ウ) 想像力の育成

- ・何千年もの間、命が受け継がれていることにより、私たちを含む全ての生命が存在することを理解させる。
- ・人も自然界の中で共に助け合い、子孫を残し、親から子へ、子から孫へと命が受け継がれていることに気づかせる。

ウ 準備物

体験活動の記録メモ用紙、筆記用具、各部門で必要な作品の製作材料・素材

エ 先生の準備(事前の打ち合わせと教員研修)

- (ア) 修学旅行中の課題内容の原案を検討する。
- (イ) 修学旅行のしおりに、修学旅行中の研修課題を掲載する。
- (ウ) 旅行の事前指導のための学年集会で、担当者から課題の概要と提出方法について説明する。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	<p>1 旅行までに、研修課題の中で提出する部門を考えておく。</p> <p>2 旅行中は研修課題のテーマや作品の材料を書いたメモ等を栞の日誌欄に記録しておく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コラージュ製作を希望する者は材料の収集も事前に行わせる。</li> </ul>
展 開	<p>3 屋久島体験学習【8時間×2日】 ～命の様相・真実を確かめる～ ※2日で2コース選択</p> <p>(1) 縄文杉登山コース (2) 白谷雲水峡・太鼓岩トレッキングコース (3) 屋久杉ランドトレッキングと千尋の滝見学コース (4) 安房川カヌー・春田浜タイドプールでの海の生物観察 (5) 西部林道トレッキングと大川の滝見学コース</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各研修コースの中で5～6名の班ごとに行動させる。</li> <li>・研修前に十分な準備運動を行わせる。</li> <li>・全員雨具(上下のレインコート・折りたたみ傘)の用意をさせる。</li> <li>・記録用メモ用紙・筆記用具の確認をさせる。</li> <li>・コースによって危険箇所があるので、ガイドの指示に必ず従うことの指導を徹底する。</li> </ul>

	<p><b>4 研修課題(1)~(4)の中から一つ選択)</b></p> <p>(1) 作文部門 修学旅行の感想、エッセー、紀行文、屋久島に着想を得た創作物語などを、最低800字以上書く。</p> <p>(2) レポート部門 屋久島、種子島に関するレポートをB4サイズ1枚にまとめる。テーマは自由だが、次の項目は必ず入れること。テーマ、図(イラスト・写真・切り抜き)、図についての説明・感想。</p> <p>(3) 造形部門 修学旅行中に手に入れたものを使って、クラフトやコラージュを作成する。大きさは自由。色を塗るなど、最低限の加工をすること(素材そのものは不可)。その作品にテーマをつけ、また材料の入手経路、作成上の留意点、一言感想を加えること。</p> <p>(4) 絵画部門 イメージ画、風景画、宣伝ポスターなど</p>	<p>・各生徒が得意な分野で自由な作品を提出できるように促す。</p>
<p>まとめ</p>	<p><b>5 提出された課題は、部門別に整理し、学年の掲示用黒板に掲示および展示し、PTA等にも公開する。</b></p>	<p>・展示作品の破損等がないように、鑑賞の仕方等を生徒に指導しておく。</p>

カ 先生の振り返り(次の実践に向けて)

- (ア) 事前学習を十分に行ったため、実物を見たときに大きな感動を得ることができた。
- (イ) 生徒達は屋久杉を中心とした様々な生き物を実際に見ながら、ガイドから各生物の生き様を教えてもらい、命の大切さを実感した様子であった。
- (ウ) 研修課題を4つの部門に分け、得意な分野で課題を提出させた。生徒が大変熱心に取り組み、わずか数日で教師の想像を上回る素晴らしい作品が数多く提出された。
- (エ) 今回の体験を、今後の高校生活の中でよい形で生かしていきたい。



トレッキングコースを歩く生徒たち



ガイドの説明を聞く生徒たち

事例3 「つながり」の中で生かされている命-屋久島・種子島への修学旅行をとおりて学ぶ(県立姫路飾西高等学校第2学年)

キ 振り返りカード

振り返りカード		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標 (めあて)	自分の振り返り
感動の体験	○各研修コースの自然観察によって生命の多様性が実感できたか。 ○樹齢1000年以上の屋久杉に触れ、生命への畏敬の念を感じられたか。	
感性を育む	○倒木更新や切り株更新を観察して、命が受け継がれ、植物が助け合っていることを実感できたか。	
想像力の育成	○人も自然界の中で、共に助け合いながら、親から子へ、子から孫へと命を受け継いでいることを実感できたか。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		



厳しい環境に耐える白骨樹

## 10 実践を終えて

### (1) 先生の振り返り

本校では、屋久島・種子島方面への体験を中心とした修学旅行に向けて、約一年前から学年の教員で何度も話し合いながら、様々な企画を計画し、準備を進めてきた。今年度『命の大切さ』を実感させる教育プログラム開発研究委員会において、授業実践を計画することになったが、所属する学年の先生方の理解と協力のおかげで、生徒達が素晴らしい作品を完成し、多くの生徒・保護者の方から思い出に残る修学旅行にすることができたとの言葉をいただいた。

教師が「命」というキーワードを口にする事なく、屋久島の「倒木更新」や「切り株更新」の様子を見て、受け継がれる命をしっかりと自分の命と結びつけて理解してくれた生徒も多くいた。生徒自身が、島に生きる多くの生物の「命」に感動し、自分たちも自然に生かされていることを実感したように思う。また、この間、生徒が様々な面で大きく成長してくれたことをかかわる教師として最も嬉しく思う。

「命」という重い問題を生徒自身に実感させることは、多くの事例を集めたとしても、担当する先生方の思いや十分な準備の上で実施しなければ、子どもたちの心を動かすことは容易なことではない。マニュアルができて、命の大切さを実感させる教育はインスタントではできないと思う。現場の先生方が、命というテーマについて真剣に向き合い、しっかりした目的を持ち、独自の教材づくりに取り組むことによってはじめて、子どもたちの心に迫る授業になるのではないだろうか。

私もこのような機会を得て、様々な話題を「命」と結びつけて考えるようになり、今後の教育活動に生かすことのできる貴重な体験となった。

### (2) 今後の課題

#### ア 授業実践上の課題

教育現場で命の大切さを学ぶ機会は、これから益々必要になるであろう。高等学校では、教科単位の授業が主体であり、学年の全生徒が、このようなテーマで、段階的な学習の時間を確保することは実際のところ容易ではないのが実情であろう。学年であれば、L・H・Rまたは総合的な学習の時間において、教科であれば、理科・保健体育等の時間で実践することになるだろうが、教育課程上の位置づけという点での課題が残る。

#### イ 家庭・地域との連携についての課題

「命の大切さを実感させる」ための様々な生きた教材は、家庭・地域など身近にある。日頃より地域・保護者との連携を図っていれば、命に関わる仕事に関わる方とのつながりもでき、様々な授業に講師に招き、生徒達に話をしてもらうことも可能となる。

昨年度は、地域の方の依頼で休耕田の綿作りを生徒が手伝うことになった。ボランティアの方の指導により、栽培・収穫・染色と授業を発展させ、2年次では、倉敷の紡績記念館見学と紡績工場の元社員の講演会を兼ねた校外学習を企画した。また、今回は、修学旅行後に、宍粟市のスギの間伐材を再利用した新工法J-Podシステムによる市営住宅の建て替え工事の現地見学会があるとの情報を得て、県土整備部住宅建築局へ問い合わせたところ、建築に興味ある本校生数名を対象に、現場で説明会を実施してもらうことになった。学校側が地域との間で信頼関係を築き、人的な面でもパイプづくりを地道に行っておくことが必要であろう。

#### ウ 学校の組織運営上の課題

命の大切さを実感させる学習を行う際、校外の施設や現場へ生徒を引率したり、外部講師を招聘したりする機会等が度々ある。予算の確保や授業の振り替えは勿論、保護者に対する承諾書、講師の依頼手続き等の複雑な作業が伴う。総合的な学習の時間の運営と同様に、学年全体で取り組む場合、中心となる担当者に大変負担がかかるのが実情である。

生徒に対する実践は工夫次第で様々な可能性がある一方、多忙な現場において、教員間のコンセンサスを得ることとそのため時間を確保することが最大の課題であろう。

## 11 参考・引用文献

- ・林以一『木を読む 江戸木挽き 感嘆の技』小学館 2001
- ・JTBパブリッシング編『タビリエ 屋久島・指宿・鹿児島』
- ・幸田文『木』新潮文庫 1995
- ・日下田紀三『屋久島自然観察ガイド』山と溪谷社 2002
- ・京大フィールド科学教育研究センター『森と里と海をつながり－京大フィールド研の挑戦－』  
榎出版社 2004
- ・中田隆昭『屋久島、もっと知りたい(自然編)』南方出版社 2004
- ・成尾英仁 他『図説 屋久島』屋久島環境文化財団 2005
- ・松永勝彦『森が消えれば海も死ぬ－陸と海を結ぶ生態学』講談社ブルーバックス 1993
- ・塩野米松『木の教え』草思社 2004
- ・鈴木英治『植物はなぜ5000年も生きるのか』講談社ブルーバックス 2002
- ・スーザン・バーレイ『わすれられないおくりもの』評論社 2006
- ・湯本貴和『屋久島－巨木の森と水の島の生態学』講談社ブルーバックス 1995

## 第5章 「命の大切さ実感尺度」の開発について

## 「命の大切さ実感尺度」の開発について

### 1 尺度開発の目的

児童生徒が命の大切さをどの程度実感しているか、そして命の大切さを実感させる教育実践を行ったときに、その効果によって児童生徒の命の大切さの実感がどの程度高まったかを知ることが、児童生徒理解と対応、教育プログラム等の効果測定と今後の実践計画の設定などに、たいへん有用かつ重要である。

命の大切さを実感している程度を知るには、児童生徒の行動観察、児童生徒との日常会話や教育相談、保護者面談等のなかで教師の鋭い観察力を働かせて知ることが重要である。もう一つの方法として、質問紙（アンケート）の利用がある。これは、全児童生徒の客観的なデータを比較的効率よく得る方法である。

ところで、命の大切さを実感するには、さまざまな状況や方法が考えられるが、日々の生活が楽しく、充実していることが、そのためのひとつの要素である。また逆に、命の大切さを実感することが、日々の生活における生きる喜びを感じる源泉ともなるであろう。そこで、児童生徒が命の大切さを実感している現状を把握し、命の大切さを実感させる教育実践の効果を測定するために、どの程度生きる喜びを感じているかを中心に測定する尺度を開発することにした。以下、その内容について紹介する。

### 2 尺度の開発過程

#### (1) 項目の設定

平成17年度に兵庫県教育委員会が発行した『命の大切さ』を実感させる教育への提言』の中の教育プログラムモデルとしての「生きる喜びの実体験」(p.17) および「子どもたちが実感する『生きる喜び』」の表(p.18)を基盤とし、この表に示された8つの領域について、それぞれ2項目ずつ、計16項目を設定した。加えて、命の大切さをどの程度実感しているかに関する2項目を加え、合計18項目から成る尺度を作成した。項目の設定にあたっては、「小学生用学校生活生きがい感尺度」(古川・大江・内藤・浅川 1993)など既存の学校生活適応感に関する尺度を参考にして、項目の原案を作成し、大学教員、県教育委員会の主任指導主事、および指導主事が相談して、ワーディングなどについて検討した。

各領域と項目は、表1(次ページ)の通りである。(各領域の意味と具体的内容については、上記、「子どもたちが実感する『生きる喜び』」の表を参照のこと。)

#### (2) 信頼性・妥当性の検討および標準化のための調査方法

目的 「命の大切さ実感尺度」(小学生版)の信頼性・妥当性を検討し、個々の児童の状態把握のための基準値を得る。

方法 調査対象者：兵庫県内A市の小学校9校の、4年生～6年生、総計2682名を調査対象とした。内訳は、4年生881名(男子451名、女子430名)、5年生867名(男子434名、女子421名、不明2名)、6年生934名(男子492名、女子442名)であった。なお、欠席者は分析から除外した。また、無記入の箇所については、分析ごとに該当するものを除外したので、以下の分析結果では、分析ごとにデータ数が若干異なっている。

質問紙：①「命の大切さ実感尺度」(小学生版：試作版)、②Q-U(図書文化社発行)、③小学生版QOL(日本SEL研究会、2005)、④学校生活生きがい感尺度(古川・大江・内藤・浅川 1993)。(今回は、①「命の大切さ実感尺度」の分析結果のみ報告する。)

手続：調査は、学級担任により、学級ごとに集団で行われた。なお、実施をお願いする担任教師には、実施手引を配付して、それにしたがって行うよう依頼した。データは、あらかじめ用意した表計算ソフトのファイルに、学級担任によって入力され、後に調査者によってデータチェックを行った。

表1 「命の大切さ実感尺度」の領域と項目

領域	項目
自己肯定感	1. あなたは、自分にいいところがあると思いますか
	2. あなたは、「よくやったなあ」と自分をほめることがありますか
自己有用感	3. あなたは、人の役に立つ活動をしていますか
	4. あなたは、お手伝いなどをしてほめられることがありますか
成就感・達成感	5. あなたは、何かに夢中になることがありますか
	6. あなたは、何かをやりとげたという体験をしていますか
連帯感	7. あなたは、友だちと心が一つにまとまったと感じることがありますか
	8. あなたは、友だちと同じ目的を持って活動することがありますか
自然・生命への畏敬の念	9. あなたは、自然のすばらしさにふれて感動することがありますか
	10. あなたは、命ってすばらしいと感動することがありますか
愛する・愛される喜び	11. あなたは、身近に何でも話せる人がいますか
	12. あなたは、家族との楽しい時間をすごしていますか
五感で感じる喜び	13. あなたは、ふだん、よく体を動かしていますか
	14. あなたは、おいしく食事をとっていますか
芸術に対する感動	15. あなたは、映画や音楽、美術作品などで、感動することがありますか
	16. あなたは、歌を歌ったり絵をかいたり、ダンスをしたりしていますか
(命の大切さ)	17. あなたは、命は大切なものだと思いますか
	18. あなたは、命を大切にしていますか

※領域名に関しては、スペースの関係で若干短縮したものがあある。

### (3) 調査結果

#### ① 因子的妥当性と信頼性

本調査で用いた「命の大切さ実感尺度」の因子的妥当性を確認するため、探索的因子分析（主因子法、プロマックス回転）を行った。固有値の変動状況と因子の解釈可能性を考慮して、7因子解を採用した。その結果を表2に示す。

この結果より、8つの領域のうち、「自己肯定感」「成就感・達成感」、「連帯感」、「自然と生命への畏敬の念」、「芸術に関する感動」「人を愛する喜び・人に愛される喜び」の6領域、および「命の大切さ」については、よいまとまりを示した。「自己有用感」と「五感で感じる喜び」の一部（Q4とQ14）は「家族関係安定感」の因子に吸収され、残りは、活動の因子にまとまった（Q3とQ13）。このように、かなりの部分は、当初設定した因子を形成しているので、この尺度は、因子的にみて妥当性を有すると考えられる。

「内的整合性を示す $\alpha$ 係数に関しては、どれもさほど高くなく、ほとんどは.46～.68の値を示した。とはいえ、項目数が2項目と少ないので、 $\alpha$ 係数はあまり高くないことが予想される。したがって、これらの下位尺度は、ある程度の内的整合性を有すると考えられる。しかし、「五感で感じる喜び」に関するQ13とQ14の $\alpha$ 係数は.293と、非常に低かった。

以上のことから、本調査で作成した項目について、「自己肯定感」「成就感・達成感」、「連帯感」、「自然と生命への畏敬の念」、「芸術に関する感動」および「命の大切さ」の7領域については、そのまま下位尺度として問題ないと思われる。他の2つの下位尺度「自己有用感」と「五感で感じる喜び」については、因子分析の結果、明確な因子を構成せず、特に「五感で感じる喜び」の2項目については、 $\alpha$ 係数も非常に低かったので、項目についての検討が必要であると思われる。しかし、これは今後の課題として、ここでは、当初に設定した領域を下位尺度として、以下の分析を進める。

表2 「命の大切さ実感尺度」の因子分析結果 (因子負荷量: パターン行列)

質問項目	因子							
	1	2	3	4	5	6	7	8
Q12	.866	-.034	.003	-.029	.021	-.011	-.050	-.057
Q14	.460	.077	.018	.013	.005	-.016	-.005	-.001
Q 4	.372	-.096	-.080	.101	.060	.112	-.013	.191
Q11	.305	.053	.247	.030	-.088	-.034	.181	-.035
(家族関係安定感: $\alpha = .640$ )								
Q18	.035	.776	-.113	.010	-.063	.057	.010	.065
Q17	-.043	.723	.112	.036	.048	-.042	-.062	-.051
(命の大切さ意識: $\alpha = .689$ )								
Q 6	-.090	-.033	.610	.000	.059	.098	-.004	.050
Q 5	.067	.027	.527	.020	.037	-.031	-.076	-.068
(成就感・達成感: $\alpha = .460$ )								
Q16	.012	.021	.022	.656	-.107	-.031	.040	.042
Q15	-.014	.050	-.011	.548	.237	.025	-.004	-.061
(芸術に関する感動: $\alpha = .590$ )								
Q 9	-.024	-.116	.054	.093	.671	.039	-.060	.074
Q10	.077	.176	-.001	-.074	.637	-.046	.121	-.011
(自然と生命への畏敬の念: $\alpha = .663$ )								
Q 2	-.009	-.011	.011	-.006	.019	.840	.042	-.124
Q 1	.029	.069	.073	-.005	-.035	.442	-.034	.269
(自己肯定感: $\alpha = .683$ )								
Q 7	-.039	-.027	-.087	.019	.048	.059	.823	-.020
Q 8	-.007	-.044	.254	.034	-.044	-.054	.461	.056
(連帯感: $\alpha = .643$ )								
Q 3	-.036	-.002	-.023	.023	.060	-.090	.000	.825
Q13	.072	.077	.142	-.125	-.052	.044	.093	.209
(活動: $\alpha = .419$ )								

※なお、「自己有用感」に関するQ3とQ4の $\alpha = .512$ 、「愛する・愛される喜び」に関するQ11とQ12の $\alpha = .537$ 、「五感で感じる喜び」に関するQ13とQ14の $\alpha = .293$ であった。

表3 「命の大切さ実感尺度」の学年別と性別の平均値

学年	性別	肯定感	有用感	達成感	連帯感	畏敬念	安定感	五感体験	感動体験	命大切さ	合計
4年	男子	7.44 (1.84)	7.47 (1.89)	8.77 (1.43)	7.72 (1.94)	7.75 (2.07)	8.75 (1.67)	9.13 (1.29)	7.19 (2.24)	9.57 (1.10)	73.77 (10.85)
	女子	7.44 (1.65)	8.06 (1.51)	8.62 (1.40)	8.23 (1.61)	8.30 (1.61)	9.19 (1.36)	9.09 (1.16)	8.56 (1.53)	9.70 (.81)	77.18 (8.78)
5年	男子	7.52 (1.73)	7.65 (1.57)	8.81 (1.28)	7.88 (1.64)	7.76 (1.87)	8.88 (1.49)	9.23 (1.16)	7.05 (2.17)	9.72 (.75)	74.50 (8.93)
	女子	7.19 (1.74)	7.94 (1.52)	8.68 (1.38)	8.03 (1.70)	8.11 (1.69)	8.89 (1.48)	8.93 (1.28)	8.40 (1.66)	9.72 (.83)	75.90 (8.65)
6年	男子	6.95 (1.74)	7.05 (1.66)	8.73 (1.29)	7.73 (1.67)	7.47 (1.86)	8.46 (1.55)	8.94 (1.27)	6.80 (2.01)	9.39 (1.15)	71.50 (9.05)
	女子	6.88 (1.70)	7.55 (1.51)	8.68 (1.27)	8.10 (1.62)	7.81 (1.71)	8.67 (1.55)	8.67 (1.34)	8.32 (1.64)	9.53 (1.03)	74.20 (8.90)

※領域名に関しては、短縮して表現している。

## ② 項目分析（合計得点の算出）

尺度の合計得点に対する個々の項目の寄与の程度を検討するために IT 相関を算出したところ、.42～.66 であり、無相関検定の結果、すべて 1%水準で有意であった。また、全項目による  $\alpha$  係数は、.86 であった。したがって、これらの項目は、全体で児童の『命の大切さ』の実感を測定していると解釈し、以後、項目の合計得点を『命の大切さ』実感得点とする。

## ③ 平均値と標準偏差

合計点および各下位尺度の平均値と標準偏差を表 3 に示した。この表より、学年ごと、性別により、平均値に違いが見られる。これらは、統計的にも有意差があり、生きる喜び実感得点（合計点）についていえば、4 年生、5 年生に比べて 6 年生は平均値が低くなっている。また、どの学年でも、女子のほうが男子より平均値が高くなっている。

# 3 尺度の利用方法と基準

## (1) 利用にあたって

本尺度を利用するにあたっての要点をいくつか述べる。

### ① 質問紙調査を実施する目的を明確にする

漫然と実施するのではなく、児童理解のため、学級経営に役立てるため、教育プログラムや授業の効果を確かめるため、などの目的を明確にしてから実施すべきである。

### ② 調査時期

目的によって異なるが、児童理解や学級経営のためには、各学期の初め、または 1 学期の終わりあたりが有効であると考えられる。プログラムや授業の効果を測定するには、その前後に実施して、結果を比較するとよいであろう。

### ③ 教示

- ・開始前に「この調査は、児童の皆さんが楽しい学校生活を送るために行い、成績には関係ないので、思ったままを教えてください」と伝える。
- ・わかりにくい言葉等があれば、手を挙げて先生に聞くように伝える。
- ・「質問を読んで、そんなことが『よくある』と思ったら『5』、時々あると思ったら『4』、…、全くないと思ったら『1』に○を付けてください」と伝え、答え方がわかっているか確認する。
- ・文章を読むことが難しい児童がいる場合は、教師が全体または個別に、各項目の文章を読む。

### ④ 結果の利用法

調査結果は、調査目的に沿って活用されなければならない。よりよい児童理解、学級経営をめざし、要観察の児童への観察や、対処を必ず行っていただきたい。

次に調査データの守秘についても配慮すべきである。個々の児童の回答した結果を本人に無断で保護者や他の教師、児童に教えることは、児童の教師への信頼を傷つけることになる。もちろん、匿名であっても学級全員に個別のデータを公表すべきではない。

また、本尺度で得られる結果は、完全に正確であるということはありません。どのような検査や尺度も必ず誤差を含むものである。したがって、結果を鵜呑みにするのではなく、教師の日常観察や面談などをつきあわせて、結果を解釈する必要がある。

### ⑤ 対処方法

対処方法としては、個々の児童に対する対処と、学級全体に対する対処に大別できる。個々の児童に対する対処としては、次のようなことが考えられる。例えば、「自己有用感」や「成就感・達成感」の低い児童には、その児童に合った役割や課題を与え、期待していることを伝え、できたら、評価しほめる。「人を愛する・人に愛される喜び」の低い児童には、日頃から声をかけたり、よく話を聞いてあげるなど、教師の日常的な児童への関わりへの配慮をする、などである。

また、学級全体に対する対処としては、この報告書で示されているような「命の大切さ」を実感させる授業実践を積極的に取り入れたり、構成的グループ・エンカウンターなどの体験的活動を取り入れるなどの方法がある。

## (2) 結果の見方と基準

本調査で得られた結果から、この尺度を利用したときの結果の見方として、個々の児童の得点がかかなり高いことを示す「高得点」と、かなり低いことを示す「要観察」の目安を表4に掲載する。これらは、学年および性別ごとに示してある。平均値から1標準偏差（偏差値（T得点）でいえば40点と60点）を基準値にしているため、この値より極端な場合は、全体の人数の上位または下位、約15%に入ることが理論的に知られている。ここでは、たとえば「要観察」の基準値が5.8になる場合、5.0以下を要観察の範囲とするなど、厳しく設定してあるので、15%よりも少ない範囲に入る児童であると考えられる。

「要観察」値より低い場合には、その児童についての注意深い観察や、対処が求められるであろう。また、「高得点」の場合は、問題ないようであるが、例えば自尊感情を測定する得点も高すぎることも問題とされることがあるし、自分を必要以上によく見せようとする気持ちや、過度に理想主義的な気持ちが反映していることもあるので、こちらも注意が必要である。

また、今回は、基準値を算出するには十分な調査対象者が参加しているが、A市という一つの地域の結果であるため、全県または全国的にこの基準値を適用できるかには若干の疑問が残る。したがって、今後この尺度を利用する場合、これらの基準値は、一つの判断の目安と捉えるべきであろう。

表4 個々の児童の得点についての判断基準値（目安）

		肯定感	有用感	達成感	連帯感	畏敬念	安定感	五感体験	感動体験	命大切	合計
4年男子	高得点	10	10	10	10	10	10	10	10	10	85
	要観察	5	5	7	5	5	7	7	4	8	62
4年女子	高得点	9	10	10	10	10	10	10	10	10	86
	要観察	5	6	7	6	6	7	7	7	8	68
5年男子	高得点	10	10	10	10	10	10	10	10	10	84
	要観察	5	6	7	6	5	7	8	4	9	65
5年女子	高得点	9	10	10	10	10	10	10	10	10	85
	要観察	5	6	7	6	6	7	7	6	8	67
6年男子	高得点	9	9	10	10	10	10	10	9	10	81
	要観察	5	5	7	6	5	6	7	4	8	62
6年女子	高得点	9	9	10	10	10	10	10	10	10	84
	要観察	5	6	7	6	6	7	7	6	8	65

※高得点より高い得点は、児童が回答する得点としてはかなり高いことを示す（上位15%以下）。  
要観察より低い場合には、逆に得点がかかなり低いことを示す（下位15%以下）。

## 4 引用文献

- ・兵庫県教育委員会 『「命の大切さ」を実感させる教育への提言』 2006
- ・古川雅文・大江幸銅・内藤勇次・浅川潔司 「学校における児童の生きがい感尺度の構成」 兵庫教育大学研究紀要 13(第一分冊)、103-114. 1993
- ・日本SEL研究会（編）（2005）『「社会性と情動」の教育プログラム—小学校（中学年）編—』 2005

## 「命の大切さ」を実感させる教育プログラム開発研究委員会 設置要項

### 1 目的

激しく変化する社会の中で、時代を超えても変わることのない「命の大切さ」を、子どもたちに実感させるための教育プログラムを研究・開発するとともに、子どもたちの発達段階に応じた実践的研究を推進し、学校における「命の大切さ」を実感させる教育の充実を図る。

### 2 組織

- (1) 委員会は、次の委員により構成する。
  - ・ 教員委員 6名程度
  - ・ 学校委員 3名程度
  - ・ 事務局委員 6名程度
- (2) 各委員は、県立教育研修所長が委嘱する。
- (3) 事務局は、県立教育研修所心の教育総合センターに置く。

### 3 期間

この委員会の設置期間及び委員の任期は、要項の施行の日から平成19年3月31日までとする。

### 4 任務

各委員は以下の任務を行う。

- (1) 教員委員は、事務局委員との研究協力体制のもとに、各校種ごとの「命の大切さ」を実感させる教育プログラムを実践し、その実践の成果をまとめる。
- (2) 学校委員は、地域との連携のもと学校全体で実践を行う観点から、教員委員の実践案を検討し、助言を行う。
- (3) 事務局委員は、委員会の研究・実践方針を立案し、委員会の活動を統括する。

### 5 経費等

予算の範囲内で経費等を支出する。

### 附則

この要項は、平成18年6月1日から施行する。

平成18年度「『命の大切さ』を実感させる教育プログラム開発研究委員会」委員名簿

区分	氏名	所属・職名	
教員委員	小学校	沖川 克枝	高砂市立伊保南小学校 養護教諭
		坂恵 正和	淡路市立野島小学校 教諭
	中学校	塚田 良子	三田市立ゆりのき台中学校 教諭
		西海 秀幸	加古川市立山手中学校 教諭
	高等学校	谷本 章三	県立姫路別所高等学校 教諭
		岩田 一雄	県立姫路飾西高等学校 教諭
学校委員	小学校	桑原 浩	たつの市立香島小学校 校長
	中学校	今西 俊継	豊岡市立城崎中学校 校長
	高等学校	堀井 隆海	県立北条高等学校 校長
事務局委員	富永 良喜 (委員長)	心の教育総合センター 所長	
	古川 雅文 (副委員長)	心の教育総合センター 主任研究員	
	藤井 雅英	県立教育研修所 参事兼教務部長	
	住本 克彦	心の教育総合センター 主任指導主事	
	市橋 真奈美	心の教育総合センター 指導主事	
	天良 栄美子	不登校対策推進研修員	

実践事例集にご協力いただいた

「小・中・高等学校『命の大切さ』を実感させる教育実践研究講座」の受講者名簿 (一部)

区分	氏名	所属・職名
小学校	福井 加寿子	三田市立武庫小学校 教諭
	大石 伸子	豊岡市立五荘小学校 教諭
	樹岡 正宏	香美町立小代小学校 教諭
中学校	田中 順子	三木市立三木東中学校 教諭
高等学校	今津 有里	県立農業高等学校<定時制> 講師

「命の大切さを実感させる教育プログラム」実践事例集

<http://www.hyogo-c.ed.jp/~inochi/>

発行日 平成 19 年 3 月

事務局 兵庫県立教育研修所 心の教育総合センター  
〒673-1421

加東市山国 2006-107

電話 0795-42-3100

発 行 兵庫県教育委員会  
〒650-8567

神戸市中央区下山手通 5-10-1



ひょうご  
「命の大切さ」  
を実感させる教育